完全独占! 撮り下ろし写真と初めてここまで語る13000字超ロングインタビュー／『マイガール』撮影現場レポート&作品徹底解説ほか

VISUAL
THEME
MAGAZINE

+act. mini

[プラスアクト ミニ]

プラスアクト12月号増刊
990yen

2009
VOL. 07



成長。

連ドラ初主演&嵐10周年スペシャル企画

相葉雅紀

完全独占!
撮り下ろし写真と初めてここまで語る
13000字超ロングインタビュー／
『マイガール』撮影現場レポート&作品徹底解説

『東京DOGS』が描く成長劇。
小栗旬　水嶋ヒロ　吉高由里子

『サムライ・ハイスクール』に見る17歳の成長。
三浦春馬　城田優　桜田通　井上由美子

CLOSEUP!
大沢たかお　小池徹平
香里奈×能世あんな×えれな　大倉忠義
志田未来　佐藤智仁

永久保存版
絶対に観たほうがいい
成長。作品
120


蝴蝶网
hudie.com
www.outdoorproducts.jp
OUTDOOR
PRODUCTS
OUTDOOR
PRODUCTS
[マスターライセンシー] 丸紅ファッションプラニング株式会社
メンズ&レディースニット・カットソー・アウターウェア・シャツ・スラックス・
レインギア・帽子・靴・ベルト・バッグ・小物 etc.
写真の商品に関するお問い合わせは、
株式会社 キタムラ トレードサービス TEL.045-476-0120

VISUAL THEME MAGAZINE

+act. mini

テーマ別メディアマガジン『プラスアクト ミニ』第7弾!
相葉雅紀の表紙巻頭特集と、
「成長。」をテーマにした2作品と注目ドラマを大プッシュ。

表紙巻頭特集に、完全撮り下ろし写真と13000字超ロングインタビューで迫る俳優・相葉雅紀。連続ドラマ初主演作となる『マイガール』現場レポートや作品紹介ページを加え、“いま”の相葉雅紀を徹底してお伝えする。今号のテーマにもなっている“成長。”を感じられるドラマ『東京DOGS』からは、小栗旬、水嶋ヒロ、吉高由里子。『サムライ・ハイスクール』からは三浦春馬、城田優が登場。更に10月スタートのドラマから編集部注目の、大沢たかお、小池徹平、香里奈×能世あんな×えれな、大倉忠義、志田未来、佐藤智仁を取り上げる。巻末には「絶対に観たほうがいい“成長。”作品120」をご紹介。コラム「だから、“成長。”作品は面白い!」と併せてお楽しみ下さい。



撮影/Sai
スタイリスト/吉田太郎(SECESSION)
ヘアメイク/竹内美徳(メーキャップルーム)

CONTENTS

vol.07



MASAKI AIBA
















SPECIAL ISSUE
13,000 WORDS INTERVIEW

相葉雅紀

相葉雅紀が遂に連ドラ初主演を飾る。今期金曜ナイトドラマ『マイガール』。別れた恋人を忘れられず、その想いを封印するように生きて来た正宗。6年後、その人が残した自分との子供がいたと知り、迷いながらも父親として生きることを決意する…。今作の主人公・正宗は、どうしても相葉本人とダブらせて見てしまう。正宗が、別れた恋人が残した、自分との子供を育てようとする人だから、というだけではない。自分の想いは、封印しようとしてしまう人であること。父親になろうという決断、そして選択をしたあとの正宗の〝葛藤と愛〟の形が、相葉もきっとそうなのではないか？　と思わせるからだ。愛する人がどれ程の苦悩と愛情を持って、自分と別れたのか。どんな想いで産むことを決断したのか。そして、どれ程の孤独に耐え、どれだけ子供を愛していたか…。その全てに想いを馳せ、愛する人に謝り、感謝しながら、選んだ道を進もうとする正宗の〝優しさ〟と〝真っ直ぐな想い〟が、相葉本人に通じるものだから、なのだ。この正宗…きっと相葉のハマり役となるだろう。

撮影／Sai　スタイリスト／吉田太郎(SECESSION)　ヘアメイク／竹内美徳(メーキャップルーム)　文／米川里代

真っ直ぐ、素直、天真爛漫、天然キャラetc.相葉雅紀の魅力を表現する言葉はいくつもある。だが、そのどれもが言い当てられていない気がして、どう表現していいかわからないが…〝底知れぬ優しさ〟。それが相葉雅紀の魅力なんだと思う。常に、自分のことよりも周りの状況や空気、相手の立場や想いを瞬時に察し、行動する人。だから、彼といると気持ちがいい程、楽しい。周りの人が絶対に嫌な想いをしない。そこに恩着せがましさの欠片もないのだから、凄い。このインタビューで話してくれた「一番必要のない感情は、嫉妬だと思う」との言葉、そしてそのくだりは、相葉雅紀を象徴しているなと感じた。彼は、自分を誰かと比較することも、競い合うことも望んでいない。〝嵐の相葉雅紀であること〟が一番であり、そんな風に人はもっとシンプルでいいのだということ知っている。この類い稀な性質、能力は、相葉雅紀の大きな〝力〟である。そして、ブレることなく、その力をコンスタントに発揮することは、決して容易なことではない。それを貫くためには、とてつもなく強い意志が必要なはずで…だからこそ相葉の〝優しさ〟は、大きくて尊いのだ。だから、彼は愛される。だから、みんなの〝相葉ちゃん〟なのだ。とにかく、こっちも飾ってなどいられない。本当の気持ちを、正直に伝えることから始めた。今回のインタビューは、とにかく待ち望まれたものであること。みんなが今、あなたのことを知りたいのだ、と。「改めて今、〝相葉雅紀という人〟を知りたい」その想いに真っ直ぐに応えてくれた、13000字ロングインタビュー。遂に、遂に相葉雅紀の登場です。

——実は、この相葉雅紀・巻頭特集は、読者のみなさんから、かなり熱望されていたんです。相葉特集を！　という、本当に熱い要望を頂いていて…。これまで、嵐のメンバー4人それぞれに、プラスアクトとプラスアクトミニと登場して頂き、遂に相葉雅紀に登場頂く訳です。主演ドラマ『マイガール』のお話ももちろん伺いつつ…相葉さんにも是非、今まであまり話していないような話題にも触れさせて頂きたいなぁ、と。

「はい(笑)」

——色んなお仕事がある中で、お芝居というものは、相葉君にとってどんなものなのか？　という辺りを、伺っていきたいと思ってます。

「はい、やりましょう！」

——ありがとうございます！　まず…相葉君はお芝居、好きですか？

「好きですか…？　うん、そうですね」

——苦手意識があったりとか、そういうことは…。

「全然ないです。苦手意識っていうのは…ないですね」

——これまで、色んなお芝居の現場を見させてもらって思うのは、相葉君って、凄く考えて、真っ直ぐにお芝居に対峙する人だなぁっていうこと。そして、あまり…その自分側の努力だったり、自分のことについて話す人ではないんだなぁと感じていて。

「うん…」

——自分の中にある想いとか、演技に対するアプローチ、演技論とか…あまり話したくないのかなって。

「うん……そうですね、なんでしょうね？　うん…でも、お芝居は好きですよ。あのね…何がいいのかよくわからないんですよ。お芝居って。だから、そこで話すことって…少ないんですよね」

——ちなみに、一番最初のお芝居って覚えてますか？

「舞台『Stand by me』ですよね」

——そうです。最初に触れたお芝居は、どんなものでした？

「どんなもの…いやっ、なんも考えてなかったですね(笑)。ただセリフを覚えて、それを喋ってるだけだった気がする…」

——当時は、いっぱいいっぱいだったのかな？

「いっぱいいっぱい…というかね、いやっ、これでいいのかな？　っていう。芝居ってなんなんだろう？　何が正しいのかわからないし、最初だから比べるものもないしさ…」

——そのあとも、コンスタントに毎年、お芝居のお仕事をやってるんですよね。

「うん、そうだね。でも……やっぱり宮田さん(演出家・宮田慶子さん)との出会いは、俺の中で凄く大きかったと思う」

——舞台『燕のいる駅』(05年9月)の時？

「そう。その辺りから…凄く厳しく言われた気がする。お芝居について。その辺りから、ちょっとずつ考え方が変わったよね」

——そうだったんだ…。じゃあ、それまでの芝居への取り組みって、今振り返ってみると、ちょっと…。

「うん…甘いんだろうなって」

——そうか。それまでに『ムコ殿』『少年タイヤ』、映画『ピカ☆ンチ LIFE IS HARDだからHAPPY』、スペシャルドラマ『介護家族』、『演技者。』、映画『ピカ☆☆ンチ LIFE IS HARDだからHAPPY』と…あって、の『燕～』だから。じゃあ、それまでっていうのは、だいぶお芝居を探りつつの状態だったのかな、そういう意味では。

「そうだね。そう…でしたね」

——宮田さんとの出会いで、大きいなと感じているのは、どういうところですか？

「やっぱり、色んな取り組み方だと思うよ」

——『燕～』では、相葉君的にも、作品やお芝居について色んな話を出来た実感があるんだろうね。

「そう。でも、最初は怖かったからね(笑)。怖いっていうか、厳しかったかな。でも、その出会いがあって、わりと考え方が変わったから。どう変わった？　っていうのは、すげぇ難しいんだけど…」

——気持ちの上でのことだったり。

「そうだね。だから、本当はテクニカルな部分も、そろそろ教えてほしいなぁと思うんだけど。宮田さんとは3回ご一緒させてもらってるけど、その…テクニック云々のことをあんまり言わないんだよね。『まだいいんじゃない？』『まだ、いいんじゃない？』って」

——今、相葉雅紀が取り組むべきことが、わかっているからなんでしょうね。

「だから…どうなんだろうね？　でも、なんか『一生いらない』って言われそうな気がするけどね…テクニックなんていうものは」

——そうだね。テクニックだけでは芝居出来ないし…。

「うん…。でも、やってるほうとしては、その…テクニックの部分はあったほうが、表現の仕方として色々あったほうが、自分の中で怖くないっていうかさ。でも、その〝怖い〟っていう危機感を持ってたほうがいいのかなとも思うし」

——まだ、そのテクニックに頼る時じゃないだろうっていうことなのかもしれないね。

「なのかもしれないしね…それは、あるだろうね」

——なるほど…宮田さんとは3作の舞台(『燕～』、07年『忘れられない人』、09年『グリーンフィンガーズ』)を通して、凄くいい関係を築いてるんだろうなと思っていたけど、これ程とは…思ってなかった。

「あんま…言ってないからね」

——凄くいい話だなぁ。やっぱり、舞台っていうのは生で伝わるし、ある意味とても厳しい現場であると思うんですよ。

「うん…そうだね。でも…俺は好きですよ、舞台。厳しいし、つらいものではあるんだけどね」

——なんか…あとづけのコメントみたいで申し訳ないけど、舞台『燕～』で観た相葉君って、何か〝突き抜けたな〟って感じたんだよね。

「ほんと？　あの話ね、俺…すげぇ好きだったなぁ」

——3作とも〝泣き〟のシーンがあるけど、相葉君が泣いて感情を爆発させる芝居は、いつも印象深い。

「…あんまり、泣く芝居…好きじゃないんだよね」

——そうなの？

「うん」

——それは、どうして？

「わかんないんだよね…ずっと自分を客観視してないと、コントロール出来なくなってくる時があるから。そうすると自己満足だし、自己満足の世界を見せてもしょうがないからね。それも、宮田さんに怒られたことがあるよ。1回。その泣きのお芝居の時ね。『ちょっと自分をコントロール出来てないんじゃないの？』って言われて、『出来てないです…』って。『マイガール』でも、1話で泣くお芝居があるんだけど、そこは…だから凄く気をつけた」

——そうなのか…。ある女優さんが「どんなに激しい感情を出していても、ほどよく冷めて客観視している」と言っていたけど…。

「うんうん…そうなんだ」

——きっと、そういうことだよね。

「そうだね。それで、怒られたんだよ(笑)。最初の時…『燕～』の時ね。だから、好きじゃないの。客観視出来なくなりそうになるから…たまに」

——そうか…本当に大きいね、宮田さんとの出会いは。

「そう。だから、凄いね…俺の中では、もちろん〝演出家・宮田慶子〟なんだけど、でも、一緒に作品をやっていない時っていうのは、演出家っていうよりも、〝宮田慶子さん〟で。で、宮田慶子さんは、俺のことを…

なんていうのかな？　構ってくれるから…」

——色々と見てくれてる。

「見てくれてる…し、ほんと全然違うのね、顔が。一緒にやってる時と。この間も、俺がドラマで忙しいっていうのを、多分聞きつけて……連絡をもらっても、なかなか返事出来なかったりしていてさ、俺。多分心配になったのか…スタジオのところまで見に来てくれたの。差し入れ持って。全然そこで演技指導する訳でもなくて、それこそ『ほかの作品の、ほかの演出家さんがやることだから、私は絶対口出ししない』って言って…顔だけ見に、差し入れ持って来てくれて…」

——わぁ…凄く嬉しいね。

「うん…っていうことをしてくれたりして。演技指導の部分だけじゃなくて、そこを越えたところで見てくれてる。言ったら〝東京のお母さん〟みたいな…感じだったりするんだよね」

——相葉雅紀という人を、ちゃんと理解してくれてるんだろうね。

「うん…俺の中で、凄く力になってるし、ありがたいし…あったかいしね、凄く」

——演出家の方と、そういう距離とか関係性でお付き合いが出来るって凄いね。

「でも…俺ね、どっちでもいいと思うのね。それこそ、作品のことだけを考えてくれる人も、それはそれでいいと思うし。その作品がよくなるために、なんて言うのかな…？　扱いがちょっと悪くなっても、それでいいと思うの。そういう付き合い方もあると思うし。ただ…宮田さんに関して言うと、そういう付き合い方ではなくて。でも最初は、そんなことなかったと思う。『燕〜』で最初に会った時は。わかんないけど…どっちもあるよね、人との付き合い方っていうのは。それこそさ、ドラマなんていうのはさ、1カ月の稽古もない訳だし、その場その場で撮っていくっていうしね。

——初めまして！　から始まることも多い

「うん。やっぱり舞台とは全然違う部分もあるよね」

——舞台とドラマ、そのどちらにも、面白さっていうのは感じる？

「うん…そうだね。まぁ、お芝居だけじゃなくて、10年間色んなことをやってきてるから。それこそね、多分…いったらバラエティー番組でさ、コーナーをひとつ自分で持たせてもらってさ、やってる時っていう…『今日はこのキャラクター』っていうのを自分の中で作って、このキャラクターのまま全部やるんだ、とか。対有名人ではない、対一般の方達との会話だったりする時に、どういうキャラクターをつけようか？　っていう。〝作る〟っていうことでは、一緒だから。素で出来るって言うけど…ね。それだったら、何も面白くないと思うし。お芝居じゃないけどさ、色をつけて自分を演出する訳だからさ。うん…そういった意味では、一緒だよね」

——今、バラエティーの話になったけども…実際にね、舞台『燕〜』と前後して、『志村どうぶつ園』のお仕事がスタートしてるんだよね。

「うんうん」

——そういうところで勉強した部分も大きいのかなって…今、聞いていて思った。

「うん。あのね…志村さんには、相当勉強させてもらってるから」

——志村さんも、キャラクターをたくさん持った方だもんね。

「そうなんだよ！　志村さんは、お芝居チョー上手だと思うよ。何やらせても。まぁ…運動神経凄くいいからね」

——えっと…運動神経？

「俺、ビックリしたんだよね。あの身体能力というか…ゴルフは上手いしさ」

——何より、エネルギッシュというかバイタリティーが凄そうだよね。

「そうそう。俺ね…今度、教えてもらいたいものがあるんだよね。志村さんに」

——なんなんだろう？

「あの…酔っぱらった時の動きをね、ちょっと教えてもらいたいんだよね。やっぱりリアルに酔ってると、そんなの気にしないじゃん（笑）。気にしようとしても、わかんないじゃん。でも、志村さんはね、全部わかってるんだよ。それこそ、ああやってコメディーなタッチで〝酔っぱらってるおじさん〟も出来るし、でも多分…それは振り幅だから。それをちょっとしか出さなかったら、ほんっとリアルに酔っぱらってるようにも出来るだろうし…。酔っぱらってるシーンっていうのが…あるの（『マイガール』で）。それを撮らなきゃならなくて…ちょっと、ほんとに教えてもらいたいんだよね」

——そういう意味でのテクニックは、きっと大事なんだろうね。

「そうだよね。うん…教えてもらいたいんだけどね、なかなかね…今、会えないんだよね」

——そうだよね…さっき、軽く「死にそうだよっ（ニコッ！）」って言ってたけど（笑）、ツアーにドラマに、レギュラー番組、特番のロケに…と、今の相葉ちゃんは相当忙しいもんね。

「そう…軽く死にそうになってるし（笑）。この間も『どうぶつ〜』のスペシャルで、久々に志村さんに会える！　と思ったら…ロケに出されちゃって（笑）」

——相葉ちゃんひとり？

「山瀬（まみ）さんとふたりで。1日ロケしてて…そっか、今日は志村さんに会えないんだ…って（笑）」

——教えてもらえなかったね…残念（笑）。

「でも…俺、あのファミリー大好きですね。山瀬さんと、志村さんと…っていうさ」

——凄くいい関係性なんだろうなって、見ていても感じるよね。

「うん…ベッキーとかさ」

——みんなでひとつの〝チーム感〟は凄く感じる。

「5年やってきたっていう…そういうのはあるんだろうね。その関係性と、あと…嵐の関係性っていうのでも、嵐の中にいる相葉雅紀と、多分外に出た時の相葉雅紀っていうのは、また違うと思うしね。別に…意識して分けてる訳ではないんだけど、やっぱり周りが変わると、それによって自分も立ち位置が変わるし。ただ、基本は〝嵐の相葉雅紀〟でいたいから。自己紹介する時に、『相葉雅紀は嵐の…』じゃなくて『嵐の相葉雅紀です』って言いたいから…うん。やっぱり、そこが軸にあって、それこそ…今はね、色んなことをやらせてもらってる訳だから」

——本当に色んなことをね。そう考えられる相葉ちゃんって…凄いよね。

「意外と（笑）？」

——いや、意外じゃない（笑）。空気も読めなさそうに見せかけて、一番敏感に読んでる…みたいなさ。

「でもその辺も、やっぱり…俺の『そう見せたい』って心の中でちょっと思ってる部分もあるんだろうね」

——あるのかもね。

「なんだろう？　まぁ、言ったらアホでいいんだよ、俺（笑）。アホがいいんだよなぁ…究極」

——究極、アホ…（笑）。

「うん。アホって言われて、別に嫌じゃないからね。『おいっ！』とか言ってるけど、ほんとは全然嫌じゃないからね（笑）。っていうところは、あるね」

——なるほどね（笑）。ちなみにさ、宮田さん、志村さんとの出会いが大きかったように、凄く印象的だなって思う、作品、監督、役者さんは…。

「（遮るように）それは…ね、い〜っぱいあるんですよ。それこそ、今年入ってからだけでも、平（幹二朗）さんとか…俺、ほんとに凄いなと思ったしさ」

——そうだよね…。

「なんなんだろうな…もうわかんないや、何がなんだか（笑）。何が凄いの？　って言われてもね、なんなのかわかんないっすよ！　みたいな。舞台やってる当時、色んな人に聞かれたの。『平さんの凄さは、どこだと思いますか？』って。そう言われても…もうわかんないっす！　って（笑）。わかんないんだけど、凄いんだよね」

——凄いっていうことはわかる！　っていう。

「うん（笑）。『凄い！』っていうのはさ、感じることだからさ。それを、分解して分析したりしては考えられないっていうかさ…。でも、あの一緒にやらせてもらった時間っていうのは、宝物だしね」

——相葉君って、振り返ったりするの？

「俺？　あんましない。なんか…自分の中で、潮時だとか、もう辞めようかなって思い出すと、毎日振り返るんだろうなと思う。振り返って、なんか『あぁ…よかったな』って、自分を納得させて、辞めていくんだろうなって。それまでは、あんまり振り返ったりって、しない……っていうか。だけどこの期間（嵐10周年の現在）だけは、振り返らせてもらうことが多いんですよ。色んな媒体の人に『10周年ということで、振り返って3大事件を！』とかさ（笑）。そう言われたら、振り返るけど…」

——今年は、相当振り返っただろうからね。

「そうなんだよね。別にこういう機会がなければ、10周年だって振り返らないと思うし…嫌な訳じゃないけど、進んで振り返ったりはしないよね」

——相葉君、聞いていいかな？　これは、答えられる範囲でいいんだけど…。

「うん。だいぶ…言ってないことばかり話してるからね（笑）」

——はい…本当にありがとう（笑）。違うんです、もっと細かいところというか…宮田さんに出会って、意識が変わってきてるというお芝居というものに、今の相葉ちゃんは、どう取り組んでいるのか？　という。

「はい」

——まず、作品に入る時に、台本をもらいますよね？

「うんうん」

——それを、どんな風に読むのか？

「台本をもらった時に…う〜ん、初めてってこと？　5話目（笑）？」

——いや…1話目で（笑）。まず作品に対する、第一歩。

「…どうだろうなぁ。あんまり何も考えないで読みますけどね」

——まず全体を、どんな作品なのかな？　って意識で読む。

「うん。そういう読み方をしてみて、自分のセリフも見て…っていう、普通の読み方ですけど」

——役のイメージとか、役作りに繋がるものだったり…。

「う〜ん、今回は特にないですね」

——なんとなく目指すイメージ像みたいなものは…？

「あるある。なんか頭の中で、そう…なんとなくの映像化がされて『こういう感じかな』って」

——台本を読んだ時に、自分の役がどういう笑い方をして、どういう話し方をして…とか、浮かんでる？

「うん。それはあるね」

——そのイメージを、現場でまずやってみる。

「うん。でも、『もうちょっとああして、こうして』っていうのが、現場で出て来るし、ほかの役者さんとやってみて、そのイメージが変わることもあるし…。そうだなぁ、現場では…人の話をよく聞く（笑）。それぐらいかな。あの…セリフをよく聞いてますね。ほかの人の。それで、自分のセリフも覚えてたりするから…よく聞くようにしてる。聞いてると…そこに対するリアクションが出て来るから、よく聞いたり見たりするようにしてますね。ほんと…テクニカルなことは、わかんないから…俺。お手上げなんですけどね（笑）。わかんないよ…難しい」

——例えば、自分のイメージはあっても、現場で変わることもある。そういう時は、すぐに切り替えられる？

「うん。そういうことはいっぱいあるからね」

——台本読んで、自分の中でイメージを広げる作業っていうのは、面白い？　それとも面倒くさい（笑）？

「あのね…面倒くさくはないけど、面白い…？　どうだろうなぁ…台本が次々に上がってきても、俺…なかなか読み出さないですね」

——それは、そうするようにしてるの？

「今も、6話ぐらいまで台本は出来てるんだけど…まだ5話すら、一度も読んでないんですよ。今撮ってるのが、3〜4話だから。そろそろ読まなきゃなって思ってるんだけど…。だから、マネージャーさんのほうが、内容をよく知ってると思うよ（笑）」

——先を知ることで、そこからの逆算で芝居をしたくないからなのかな？　今、話を聞いていると、〝今の〟撮影に集中したいんだろうなって。

「集中したいんだろうね…」

——気軽に読む感じではないのかもね、台本を。

「そうなのかも。なんか構えないと読めないのかも、俺」
──だから、なかなか読み出せないんだ。
「よしっ、読むぞ!」って構えちゃって(笑)。
「『よし、今日は読むぞ!』って…なるんだよね(笑)」
──別件で『マイガール』の話を伺った時に、凄く印象的だったのが「色んな仕事をさせてもらってる訳だから、たとえ忙しくても、普段やってることがやれなくなるのは嫌だから…」って言葉で。さっきの『嵐の相葉雅紀』を大事にしてるからなんだろうなって。
「うん…そうっすね。そうなの…だからね、そうなんっすよ。色んなことをやらせてもらっても、今までやってきたことは変わらずにやりたい。だから、ロケに出るっていうのも、俺がやりたいの。ロケに出るのって、時間がないと出来ないことだったりするんだけど…でも、それは俺が『ロケのスケジュールを入れてくれ』って言って…」
──〝いつものように〟ロケに出たいんだよね。
「うん、出たい。そういう時って、やっぱり先方さんは『忙しいから…』みたいなことを言ってくれるんだけど。でも、『出ます!』って言って。……っていうのは、思いますね」
──相葉雅紀という人は、凄く…こんな言葉しか言えなくて申し訳ないけど、〝気立てのいい〟人で。素直に物事を感じて、捉えて、誰よりも努力して…そこに厭味や濁りが一点もないのが凄いんだよなぁって。それって…例えば、翔君は「親の教育かな」と言って笑っていたけど、相葉ちゃんのその美点も、小さいころからの教育だったのかな?
「どうなんっすかね…」
──どんな子供だったんだろう? って。
「ちっちゃいころ?」
──うん。
「でも…小さいころ、よく迷子になってた」
──迷子!?
「うん。デパートで。あの…託児所みたいなところに、よくいた(笑)。その印象が凄く強いんだよね」
──それって恐怖心とか寂しい思いと結びついてるのかな? それとも、わりと平気で楽しんでたのかな?
「『あ、はぐれちゃった…なぁ』って感じ(笑)」
──じゃあ、怖くはないんだ。
「はぐれちゃって…でも、ちょっとドキドキしたから、楽しいんだよね」
──楽しいのかぁ…凄いね(笑)。
「なんか…知らない世界にポン! といるのが、ちょっと楽しいの。その記憶を凄い鮮明に覚えてる。『あ…オモチャ売り場はどこかな?』みたいな。で、ほんっとにもうダメだ! ってなった時に、いつも店員の人に『すいません、迷子です』って(笑)。それで、託児室に連れてってもらってた」
──自分で迷子申請ですか(笑)。へぇ…普通、迷子の記憶って、怖くてトラウマになったりするっていうじゃない? そういう思い出じゃないよね。
「だから海外とかも、最初のころは…よくロケに行ってたんだけど。その『どうぶつ～』のロケでね、チョー楽しかったもん。ほんとに全然知らない人の隣に座って、一緒に飲んだりとか…平気だったんだよね(笑)」
──新しいものとか初めてのものに、抵抗がないんだね。
「ドキドキするの、俺。ドキドキして、楽しいんだよね。海外だからさ、向こうが何言ってるか、全然わかんないんだよ。なんだけど『オッケー、OK!』つって…(笑)」
──なるほど…これは相葉雅紀を語る上で、大きな要素だね。
「何か…あるんだろうね。小さい時から、そうだったもんね。なんか…痛い目にあってないからだろうなぁ(笑)」
──痛い目も〝痛い〟と思わないんじゃないかな(笑)。
「あぁ…(笑)。でもね、ほんとに…いい人に囲まれちゃってるんだよなぁ」
──その新しいものに全く物怖じしないっていうのは、今も変わらないね。
「変わらないんだろうねぇ。うん…なんか、新しいこととかって、ドキドキしながら楽しいんだよね」
──本気でビビッたことって、あるのかな? いわゆる肉体的な限界に近いお仕事も、だいぶやってきてると思うんですよ、嵐さんは(笑)。
「してるしてる(笑)」
──大凧で人は飛べるか? みたいな実験って…体張り過ぎだろ! って思うもん(笑)。そこも楽しめちゃうのかな?
「やっぱ、大丈夫かなって…思っちゃうんだよなぁ、ああいうのも」
──そこは強いよね、大きな強味だよ。
「それで…ねぇ。もし事故になっても…自分の中で、それを恨んだり…しないんだろうな」
──マジっすか…!?
「思うよ。悔いなし! って(笑)」
──ほんと…気立てがいいという言葉がピッタリ。一緒にお仕事してて、気持ちいいんだよね。よく言われるでしょう?
「うん…そうなのかな」
──さっき「いい人に囲まれてる」って言ってたけど、相葉ちゃんが「いい人を呼ぶ」んだよ、きっとそう。
「へぇ…」
──その自覚のなさも、気立てのよさなんだけど…。
「気立てが、いいのかな?」
──うん、絶対そうだと思う。『ピカ☆ンチ』の写真集にも書かせてもらったけど。ボロボロに疲れてても、本気で「平気だよ。そんなことよりも、聞いて! ロケがね、楽しかったんだぁ」と言える人で…ほんとに感動したんだよね。この人は、人を絶対に不愉快にさせないんだろうなぁって、本気で思ったよ。
「そう…? 全然意識してないな。ただね、俺…自分で思うんだけど。あのね、一番いらない感情が〝嫉妬〟だと思うの」
──素晴らしい…。その考えには、いつたどり着いたの?
「どうだろう? わかんない。でも…一番いらないと思うなぁ」
──嫉妬がモチベーションになることもあるし、そういう人もいるだろうけど…。
「俺は全然モチベーションにならない」
──相葉ちゃんのモチベーションは何? やっぱり〝ドキドキ〟とか〝楽しい〟?
「そう。わかんないけどさ…結局、ご飯食えればいいじゃん。人って。それにどんどん色をつけてるだけだからさ…なんだろうなぁ? 楽しみたい訳よ」
──うんうん。
「で、結局この先、死ぬことはわかってるしさ、嫉妬してる時間とかさ…そんなの、全然いらないもん。自分はね」
──そんな無駄な時間はいらない。
「うん。無駄だし、それがゆえに人間関係が崩れて行くのも嫌だし。『だったら、俺はいいや』っていうのを…言えるかな」
──それって…嫉妬にまつわる何か嫌な思いがあったのかな?
「学生の時に…多分、あったんだろうね」
──こんなに嫌な思いをするなら、俺は嫉妬しないで生きて行こうって…。
「うん…若い時にね。若いって…今も若いけど(笑)!」
──世界中の人が相葉ちゃんだったら、戦争とか起きないのになぁ。
「世界中って…それは誰がなっても、その人だけだったら戦争にならないでしょう、そもそも(笑)」
──確かに…(笑)。でもさ、前に戦争の話題になった時に言ってたよね。「戦争しないでさ、対立する国の偉い人同士が、ボクシングで勝敗を決めたらいいじゃん!」って。
「そうだね…軽～く言ってたね。ジャンケンでいいんじゃね? 一瞬で決まるじゃんって(笑)」
──ボクシングで決まるなら、「偉い人とかすっげぇ鍛えたマッチョな人になるね」って。
「物凄いマッチョな大統領とかね(笑)。ある意味そうじゃなきゃ大統領になれないっていう……世の中の価値観が変わってくるよね(笑)」
──でも、相葉雅紀は…その〝価値観を変える人〟だと思う。その真っ直ぐさで。
「別に、人生ナメてる訳じゃないんだけどね…」
──わかるよ。世の中が、ごちゃごちゃと飾り過ぎてるのを知ってるんだよね。もっとシンプルでいいってことをわかってるというか。
「そう! もっとシンプルでいいんだよ。シンプルにいきたいんだよね、俺は」
──いやぁ～いい話が聞けたなぁ。本当にありがとう。ちょっと、ドラマのお話にもいきたいんだけども…。
「『マイガール』もね、シンプルだよ。すっげぇシンプルなお話」
──あっ…今、すっごく上手く話が繋がったけど(笑)。でも、そうだよね。コハルちゃんと正宗君、ふたりが本当の親子になっていく…っていう、シンプルなお話。
「ほんっとに…なんか、すげぇストレートだし。今、やってる正宗君っていう役も、凄くシンプルな役だから。だから…結構、好きなんだよね」
──演じていて?
「うん。正宗君はね、好きだなぁ。こんな色んな事件がある世の中、こんな時代だからこそ、やっぱストレートで要所要所あったかい、このお話を見てもらいたいなと思いますよ」
──村上(信五)君の回を台本で読んで、「凄くいいなぁと思った」と話していたけど、その時も面白いことを言っていて。『男性の視点と女性の視点では、感じ方が違うんじゃないかな』って。
「違うと思う…全然、感じ方が違うと思う」
──そう言える、感じられる、相葉ちゃんの感性がいいなって思ったんだよね。
「だって…男の人はやっぱ、男の人のほうに多分感情を乗せると思うんだけど、女性のほうの視点で見たら違うだろうなって。特に、そのヒナちゃん(村上)の回はそうだと思う。ほんとにそう…男性と女性とでは感じ方が違うだろうね」
──やっぱり、台本を読んでて、グッときちゃうシーンは多い?
「ある…あるねぇ」
──1～3話ぐらいで、印象深いシーンや撮影があったら教えて下さい。
「う～ん……いや、その回その回であるからなぁ。1～2話は、対コハルちゃんだったりするんだけど、3話目でお母さんとのからみになるのね。正宗のお母さん(室井滋さん)との話で、「子供の後始末も出来なくて死んじゃうなんて…」「なんでアナタが子供を引き取るのよ!」って…なんかどっちの言い分もわかる、みたいなさ。わかってるんだけど…っていう、凄い狭間に立たされて。でも、自分の母ちゃんには感情をぶつけられる訳じゃない? 親子だから。言い過ぎたなって思いながらも、当たってしまう…そんな親子のやり取りには、俺はグッときますね。そこは、正宗君は親にしか当たれないからさ…なんか、そういうヒューマン的な要素はいっぱいありますね」
──やっぱり、自分も家族ってものを改めて思ったりした?
「なんかね、そんなに具体的なことを思った訳じゃないけど…でも、家族っていいなぁとは思いますけどね。結局、最後まで味方でいてくれるのは家族だろうし、いち早く叱ってくれるのも家族だろうし…と思うけどなぁ」
──初の父親役。実際に、父親っていうのは、なかなか自覚が出来づらいっていうじゃない? 自分では産まないから。
「そうかもね。確かに…そうだね」
──だから、本当にこの親子の行方は気になります。正宗君とコハルちゃんは、親子になっていけるのでしょうか?
「わかんないけど…何をもって『ちゃんとした親子』なのか? ってことなんだよね。幸せだったらいいと思うけどね、お互いが。形に捕われなくても、ね? っていう題材を描いて作品だと思うし、ほんとにね…コハルちゃんのセリフとか、ドキッとさせられることが多いよ。切ないけど、凄くあったかいドラマになってると思うので、是非見てほしいなと思います」 a

あいば・まさき

1982年12月24日生まれ。千葉県出身。99年11月、人気アイドルグループ・嵐の一員として『A・RA・SHI』でデビュー。Jr.時代の97年、『Stand by me』で初舞台、『ぼくらの勇気～未満都市～』で初の連ドラ出演。98年には、映画『新宿少年探偵団』で映画初主演。アイドルとしての活動はもちろん、その後もバラエティー、ドラマ、舞台と活躍の場を広げる。ドラマでは『ムコ殿』『ヤンキー母校に帰る』『トリプルキッチン』、舞台『燕のいる駅』『忘れられない人』『グリーンフィンガーズ』、映画では嵐主演『ピカ☆ンチ』シリーズ、『黄色い涙』などがある。今期、テレビ朝日木曜ドラマ『マイガール』で、連ドラ初主演を務める。

衣裳協力:ガウン¥15,540/パンツ¥6,090ともにTOLL FREE、Tシャツ¥6,195/バンダナ¥525/リング¥26,250全てジャンピン ジャップ フラッシュ、シルバーネックレス¥19,850 DIET BUTCHER SLIM SKIN(Venom)、他ネックレス 本人私物、ブレス¥1,155 TOPSHOP/TOPMAN、トゥリング スタイリスト私物















REPORT act.

『マイガール』撮影現場 ON&OFFレポート

撮影／京介　文／米川里代

8月8日にインした、相葉雅紀主演の話題作『マイガール』。9月某日、都内スタジオで行なわれている撮影にお邪魔した。

スタジオに組まれた、笠間正宗（相葉雅紀）の家のセット。かなりの築年数と思われる古い家屋だが、彼の優しい人柄が伝わるような、あったかい色調の部屋。家電や家具も、最新式のものは少なく、大事に使われてきたであろうレトロでかわいいものばかり。美術スタッフの想いが伝わって来る。セットの中で、スタンバイする相葉の姿が見える。落ち着いたトーンの黒髪、飾らないシンプルな服装…すでに正宗の出で立ちと雰囲気をまとっている。愛する人の忘れ形見であるコハル（石井萌々果）の存在を知り、一緒に暮らす決意をした正宗。コハルが正宗の家に越して来る、その日。遂に親子としての〝第一歩〟を踏み出すふたりの、ぎこちなくもあったかいやり取りが肝になるシーン。入念に繰り返される、監督、スタッフ達との念入りなランスルー。コハルを迎えるために準備したスリッパやハンガーを、ソワソワと落ち着かない様子でチェックして回る正宗を、3カメ（クレーンカメラも）態勢で狙う。陽子の母（朝加真由美）に手を引かれ、コハルがやって来る。慌てて出迎え、挨拶する正宗。ふたりの交わす「よろしくお願いします」という、色んな意味が込められた挨拶。ずっとお辞儀し合う、ふたりの控えめなやり取りは…胸にグッと来るものがあった。切り返し、寄り引き、ズームと…玄関での3人のやり取りを、一気にあらゆる角度から撮影する。部屋に入ったコハルが「正宗君、これ…」と母・陽子と一緒に写る写真を手渡す。見つめる正宗。改めて『この子と暮らすんだ』と決意を固める…その言葉のない表情を捉えるカメラ。モニターを見つめる監督から演出が飛ぶ。「『よしっ！』という決意の顔で、最後（コハルを）見つめたまま終わりたい」という指示に「はい」と応えた相葉の表情は、グッと力を込めた目に父親としての決意を感じさせた。「カット！　はい、チェック」という監督の声に、モニター前に集まるふたり。とても自然に、約ひとりぶん置いた絶妙な距離を保って横並びで座り、モニターを見つめる様子は…これから親子になろうとするふたりの、なんとも微笑ましい距離が感じられた光景だった。セッティング待ちの時間も、相葉のもとにそっと寄り添う萌々果ちゃんの姿が…。手を繋いで（いつも移動時はそうなのだとか）、前室へ戻って行くふたり。セットに置いてあった子供用自転車に乗りたがり、相葉が手助けしていたり…と、本当に仲良し（笑）。スタジオの準備が整い、続いてタイトルバックの撮影に入る。着替えを終えたふたりが、再びセットに入る。正宗はオフホワイトのニットにダメージデニム。オレンジ色のショートパンツにボーダーのタイツ、鮮やかなグリーンのケープをまとったコハル。微妙な距離を取って座るふたりを繋ぐのは、ロングマフラー。なんと全長6メートルもあるというこのマフラーは、スタッフ渾身の手作りだという。タイトルバックのイメージコンテ（原作の佐原ミズさん作）をスタッフ全員が手にし、各所で確認し合う様子に、制作陣の今作にかける意気込みがビシビシと伝わってくるのだった。シンプルな白壁の前で、それぞれ正面を見つめているふたりが、ゆっくりと顔を合わせ微笑み合う…このドラマが歩む道を示唆するような、その一連の流れを撮影。「いい！」

これはもう…完全にヒューマンラブストーリーだな！」と監督も満足の出来映えで無事終了。続いて、正宗のシーンへ。陽子が残した手紙の束をしまった箱。〝6年前…フラれたと思っていたのに〟〝今更そうじゃなかったと知るなんて〟〝自分の子供がいる…本当に？〟正宗の中で、封印していた想いが動きだす。抑えることの出来ない苛立ちと葛藤で、冷静さを欠いている自分に気づき、手紙の



る。監督の指示も細やか。「今の正宗の心境は、いつも通りにしようとしても出来ない…6年ぶりに心が動いてるんだ！」。手紙の入った箱を、どの程度の力で投げるべきか？ どう動いたら、この動揺が伝わるのか？ 心情説明を加えながら、相葉と一緒に動きながらの熱い演出に、その都度表情や動きを細かく変え、応える相葉。たまらず、部屋を飛び出すまでの動き…その切ないシーンの全てを撮り切ったのでした。

10月に入り、ロケが行なわれている現場を、再び訪れる。都内の寺社。その境内を貸し切って撮影されるのは4話。正宗とコハル、そして保育園の柴田友哉先生（村上信五）とその子供・川原裕介（丸山歩夢）、という4人で自転車に乗る練習をするシーン。しかしこの日は、朝からあいにくの雨。雨の様子をはかりながら、スタッフ一丸となって気合の1カットを撮るも、更に雨脚を強めた雨に残念ながら残りのロケは延期となってしまった。残念…。この待機時間にキャストの撮影だけでも、というご提案を頂き、子供用の自転車2台、それぞれ寄り添うふた組の親子の図…4話を象徴するような画を撮らせて頂いたのでした。その翌々日。振り替えロケの現場を訪れると、木漏れ陽の射す境内には、すでに4人の姿が。監督がキャスト4人を境内中央に集め、自転車を練習するシーンの段取りが始まる。まずは、柴田先生が「ペダルを踏み込む勇気。前に進む勇気が必要なんだ」と裕介の背中を押す。ペダルを踏み込むタイミング、漕ぐ回数、自転車を走らせるルートを説明していく。いよいよ撮影がスタート。柴田先生の手から離れた裕介の自転車が力強く走っていく。柴田先生の「やった、乗れた！ 乗れたぞ、裕介ー」と叫ぶ声が神社の境内に響き渡る。その場で目で追う、うしろから追いかけながらなど、いくつかのパターンをテスト・本番と丁寧に重ねていく。途中、不安定な地面に車輪のコントロールを奪われ、歩夢君が転んでしまうハプニングが起きたが、村上がすぐさま抱き上げ、怪我をしていないか確認。控え場所で待機中の萌々果ちゃんも、歩夢君の元へ歩み寄り、声をかけている。仕切り直しのため一同が控えの場所に戻ると、相葉も転んだ際に突いてしまった彼の小さな手を取り、笑顔で話しかけている。それぞれ歩夢君を心配する3人の姿に、役がすっかりダブって見えたのがとても印象的だった。そのまま、ラムネを飲んで休憩している4人の撮影に戻る。おばあさんが店頭に立つ、昔懐かしの駄菓子屋を背に、コハルをひざに乗せた正宗、裕介、柴田先生がひとつのベンチに並ぶ。裕介が、「今度、お父さんが出来るんだ」と俯きながらつぶやく…親子であることを明かせない、柴田先生とのやり取りがグッと胸に迫るシーン。「お父さんがいなくて寂しかった気持ちが、嬉しい気持ちに変わるんだ。裕介は男の子だからね」。監督の細やかな演出が伝わり、裕介の大きな笑顔で本番は締めくくられた。さっきまで相葉のひざの上にいた萌々果ちゃんが、画面を指差し声をかけると、相葉もすぐに腰を上げ、萌々果ちゃんのうしろから包み込むように一緒にモニターチェック。この日、行なわれた撮影でも、仲睦まじい相葉と萌々果ちゃんのやり取りが随所で見られた。萌々果ちゃんが乗った自転車をうしろから支えながら、萌々果ちゃんの顔を覗き込んで話しかけ、控えの場所に用意された大小の椅子に並んで座り、ふたり声をそろえて歌を歌ってみたり…。合間のリラックスしたふたりのやり取りは、まさしく父と娘そのもの。この温かい空気は、きっと画面を通しても伝わるはず。正宗とコハル、ふたりが互いを大切に思い合いながら〝本当の親子〟になっていく物語。『マイガール』は、きっと私達が忘れがちな〝大切なこと〟を教えてくれるドラマになるだろう。 a

止まった時間が鮮やかに動き出す
僕を強くさせる『マイガール』の存在

大切な人を失った哀しみが、ふたりをより近づけた。哀しみを否定するのではなく、肯定して少しずつ前に進んでいく
一緒になったばかりの親子を描いたドラマ『マイガール』をみて、"人を大切に想う気持ちってなんだろう?"と立ち返ってみませんか?

取材協力／テレビ朝日

正宗ってこんな人！

一途で純粋。ひたむきな想いを持っている
陽子へ手紙を書くのを止めても、心のどこかで陽子の返事を待っていたのだろう。正宗の部屋にある、宛名のないエアメールの封筒がたくさんあることからも彼女への想いが伺える。

言いたいことがなかなか言えない
陽子の死を知って、突然、去ってしまった彼女に無理矢理でも会いにいくべきだったと後悔する。これまでは、理由を作っては逃げてばかりで言いたいことも言えない日々だった。

本当にやりたいと思った仕事に悩む24歳
写真スタジオでバイトから始めて6年。先輩の技術を盗む訳でもなく、ただ流れる時間を過ごしてきてしまった。「成長する気のない人間に、任せる仕事はない」と上司から一喝される。

静かな、そして強い意志を持っている
「忘れた」と言っても、陽子のことを誰よりも強く想ってきた。陽子との想い出である「てんとう虫」を見るとほころぶ正宗の表情には「ずっと想い続ける」という強さがある。

登場人物



笠間正宗（相葉雅紀）
高校時代に別れた恋人・陽子を忘れることが出来ずに、写真スタジオで働きながら平凡な毎日を送っている。ある日、陽子の訃報とともにやってきた自分と陽子の娘・コハルの登場に始めは戸惑うが、一緒に暮らすことを決意する。



塚本陽子（優香）
正宗が高校時代に付き合っていた4つ年上の彼女。明るく前向きな性格で、負けず嫌いなところもある。正宗の前から姿を消した6年後、突然の事故で二度と帰らない人に。



柴田友哉（村上信五・関西ジャニ∞）
コハルが通っている保育園のスーパー保育士。折り紙でなんでも作れたり、幼稚園児みんなから人気がある。しかし、彼には悲しい過去があって…。



笠間光代（室井滋）
正宗の母親。厳格で頑固な性格で、いつまでも正宗の世話を焼きたがる。親の考える幸せが子供の幸せと考え、コハルを育てるという正宗に猛反対する。



笠間清助（山崎一）
正宗の父親で、動物行動学の教授。光代とは対照的に正宗の決意を温かく見守る。



塚本志織（朝加真由美）
陽子の母親。陽子が亡くなりコハルを預かるつもりだったが、コハルを正宗に引き渡す。



笠間コハル（石井萌々果）
正宗と陽子の愛娘。幼いながら、突然父親になった正宗に迷惑をかけないよう気を使う一面があり、優しい素直な女の子。



林弘和（北村有起哉）
正宗が働く写真スタジオの凄腕マネージャー。厳しいけれど、それも正宗を育てるため。



木村英生（日村勇紀）
写真スタジオで働いている正宗の先輩。正宗の話を親身になって聞いてくれる。



中園香（井村空美）
正宗が働く写真スタジオに勤務している。時間きっかりに帰ってしまうマイペースな後輩。



片桐はるか（平岩紙）
コハルが通う保育園に自分の子供も預けているシングルマザー。正宗のよきアドバイザー。



瀬山高志（山崎樹範）
正宗がよく通っている自転車ショップの店長。正宗のはとこで、光代には頭が上がらない。



室田長市（八名信夫）
正宗が住むアパートの大家さん。こだわりのコーヒーが自慢の喫茶店を経営している。



室田澄子（大森暁美）
長市の妻で、おっとりした優しいおばあちゃん。正宗達を陰から応援している。

金曜ナイトドラマ『マイガール』
原作／佐原ミズ（バンチコミックス／新潮社）
脚本／大島里美　荒井修子　髙橋麻紀
主題歌／嵐「マイガール」（ジェイ・ストーム）
音楽／澤野弘之　和田貴史　ゼネラルプロデューサー／桑田潔
プロデューサー／中川慎子　長松谷太郎　佐藤善宏
演出／髙橋伸之　麻生学　梶山貴弘

写真スタジオでカメラアシスタントとして働いている笠間正宗（相葉雅紀）には忘れられない女性がいた。6年前、突然海外留学すると言って、自分の元を離れてしまった4歳年上の恋人・塚本陽子（優香）だ。初めの3年は手紙を書き続け、例え返事が来なくても、ひたすら待った。そして、手紙を書くのを止めて3年経ったある日、正宗の元に陽子が出勤途中に事故で亡くなったという訃報が届く。しかし、それがきっかけで、自分と陽子の間に生まれた女の子・コハルと出会い、突然、父親となり、ふたりの生活が始まったのだが…。
テレビ朝日にて、毎週金曜よる11:15から放送中

第1話放送日の10月9日。正直な今の心境と、近くで見ているからこそわかる相葉雅紀について話を聞いた。

文／高畠みさき

演出・髙橋伸之

取材を受けている今、実はかなり緊張しています。というのも、第1話放送が目前でして。今回、絶対にいいものにしたいという気持ちが強くて、物凄いプレッシャーがあるんです。これまでの金曜ナイトドラマの作品が"ドラマで何が出来るか"をチャレンジしてきたものが多いのですが、『マイガール』はどちらかというと、"ドラマらしいドラマ"で真っ向勝負していると思うので、視聴者の方々に受け入れてもらえるかっていう不安がありまして。でも、『マイガール』を金曜ナイトドラマで放送することが、逆にチャレンジになると前向きな気持ちでいます（笑）。

そして今回は"わかりやすさ"をテーマに制作しているので、ドラマの見せ方としてはちょっと古いかなっていう気もしているんですよ（笑）。"笑う"というより"泣ける"っていう意味で、ひと昔前のドラマっぽいというか。台本を読んで、ストレートに"泣ける"話だったところが面白いと思ったんですが、大きなうねりのある物語ではないので、小さなことを盛り上げて見せていかなければならない難しさがあるな、と。でも、ひねったことをやる必要はないと思っているので、正宗やコハルちゃん、陽子、みんなの想いを丁寧にメリハリつけて、しっかり撮っていければと思っています。

撮影現場では、締めるところは締めて、なるべく楽しく撮影が進むよう心がけながら、スタッフ・キャストに"ここではこういうことをしたいんだ"っていうのを時間の許す限り明確に細かく話をしているつもりです。それで僕がわからないと思ったことも、現場でみんなに聞くと、色々な意見を言ってくれて、キャスト・スタッフがひとつの方向を向いている感じがして、とても助けられています。

僕が相葉さんにお話したのは、正宗っていう人間は、本当は元気だし、明るいヤツだっていうことですね。ただ暗いだけの人間を陽子さんが惚れるはずもないんですよ。陽子さんと別れてから、彼の時間が止まっているだけだ、と。それから、子供のふれ合い方についてですね。運がいいことに僕には3歳の娘がいるんですが、肩車や抱っこの仕方って、子供がいないと意外とわからないんですよ。僕が普段、娘にやるように（石井）萌々果ちゃんでやって見せたりして、その基本的な部分からぎこちなさを足したり崩してたりしてもらっています。とは言っても、すぐには慣れないので、そのギリギリなところが上手く出てくれればいいなと思っています。本当に相葉さんは頑張ってくれています。相葉さんと萌々果ちゃんは凄く仲がいいんですけど、ふたりを見ていると娘に会いたくて、家に帰りたくなっちゃう程ですよ（笑）。

でも実は、苦労したのも、そのふたりの仲のよさなんですよ（笑）。1話、2話は、ふたりの距離がまだかなり離れている設定なのに、かなり早い段階からふたりが仲良くなっちゃって（笑）。相葉さんのちょっとしたしぐさや、萌々果ちゃんの触り方とかでわかるんですけど、1、2話の撮影後半戦は、ふたりを引き離すのが結構大変でした（笑）。2話の後半で、"どう？　これならお月様届く？"と言う正宗がコハルちゃんを肩車するシーンがあったんですけど、ここはふたりがちょうと近かったなって思っているんです。正宗の肩に乗っているコハルちゃんの足を触る、その触れ方がね。少し距離が近いんですよ（笑）。だから、ふたりの距離感には今も凄く大事に気をつけるようにしています。

相葉さんはかなりきちんと台本を読んできているので、僕よりも"正宗"っていう人物の感覚をつかんでいると思います。だから、大きな間違いみたいなものが全然なくて、相葉さんが演じていると、結構任せられるというか、芝居のテンションを見ていても"あぁ！　そうそう！　そんな感じ！"ってなることが多いんですよ。撮影初日に1話冒頭の陽子さんからの手紙を探してポストを覗くシーンを撮った時に、"ああ、正宗だ、大丈夫だ"って感じがしましたね。だから、正宗っていう役は普段の相葉さんみたいな感じなのかなと思います。もちろん相葉さん本人は正宗より明るい性格だと思いますけど、落ち着いて優しくて繊細でっていう部分をこれからたくさん見せていきたいですね。やっぱり、バラエティー番組に出ている相葉さんとは違う相葉さんを見せたいですから。

第1話にはタイトルバックが流れないんですが、2話でいよいよ放送されます。これは、僕が漫画原作のイラストを見てから、ずっとふたりにやってもらいたいと思っていた画で、ひとつの長いマフラーで巻かれたふたりを映しています。ふたりの間にもうひとり入りそうなあの距離感が、すこ――――しずつ縮まっていく物語が『マイガール』なんだと集約している画だと思うんです。だから、ふたりとも同じ方向を向いているんだけど、距離が近づき過ぎていないっていうのをタイトルバックでは伝えたくて。原作のふたりの距離感がいいなと思っているんです。それでいて、わりとふたりが前を向いていますよね。どんなつらいことがあっても、先にはいいことがあるんじゃないって見えるところとか、まぁ、あの絵が単純にかわいいっていうのもあるんですけど（笑）。原作を読んでいる人が、あのタイトルバックを見て、"あの絵だ！"って思ってくれるといいですね。

僕には娘がいるから単純にコハルちゃんには幸せになってほしいですが（笑）、これから正宗の止まった時間が動き出してくれるといいなと思います。これまで逃げてきた正宗がコハルちゃんと出会って、逃げずに前に進もうと思うっていうのは、人として凄く素敵だなって思うんです。しかも突然、5歳の子供が出来て、パパになってしまうけど、きちんと悩んで考えて、それでも引き取ろうって思えるのは男らしいですよ。もちろん、簡単には上手くいかないんですけど、そう決心して前に進もうとするのがいいですよね。逃げるのは本当に簡単ですから（笑）。そこから、正宗は周りの人達の手助けを受けて、少し進んでは戻るっていう本当に少しずつだけど成長していきます。"人生とは？"とか"子供とは？"と色々考えて、最終的に自分の進むべき道を進んでいくと思うので、それに共感出来たり、自分も頑張ろうって思ってもらえる作品にしたいですね。僕個人としては是非、お父さんに観て頂きたいです。どうしても子育ては奥さんに任せっきりになってしまうことが多いと思うんです。でも、正宗のような奥さんのいない生活を"ちょっとだけ、想像してみませんか？"っていう気持ちも少しだけありますね（笑）。 a



たかはし・のぶゆき
2000年に『モーニング娘。の愛物語』（テレビ東京）で初演出。その後、01年『マリア』（TBS）で本格的に演出の道に進む。代表作として『WATER BOYS』、『WATER BOYS 2』、『僕と彼女と彼女の生きる道』、『アンフェア』（全てフジテレビ）などがある。06年の『キャッチ ア ウェーブ』で映画監督デビュー、同じ年にテレビ朝日に入社。『レガッタ』（06年）、『未来講師めぐる』（08年）、『歌のおにいさん』（09年）の演出を手がけた。

“ふたりの距離感”が丁寧に描かれている漫画原作者・佐原ミズにコメントを頂いた。

原作・佐原ミズ

❶『マイガール』ドラマ化のお話が来た時、どう思われましたか?

漫画を読んでいただいてドラマ化したいと思って頂けた事は、大変有り難いと思いましたが、当時はまだ単行本が2巻目までしか出ておりませんでしたし、このようなもので本当に大丈夫なのだろうか?という心配の方が大きかったです。

❷相葉雅紀さんの印象について、また正宗との共通点がありましたら、教えて下さい。

お人柄も良く、まっすぐな印象を受けました。正宗との共通点もその点ではないかと思います。

❸ドラマになってから原作に変化は起こりましたか?
また、どんなドラマを期待されますか?

特にありません。どんな正宗になっても楽しみです。ご覧になる方が観てよかったと思えるものであれば、どのような展開でも良いと思います。

❹原作の『マイガール』誕生について教えていただけますか?

訳あって知人の子どもを1ヶ月預かった事がありました。その子に接した事によって、沢山の発見があり、今まで子どもに対する見方が一変しました。それを契機に今まで自分が送ってきた親子関係を振り返り、父がいて母がいて、上手に親に甘える事が出来る空間の大切さを知りました。

❺連載中の原作では、
今後、どのような展開がありますか?

最後には二人が自然な親と子の形になるよう、描いていけたらと思っています。



さはら・みず
これまでの作品として、新海誠のアニメーション映画を漫画化した『ほしのこえ』(講談社刊)を始め、『雲のむこう、約束の場所』(月刊アフタヌーンにて連載。ただ現在は休載中)、『ナナイロセカイ』(白泉社刊)、『バス走る。』(新潮社刊)、『私たちの幸せな時間』(新潮社刊)がある。『マイガール』は、『週刊コミックバンチ』にて現在、月1連載中で、現在は4巻まで発売中。

父親としても、ひとりの男としてもまだまだ未熟な正宗。そんな彼を様々な形で支える3人の存在とは?

正宗を成長させる3人

柴田友哉



父親としての自覚

保育園のお迎え時間に遅れる、忘れものが多い…など、コハルの子育てが十分に出来ていない正宗に対し、「もっと父親としての自覚を持って下さい!」と毎日のように注意する。



子供を喜ばせる才能

正宗の迎えを待つコハルを寂しがらせないために、折り紙でたくさんの動物を作って喜ばせる友哉。それを知った正宗も、夜中に折り紙でウサギを作ってコハルを喜ばせようとする。



我が子を想う気持ち

自分が父親であることを隠したまま、息子を自転車に乗れるように特訓する友哉。正宗はその姿を見て、例え父親として名乗れなくても"我が子を想う心"は同じだと気づかされる。

笠間光代



息子への心配は続く

光代はカメラマンとしてうだつが上がらない正宗を心配し、毎日のように転職を勧める。一見口うるさく感じてしまうが、正宗のことを誰よりも考えているからこその行動である。

親と子の絆さえあれば、たとえ母親がいなくても…

光代は小さいころに母親を亡くし、男手ひとつで育てられてきた。その経験から正宗ひとりでコハルを育てられる訳がないと、ふたりの生活に猛反対。しかし光代の父親が亡くなった時、正宗は葬式の場で彼女が父親に「ありがとう」と言っている姿を鮮明に覚えていた。そんな光代を見て、シングルファーザーで育った子供が必ずしも不幸だとは限らない、それでも十分幸せに暮らしていけるんだ、ということを学ぶ。



嫌いな食べ物を克服

タマネギ嫌いな正宗のために、タマネギをすりおろしてオムライスを食べさせていた光代。正宗はそれに習って、コハルの嫌いなシイタケを細かく刻んでこっそり食べさせる工夫をする。

笠間コハル



立派な父親になるために

子育てなど一度もしたことがない正宗。料理、洗濯、掃除といった家事はもちろんのこと、コハルの髪を三つ編みにしてあげたりと、コハルを育てることに日々奮闘する。

陽子の存在を再確認

周囲の人から「ママの死を忘れなさい」と言われたコハル。正宗も「陽子に捨てられたんだ」と言い聞かせて、彼女の存在を忘れさせようとしていた。しかし、コハルは糸電話を通して「コハルはママのこと、忘れたいとは思わないよ」と涙を流しながら正宗に訴える。そのことで正宗も、陽子が自分のことをどんなに想っていてくれたか、そして自分も陽子のことをずっと忘れられなかったことに、改めて気づく。



親子として向き合う

正宗は仕事の忙しさを言い訳に、コハルをひとりぼっちにさせていた。コハルに何かしてあげたいと思った正宗は、「お月様を取りに行こう」と提案し、次第にコハルと本音をぶつけ合う仲に。

このドラマには、たくさんの優しさが詰まっている。ここではその一部を少しだけご紹介。

「相手を想う気持ち」が作り出す名場面



友哉　保育士になった理由

友哉は妻と息子を幸せにすることが出来ず離婚してしまった過去を持っていた。そのため、自分の子供に何も出来なかった罪滅ぼしとして、一生懸命保育士の仕事に向き合っていく。

清助　母と息子を繋ぐ懸け橋

正宗に子供がいたことを知った光代は激怒し、「コハルに会えるはずがない」と言い放つが、清助は「僕は会いたいな、僕らの孫でもあるんだから」と孫の存在を喜んだ。そのことで光代が正宗と言い合いになった時も、「あの人は口に出さないけれど、正宗のことを誰よりも考えている」とフォロー。正宗と光代それぞれを支える存在である。

陽子　不安な気持ちを隠して…

正宗へ突然の別れを切り出し、正宗からの手紙に返事もせずひとりでコハルを生んだ陽子。その行動は、当時高校生だった正宗の将来を想ってのことだった。本当は寂しい、ひとりで子供を産むのが怖い…。そんな不安な気持ちを手紙に綴るも送ることが出来ずに、誰に頼ることもなく、コハルを女手ひとつで育てていった。



陽子　正宗の将来を決めたきっかけ

陽子は正宗が欲しがっていたカメラをプレゼントする。貰ったカメラで撮った写真を陽子が「大事にする」と言ってくれたことが嬉しくて、正宗はカメラマンの道へ進んだ。



コハル　母を想って作った糸電話

言いたいことを正直に伝えることが出来ない陽子のことを想って、コハルは糸電話を作る。後に、コハルと正宗も、この糸電話を使って自分の気持ちをお互いに伝えていく。

コハル　お守りの中に入っていたのは…

コハルを引き取って静岡で暮らすと志織から告げられた正宗。その翌日、コハルは正宗に「これがあれば寂しくないって」と"ママのお守り"を渡して正宗の元を去って行く。その翌日、正宗がお守りの袋を開けると、中には正宗と陽子が出会うきっかけを作った思い出の品・てんとう虫の消しゴムが入っていた…。



正宗　娘へのプレゼント

コハルをうしろに乗せて自転車を走らせる正宗。風に吹かれながら気持ちよさそうにしているコハルを見て、高志に頼み込み、分割10回払いでリボンつきの自転車をコハルにプレゼントする。



正宗　友哉への激励

実の息子に会うことが出来ない友哉を放っておけず、「先生にはそんな思いをして欲しくない」と息子との再会を後押しする。そのお陰で、友哉は息子と再び会う決心をする。

『東京DOGS』



小栗旬×水嶋ヒロという旬な俳優のバディモノを描く“新しい月9”。
小栗演じる高倉奏、水嶋演じる工藤マルオの
ふたりのヒーローに割って入るのは、吉高由里子演じる松永由岐。
百合の花言葉のように“威厳”に満ちた奏と、“無垢”な大人マルオが、
由岐を媒介にどのような花を咲かせるのか。



SHUN OGURI






蝴蝶网
hudie.com



小栗旬

月9初主演を飾る『東京DOGS』で小栗旬が演じる高倉奏は、NY市警で100人近い捜査官の指揮を取る軍隊上がりのエリート刑事。小学生の時に目の前で父親を殺されて以来、いつか自分の手で犯人を検挙しようと犯人のいるNYへ渡り刑事になったという過去を持つ、肩書きだけならパーフェクトに近い男。しかしそこに暴走族上がりで合コン好きな工藤マルオ(水嶋ヒロ)や記憶喪失の謎の女・松永由岐(吉高由里子)がからむと、融通の利かない天然キャラが顔を出すらしいのだが…。

撮影／本多晃子　スタイリスト／三田真一　ヘアメイク／坂本敦子　文／鷲頭紀子

撮影場所に小栗旬が入って来た瞬間、部屋の空気が変わったのがわかった。短髪にスリーピースのスーツで颯爽と歩く姿は、思い描いていた高倉奏のイメージをはるかに超えていた。すでに気持ちは高倉奏にシフトしているのかピリッとした緊張感を漂わせていて、それがいつも以上に彼をシャープに見せている。素直にかっこいいなぁと思う。

大きな窓から差し込む黄昏時の淡い日差しが、タイルを敷き詰めた白い床にぼんやりとした模様を映し出す。小栗は革靴の音をカツカツと小気味よく響かせて、窓の近くに置いたテーブルの傍まで来ると、無駄のない動きで軽く腰を下ろし、窓の外の暮れかかる風景に目を移す。そんな何気ない動作が、ドラマのワンシーンみたいに決まっている。本当に、この人は所作が美しい。

時々、昭和の大スター、石原裕次郎がよぎる。リアルタイムで知っているのは、そっくりさんの姿とも混じる「ボス」だったりもするのだけれど、たまに回顧番組などで見る若かりしころの裕ちゃんは、これがスターなんだ！と言わんばかりのオーラを放射している。そして同じような眩しさを、小栗旬からも感じるのだ。品行方正な優等生タイプではないが人を憧れさせる優雅さや品があり、仲間思いで面倒見がよく、後輩からは慕われ、同年代には一目置かれ、先輩にはかわいがられる全方位型の愛されキャラ。何より、ただ立っているだけで目を惹きつけてしまう圧倒的な華がふたりには存在する。

その小栗旬が、いつの時代もスターを生んできた〝刑事〟を演じるのは、必然なのかも知れない。その上超エリートにして融通が利かず面倒くさいのに天然モノときたら、もうこれは平成の新しいヒーロー誕生といってもいいんじゃないかと思う。

ところで高倉奏は家族にめっぽう弱いという設定だが、取材のあったこの日、夕方には仕事が終わる小栗のそのあとの予定は、お母さんの誕生日を家族で祝う食事会だった。

――福田雄一さんの脚本で刑事モノだっていうのはいつごろ知ったんですか？

「詳しく聞いたのは3カ月前かな。月9をやらせて頂くっていう話は、もっと前から聞いていたんです。最初はそれこそ、〝どうせやるんなら月9らしいコテコテというか、王道をやりましょうよ〟なんてことも話していたんですけど、どんなものがいいのかっていうことを突き詰めていく中で、最終的にこの内容になったと聞いてますね」

――いわゆる王道じゃなくなったぶん、どうなるんだろうっていう期待もあるし、月9で刑事モノっていうのも新鮮ですよね。

「凄い面白いと思いますけど、形にするほうとしては難しい内容ですね」

――どういった部分が？

「〝シリアスコメディー〟っていうような言い方をしてるけど、最終的にどこに転がしていけばいいのかっていう〝落としどころ〟が難しいなって。福田さんの書かれる台本って、どちらかというと演劇的な要素があるので、そこがリアルにやろうとすると難しいところでもあるんですよ。どこかで思い切って飛び越えないと出来ない部分もあって。そのバランスがすっごい難しい。リアルにやったほうがいいのか、ちょっと拡大して表現したほうが面白いのか。コメディーだったらコメディーの部分だけで続けていけばいいと思うけど、多分それだけじゃ見てる人を引っ張っていけないと思うし。あとはもう監督が何を面白いと思うかですよね。僕らは僕らで色々やってみるし、その中で監督がどれを選ぶかっていう。いずれにしてもコメディーは難しいです。やらなさ過ぎてもダメだし、やり過ぎたらもう酷いものになっちゃうんで、そのさじ加減ですよね。この作品は全編通して小ネタがポンポン入ってくるんですけど、その辺もバランスが難しくて。それこそ一歩間違えたら、相当寒いことになっちゃうと思うので」

――かけ合いについては、やっぱり水嶋さんといいリズムをどれだけ作れるかっていうのも大きいと思うんですが、水嶋さんとのコンビネーションはどうですか？

「結構ふたりで色々試しながらやってますよ。ヒロとはクランクインの前にメシ食いに行ったんですけど、〝こんな感じでやっていこうよ〟なんて話をしながら盛り上がりました。ヒロは凄い一生懸命だし、一緒にやってて面白いんですよ。ただね、俺の場合はキャラクター的に別に面白いことをする訳じゃないんですよね」

――基本的には高倉奏は真面目にやってることが人とズレていて、そこが面白いってキャラクターですもんね。

「そうですね。全くもって狙いに行こうとは思ってなくて。だから、全部流れの中で言ったことだけ。それがちょっとズレているというか、でも全部真面目ゆえのことで、もちろん自分ではそういう自覚も全くないっていうところが…面白さにちゃんと繋がればいいんですけどね。ただ狙って言いたくはないんだけど、それぐらいで言わないと、どうにも自分が作ろうとしているキャラからは飛び出せないところがあって。でもそれをやっちゃった時に、高倉奏っていうキャラクターに矛盾が生じてきちゃうところもあって。そういう部分にどう向かうかが難しいですね」

――ところで、水嶋さんがインの前に小栗さんのこと、ちょっと怖いイメージがあるって言ってましたけど。『花ざかりの君たちへ～イケメン♂パラダイス～』の時は、そんなに交流なかったんでしたっけ？

「シーン的にそんなにからみがなかったのもそうだけど、もう『花ざかり～』の時はテンパッてましたからね、俺が。『お気に召すまま』で地方行ったりしながらドラマもやってたから、いっぱいいっぱいで。それで怖いイメージがあったのかな(笑)」

――ミーハーなことを言っちゃうと、単純に小栗旬と水嶋ヒロっていうふたりのツーショットはかっこいいだろうなって期待があって。

「あははは。俺はわかんないけど、ヒロはかっこいいですよ」

――でも決める部分は問題なさそうじゃないですか。スーツ姿も決まってるし。やっぱりスーツ着るとビシッとしない？

「まあ、そうですね」

――今、クランクインしてどれぐらい？

「今の段階で5日ぐらいかな。正直、自分自身ではなんとも言えないところがありますね」

――小栗さんが演じる高倉奏は、日本人なのにアメリカで軍隊に入って、ニューヨーク市警のエリートっていう。

「まあまあ特殊なキャラクターですよね」

――そのぶん、思い切りやっていいキャラクターでもあるのかなと。

「ただ、こういうキャラクターをやるならば、体作りも当たり前に必要だと思うし、銃を扱うことに対しても…そんなに簡単に出来ることではないんで、それなりの準備が必要だと思うんです。でも、どうしても時間がなくて、それを十分に出来ないまま撮影に入ってしまったんで、もうやるしかないんだけど…そんな自分が許せないって気持ちのほうが強いんですよ」

――プラスアクトミニ(vol.04)の撮影でグアムに行った時、射撃やっといて

よかったんじゃない？

「そう！　あれはね、すげー撃っといてよかったって思った（笑）」

——ねえ？　小栗君は射撃をやるのが嫌がってたけど、「そういう役が来るかもしれないからやっておいたほうがいい」ってみんなで無理矢理やらせたかいがあったなって。

「そう、あれは本当にやっておいてよかった。実弾を撃ってるか撃ってないかでは、全然違ってたと思う」

——感覚がわかると違うもの？

「いや～、とは言っても、あんな一瞬でわかってたまるかってことなんだと思うけどさ、実際にやってる人からしたら（笑）。要は、グアムの時なんかは止まった状態で決まった位置から狙って撃ってた訳じゃない？　でも、ドラマでは常に動きながらのガンアクションだから全然違うんですよ」

——ってことはかなりガンアクションがあるってことですね？

「かなりありますね。あと〝クラヴマガ〟っていう実践護身術があって、それを教えてもらってるんですよ」

——なんなんですか、それ？

「それはイスラエルの軍隊が始めた実戦主義の戦闘術で、今はアメリカの連邦政府機関とかほかの軍隊も使ってるらしいんですけど。全部人を一発で殺せる場所しか狙わないっていう、凄い戦闘術なんですよ。まあ、普段は護身術として教えるほうが多いみたいなんですけどね。で、今回僕のアクションは全部そのクラヴマガが作ってくれてるんです。本来は実戦のためのものだから、相手が武器を持ってたりとか、複数の相手の場合なんかも有効な動きなんで、そういう部分では今までにないアクションになってると思いますね」

——仕事を通してそういうのを学べるって、役者って凄いよね。そもそも、そんなのがあるなんて知ってた？

「クラヴマガっていうのは知らなかった」

——日本の人がやってるんですか？

「クラヴマガを教えるところは全世界にあって、日本にも協会みたいなのがあるんですよ。だから僕に教えてくれてるのは日本の方です」

——その人は軍隊出身者なんですか？

「いや、今僕に教えてくれている松元（國士）さんって方は、元々ブラジルでサッカーやってたらしいんだけど、途中でクラヴマガに出会って、それからずっとクラヴマガをやってるらしいですね。凄いっすよ。軍人さんがこういう時にはどう対処すべきかっていう、本当に実戦用だから。でね、そういうクラヴマガにしても、ガンアクションにしてもきちんと見せられることって今の日本じゃあんまりないじゃないですか。そういう意味でも指導してくれてるみなさんも凄い気合が入ってて。やっぱり自分がやってることに凄く思いがあるんですよ。そういうの俺も凄いわかるし。だからこそ、その思いを汲んであげたいって思うんだけど、結局それって俺がどれだけ出来るかにかかってる訳じゃないですか。歯がゆいですよね」

——準備が十分に出来なかったとして、その中で小栗さんは何を優先してやろうと？

「全部じゃないですか？　優先順位というのは正直ないです。ただでも高倉奏っていう人間は、本当に緊迫した場面を何度も経験して来てる訳だから、常に〝今一番何をすべきかわかってる〟っていうしっかりした行動理論みたいなものは持ってやってるっていうのがあるんですね。だから銃の持ち方にしても銃の置き方にしても、臨機応変に今一体何をすべきかっていうことを大事にしている感じが出せるといいなとは思っていて」

——そういうのは勘でやっているの？

「もちろん監督と相談しながら、ここで一体何が必要なのかってことを話しながらやってますね」

——アクション的にイメージとして思い浮かべているものとかある？

「俺は今ずっと『ボーン・アルティメイタム』のボーンシリーズばっかり観てますね。あのイメージが強いかも」

——私は小栗旬が刑事ドラマをやるのが嬉しいんだよね。今までやった連ドラの中では一番大人の役だし。

「そうですよね、一番大人ですね。久し振りに連ドラで学生を脱しました（笑）。うん、そういう意味では新しいっちゃ新しいし、楽しみかもしれない」

——刑事モノやるって聞いて、これをやりたいとか、これが楽しみとかってありました？

「うーん、あんまり刑事モノだからこれが楽しみとかっていうのはないんですよね。何がやれるとかじゃなくて、いつも結局何をやるかになってくるじゃないですか。今回で言えば奏は軍隊出身者だから、そのクラヴマガを取り入れて格闘シーンも今までにない凝ったものにしたいとか、ガンアクションもインパクトあるものにしたいとかっていう話はしてますけど。まあ、どうしても言い訳になっちゃうので申し訳ないんですけど、それだけのものをやるんであれば、ある程度の準備期間が欲しかったというのはあるんですよね。こういう刑事モノをやるんだけれど、福田さんのホンでコメディー色が強いって中で、でもかっこいいものにしたいとなると、アクションだったり銃の扱いだったり、そういうリアリティーが必要なところで嘘が生まれちゃうと、本当にただただ坂道を転げ落ちていくだけになっちゃうと思うんですよ。本当にそれは嫌だからちゃんとやりたいって話をして。今からでも出来ることをやっていかなきゃと思ってるんです。とりあえず奏は実戦が体に染みついていて無駄のない動きをする人だと思うので、機械的に動きたいっていうのはありますね。あと映像だからカットで上手く見せられる部分も多いので、そこはお任せして。でも俺が完璧に動けてもしワンカットとかで見せられることが出来れば、物凄い迫力のあるものが出来ると思うんですよね。カットでごまかすって手段を取るのか、出来ることが多い中で更にチャレンジするのかでは全然違うことだからさ。その差はめちゃくちゃ大きいと思うんですよ。それが俺は本当に悔しい！」

——出会ったところから小栗旬っていう人はそういう熱をずっと持ち続けてるし、今でも諦めてない訳ですよね。

「だって、諦めたらやる必要ないじゃん」

——その食いつきの凄さっていうのは、結局はいい作品が作りたい、いい芝居がしたいっていうことなんでしょう？

「っていうか、立ってる自分に最低限自信を持ちたいってだけなんですよね。立っている自分に自信が持てなかったら、悲しいし、悔しいし、恥ずかしいじゃないですか」

——ところで監督業は大変でした？

「楽しかったですよ。楽しかったけど、あれも時間がなさ過ぎましたね。7月10日インで7月7日までNHKの大河（『天地人』）撮ってたからね」

——でも作品への思いや理解ってことについては数年越しな訳でしょう？

「それはそうなんですけど、スタッフとのコミュニケーションをもっとちゃんと取りたかったっていうの今後の課題としてありましたね」

——監督をやって、役者としての価値観って変わりましたか？

「どうなんでしょう？　意外と変わらない気がしますけど」

——そういうものなんだ？

「時間が経ったら変わってくるのかも知れないけど…。それより俺の映画面白いですよ」

——言ってくれますね（笑）。

「すげえ面白い（笑）！　今、ここに入ってるんだけどね（とノートブックパソコンをテーブルの上で開こうとする）」

[illegible]

「全然いいよ。超自信あるもん（ニコニコ）」

——映画も楽しみですけど、最後に『東京DOGS』の見どころを教えて下さい。

「とにかく決めるところと緩む部分のバランスが上手くいくと、見てて凄いワクワクするドラマになると思いますね」

——小栗旬×水嶋ヒロ×吉高由里子って並びが意外とフレッシュだなと思って。

「意外と（笑）？」

——いや、それぞれが凄い勢いがある人達だから、いかにもメジャーな印象になるのかと思ったんですけど、３人の並びを想像してみたら、あら、新鮮だわと思って。

「確かに、そうかも知れないですね。あと刑事モノってことで言えば、僕とヒロのコンビって結構若い年なんだと思うんですよ。27歳と25歳のふたりがメインなんで、普通の刑事モノと比べちゃうとちょっと説得力がないと思うところもあると思うんですけど。そこを逆手に取って若いエネルギーで持っていければいいなと思うんですよね」

——アクションが出来るふたりだから、そういう面でも楽しみですね。

「うん、とりあえずマット・デイモン目指して頑張りますよ（笑）」 a

おぐり・しゅん

1982年東京都生まれ。『Summer Snow』『ごくせん（第一期）』などのドラマで注目され、『花より男子』の花沢類役で人気を不動のものにし、『貧乏男子 ボンビーメン』で連ドラ初主演。主演映画『クローズZERO』『クローズZERO Ⅱ』も大ヒットに導く。09年は舞台『ムサシ』の佐々木小次郎役に始まり、ドラマ『スマイル』では悪役に挑戦し強烈な印象を残し、NHK大河ドラマ『天地人』で石田三成を好演。主演映画『TAJOMARU』も好評を博した。



HIRO MIZUSHIMA







水嶋ヒロ

連続ドラマだけでいっても2009年は『メイちゃんの執事』『MR.BRAIN』という振り切れ方の凄い作品に出演。映画まで含めると『ドロップ』そして公開は来年だが『BECK』という多彩なジャンルで幅の広いキャラクターを演じ、そのどれもが視聴率や観客動員数、注目度の高い作品ということに驚かされる。そんな水嶋ヒロが次に選んだ工藤マルオという人物と、その役に臨む思いを2回のインタビューで紐解く！

撮影／Sai　スタイリスト／徳永貴士　ヘアメイク／亀田雅　文／鷲頭紀子

　これまでの作品を通して水嶋ヒロという俳優を見てきて思っていたのは、真面目な人なんだろうなということだ。与えられた役をどう演じることが役にとって作品にとってベストかを、常に考えながら演じているだろうことが、彼の演技から伝わってくる。

　水嶋ヒロというと〝イケメン〟〝帰国子女で英語も堪能〟〝サッカーもプロ級〟などスペック的な部分が（あまりにも高いがゆえに）取り上げられることが多いが、俳優としての生真面目さのほうが際立っていると個人的には思う。それらパーフェクトに近い外的要素を持ちながらも人を和ませる穏やかな人柄からは、真面目さにも通じる育ちのよさが滲み出ている。

　これまでにない〝月9〟（『東京DOGS』では〝月キュン〟と呼ぶそうだが）とのコンセプトで迷コンビぶりを見せてくれる相棒の小栗旬からも育ちのよさをいつも感じているのだが、最近の若手俳優はそういった（常識のある家庭できちんと育ち、普通のことをごく普通に受け止められる感性を持っているという意味での）育ちのよさがありながらも、俳優という仕事にアグレッシブに取り組む共通の〝熱さ〟みたいなものをすべからく持っている気がしてならない。

　番組宣伝の一環などでバラエティー番組に出ると、おっとりとしたマイペースぶりが目立つが、実は水嶋ヒロという俳優は誰にも負けない程の〝熱さ〟を持っている、かなり負けず嫌いな人ではないかと思う。（恐らく）等身大とはまるで反対の（時には全く現実感のない）役柄に次々と挑戦し、どれもハマり役に見せてしまえるなんて荒技は、どれだけポテンシャルの高い俳優だとしても努力なしでは成し得ないはずなのだ。

　『東京DOGS』で水嶋が演じる工藤マルオは、暴走族上がり、空手、柔道、テコンドーなどあらゆる格闘技の達人で、血の気は多いが人情深く、趣味は〝合コン〟という警視庁・特殊捜査課の刑事。『ドロップ』の達也、『MR.BRAIN』の林田などにもマルオの要素はあるかも知れないが、なにせ脚本はドラマ『33分探偵』や映画『大洗にも星は降るなり』の福田雄一と一筋縄ではいかないのは目に見えている。果たして水嶋ヒロはこのマルオという役をどんな風に咀嚼し、どんな風に演じていくのだろうか。

　クランクイン前と、クランクインして1カ月程経った段階での2回のインタビューを掲載する。現場に入る前、そして入ってからの心情や役に対する受け止め方などの変化を楽しみつつ、読んで頂けたらと思う。

【クランクイン前】

――〝月9〟初登場ということで、まずはその感想などを。

「ドラマの中でもみなさん一番気になるところというか。こういう世界のことを知らなくても、なんとなく〝月9〟という言葉は知ってるぐらい伝統のある枠なので、そこに自分がいい役で出られるというのは光栄ですね」

――新しい月9というのがコンセプトにあるようですが、それについて意気込みなどはありますか？

「新しくないというか、月9らしい月9を経験していればまだ何か言えると思うんですけど、僕にとっては何をやっても新しい月9になると思いますね」

――福田雄一さんの脚本はかけ合いなんかもかなり重要になってくると思うのですが、その辺のところはいかがですか？

「こればっかりはやってみないとわからないなっていうのが正直なところなんですけど。毎回ではないんですけど、『33分探偵』とかはたまに見させて頂いて、面白いなと思っていました。台本を読む限り面白くなりそうだなっていう期待感は凄いあります。ただわりとシュールな笑いとかがところどころ隠されてたりして、ちゃんと読み込まないとそこに気づけなかったりもしそうな、そういう緻密なところがありますね。僕の読解力では1回読んだぐらいじゃ気づけなかったりもしそうなので、しっかり台本を読み込みつつ、監督ともすり合わせて、しっかりそのエッセンスを摘み取っていけたらなと思っています。この作品に挑戦することで新しい自分を出せたら言うことはないんですけど、今回の僕のテーマとしては〝純粋に楽しむ〟というのがあるので、楽しんでやれたらいいですね」

――あらゆる格闘技の達人ということですけど、トレーニングとかはしているんですか？

「まだ始めてないんですけど、そこは頑張りたいところですね。暴走族上がりとか、格闘技の達人とかっていうところがすでに発表されているので、その辺はみなさんに期待して頂いてると思うので、ちゃんとしたいなと思っています。工藤マルオという役については、まず名前がカタカナなことで親近感が湧きました。マルオ…って名前、僕は凄く気に入ってるんですよ（笑）。どこかフワフワしているというか合コン好きみたいなチャラい部分と、仕事の上での熱い部分を行ったり来たりしてる感じが重要なんじゃないかなと思っていて。ただ芯のない男ではないと思うし、アクションも含めどこか優秀な部分があるっていうところもちゃんと表現出来ればいいなと思ってます」

――小栗さんとは『花ざかりの君たちへ～イケメン♂パラダイス～』以来の共演になると思いますが、何かお話しされたりしましたか？

「まず、出演することを知った時に第一に旬君にメールを送りました。〝よろしくお願いします。〟〝こちらこそ〟ってやり取りがあっただけで、それ以上は何も話してないんですけど。とりあえずインする前に一緒にメシでも行きましょうっていうのは、こっちから誘いました。『花ざかり～』の時はあんまりからむシーンがなかったので、今回がっつりかけ合い出来るのが個人的には楽しみなところですね。まだそんなに〝小栗旬〟っていう人を知っていないところもあるので、また共演だねというよりは、今回新たに共演させて頂くという感覚のほうが強いですね。それがだんだんとかけ合いを通じて近づけるような、脚本であり現場に期待しています。ドラマでバディっていう部分を前面に打ち出したものって個人的には『海猿』が印象的なんですけど、あの作品以来久しく見ていないなとも思うので、このタイミングでバディものをやらせて頂けるということで、面白いものを届けられるんじゃないかと思ってますね」

――男性ふたりに女性ひとりという関係の中で、恋愛的なエッセンスも描かれていくと聞いてるんですが、水嶋さんはどうなるだろうと予想されますか？

「あ、そうだったんですか？　でもまあ、そうですよね（笑）。そこが面白くなればいいと思うんですけど、僕は今小栗旬君のことで頭がいっぱいなので、早く旬君のことをわかりたいって気持ちが強くて…吉高（由里子）さんには失礼なんですけど（笑）。もちろん（松永）由岐は物語を爆発させるキーパーソンなんですけど、そのキッカケとなる出来事が起こった時に新鮮な反応をしたいので、逆に今はあまり考えな

——早く知りたいとのことですが、今の段階で小栗さんにはどんなイメージがあります？
「若干怖そうだなってところがありますね。もちろん『花ざかり～』で怖くない部分もいっぱい見てきてるんですけど。なんですかね、本当はどっちなんだろうっていうのが僕の中で凄く気になっちゃうんですよ。無理に仲良くする必要もないと思うんですけど、どういう人か知りたいっていう小栗旬君への興味が凄く僕の中であるので、とにかく知ることが一番大事なのかなと思ってます」

【クランクイン後】

クランクイン前は、どちらかというとおっとりとした恐らく普段に近い水嶋ヒロモードだったのではないかと思うが、撮影の合間に行なわれたこのインタビューで会った水嶋ヒロは、好奇心いっぱいでいたずらっぽい目をしたマルオを思わせる表情が印象的だった。

——クランクイン前には約束通り食事にも行かれたそうですが、小栗さんがどんな方かわかってきました？
「そうですね。あとはもっともっと仲良くなっていくだけかなと思います」
——怖いイメージもあると言ってましたよね。
「全然そういうことはなくて、自分から心を開けば開く程、心を開いてくれる人だなと思いますね。仕事に対しては熱い思いをしっかり持っているんですけど、凄くお茶目な部分もあるし、面白い魅力がたくさんある人だなと思います」
——マルオと（高倉）奏の関係もそうですけど、時間を積み重ねることで小栗さんとの関係も深くなっていきそうだなと？
「はい、そうですね。そうなっていけたら一番いいと思います」
——この作品はかけ合いが肝だと思りやすくなるものなんでしょうか？
「ただまあ仲良くなり過ぎることで、せっかくの奏とマルオの相反する魅力だったり、そこから生まれる面白さという部分によくない影響を与えてしまうとしたら、それはどうなんだろうと思うので、その辺のバランスが非常に難しいんですけどね」
——クランクイン前にイメージしていた人物像があると思うんですけど。実際に現場でお芝居をしてみて、自分で考えていたマルオとのギャップみたいなものは感じることってありましたか？
「血の気が多いとか暴走族上がりっていうことから色々イメージしていたことはあるんですけど、実際は無邪気なところがあったりして、凄く純粋というか、きっと嘘つけないタイプなんだろうなっていうのがわかってきて。うん、凄く魅力的なキャラクターだなと思えるようになってきましたね」
——そういうのは現場でマルオという人物を演じている上で感じることなんですか？
「そうですね。やっぱり現場で動いてみて初めてわかることが結構ありましたね。監督とも〝マルオはずっとテンション上がったままがいいですね〟なんてことを話したり。そうやって足し算引き算で固まった時に、あ、マルオって普通にちょっと面倒くさいところもあるヤツだけど、ただ、嘘つかないところで信用出来るのかなって思えて」
——まだ手探りの部分もあると思うんですが、かけ合いのリズムだったり、それぞれのキャラクターっていうものを固めていくのは、現場で色々試した上で決まっていくのか、ある程度決めた上で固めていく感じなのか、どちらが近いですか？
「現場としては後者ですね。もう本番の時にはかなりいい感じのリズムになっていると思うので、多分そうだと思い
——マルオがかなり物語のリズムやテンションを引っ張っていく感じになると思うのですが、心がけていることなどはありますか？
「正直、こういうコメディーってやり過ぎてもよくないのかなと思うところがあったりしたんですよ。やっぱりコントではなくて、あくまでもお芝居なので。だけど、じゃあマルオのキャラクターがやり過ぎないとどうなるのかなって考えると、なんかつまらないと思って。だったら、そういうことをあんまり気にしないで、とことん突き抜けちゃえばいいかなと今は思うようになりましたね。キャラクター的にそんなにテンションが高くない人が多いので（笑）、だったらもうマルオがとことん突き破るしかないなって。それだけを考えてやればいいやって思ってますね」
——突き破るっていいですね～。そういう時って、映画とか具体的なキャラクターとかをイメージしたりするんですか？
「なんなんですかね、感覚的にやってる部分が多いので、そんなに何かをイメージしてあれっぽいかなっていうのはないんですよね。ただ、監督からの要望で、身振り手振りを多くしてほしいっていうことを言われているんですけど、確かにそれがテンションを上げる作用になるのかなとは思っていて。幸い僕、英語を喋る時って必ず身振り手振りが出ちゃうので、その感覚をちょっと自分の中から引っ張り出して…っていうのがあるかもわからないですね」
——今日はなんとなく活発というか溌剌としているように感じられて、マルオモードなのかなと勝手に思っているんですけど。演じながらご自分で、これってマルオっぽいなんて思うことってありますか？　そう思う時点でかなり客観的に見ている感じもしますが。
てそれでいいところをつまんで、なるべく本番でいいところだらけのマルオにしたいというのが、僕の持っていき方なんですけど。マルオはかなり喋り方にも抑揚のある人で、その抑揚がチャラさだったり、この少し変わった人物像を表現する上でのプラスになればなと思っているんですね。僕自身はそんなに抑揚があるタイプではないんですけど、掛け合いの中でちょっとずつ自然と抑揚が出せるようになってきた時に、〝これって、（マルオ）ぽいな〟ってなんとなく思いましたね」
——今ちょうどクランクインして10日ぐらいだと思うんですけど、なんとなくマルオのリズムはつかめて来た感じですかね。
「そうですね、つかめて来てると思ってます」
——マルオと奏のバディぶりも見どころになってくると思いますが、水嶋さん自身この人信用出来るなって思えるポイントみたいなものってどんなところで感じますか？
「しっかり自分を持っていることっていうのは信頼に繋がるなと思っていて。あとやっぱり、あんまり周りの人に流されてない人は信頼出来る人が多いかなと思いますね」
——そういう部分が垣間見れた時に、相手にグッと近づく感じ？
「そうですね、その人のことをもっと知りたくなりますね」
——ドラマでの相棒の小栗さんのことも？
「知りたいと思っていたんですけど、今はわりと知ることが出来て、いい関係が作れてるかなと思いますね」
——水嶋さんはコメディー的なお芝居ってお好きですか？
「いや、得意分野ではないですね。本当にカチカチのコントみたいなものだったら、何回か重ねてやってみれば出来るくて、この『東京DOGS』のコメディーってシュールっぽいものも要求されたりとか、間ひとつで凄く変わって来てしまう繊細なものなんですね。どこに正解があるかっていうのを誰もわからないままやっているところがあって。こういった作品に、しかも月9という枠で挑戦するっていうことで、監督にしても今はまだ探りながらというところがあると思うんです。だから1話のオンエアを見てみないとわからないんですけど、正直自分は真面目なほうが得意だと思うんですよね。普段そんなに弾けたりするほうではないですし」
——勝手なイメージですけど、普段の水嶋さんはどちらかというと奏っぽいですもんね。
「そうです、そうです（笑）」
——でも、だからこそ水嶋さんの中にはないマルオっていうキャラクターが楽しみです。最後に見どころを教えて下さい。
「シリアスコメディーってうたっているんですけど、シリアスな部分…アクションだったり刑事的な動きをする時はかっこいい僕らが見られると思うし、コメディーの部分では〝あ、こいつら人間っぽいな〟と思ってもらえるんじゃないかと。そこにハマってもらえたら、どんどん引き込まれていくはずなので楽しみにして下さい」a

みずしま・ひろ

1984年4月13日、東京都出身。ドラマ「ごくせん」で俳優デビュー。07年「花ざかりの君たちへ～イケメン♂パラダイス～」、08年「絶対彼氏～完全無欠の恋人ロボット～」で注目を集め、「Room of King」で連ドラ初主演を飾る。09年「メイちゃんの執事」「MR.BRAIN」と出演ドラマが軒並み高い人気を得る。映画でも06年「ラブ★コン」初出演以来「GSワンダーランド」など話題作に出演、09年「ドロップ」が大ヒット。主演を務める「BECK」が2010年公開待機中。
2010年カレンダー受付中。
http://www.ken-on.co.jp

衣裳協力:ジャケット¥29,400（アトウ 03-5474-1748）


YURIKO YOSHITAKA







吉高由里子

デビュー作となった映画『紀子の食卓』でいきなり第28回ヨコハマ映画祭最優秀新人賞を獲得。初主演映画『蛇にピアス』での体当たりの演技が注目を集め、映画女優として確固たる評価を得た。一方で月9ドラマ『太陽と海の教室』を始め『ラブシャッフル』『白い春』と話題のドラマで不思議な吸引力を発揮。そしていよいよ『東京DOGS』で月9初ヒロインを飾る。

撮影/宅間國博　スタイリスト/福田春美　ヘアメイク/加藤恵　文/鷲頭紀子

06年のデビューからこれだけの短期間で大役を射止めるぐらいだからノリにノッているはずなのだが、本人はなぜか「私みたいなのが月9ヒロインでいいんですかね。なんだか、すいません…」と小さくなっている。そんな姿がとっても愛おしいといったら、本人に怒られるだろうか。

吉高由里子は稀有な存在感の女優だ。園子温、三木聡、蜷川幸雄ら強烈な個性のある監督から選ばれ、小日向文世、温水洋一、阿部寛といった演技力に定評のある俳優と共演しても相手を食う程の存在感を見せてきた。その実力は疑う余地もないのだが、ではどんな女優かと聞かれると答えに困ってしまう。ほかに置き換えられない個性が確かにあるのに、その実体はつかみどころがない。だからいつまで経っても気になる存在で、画面に吉高が映っていると、芝居の中心にいなくても目で追ってしまうのだ。人の視線を吸い寄せる磁力のようなものが働いているかのように。

そんな吉高由里子が事件の鍵を握る記憶喪失の〝謎の女〟松永由岐を演じるのだから、謎の真相を含め、「由岐って何者!?」という興味は大きくかきたてられるだろう。だから「私なんかがヒロインでいいですかね」という疑問の答えは明快だ。〝謎の女〟は吉高由里子でなくてはダメなんです!

──クランクインして半月程経ちますが、『東京DOGS』の現場はいかが

「楽しい…んでやってますね」

──あれ、ちょっと言いよどんだ気がしましたけど?

「あ、いえ。男の子ばっかりで女の子がいないので、楽しいっていうか、楽しそうだなぁ…みたいな」

──楽しそうなのを見てるって感じなんだ?

「そう、凄い楽しそうなんですよ」

──小栗(旬)さんと水嶋(ヒロ)さんのふたりが?

「あと勝地(涼)さんの男3人ですね。小栗さんと勝地さんって、かなり昔から知っているみたいで凄く仲がいいんですよ。水嶋君も『花ざかりの君たちへ～イケメン♂パラダイス～』で共演したことがあるから仲いいし。そういうのを見つつ、私はたま～に仲間に入るみたいな感じで」

──作品中は水嶋さん演じるマルオにセクハラめいたことをされたりするけど、現場ではそういうことはないんですか?

「もう存在自体がセクハラですからね」

──えぇっ、誰が?

「なんて、セクハラされるならまだ女の人扱いだからいいかも知れないですけど、ふたりの私の扱いが本当に雑なんですよ。臼田(あさ美)さんにはみんな優しいのに、ちょっと扱い違い過ぎじゃなぁい? って言ってるんですけど全然聞いてもらえない(笑)」

──最初に由岐の設定を聞いた時、ヒロインなのかなと思ってたんですけど、脚本読むとちょっと違う感じですよね。

「そうですね。明るい感じです」

──あのセリフをどんなテンションで言ってるのか気になるんですけど。

「私、ホン読むと暗くなりがちなので、そうならないように、ちょっと明るくやろうと思ってるんです。やっぱりテンポがよくないとコメディーにならないんで、テンポは凄い気を使ってやっている部分ですね」

──由岐は事件現場にいたことから何かしら重大な鍵を握っているはずだと思われているけど、記憶を失っているからそれが何かわからないっていう。

「この子が実際何を握っているのか私も知らないんですよ。でも、由岐自身わかっていないから、それでいいのかなって」

──吉高さん自身、敵なのか味方なのかってところも知らないんですか?

「そうですね。まぁ、完全に敵だと思うんですけど」

──それはなんで(笑)?

「いやぁ、多分あの3人で丸く収まるっていうことはまずないと思うんですよ。今はまだお互い反発したりしてるけど、段々と色んな面が見えて仲良くなっていくと思うんです。そうやって距離が縮まってきたと思ったら、今度は真相というか真実がわかってきて、(両腕を揃えて突き出すポーズで)カシャッて。わからないですけど(笑)」

の?

「ふふふ。だって、そのほうがドラマとしては感動的というか盛り上がると思うんですよ。せっかく仲良くなったのに、記憶が戻ったら敵だったっていうほうが」

──吉高さんはそんな風に予想していると。ところで記憶喪失って今までの記憶がない訳じゃないですか。それまでの自分のバックボーンがない状態っていうのは、凄く孤独なんじゃないかなと思ったんですけど。

「う～ん、そういうことはあまり考えなかったですね。失うものが何もないから、逆に一つひとつの物事に凄く感動を覚えるんじゃないかなって、私は思ったんですけど」

──あぁ、そういう考えもありますね。

「とりあえず由岐の場合は、あんまり孤独とか絶望とかってネガティブな感じはない気がするんです。彼女自身、今の状況が理解出来ていないし、飲み込めていないっていうのが感情的には一番大きいと思うし」

──吉高さん自身はわからないまま演じることに不安はないんですか?

「気持ち悪い感じもするけど、これもドラマというものの柔軟性なのかなって。ここが決まっていなくて、こうしたほうがいいあぁしたほうがいいって言って変形しながら作っていくことは楽しいことでもあるんじゃないかって思います。それに知らないでやっているほう

ると思うんですよ」

──まさに役の由岐と一緒に真実を知ることが出来る訳ですもんね。ほかの出演者の方もこれからどうなるか知らないですか?

「そうなんです。だからあぁじゃないか、こうじゃないかってよく話してますね」

──記憶喪失という以外で、由岐のベースにあるキャラクターは、どんな風だと捉えて演じてるんですか?

「記憶喪失っていう状態とも前向きに戦っているし、基本はポジティブな子なんだろうなって思います。だけど、わがままな子でもあると思う」

──どうして?

「あぁしたい、こうしたいって意思を凄い持っているし、言うから」

──2話で弁護士の息子を自分が守ろうとしたりして、意思が出てきましたよね。それはわがままというか、責任を持って何かしたいんだなぁって思ったんですけれど。

「自分も役割が欲しいんでしょうね。人って手持ち無沙汰が嫌なんだと思うんですよ。何かしていたほうが落ち着くんだと思う」

──「役割が欲しいんでしょうね」とか「手持ち無沙汰が嫌なんだと思う」とかって、なんか凄く由岐を理解して話してる気がしたんですけど、台本を読んだ時からそういうことは考えてたりするんですか?

「絵で説明されていたらまた違ってた

ら考えちゃうのかもしれないです。やっぱり文字を見てすぐに外見は作れないじゃないですか。だから、こうかな、こういこうかなって感じで積み上げていく感じになるんじゃないかな。これが紙芝居みたいに、〝はい〟って絵の形で(台本を)渡されてたらまた違うと思うんですけど。だからマンガ原作の作品をやりますってなったら、マンガで描かれた〝見た目〟に影響されるかもしれないですね」

——その紙芝居的なものを台本読みつつ頭の中に作り出していく感じ?

「そうですね。あとは衣裳を用意してもらったり、ヘアメイクをやってもらったりして、それで作っていける部分は大きいですね。自分じゃしない服装とかメイクとかだとなおさらイメージがはっきりするというか」

——由岐ちゃんについて「明るい」とか「ポジティブ」って言葉が出てきたけど、そういうキャラクターのキーワードとかって、演じながら頭をよぎったりするんですか?

「基本そこから始まるものだから、よぎるんじゃなくて、そこが中心になるんです。逆に私がよぎるというか、自分がこうキャラクターの周りを回ってるんだと思う。でも、声とか喋り方とかは基本的に私自身で変わらないから、難しいですよね。言いにくい言葉とかって絶対あるし。もし医者の役が来たとしたら〝しゅじゅちゅ(手術)〟とか言っちゃいそう(笑)」

——例えば人を好きと思ったり苦手と思うように、役に対しても生理的なところで好きとかちょっと苦手かも、みたいに思うことってあるんですか?

「そういう感じはあるかも。由岐に関しては、自分からかけ離れてる性格でもないから苦手意識みたいな感じはないですね。あと今回でいえば、キャラクターもだけど、特にかけ合いのテンポ

——さっきも言ってましたもんね。そう意味でかけ合いの相手になる小栗さんや水嶋さんの存在は大きいと思うんですけど、おふたりとのお芝居ってどうですか?

「小栗さんは凄くお芝居に関して真剣でストイックな方だし、水嶋さんとは今回初めてお芝居するんですけど凄く頭のいい方だと思うので、足を引っ張らないようにしたいっていうのはやる前から思っていて。実際、ふたりとも色々考えてきているみたいだし、その場で工夫してみたりとかっていうのも多くて。奏とマルオと由岐の3人のかけ合いも、1回のテストで凄く変わる時があるんですよ。そのぶん、やってて楽しいですね。とにかく奏とマルオのかけ合いが凄く面白いんですよ! マルオっていう役を水嶋君が頑張って振り切ってやっているし、奏も小栗さんも面白いこと好きだから何かしらあるというか。私もそこに乗っかりたいんですけどね、由岐って子はそんなにいかないだろうみたいな感じもあって、抑えてる部分が多いんですけど。ふたりがそうやってると、いいなって思ったりしますね。なんか、小栗さんがやると、奏君っていう役が凄く愛らしく見えるんですよ。ホンを読んで思っていたより、現場で見てて〝高倉奏ってかわいいな〟って思うようになって来ました」

——出ている吉高さんが面白いと思うぐらいだから、期待大ですね。

「思う、思う! スタッフのイヤホンから、映像をチェックしてる人達の爆笑してる声が漏れてきて困るんですよ。こっちは一生懸命我慢しているのに、つられて笑いそうになっちゃうから(笑)。うん、でも、和気あいあいってこういうのをいうんだなぁって思いますね。だから現場の雰囲気は最高にいいですよ。まあまだ、みんな体力的にそこまで使ってないからかも知れないですけど。これから雨だの寒いだの進ま

もわからないですけど(笑)、とりあえず今は大丈夫!」

——あとは、由岐がどういう鍵を握っているのかですよね。

「そう、まだわかんないですからねぇ。今は明確な役割というか、過去も何もないですからこういう人っていうのもほとんど見えてきてないし」

——きっと凄い秘密が隠されてるんでしょうね。

「実は男だったとか、由岐が組織のボスだとかあるかも(笑)」

——まさか! と言いたいところですが、福田さんだったら絶対にないとは言えないかも(笑)。福田雄一さんの書くものはコメディーでもいわゆる大爆笑というよりはクスッみたいな笑いが多いですよね。

「でも、多分これを書くのに相当時間かかってるんだろうなって、ホンを読んでると思うんですよ。この内容をあぶり出すじゃないですけど、作り出すのに、何度も書き直してるんだろうなって。練っている感じがするんです。それを福田さんに直接聞いたら〝ここね、本当はそっちにしようかこっちにしようか迷ってたんだよね〟って言っていて、やっぱりねと思いました。コメディーだけじゃなくシリアスな部分もあるドラマだから、凄く考えて作っているみたい」

——そんな感じで多分脚本を書く作業は大変なんでしょうけど、福田さんっていつも元気ですよね。

「そう、元気なのよ! 水弾くよ、絶対あの人(笑)」

——その福田脚本を監督はどんな感じで演出されているんですか?

「とりあえず、まぁ1回やりますよね。そうしたら、ここはもっとこういう風な動きをしたほうが面白いんじゃないかとかって、作っていく感じですかね。〝ここはもうちょっと食い気味に〟とか結構細かい指示もあったりして。まぁ、

り込んではいないから、そこからまた形を変えたりっていうことも柔軟に出来るんだと思うんですけど。テストで探って、しっくりきたのをポンポンくっつけて本番、みたいな感じかなぁ」

——回を追うごとに進化していくであろう3人のかけ合いが楽しみだなぁ。

「本当にそうですよね。どうなっていくかっていうのは、私達もやっててわからないんですよ。やればやる程テンポもよくなってしっくりハマッてくるかもしれないけど、それはそれで新鮮さがなくなってしまうんじゃないかって心配もあったり。やっぱりコメディーって新鮮さがないと面白くないと思うし、やればやる程息は合ってくるんですけど、正直それが正解なのかわかんなくなってきてる部分もあって。いいのかな、面白くなってるかなって。だから、凄い怖くもあるんです。〝月9〟っていう枠なのに、アドリブとかも凄い好き勝手やっているし」

——へえ、そうなんだ(笑)。

「脚本も小ネタ小ネタって感じじゃないですか。〝月9〟っていう枠でこういうことをやって、どういう反応が返ってくるのかなっていうのが楽しみでもあり、怖くもありますね。やっぱり月9ってまっとうで真面目なラブストーリーだったり、キラキラしてます~、華やかです~ってイメージじゃないですか?」

——そういうイメージありますよね。でも今回は〝今までにない月9〟っていうのがひとつのコンセプトだから、思い切り突き抜けちゃっていいんじゃないのかなぁ。吉高さんが今までの月9と違うぞと感じるのは特にどういう部分ですか?

「アクションの迫力とかは凄いあるんですけど、そうだなぁ、こうやって(姿勢を正して)見ようと思って見るんじゃなくて、なんとなく見てたら思わず引き込まれていたって感じなのかなって。

ラしてないと思うんです(笑) そう! 私あんまり普段ドラマってものを見てなかったので、自分が月9をやるって聞いて、『ブザー・ビート~崖っぷちのヒーロー~』を見たんですよ」

——どうでした?

「もうキラキラしてて眩しかった! そのあとにクスッみたいなこういうのが来るのも面白いなって。でもキラキラ眩しくないぶん、わりと目には優しいかもしれない」

——(笑)。ところで、この号が出るころにはオンエアは終わっちゃってますけど、もうすぐ1話冒頭のニューヨークロケですね。

「明後日なのに、何も準備していない……。まあ、着替えと防寒着だけ持っていけばなんとかなるんじゃないかと思ってるんですけど。予定通りのスケジュールだと、私はちょっと向こうで時間あるみたいなんで、ニューヨークを楽しみたいですね」

——私は、なんだ?

「そう、みなの衆には働いて頂いて。私だけ遊ばせてもらおうかなと(笑)」

——何キャラなんですか(笑)!? まあ確かに由岐っていうのはミステリアスな謎の女性ですけど。

「うふふ。それではみなさん、月曜9時に会いましょう(謎の微笑)」 a

よしたか・ゆりこ

1988年、東京都生まれ。06年に園子温監督の『紀子の食卓』で映画デビュー。同作で第28回ヨコハマ映画祭最優秀新人賞受賞。ほかにも『転々』(07年)『蛇にピアス』(08年)『重力ピエロ』(09年)などでその存在感を示した。ドラマでは『太陽と海の教室』『トンスラ』(ともに08年)『ラブシャッフル』『白い春』(ともに09年)などに出演。今最も勢いのある若手女優として注目されている。現在、映画『カイジ-人生逆転ゲーム-』が公開中のほか、DVD『恋時雨vol.1,2』が11月20日に発売される。

衣裳協力:ニットワンピース¥15,750、チェック柄ストール¥9,975、タイツ¥3,780、シューズ¥29,400(すべてFRAPBOIS/03-5449-1784)

とことん楽しめ!
新しい月9の形を示してくれた『東京DOGS』の世界

キュンキュンするような恋愛模様。キラキラ光る青春群像劇。涙が止まらない感動物語。そんな月9のイメージを一気に変える作品が、この『東京DOGS』だ!
個性溢れる役者陣に、福田雄一のスパイスを効かせた脚本が、見るものを刺激する。

取材協力/フジテレビ

登場人物

ひと癖もふた癖も持った登場人物達。そんな彼らがどうからみ、どんな化学反応を起こすのだろうか…。



高倉奏（小栗旬）NY警察・エリート刑事



工藤マルオ（水嶋ヒロ）警視庁特殊捜査課



松永由岐（吉高由里子）記憶喪失中の謎の女



堀川経一（勝地涼）マルオの後輩刑事



西岡ゆり（ともさかりえ）関東医科大学病院女医



高倉京子（田中好子）マイペースな奏の母親



舞島ミサ（大塚寧々）特殊捜査課係長



大友幸三（三浦友和）特殊捜査課ボス

ストーリー

『東京DOGS』

脚本／福田雄一　演出／成田岳　プロデューサー／鹿内植　毎週月曜夜9時〜フジテレビにて放送中

父親を殺した犯人が関係する麻薬組織を追っていた高倉奏。NYでの大がかりな捜査がきっかけで警視庁の工藤マルオと出会い、その捜査中に敵側から記憶喪失の女・松永由岐を発見する。日本に戻ってきた3人は、麻薬組織の全貌を明らかにするために捜査を開始するのだが、バディを組まされた奏とマルオはケンカばかりを繰り返す…。



奏・マルオ・由岐のプロファイリングデータ

エリートで真面目だがどこかぬけてる奏と、超ナンパで血の気の多いマルオ。
このふたりにからむ、謎の女・由岐。彼らの素性をこれまでの話の中から探ってみよう。

奏

アメリカ帰りの奏。果たしてアメリカ時代に何があったのか?
そして、その真面目過ぎる性格の裏に隠されているものとは…。



事件解決が最優先

由岐を事件解決の道具と見ているため、医者相手にもストイックな態度を取る。何よりも事件を解決することを最優先としている。



銃を常に所持

アメリカで刑事をしていた経験からか、常に銃を所持している。更には、殺しはしないものの、すぐに銃を撃ってしまう。



軍隊仕込の技

敵を捕まえるためにあらゆる手段を講じる。軍隊仕込というだけあって、普通の警察では決して思いつかない方法を用いる。



上から目線

経験や実績がそうさせるのか、色々な人に対して上から目線で命令することが多い。そんな奏をマルオは気に入らないでいる。

マルオ

奏とバディを組むマルオだが、その性格は全く正反対!?
単純でわかりやすく憎めない性格のマルオを解き明かす。



なごませ役

由岐やゆりに対して奏がストイックな態度を取りその場の雰囲気が悪くなると、すかさずその場の雰囲気をよくしようと努める。



元暴走族総長

元総長という立場を利用して、後輩を足に使ったり、合コンを企画させたりする。それでも後輩達には好かれているようだ。



熱血漢

血の気が多く、すぐに熱くなってしまう。それが事件解決に繋がることもあれば、自分が怪我をしてしまうこともある。



女性大好き

綺麗な女性を見るとすぐ口説こうとする。もちろん合コンも大好きで、いつも以上にテンションが上がり、はしゃいでしまう。

由岐

記憶喪失のため、とにかく謎だらけ。
言動一つひとつをしっかり観察し、由岐に隠された重要な情報を読み取れ。



卓球経験者?

外出を禁止された由岐は、卓球の壁打ちを延々5時間も繰り返していた。事件との関係性はわからないが、卓球経験はあるらしい。



由岐なりの努力

記憶を呼び覚まそうと、ひとつの言葉を書いては連想される言葉を書き続けた。そのとてつもない量に、努力の跡が見られる。



ひとりババ抜き

どうやらババ抜きのルールは覚えていたようだが、トランプは嫌いらしい。しかし、このトランプがひとつの事件を解決に導く。

脚本:福田雄一

脚本家としてドラマ『33分探偵』、DVD『THE3名様』など、奇想天外なストーリーと、愛すべきキャラクター達が織りなす物語で多くのファンを獲得している福田雄一。ただ正直、月9と福田雄一の名前は結びつかなかった。だからこそどんな新しい月9の可能性を見せてくれるのか、ホントに楽しみでしょうがない!

文／服部保

の夏のシリーズが終わった打ち上げの時でした。フジテレビの大多亮さんに「本当に『33分探偵』が大好きだし、このクールのドラマの中で一番クオリティーが高いと思ってる。別の枠でも書いてよ、月9とか」って言われたんですよ。僕もその時は大爆笑しながら「何言ってるんですか～」って聞いてたんですけど、ちょっと経ったあとに今回のプロデューサーの鹿内(植)さんから月9の話が出ていると聞いて。でもその時も冗談っぽい口調で言ってる訳ですよ。そんな感じのやり取りが続いてて、今でも覚えてる『帰ってこさせられた33分探偵』のクランクアップ前日に正式に依頼を受けまして。ずっと「月9で福田はないよ」って自分でも言ってきたし、基本的に僕は〝NO LOVE〟な人間なので鹿内さんも言いづらかったんでしょうね。昔からの仲なのに、僕のほうを見ずにずっとラーメンに向かって話してましたから(笑)。でも鹿内さんの単独初プロデュース作品になるって聞いてたんで、かっこつけた言い方ではあるんですけど、鹿内さんのために頑張ろうって思いました。

別に月9だから絶対にLOVEで挑戦しなきゃいけないと思っていなかったし、苦手分野に堂々と入り込みたくないなっていうのが正直なところだったんですよ。僕の唯一得意で誇れる男同士の会話を活かしてその分野に引っ張っていきつつ、みなさんに助けて頂きLOVEを入れていったほうが面白いもんが上がるだろうと。そう考えていって、男ふたりが刑事でバディモノ。そこに僕の大好きな気の強い女性を入れて…と話をしていくうちにこういう形になったんです。最初は「仮面ライダーやりたい!」とか「戦隊モノでもいいよ」って鹿内さんに言ってたんですけど、「別のところで機会があったら」ってかる～くいなされて(笑)。あと僕からは、演出を成田(岳)さんにしてほしいとお願いしました。僕の本って特殊らしいんですけど、成田さんだったら『33分探偵』でもご一緒してるし、安心して任せられるんですよね。

月9ということで、鹿内さんと成田さんと〝子供が見て変な影響を受ける犯罪描写だけはやめよう〟と最初に決めました。僕も子供がいるので、やっぱり惨殺シーンとかは見せたくないんですよ。みんなに気持ちよく見てもらって、〝僕刑事になりたい!〟って子供が思ってくれるような作品を作りたいですね。

実は、鹿内さんと成田さんと3人で最初に企画を考えていた時は潜入捜査官の話だったんです。『マイアミ・バイス』みたいな何か事件が起きるところに潜入していって、ふたりで解決していく…って考えてたんですけど、ちょっとそれだとコント色が強くなるなとか色々考えてバディモノになりました。それで最初が潜入捜査モノだったので、『DOGS』だったんです。僕が第1

てつけてて。それを見た鹿内さんが「前に何かないと寂しいですね」と言われて『東京』をつけたらそのまま採用されました(笑)。ちなみに警察への協力者やスパイという意味で『DOG』という言葉を使うんですが、ほかにもスラング的には『ダメなヤツら』という意味もあって。それで東京のダメなヤツらという意味も込めて、このタイトルに決まったんです。

しかし主演のふたりははまってますね～。小栗(旬)さん演じるアメリカ帰りのエリート刑事・高倉奏は実はモデルがいて。浦沢直樹さんの『MASTERキートン』という作品があるんですけど、その作品のキートンがパッと頭に浮かんだんです。キートンは嫁に逃げられたり父親に頭があがらなかったりどうしようもないところがあるんですけど、昔SAS(イギリス陸軍の特殊部隊)にいて教官もやってたスーパーマンでもあるんです。こういうキャラクターが小栗君にはまるだろうなぁと思ってたら、見事にはまってくれて。かっこいいですよ、ホントに。ファンになっちゃいましたから。

実は本読みの日に僕が湾岸スタジオの食堂にいたら小栗君が来てくれて、高倉奏について聞かれたんです。その時に「高倉奏は他人によって崩されることはあっても、自分で崩すことは絶対にない人」ということを言いました。高倉奏みたいに、仕事中も仕事を離れた普段の時も全然変わらないヤツって見たことがなくて。普通はキャラクターの中で波があるんですけど、奏はずっと浮き沈みがなくて横ばい。仕事の時はそれでかっこいいんですけど、仕事以外の時も同じ位置にいるから、そのズレが面白いんですよ。ひとりだけずっとハードボイルドのまま。〝なんでそんなことをシリアスな顔で言うの?〟っていうキャラクター。でもホントに難しい役だろうなって思います。ただ現場に行って演じている姿を見たら、一気に安心しました。小栗君に奏役をお願いしてよかったなって思いましたね。凄いクールに演じてくれてるので、なんでそんなクールな顔してこんなこと言うのって(笑)。たまに真顔でジョークも言うけど、それも恐ろしくつまらない。本人は感情を出せないので、物凄くストレスが溜まってると思いますが、そこはマルオとのからみで発散して頂ければと思います(笑)。

水嶋さんが演じる(工藤)マルオは、所謂軟派なヤツなんですけど、かっこいいのは当然のことながらちゃんと愛せるキャラクターになっています。スタッフの女性の中でどっち派かっていう話になるみたいなんですよ。私は奏派、私はマルオ派って。そういう会話になるのも素晴らしいし、結構半々に分かれるらしく、いい傾向だなと思いますね。ちなみに水嶋さんご自身はすっごい真面目ですね。ビックリしましたよ! こっちの

な目で見てきますから。でもマルオを演じている水嶋さんもホントにかっこいいです。奏とマルオが一緒のシーンを見に行った時、ちょっと僕もダイエットしようかなと思いましたから(笑)。

また成田さんもかっこいい演出が大好きなんですよ。元々アメリカにいた人で、向こうの刑事モノのかっこいいシーンをいっぱい見てきてるから、うざいぐらいかっこいいシーンが撮れてて(笑)。僕は脚本だけしか参加してない作品は、現場にあんまり行かないんですけど、かっこいい高倉奏を見たくてちょいちょい行っちゃってますね。

基本的には、このドラマだけのアイデンティティーとして、とにかくふたりの仲が悪いっていうのを僕は面白がっていて。バディモノってとにかくふたりで行動をともにして、凄くコンビとして成立してるじゃないですか。古くは『あぶない刑事』もそうですし、『相棒』もふたりで行動してちゃんと意見を交換してるじゃないですか。その意思の疎通が全く合っていないってところが僕の中で一番面白がっているところなんですよ。とにかく気が合わないふたり。僕ケンカのシーンを書くのが好きなんですよ。口ゲンカのシーン。だから奏とマルオは延々とケンカをするんですけど、全体的に言えるのは、そこら中でケンカするけどお互いがお互いを凄く認め合っていて、いざ現場に入ると息がピッタリ合うっていう見せ方はしていきたいなと思っているんです。だから犯人を目の前にした時は、全くふたりが言葉をかわさずに別々の動きをするんだけど、いいフォーメーションを組んで犯人を逮捕する。そこは上手く見せていきたいなって。気の合わないふたりがどう折れ合っていくのか。あとは、やっぱり女性がひとりいるので、由岐をめぐっての奏とマルオの感情がどうなるのか。そこも楽しんで見てくれたら嬉しいですね。由岐の記憶が戻ってくると、このふたりの関係が複雑なことになってくるので。ちょっと一筋縄じゃいかないLOVEなんです。

最終回って多分クリスマスあたりですよね? もし最終回で高倉奏が〝アメリカに帰る〟っていうシーンを思い浮かべるだけで涙が出るんですよね(笑)。〝あぁ～帰っちゃうんだ～…俺の奏帰っちゃうんだ～〟って。そしたらまた帰ってこさせられたいですね(笑)、出来れば映画とかで。

ふくだ・ゆういち

1968年、栃木県生まれ。放送作家、脚本家、映画監督、劇団ブラボーカンパニーの座長など幅広いジャンルで活躍中。ドラマ『33分探偵』『帰ってこさせられた33分探偵』『猿ロック』では脚本家としてその才能を発揮し、DVD『THE3名様』シリーズでは脚本・監督を務め、異例の大ヒットシリーズを生み出した。初の映画監督作品『大洗にも星はふるなり』が11月7日に公開を控えている。

福田雄一が描くゆる～い?『月9 刑事ドラマ』

放送される枠が月9になろうとも、福田雄一が描くゆる～いシーンは健在だ。
奏を中心とした、緊迫した場面に突如として現れる落差の大きいゆるさは、きっと月9視聴者をも虜にするだろう。

※編集部の独断と偏見でつけたゆるい度をはかるバロメーターつき。

タコ足ウインナー



軍隊では料理が出来るのが当たり前だということで、由岐に料理を作り始める奏。しかし、出てきた料理の中には、なぜかタコ足ウインナーが…。しかし、いたって真顔で料理を勧める奏。由岐も言っていましたがキモいです。

ゆるい度 40%

母親の存在



今から犯人を捕まえようと一刻を争う時に、奏にかかってくる母親からの電話。しかも内容は今じゃなくても…というたわいもないこと。それでも母親からの要望にはしっかり応える奏を見ると、弱点は母親なのかもしれない。

ゆるい度 85%

恐ろしくつまらないジョーク



時おり見せる、真顔で言う高倉奏ジョーク。本人は頑張っているのだろうが、これが恐ろしくつまらない。更にマルオ以外にはジョークを言ったこともわかっていないかも。せめてジョークを言う時ぐらいは笑顔を見たいものだ。

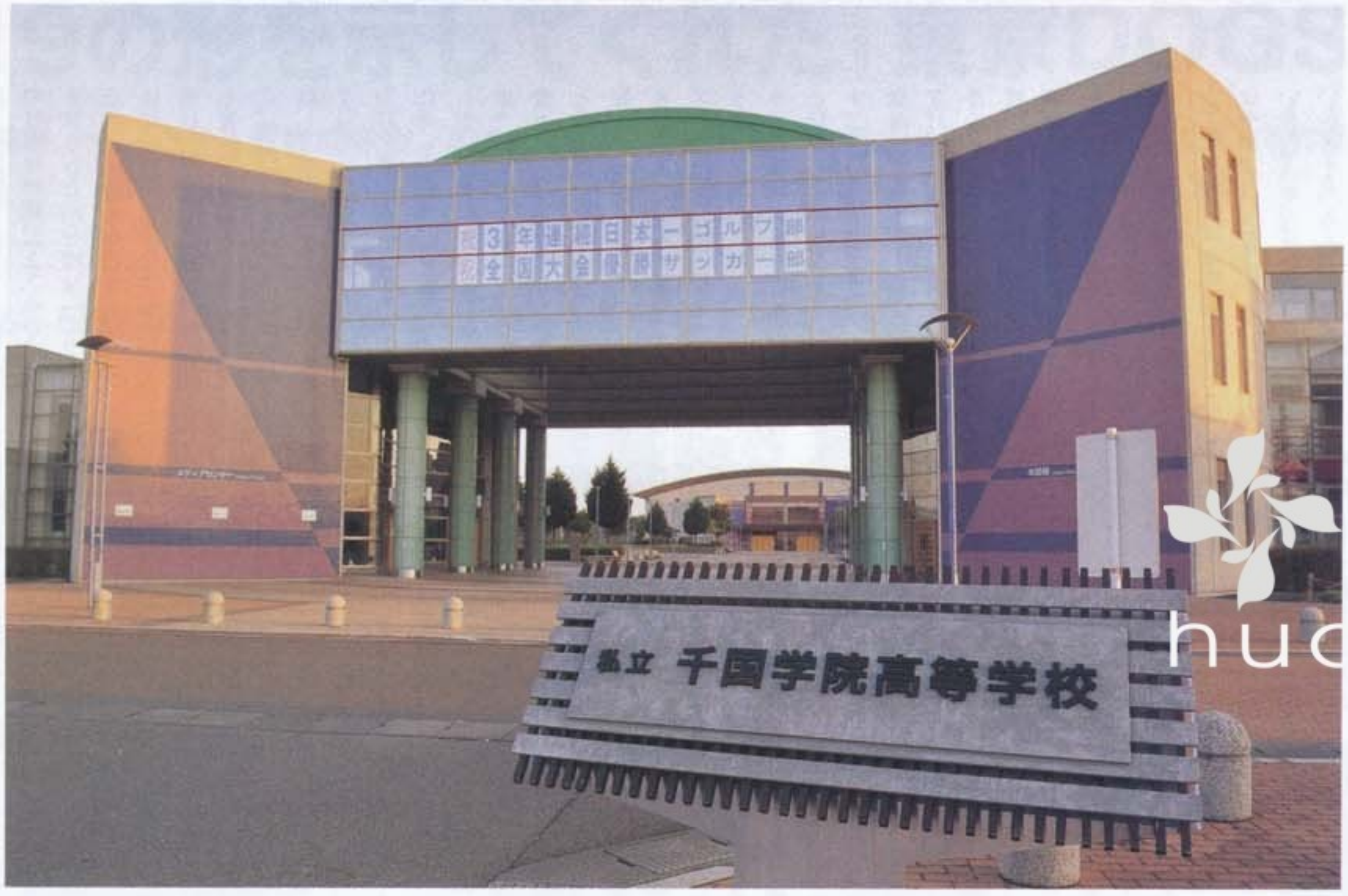
ゆるい度 50%

事件解決後に…



銃を持つ相手に命がけで事件を解決した直後、どうでもいい内容の質問をしつこく繰り返す奏。もちろんここも真顔。このシーンだけ見ると、ボケの奏、ツッコミのマルオとしてコンビが成立しているような気もするが…。

ゆるい度 70%





『サムライ・ハイスクール』

現代社会において「滅私」と「自己犠牲」はもはや死語なのか?
昨今の若い男子に落胆の声が聞こえる中登場したニューヒーロー。
土曜9時の枠に現れたのは、ズバリ"サムライ高校生"だ!!
学園で起きるあらゆる問題をバッサバッサと斬り倒す。
キミにも、きっと"サムライ"の心が宿っている!!


HARUMA MIURA








蝴蝶网
hudie.com

大ヒットドラマ『ブラッディ・マンデイ』主演の記憶も鮮やかなうちに、
9歳にして感情揺さぶる演技力を持つ役者・三浦春馬が新ドラマに挑戦。
の名も『サムライ・ハイスクール』。
えないヘタレ高校生が、窮地に陥った瞬間、サムライに変身して問題を解決していく物語。
の両役を演じる三浦は、いわばひとり二役。
かも両極端な設定とくれば、これまで味わったことのない"現場"で奮闘しているに違いない。
影中の彼を訪ねた。

三浦春馬

撮影／鈴木さゆり　スタイリスト／高橋毅(Decoration)　ヘアメイク／MIZUHO(vitamins)　文／船田恵

「(地球ゴージャスプロデュース公演)『星の大地に降る涙』の三浦春馬が凄い！」。そんな噂が幕開けから程なくして広まった。まだ公演前のプラスアクト9月号インタビューでは「自分が舞台上に立っているのが想像出来ない」と話してくれたが、歌って踊って芝居しての約3時間、〝そこ〟にいる三浦は、「僕はここにいる！」と全身から熱を放出させ、とにかく溌剌としていた。

もちろん、三浦にとって〝楽しい〟だけで終わった舞台ではない。焦ったりへコんだり不安になったり……公演中何度も何度も反省した。だが、主宰の岸谷五朗をして「春馬がこの公演を全て終えた時に一体どのくらい成長しているのか……もう見当もつかないくらい大きな結果になっていると思う」と言わしめた程、その道のりは観る者達の期待の的だった。

そして、迎えた舞台後初の〝芝居の現場〟。ドラマ『サムライ・ハイスクール』は、三浦本人にとっても自分の成長と向き合う絶好の機会となった。既にオンエアでその姿は確認済みだと思うが、彼の飛躍はまだまだ止まることを知らない。想像も出来ない。少年と大人が同居している瞳の奥にある強い意志は、これ見よがしに姿を現すことなく、常に絶妙なバランスで漂っている。だから、物凄い勢いで〝吸収〟するのだ。インタビュー中、何度も口を縦に広げて〝お〟という表情でリアクションする彼を見ながら、そんなことを思った。三浦春馬が持つてらいのない無垢さや人としての愛らしさが、今後彼の芝居に与える影響も楽しみでならない。

――このドラマの題材を聞いた時「地球ゴージャス」終演後でよかったのでは？　と思ったんですが。

「ホントホント。舞台での経験を活かせる内容で嬉しかったです。でも意識でどう…というより、縁なのかなって」

――「舞台終わりでどれだけ成長してるのか楽しみ」って言われてたしね。

SHUNさんが…あ、小栗旬さんじゃないですよ。同じ呼び方してるから思い出しちゃった(笑)。えっと、SHUNさんが〝最初のほうに比べて後半は踊りもちゃんとお芝居で踊っている感じが出てきて、それは気持ちで踊れてるということだから、そこら辺にいる『踊れる』人達よりずっといいよ〟って言ってくれて。ダンス界でも本当に尊敬されている方に褒めて頂いて凄く嬉しかったんです。認めて頂けたのかな？　って。技術的にはまだまだ全然だけど、『気持ちで踊る』というのは確かにそこにあって、僕自身も本当に気持ちがよかったんです」

――長期にわたる公演では、途中で気持ちが揺らいだり不安になったりはしなかった？

「いっぱいありましたよ。五朗さんと寺脇(康文)さんのおふたりにお願いして背中をパーンってはたいてもらって、それを気合に舞台に立った日もありますし、逆に僕がみなさんに〝頑張りましょう！〟ってたくさん声をかけることで自分も頑張れるっていう日もあったし、静かーに〝頑張らなきゃ〟って思いながら向かった時もあった。あと、五朗さんが肩が重いなーってしぐさをしてる時に近づいて、肩を揉ませて頂きながら…実は触れることによってパワーをもらったりして。一見、相手を気遣っているだけの行動に見えるかもしれないけど、五朗さんや寺脇さんに触れることで何か力が宿るような気がしたんですよ」

――かなり大きなエネルギーに変換出来るぞ、と？

「そうです。幕間にそれで〝よし、パワー蓄えた！〟って第2幕に出た日もあるし」

――そういう経験後の連ドラ主演はどうですか？　純粋に。

「舞台で学んだ殺陣が活かせる！　って最初ホント思ったけど、何よりも感じたのは、僕のこれまでの経験・願望が〝結果として繋がっていく〟ものが多いということ。詳しくは覚えてないもの

旬さんとの共演も状況が見事に繋がって実現したたし、なんか、そういうのあるんですよ。僕、ツイてるんです」

――それは春馬君がいつも口にしていることだね。

「ラッキーですよ。ラッキーボーイ♪」

――そう言うと結構軽いけどね(笑)。

「ははは！　ホントだ軽い、軽い。でも、繋げてくれる人達がいるから繋がっていくんだっていう意識も凄いあります。今回のドラマも『14才の母』を書いて下さった井上由美子さんの脚本だし、過去に現場でご一緒させて頂いた方々も多いし、これは成長したところを見せなきゃ、見せたいなって思ってます」

――このドラマ、ある意味二役だと思いますが大変ですか？

「変身する前の小太郎のしぐさやセリフまわしや語尾を…どうすればより共感してもらえるかなぁって考えたり。まだ今の段階では全然つかめていないんですけど」

――語尾をこうしようとかはどの段階で考えるの？

「作品によって違うんですけど、いつも思い立ったらやる。僕、夏休みの宿題とか、学校が始まってからやる、みたいな子だったので(笑)。ちょっとそういうタイミングに似ている感じが正直あるかな」

――でもお芝居に関してはそれで間に合わなかったこととかはないんでしょう？

「うん。一生懸命間に合わせて、今のところ後悔したことはないと思う」

――で、今回はどの程度まで想像出来てるの？

「まだ、なんとなく探り探りの状態なんです。サムライの時は野性的で、かなり男らしいイメージ。舞台のような少しオーバーな見せ方というか。小太郎の場合は凄く自然体な部分と動きが大きい部分のバランスをうまく取れたらいいなぁと。ずっとワーワーギャーギャーではなく、そこに上手に誘導し

分が思い描いている感じをきちんと表現出来ているのかはわからないけど、バランスの取れたお芝居を心がけたいです」

――春馬君はクランクインする前はどんなテンションなんですか？

「ちょっと不安です。僕、前もって役作りはあまりしないんですよ。本読みや顔合わせの時に見えてくるものが大きかったりするので、それ以前に作りこんだりしない。例えば台本を何回も声に出して読み込んで臨むとか…そういう準備は今までしてないに等しい。本格的に考えるのは本読みとかのあとなので」

――だから余計不安なのかな？

「そうかもしれない。本読みで上手く演じられるかなぁ、いい感じに読めるかなぁって。だから、凄い緊張する。本読みの段階で汗かきますもん」

――今回本読みのあとに気がついたことは？

「時代劇調のセリフは声のトーンや太さを意識して出したいな、と。やっぱり重みが違うものだと思うし。例えば舞台とドラマで考えた場合、おそらくドラマのほうがこういう〝変身〟に関してはわかりやすい演出が可能じゃないですか。断言は出来ないけど。だから場面チェンジの時にわかりやすく、もうガーンと〝あ、変わった！〟っていうのを出していきたいですね」

――楽しみにしているシーンはあ[illegible]

「殺陣は凄く楽しみ。あと、僕が城田(優)君をおんぶして走るシーンがあるんですよ。そこが、個人的にはどうなるんだ？　と。だって、優君がおんぶされるなんて設定今までないですよ、きっと。身体大きいですもん(笑)。稽古、試しにやってみたんですよ。そ[illegible]たら、歩けたんです。でも長い距離走るのは無理だと思うなぁ。足腰鍛えたほうがいいかな。あ、そんな時間ないな[illegible]ないですね(笑)」

――画的にどうなるんだ？　っ[illegible]うのも気になります。

「多分僕が見えないんじゃないかと。優

ないですよ（笑）。この号が発売されるころは結果がみなさんに届いてるんですよね？　そうかそうか。どうでしたか？　是非感想をプラスアクト編集部まで送って下さい（笑）。あと金子（ノブアキ）さんとのからみも楽しみ。僕が機嫌をとろうとして笑ってみせるけど〝何笑ってんの？〟みたいな顔されて、〝あ、笑ってないですぅ〟みたいなからみ。それから五朗さん！　親子っていうね。五朗さんがどんなお芝居を見せてくれるのか、どんな〝お父さん〟で現れるのか…めちゃめちゃ楽しみです！」

――色んな「お父さん」をこれまでも演じてらっしゃいますもんね。

「ホントですよね。それに、僕は五朗さんにどんなアドバイスを頂けるか楽しみなので、このドラマを機会に〝春馬、ここはこうしたほうがいいんじゃないの？〟とかなんでも言って頂きたいです」

――春馬君は気持ちを作ろうといつも強く意識してるの？

「どうなんだろう……（考え込む）。いや、僕も言いたいんですよ、こういう風にしてます！　って。でも、インタビュー記事になった時に、時々〝えー、俺こんなこと言ったの？〟って恥ずかしくなったりするんです」

――それも前から言ってるよね。じゃあ今回のドラマに関してのみでいいので教えてくれませんか（笑）？

「（笑）。大丈夫、もちろん話すつもりです！　今回は…台本読んで自分の中に湧いてきたものをそのまま演じてみました。結構セリフも口に出して〝こっちよりこっちかな？〟とか思ったりしつつ」

――そういう作業は楽しい？

「具体的に見えてくればくる程、楽しい。なかなか見えてこない時は淡々と時間が流れていく。なんかのタイミングで〝これ、いいじゃん！〟って思えたらやっぱりテンションが上がりますね。どうしても湧いてこない時は、違うページにいっちゃう。めくっちゃう（笑）」

く違う17歳が出てきますが。

「ねえ、昔の人は本当に17歳でも〝〜じゃ〟とか言ってたのかな」

――え、そこ？

「はい（笑）。ホントに〝なんとかじゃ〟〝かんとかじゃ〟とか言って、見ている方から違和感を覚えないのだろうか…とか考えたりして。でもきっと言ったんでしょうね。それにこういうハッキリとした対比の面白さは絶対ありますよね。僕にとっては普段出来ないようなことが出来るっていう面白さもある。それに、違和感なく面白くお芝居を見せられるかは、僕の力量によるところが大きいかと…」

――おおっ！

「（照れ笑い）。あと、今17歳の人達が見てどう思うのかも気になります。僕は昔の17歳をかっこいいなーと思いました。しっかり自分の考えを持ってて。まぁ小太郎みたいに全然〝自分〟を持てない昔の17歳もいたかもしれないけど（笑）。でも、凄く熱く自分の気持ちをぶつけたり言えたりするのはいいなって思います。僕もそのくらいハッキリと自分の意見が言えるようになりたいと思う時があって。言えるのであれば…。でも、言えないです…」

――どうして言えないの？

「それは僕が無知だってことが大きいと思います。あとは性格なのかな。でも昔に比べたら言えるようになったと思うけど……年齢もありますよね。20歳超えたらお酒飲んで熱く語るとかね」

――ドラマの内容は説教くさい正義じゃないからいいなって思ったんですけど。

「ああそうだそうだ。そもそも普段の小太郎は気がついてないですからね。〝なんでこんなことになってるの？〟みたいな。そうですね、ホントだ」

――しかも変身後も少し笑えるキャラっていう…。

「ふふふ。そうそう。でも、なんか、ヒーローにもなんかしら事情があったほうが面白いっていうか。漫画とかでもそ

いですよね。『ごくせん』もそうだし。今回はもちろん全然違いますけど」

――そうだね。サムライの「事情」はなんだ？　と。

「そうですよね！　だって出てきちゃうんだもん、しょうがない…みたいな。あの、図書館の人、怪しい。絶対なんか知ってる！」

――この作品はオリジナルだから最後まで誰もわからないんですよ。

「そうそう。何を企んでるんだろう…（脚本家の）井上さんは。それが早めにわかるのか、最後の最後までわからないのか!?」

――もしやわからないまま消えていくのか!?

「ははははは！　事情は…ありませんでした！　楽しかったです〜さようなら〜って」

――（笑）。最終回にはもうサムライが出てこなかったりして。

「逆に小太郎が消えちゃったりして。あと、古文書をレポートを出すために借りるじゃないですか。多分あの本はレポートを書き終えたら返却するでしょ。そうしたらもうサムライにはならないってパターンも考えられますよね。でもいざという時にやっぱりサムライの力が必要だってなって、これはまた古文書を借りるしかない！　とまた図書館に行って借りてレポート書いて……」

――つまりは、とにかくレポートを書き続ける人の話…みたいな？

「ははははは‼　それが〝事情〟だった、と」

――なんだか凄く妄想が広がりますね。

「ねぇ。楽しいですね！　五朗さん演じるお父さんも絶対何か知ってると思うし」

――「ヒーローの事情」とは春馬君いいこと言った！

「僕自身は案外ボカーンとしながら呟いただけなんですけどね。（取材スタッフの）みなさんが凄いピンと来て喜ん

かったよかった。お互い収穫ですね。実りの秋ですからね」

――写真撮影で秋と言えばのススキも使ったしね。

「あ、ススキ……やっぱり繋がってる！　がんばろ、僕」

――「事情」が「ええっ!?」っていう感じで終わらないことを祈ります。

「その事情を引き立たせるのはやっぱりお芝居ですよ。だから僕が頑張ります！」

――舞台も大評判だったし期待してます！

「嬉しいです！　でも地球ゴージャス自体にそういうパワーがあるんだと思いますよ。僕も確かに頑張ったけど、まだまだ反省すべき点はいっぱいある」

――例えば？

「セリフの言い回しとかがやっぱり〝芝居〟になってしまってて。音尾（琢真）さんや五朗さんを見てるとやっぱり凄く自然だし、自由に動いていてかっこいい。僕もなんかあんな風に動けたらいいのにって凄く思いました。あと、怒りながら我をなくして人を斬っていく場面のセリフの言い方だったりが、全部単調になってしまった時もあって。多分気持ちが前に行き過ぎたんでしょうね。寺脇さんが30％はどこか冷静に自分を見ながら芝居をしなきゃいけないって言ってたことがあって、〝ああそういうことなんだな〟って思いました。例えば物凄いスピードで気持ちよくセリフを言えても、観ている方々からしたら聞き取りづらかったりするかもしれない。で、そういう思いが結果的にはお客さんの満足度に影響するんですよね」

――舞台全体の中で「自分はどういるか」ってこと？

「そうそう‼　みんながお芝居してる時にじゃあおまえはどこにいて誰を見てるのか、とかね。今はセリフを言うあの人を引き立たせないといけない、とか。そういうのが全然わからなかったから、勉強出来て本当に面白かったです。自分の中に入り込んで一生懸命お芝居してちゃいけない場面もあると思

も見て、考えて、動かないと」

――それがさっき音尾さんや五朗さんを凄いなと思った「自然さ」に繋がる気もしますね。

「うん。ホントに。でも五朗さんはバク宙も出来るから凄いですよね」

――春馬君だってバク転出来るようになったじゃない。

「そうですね。写真集（『たぶん。』）の時、出来なかったですよね。今度はいつかバク宙出来るようになるから」

――で、また舞台だ！

「はい！　期待には一所懸命応えたい。だからまたミュージカルもやりたいです‼」ａ

みうら・はるま

1990年4月5日生まれ。茨城県出身。97年、NHK連続テレビ小説『あぐり』でデビュー。『14才の母』の出演で注目を集め、『貧乏男子　ボンビーメン』『ごくせん』（第3シリーズ）など話題作に出演。08年は『ブラッディ・マンデイ』で連ドラ初主演を果たした。映画『クローズZEROⅡ』『恋空』などに出演。第31回日本アカデミー賞新人俳優賞を受賞。映像分野での活躍が続くが、地球ゴージャス公演『星の大地に降る涙』で初舞台を踏み、堂々とした演技を披露した。主演しているドラマ『サムライ・ハイスクール』では、主人公の高校生・小太郎と彼に乗り移るサムライ役を好演している。

『サムライ・ハイスクール』

演出:佐藤東弥　猪股隆一ほか
脚本:井上由美子
出演:三浦春馬　城田優　杏　大後寿々花　小林涼子　桜田通　柳下大／市川実日子　金子ノブアキ　金田明夫　キムラ緑子／加藤雅也　ミムラ　室井滋　岸谷五朗　ほか

家庭でも学校でもイマイチさえない高校生の望月小太郎（三浦春馬）。そんな小太郎に対し、同級生のあい（杏）は、心のどこかでもっと強くなってほしいと願っている。しかし、ひょんなことがきっかけで、小太郎は窮地に陥ると戦国時代のサムライに変身してしまうようになる。どうやらその正体は、戦国時代に活躍した武将で、小太郎の先祖のよう。小太郎に輪をかけて気弱な同級生の剛（城田優）を救うため、勇気を振り絞る小太郎だった。学校で起こる様々な問題を武士道精神で解決する痛快学園エンターテインメントドラマ。
日本テレビ系にて毎週土曜9時オンエア中。

衣裳協力:ロングカーディガン¥16,800（TALKING ABOUT THE ABSTRACTION　06-6245-2519）、VネックTシャツ¥9,240（2枚セット）、パンツ¥29,190（以上SEMBL　03-5823-3311）、シャツ¥17,640、ブレスレット¥6,720、キーホルダー¥14,070、¥19,950（以上KLASICA／PADDLE PR　03-5771-5995）、ストール¥16,170（MILKBOY　03-3407-5175）、ブーツ¥45,150（MOTEL／MOTEL.Inc.　03-3481-0280



YU SHIROTA







ROOKIES』『天地人』と話題作に続けて出演し、
々とキャリアを積む城田優。
画、ドラマ、舞台とフィールドを選ばないオールラウンドプレーヤーは、
に“成長”し続けている。
88センチメートルの長身を屈めていじめられっ子の高校生を演じるとは、
れまた従来の彼のイメージからは想像しにくい。
れを難なくこなし、いやむしろ、楽しんでしまうところに、
田優の役者としての伸びしろの広さを感じずにはいられない。

城田 優

撮影／京介 文／田中大介

本当の意味で言う「気遣いの人」とは、気を使っていることを相手に気づかせず、さらっと自然体でいながらにして、その場を和やかにしてくれる存在のことを指すのであれば、城田優は間違いなく「気遣いの人」だ。気遣いが他人にバレることなんて、無粋のひと言に尽きる。考えてもみれば、〝私は気遣っていませんよ〟という雰囲気を出し過ぎるのは野暮というものだ。とかく取材中の城田優の振る舞いは見事だった。ひと回り近く年齢の離れた取材班に対し、絶妙な親近感で接する彼のコミュニケーション能力の高さに、ただ驚くばかりだった。それでいて、芯の通った考え方を臆することなく披露する度胸のよさ。こんなことを言うと本人は怒るかもしれないが、どこか大企業のような組織で大きなプロジェクトを任されても、彼なら持ち前のネゴシエーション力で道を切り拓いていくに違いない。「会社の後輩にいたら、手ごわいなあ」。そんな風に思わせる城田優だが、彼は紛れもなく役者であり、その話に耳を傾けると実に役者的なのだ。企業戦士と役者。なんだか矛盾しそうな程に対照的な存在が、城田優の中に同居しているのかもしれない。

そんな彼の像を、ひと言で表せないだろうか。そう思いを巡らせ、城田を見つめる。組織と渡り合い、自らの使命を貫く。それでいて、他者に対してさりげない気遣いを発揮する――。それはまさに武士の理想だ。城田優に、「サムライ」の姿を見た気がした。

――撮影がスタートして間もない時期ですが、現場の感触はいかがですか?

「まだ第1話の半分を撮り終えたところですから、まだまだ始まったばかりなんですけど。いやあもう、毎日が楽

年ぶりの連ドラ出演なんですよ。自分でも意外なんですけど結構間隔があったんだなあと思いながら現場にいます。大河でも毎日現場にいた訳じゃないので、なおさら現場を楽しく感じますね。(三浦)春馬とも初共演だけど、気が合うというか。歳の差を感じさせない。彼とは共通の友人がいて、それであらかじめ名前を聞いたりしていて。〝これだけ年齢差があって同級生をやるんだから、結構ドキドキだったんですけど。春馬の芝居は本当に真っ直ぐで、僕も気持ちよくやれるんですね」

――役者さんは芝居の呼吸みたいなことをよく言いますが、三浦さんとは相性がいいと感じますか?

「そうですね。春馬はどう感じているか、わからないですけどね(笑)。相手役の人の句読点の入れ方や言い方でそれぞれ芝居の呼吸がガラッと変わってくる。春馬のリズムが心地いいんですよ。それに小太郎と剛の凸凹なコンビは見た感じが対照的で面白くて。(芝居を)楽しいと感じているということは、きっとやりやすいんでしょうね」

――城田さん演じる中村剛は、これまでにないタイプの役ですね。

「いじめられっ子というか、気の弱い性格のキャラクターをやるのが初めてなんですね。『ROOKIES』だったり『花ざかりの君たちへ』だったり、ちょっとツンとしたイメージを抱いている人も多いと思います。だからそれだけじゃない部分を見て頂けるかなと、楽しみですね」

――剛と重なる部分はありますか?

「小さいころは凄く弱い子でした。家ではよく喋るんですけど外ではだんまりな子供で。で、小さいころって周りの子も平気で残酷なことを言うじゃないですか。僕も外では『ガイジ～ン』な

期があるから剛の気持ちもわかります。とにかく、ホントに初めてチャレンジする役なんですよ。色んな作品に出る度に『新しい一面』ということは意識しているし、取材の席で話すんですけど、今回は本当に新しい一面を出せるというか、全く未知数な役どころなので、そこが今回のアピールポイントですね」

――城田優がいじめられっ子を演じる様子を見て驚いてもらいたい?

「そうですね。キャラクターの意外さだけでなく、細かいところでも結構面白いポイントが満載なんです。バッグや携帯ストラップがやたらかわいかったりするんで(笑)。監督と話して、制服のズボンを寸足らずにしたんです。高1の時に買ったままのものを履いているんですね。一応、貧乏な家の設定にしていて……。『爪を噛む癖がある子がいるみたいに、何か描けるような癖をひとつ考えておいて』と監督さんからもオーダーされて、困ると(首のうしろを)掻くヤツにしたんですけど」

――それは城田さんのアイデアですか?

「はい。なんか思いついて、やってみるとしっくり来たんですよね。色々設定をつけたりアイテムで工夫したりしますが、あとは芝居で見せていかないといけないんで。キャラクターの雰囲気としては、そうですね……。あんまり仲良くなかったけど、ちょっと話をした次の日に、やたら話しかけてくる同級生とか(笑)。自分から率先して喋るタイプではないけど、クラスによくいるじゃないですか。そんな感じをイメージしています」

――剛はかなり人見知りですけど、城田さんは?

「僕は人間関係を作るまでにあまり時間はかからないですね。普段、そんな

く仲良くなれるタイプだと思います。ただ、『あ、この人とは気が合うな』というのが早くわかるんです。一瞬の直感みたいなもので。だから、友達を作るのは早いほうかもしれない。今回で言うと春馬を始め共演者のみんながやりやすい人達なんです。今回は生徒役の中で僕が最年長なのかな。もう生徒役だと年上になっちゃうことにビックリしていると同時に、どこか気楽な部分もあって、かといって楽なだけでは絶対なくて、みんなを引っ張っていかなくてはならないなという気持ちにもなっています。色々考えさせられるところがありますね」

――共演者は強力過ぎる面子が揃っていますね。

「ホントそうですよね。以前ご一緒している岸谷(五朗)さんは春馬演じる小太郎の父親役ですし。五朗さんとの共演がきっかけで地球ゴージャスの公演を観に行ったんです。それに主演した春馬を見て、驚かされました。僕もミュージカルをやってきて、自分が19歳のころにやっていたことを考えると、春馬の凄さがわかります。五朗さんと春馬が親子役で演じているところにお邪魔したいんですよ」

――読者の方々のために敢えて説明しますけど、取材が始まる前、スタジオに現れた岸谷さんに「今度、望月家にお邪魔します」と話していましたね。剛が小太郎の家に遊びに行くシーンの予定が?

「いやいや、現段階では決まってないですけど、希望的観測で(笑)。五朗さんには〝共演が楽しみです〟ってメールしていたんですよ。それに生徒役の共演者は同じ学校の人が多いんです。三浦春馬、城田優、杏、大後寿々花、小林涼子。みんな堀越なんですよね。あと、警官役の金子ノブアキ君も堀越の

とで弾むんですよ。食堂がどうだとか、先生がどうとか、僕は少し先輩だから〝今はどうなってるの?〟なんて聞いたりして、親睦を深めるキーワードになっています。みんなキャラクターがよくて、小林涼子ちゃんなんて僕、〝お風呂番長〟と名づけたんですよ」

——(笑)。それはお風呂好きだからですか?

「そう。どれだけ忙しくても2時間くらい入るらしいんで。だから毎朝『お風呂番長、おはよー』って声かけて」

——小林さんのリアクションは?

「『そんなあだ名かわいくない』って(笑)。そんなこんなで若い子達とは学校ネタで盛り上がり、金子ノブアキ君は先輩なんですけど、普段からもご飯に行ったりするので、やっぱり現場で会えるのは嬉しいですね。ホントに共演者が素晴らしく楽しい方々ばっかりなので、ありがたいです。あと小太郎の母親役のキムラ緑子さん。僕、『スウィーニー・トッド』で共演していまして。五朗さんと緑子さんに会うには、望月家に遊びに行くしかない(笑)」

——そんな望月家は真田幸村の家臣の末裔。大河では真田幸村を演じ、その幸村の子孫の友人役を城田さんが演じているという……。

「なんかよくわかんないことになってきますね(笑)。だけど、そこら辺はあんまり考えていないです。例えば真田幸村のシーンがあると見ちゃったりして、大河を思い出すことはありますけど、別モノですから。僕は剛を演じることに集中してます」

——純粋に縁を感じますね。

「そうですね」

——『サムライ・ハイスクール』はオリジナルの脚本ですね。ドラマや映画であまり原作を読まないようにしているそうですが、オリジナルのやりやすさというのもあるのではないかと思います。

「それはもう、やりやすいですよ。原作が漫画だとするとそのキャラクターをなぞるようなこともありますし。オリジナル作品は自分達で生み出していける楽しさがあります。役者冥利に尽きますね。誤解を恐れずに言えば、自分のイメージで作り上げる芝居が、ある種正解なんですよ。原作があると、いかに見ないようにしているといってもどこかで意識したり、引っ張られたりするものがあるんですよ。それに縛られないことの楽しさがオリジナルの作品にはありますね。上がってきた脚本だけに向き合うという意味で非常にストレートというか」

——こういうテーマのドラマなので是非お聞きしたいことがあります。男の子なら誰しも武士道とか、侍という言葉に少なからず憧れる時期があると思います。城田さんが、自分を〝サムライ的〟と思うことはありますか?

「やっぱり仕事してると色んな軋轢が生じて、納得いかないことも出てくるじゃないですか。そこに対して〝待てい!〟となってしまう自分の習性みたいなものは、どことなくサムライ的なのではないかと。プロデューサー、監督、肩書に関係なく言うべきところは言わせて頂きますね」

——どんなことに対して「待てい!」となるんですか?

「その人の考え方があって、それが通っていれば多少考え方が違っても全然いいんです。ただ、僕が何かを投げかけた時、真っ向から否定して、パワハラのような理不尽さが飛び出すと、〝待て待てい!〟と。なんかちょっと嫌なのは、絶対に白でなければならないもの、あるいはどう見たって白なものを、黒と言われた時、なんで白じゃないのかと思ってしまうんです。『僕はハイそうですねと納得出来ません』と、少なくとも納得出来ないことだけに伝え……しているんです」

——大人を相手に意見することには勇気が要りますね。場合によっては誤解を招くかもしれません。

「生意気だとか、調子に乗っているだとか言われることがあるかもしれませんけど、そこはTPOというか、伝え方も考えて言います。だから、相乗効果になる意見はいいけど、ただのケンカではダメですよね。決して〝てめえ、オラ!〟みたいな空気にはなりませんよ(笑)。自分の関係ないことだといっても、誰かがトラブルになっている現場は不愉快になるし。意見を出し合えることが必要だと思います。僕、昔から嫌いな言葉があって……」

——それは?

「〝前例がない〟という言葉が嫌いなんですよ。芝居を作ったりドラマで演じたりすることは、前例のないことをしようとしているんじゃないのか。リスキーなことばかりだけど、前例のなさを理由にチャレンジしないことが歯がゆいんですね。僕自身、ハーフでこんなに身長があって、顔である程度役が絞られてしまうし。日本のドラマで役を演じるにはリスキーなんですよ。〝前例がなきゃ作ってやる〟という気持ちで仕事してきたので、そういう言葉に引っかかってしまうのかもしれない」

——非常に真っ当だし、サムライ的でもあると思います。

「サムライ的かどうかわからないですけど、ちゃんとやっている人間が言うことなら聞いてくれると思うんですね。ネコ被るんじゃなく、意見を言える関係を築くことも大切ですね。僕は20代前半で経験も少ないですけど、少ない中でもやってきたことがあり、そこで感じていることがある。それが今の僕の全てです。これから30代、40代に突入してどう考えるかはわからない……と」

——真面目に取り組んでいるからそう考えるんでしょうね。そんな城田さんを育んだのはなんでしょうか?

「母の影響ですね。母は昔から〝私は上司だろうが社長だろうが、違うことは違うと言う〟。〝イエスマンには絶対ならない〟という姿勢で生きてきた人なんですよ。そこは受け継いじゃってますね。母は会社でも上司と言い合っていたみたいで、それでもキチンとやることをやっていたからクビにならずにやってこれたようです。ただ、僕だってこういうことを言っているものの、悩むこともあります。電車に乗ってて、目の前にお年寄りがいたら譲りますけど、ちょっと歩くくらいの距離にいた時、僕が立ちあがった時に別の人が座ったらどうしようと思って何も出来ないことがある。いかに正しいことをやろうとしても、そんなことで悩むし、全部が全部上手くは出来ないし。全くもって普段はケンカしないですしね。プライベートでは優柔不断なところもありまして。仕事になると気合が入るんです」

——真剣に仕事をしているからですよね。城田さんはこれからもずっと役者であることを目標にしているとお聞きしました。

「変わらずにいるというのが目標なんですね。だけど、変わらずにいることが一番難しいと思います。今、あたかも当たり前のようにドラマに出演していますけど、それは当たり前なことでは決してなくて、僕は何年もそういう自分になりたいと憧れていたし、同じように思っている役者志望の人が何人もいることも知っています。前線でやっていけるのは当たり前じゃないですよね。やっぱりそこには応援してくれる人、スタッフさん、共演者の存在があるか……素晴らしさ、例えば、(事務所の先輩)ホリケンさんみたいに歳をとっても変わらない人の魅力ってあると思うし。僕もそうありたいんですよね。人間として大切な部分は変わらずにいる。僕、40歳でも50歳でも変わらないねって言われたいです」

——今回のプラスアクトミニのキーワードが「成長」なんですけど、『サムライ・ハイスクール』の内容は成長という言葉とリンクしています。剛君は弱い子のキャラクターですが、彼の成長も楽しみです。

「最終話までには変わってくると思います。僕は身体が強い、力が強いというのではなく、意志が強いのが最も強い人間だと思います。剛がそんな風に成長するといいですね。1話ではそんなに親しくないのに、ひょんなことから、結果小太郎が助けてくれて、ふたりの距離が縮まる。一緒に行動するようになり、第7~9話くらいで、剛が小太郎を助けるみたいな話があったら嬉しいんですけど、そんな脚本になることをこっそり妄想したりして」

——脚本家の方には、オンエアを見てから、登場人物の動きに変化をつける人もいるとか。

「そうなんですよね。なので是非、井上(由美子)さんには僕を見て頂いて、出番を増やしてほしいです(笑)」 a

しろた・ゆう

1985年12月26日生まれ。東京都出身。若手俳優集団D-BOYSのメンバーとして『テニスの王子様』『スウィーニー・トッド』『テイクフライト』などの舞台に出演(08年にD-BOYSを卒業)。映画は『ヒートアイランド』『ワルボロ』等に出演。ドラマから映画化もされ記録的ヒットとなった『ROOKIES』で一躍全国区に。ほか、ドラマ出演は『花ざかりの君たちへ～イケメン♂パラダイス～』『交渉人～THE NEGOTIATOR～』など多岐にわたり、キラリと光る存在感を放っている。大河ドラマ『天地人』では真田幸村を好演し、話題をさらった。『サムライ・ハイスクール』ではいじめられっ子の中村剛役を熱演中。



特別対談

主演・三浦春馬 × 脚本・井上由美子

『サムライ・ハイスクール』の脚本を手がける井上由美子と、主演を務める三浦春馬。06年『14才の母〜愛するために　生まれてきた〜』で組んだふたりが再び顔を合わせた。このドラマで描きたいことは？　俳優としてのチャレンジは？　ふたりに聞いた。

撮影／京介　スタイリスト／高橋毅（Decoration）　ヘアメイク／MIZUHO（vitamins）　文／浅見祥子

――作品に関わった経緯から教えて下さい。

井上「1年くらい前『（日本テレビの）土曜9時の枠のドラマを春馬君でやりましょう』というお話を頂いて」

三浦「1年前!?」

井上「そう。それから『ブラッディ・マンデイ』などを見て、似ないようにしなければなあ……、とか色々考えたりして。それで企画を3つ4つ5つくらい考えた中で、これが一番いいかなあというのが、今回の作品になったんです」

――やはり、今までに三浦さんがやったことのない役というのは意識されたのですか？

井上「そうですね。今、若い男性の俳優さんがたくさん売れてきているじゃないですか。するとどうしても、同じような役のイメージのドラマが増えてしまう。三浦君にはそうした作品とは全然違うことをやってほしいし、思い切ったことの出来る役を作りたいなと。でもちょっとね、え!?　というような設定ですけど」

――普通の高校生がサムライに変身するって、確かにかなり思い切っていますよね。

井上「はい（笑）。それこそ難病ものとか、普通の話も考えたんですよ。でも監督が凄くぶっ飛んだものを撮れる人で、企画の中から〝これがいい！〟とおっしゃったので。その言葉を信じてやろうということです」

三浦「僕が企画を聞いたのは『星の大地に降る涙』という地球ゴージャスの舞台稽古の最中でした。その時はちょうど武士の役をやっていて、ドラマではサムライに変身しちゃう役というのを聞いて、ラッキーというか、縁があるなというか。なんか得した気分でした。今やってる殺陣の稽古が活かされるじゃん！　と思って」

――脚本を井上さんが手がけると聞いた時は？

三浦「ああ…って」

――「ああ…って」って、何が（笑）!?

憶えてます? 私は憶えてますよ。志田未来ちゃんと初顔合わせの時で」

三浦「何か……会議室みたいなところで」

井上「そう、汚い会議室(笑)。おとなしそうでしたね。あまり人の顔も見なかったし」

——人見知りしてたんですか?

三浦「…でしょうね、経験も少なかったですし。あの時は高1でした」

井上「高1だもんねえ。子供ですよね」

三浦「『首が長いんだねえ』と言われた憶えがあります。なんと答えたのか憶えてないけど(笑)。その言葉が妙に記憶に残ってます」

井上「初々しいけど、ふてぶてしい感じもありましたよ。結構ちゃんと、色んなことを飲みこんでいける子なのかなと思ったんです」

——『14才の母』の時の、三浦さんの演技の印象は?

井上「最初はね、不器用な人なのかな? と思ったこともあったんです。でも演技って、大事なのは上手さじゃないじゃないですか。存在感ですよね。未来ちゃんは三浦君より年下だけど、以前からお仕事をしていて、俳優としては先輩だった。でも存在感では正面から勝負していました。それで、いける! と思った。失礼かもしれないけど三浦君はどんどん上手くなっていったし、役に入っていってる感じもしたし」

三浦「あの作品は凄く難しかったですね。あれこそ全部、正解がないという気がして。悩みながらやっていた気がします」

——当時、井上さんの脚本の印象は覚えてますか?

三浦「あの時は何を感じていたのかな……。凄くリアルだし、人間味があるし。嘘がない感じがするんですよね。でも、それをどう演じるかは悩んでました。よくわからなくて、びくびくしながらやっていた気がします」

井上「あれから3年経って、三浦君は体も大きくなった感じがしますね」

三浦「身長は1～2センチしか変わってないですけどね(笑)」

——『14才の母』以降、俳優としての成長を感じる部分は?

井上「『恋空』とか『ごくせん』とか、代表的な作品はもちろん見ていました。ずっと持ってる初々しさとか流されない強さみたいなもの、変わらないところがあるのがいいなって。弱そうで強そうという、二面性があるんですね。昔ながらの男みたいなクラシックな感じも、今っぽさも持ってるし。二面性というのはスターの条件ですから」

——三浦さんは今回『サムライ・ハイスクール』の台本を読んで、こういう設定なんだ! という驚きが?

三浦「(笑)」

井上「全然リアルじゃないね、真逆だ(笑)。でも(同じ日本テレビのドラマでも)水曜と土曜という枠の違いもあるから。〝土9〟って、若い視聴者や子供達に向けたエンターテインメントを思い切って出来る唯一の枠だと思います。こだわってやってるのは凄くよいので、そこは枠のカラーに乗ってやりたい。三浦君はそれを背負えると思うし」

——なぜサムライがテーマだったのですか?

井上「ね(笑)。いや、武士道っていいなという話になって。今の子供が直面する問題に解決策はないけど、ちょっとずらして、違う視点から見れば全然大したことないと思えることはあるんじゃないかなって。それで、ずらすって何だ!? と考えた時に、サムライとか武士道ってよくない? と」

——三浦さんは武士道と言われてピンと来ました?

三浦「ピンとは…来なかったんですけど(笑)。でも『壬生義士伝』という映画が好きなのでそれを参考にしたり、資料として渡された新渡戸稲造の『武士道』という本を読んで勉強しました。それで単純に憧れました。ひたすら真っ直ぐ進み、大義に忠実に生きる姿はいいなあって。〝武士に二言はない〟とか〝悪にも情けを〟とか、そういう言葉もいいし」

——勉強するうち、サムライに変身した時の小太郎はイメージ出来たと?

三浦「そうですね。サムライに変身した時の小太郎は〝ワイルドに演じてほしい〟と監督に言われたりして、比較的イメージしやすかったんです。でも本読みの時は〝ちょっと歳を取り過ぎている〟と言われちゃって(笑)」

井上「監督に? そうだったの(笑)」

三浦「一生懸命やったら、そうなっちゃった」

井上「でもサムライの時は迷いなし! って感じだったよね。私はすっごく声が出るなと思って驚いたんですけど」

三浦「そこはちょっと自信があるんですよね」

井上「若い俳優さんで、なかなか本読みの時に大きな声を出す人って少ないんですよ。何を言ってるのか聞こえないこともあって。だから三浦君には驚きました」

三浦「舞台の名残りもあったと思うんです」

井上「(舞台で共演した)岸谷(五朗)さんもいたしね。でも本読みはよかったですよ。思いっきりやるのはいいですよね。そこからテンションを下げるのは簡単だけど、上げるのってなかなか出来ないから」

——三浦さんが出演された舞台『星の大地に降る涙』はご覧になりました?

井上「ええ伺いました。面白かったです。三浦君、歌って踊れるのねと。習っていたんですってね」

三浦「ちょっとだけですけど」

井上「『14才の母』の打ち上げでカラオケに行ったら、コブクロか何かを歌ったんですけど誰よりもえらい上手い訳です。『なんだ、あれは。むかつく!』と生瀬(勝久)さんが(笑)」

——なぜそこにライバル意識が!?

井上「(笑)。その時に、あぁ、勉強なのは……

——でもこのドラマの企画を考えた時、三浦さんがダンスや殺陣が出来るというのはご存じなかったんですよね?

井上「そうなんです。偶然なんです」

三浦「色んなことが不思議と繋がるんですよね。地球ゴージャスの舞台って歌って踊って、笑いがあって。作・演出を手がける五朗さんの伝えたい想いがあって。そこで初めて殺陣を本格的に取り組んだんですけど、凄く面白かったですね。練習していくとだんだんキレが出てくるのが自分でもなんとなくわかるし、五朗さんが褒めてくれるし。それがお世辞でも、何か嬉しくて」

——嬉しいんだ。

三浦「そりゃ褒められれば嬉しいですよ!」

井上「愛されてなんぼですよね、役者は」

——岸谷さんって褒め上手なんですか?

三浦「褒めてくれますねえ。稽古でも〝お前は気持ちが出来てる。これから俺が舞台での動きを教えるから〟って、そういう風に演出してくれる。〝気持ちが出来てる〟と言われた時は、なんとも言えない嬉しさが込み上げてきて……ありがとうございます! って(笑)」

——本読みの時、三浦さんの役柄としての気持ちは出来てました?

井上「出来てました(笑)。作品へ向かう気持ちが出来てる感じでした。その時に岸谷さんの楽屋をお訪ねすると、『いいだろう、春馬。春馬、いいだろう?』と盛んに言ってて。大袈裟じゃなく10回くらい(笑)。愛してるなあと」

——愛されちゃったんですね。

三浦「はい…」

——〝はい…〟って(笑)。

三浦「でも岸谷さんは僕だけじゃなく、みんなを愛してくれる人なんです。キャスト全員に愛を向けてくれるというか」

ですね。

三浦「そうです」

井上「座長、ですね」

——本当に。その座長が、今回小太郎の父親役で出演されるんですよね?

三浦「そうなんです、またびっくりですよ。繋がってるなあと思って。縁ですね。共演出来るのはもちろんですけど、五朗さんがこの話を聞いた時に〝じゃあやるか〟と言ってくれた、そこが嬉しい。だって五朗さんなら、その作品をやりたいとかやりたくないというのはある程度、自分の考えが通ると思うんです。しかも、舞台とは違うドラマのお芝居をご一緒するのも初めてですし。監督からの芝居指導はもちろんですけど、五朗さんからも指導があったらいいのに。何か気づいたら言って下さい、とお願いしてみようかな」

——そもそも、小太郎というキャラクターはどのようにして生まれたのでしょうか?

井上「ダメ～な部分とワイルドな部分と、欲張りに両方やりたかったんですよね。ひと粒で二度美味しいというのは魅力的だし、自分が是非見たかったから。普段のリアルな現実の小太郎は限りなく弱くてダメで、変身したあとのサムライ小太郎は強くてワイルド。女にも『おい女!』と言うような。私ね、インターネットのファンサイトをいくつか覗かせてもらったんです。〝三浦春馬君にやってもらいたい役〟とかっていうのがあって(笑)」

三浦「ははは」

井上「すると意外と、サムライみたいな強い役とダメな春馬君が見たいとあって、へえ～って」

——今回の役そのままじゃないですか!

井上「そう(笑)。でもダメな春馬君が見たいというのは、ちょっとわかるんですよね。守ってあげたいというのと守ってもらいたい、そう思わせる役が見たいって。それで出来るなら、ファ

ンサイトで見たファンの願いみたいなものを両方やろうってことです」

——番組が始まったら、ファンサイトは凄く盛り上がりそうですね。

井上「それはちょっと、文句とか色々な声が出てくるだろうから読まないけど。春馬君にあんなことをさせてひどい！　とか（笑）」

——でも確かに、どちらの三浦さんも見たことがない気がします。

井上「普通の役ってその真ん中じゃないですか？　土9じゃないと出来ない役ですよね」

——三浦さんは、弱いほうの小太郎役というのも、すぐイメージ出来たのですか？

三浦「うーん、なんとなくですね。どっちかというとサムライより普通の高校生のほうが、どうやろうかちょっと悩みます。すぐに笑ってごまかしちゃう、ああいう男の子ってたくさんいると思うんです。僕だってやってるし。そういう普通の人を演じるのって難しいんです」

——今回は「ヘン顔」をするんですよね？

三浦「昨日（撮影で）やりました！」

——どんな顔ですか？

三浦「それはドラマで見て頂いたほうがいいと思います！」

——毎回ヘン顔は変わるんですか？……って、変なところにつっこみますが。

三浦「もちろん変えていきます…と思います」

井上「でも小太郎の場合はウケないヘン顔じゃないといけないんです。ウケてはダメ。ウケなくて悩むというのが、今の10代の青年なんですよね。ウケないのが凄く怖い」

三浦「ああ…そうですね」

井上「10代の男の子が100人いたら、半分はそういう子ですよ。監督にも私の親族にも、ちょうど高校生の子供がいるんです。それで監督とよく子供の話をするんですけど、言ってることが同じなんですよね。笑ってごまかすとか浮きたくないって気持

三浦「ありますね。僕にもあるなあ」

——目立ちたいより、浮きたくないと？

三浦「中学生の時は目立ちたいと思っていたけど、高校生になったらガラっと変わっちゃって。当時はそれ程仕事をしていなかったから、文化祭とか音楽祭では、みんなを練習に誘っていくような子でした。昼休みには校庭で〝サッカーのトーナメントだ！〟とか言って、クラス対抗でサッカーをしたりして」

井上「モテました？」

三浦「モテ……ないですよ」

——今ちょっと、間がありましたけど。

三浦「いやいや全然モテなかったです（笑）。でも高校の文化祭とか音楽祭ってぼーっとしちゃって、前に出ようとは思わなかったです。学校に行けない時もあったので、みんなと密にコミュニケーションが取れなかったというのもあったかもしれないけど」

——そういう三浦さんの目に、台本に書かれた高校生ってリアルに見えますか？

三浦「え⁉　突然サムライに変身するのがですか？」

——いや、その部分は抜きで（笑）。友達との関係性とか距離感とか、さっきの笑ってごまかす感じとか。

三浦「そうですね。〝ああだこうだ言ってもどうせ何も変わらない〟とか、そういう感覚はリアルだと思います。自分も中学のころは気持ちを表に出してつっかかったりしたけど、高校では全然そういうことはしませんでしたから」

——そこはサムライに変身するというとっぴな設定があるから、ドラマの部分はリアルにというバランスを意識されたのでしょうか？

井上「そう…ですね。今は女の子が強いんですよ。誰にいじめられるのが怖いって、女の子に〝キモい〟って言われるのが一番怖いって」

三浦「ああ！　（深く頷く）」

ね。そういう感じの空気は出したいんです、女子強し！　みたいな」

三浦「なるほど」

井上「男子が立ち上がって強くなっていくという、これは男子の革命の話でもあるんです。だから小太郎がサムライになった時は意識的に『おい女！』なんてセリフを入れてるんですけど。本当の小太郎が、サムライへの変身ということを通して成長していく。だから最終回をざっくり言うと、本当の小太郎とサムライ小太郎のお別れの話になる。いや、変わっちゃうかもしれないけど（笑）」

——そこも変わっちゃうんですか⁉

井上「ドラマって生き物なので。評判とか視聴率とかそういうことではなく、やってるうちにこっちのほうが面白いなという発見があったりして変わって行くんです。そこがドラマの面白いところでもあるんですけど」

——小太郎以外の誰かにもサムライが憑依して、〝お前もか！〟とか言ったりして。

井上「それおかしい（笑）」

——妄想がどんどん膨らむ設定ですよね。そういう過程で、小太郎のキャラクターを三浦さんに近づけていくこともあるんですか？

井上「それはないです。別物として考えますから。今日はこうしてお会いしてますけど、基本的に私、役者さんにはお会いしないんです。画面で見る感覚を大事にしたいので」

——近づき過ぎると書きにくいものですか？

井上「ご飯を食べに行ったりすると、個人的な話をする人もいますよね。そういう面を知ってしまうと、純粋に役を書けなくなる気がして。だからあまり近づかないようにしています。それが唯一のプロ意識かもしれません」

——もう撮影は始まっているんですよね？

三浦「はい。最近まで舞台をやっていたのでドラマの芝居が新鮮で楽しい

いてヘン顔をしたりして、これまで演じたことのない役柄だから大きなチャレンジなんです。色んなヘン顔をお見せ出来ればいいな～って（笑）」

——鏡の前で練習しましたか？

三浦「しました。鏡の前で、これがいいかな？　とか（笑）」

井上「監督はやって見せたりしてくれるの？」

三浦「いや監督は…（笑）。でもヘン顔をする相手の杏ちゃんが全然笑わないんです。だからさっきの、ウケない子が味わう怖さというか、しゅんとしちゃう感じを味わってます」

井上「杏ちゃん、笑わなそうだもんね。クールに〝何が？〟って言いそう」

三浦「いくら芝居中でも、少しはクスっとかあってもいいのになと思ったりするじゃないですか。これがもし芝居じゃなかったら、僕は完全に落ち込んでます（笑）」

——これから進んでいくドラマに対して、どのようなことを期待していますか？

井上「やっぱり見た子や子の親達が、小太郎の成長を見て元気になれればいいですね」

三浦「僕はこの作品の前に舞台を初めてやって、自分達の芝居を観た直後のお客さんの顔を初めて見たんです。しかも大勢のお客さんの。それを繰り返して学んだのは、僕達の仕事って、短い時間かもしれないけどお客さんに泣いたり笑ったりしてもらえる。そうして最後に、僕達の挨拶を物凄くいい顔で聞いて下さったりするんです。それは凄くいい時間でした。それまでもファンレターなどで、〝落ち込んでいたけど、あなたの芝居で立ち直ることが出来ました〟なんて言葉を頂いたりはしました。もちろんそれは嬉しいけど、ピンと来ないところもあったんです。でも舞台ではそれを実感出来た。だから今回もドラマを通して、元気や感動をちゃんと届けられたらいいなって。そう思いながら取り組んだら、今までとは全然違う

やないので上手く伝えられないかもしれないけど、番組の宣伝をする時も、本当に見てほしいという気持ちをぶつけられたらいいのに。〝元気を届けるので見て下さい〟と、いつもより必死に言える気がしています」

井上「舞台を観て凄いなと思ったことがひとつあったんです。最後の舞台挨拶で、一番上の2階席まで手を振ってたよね。あれは凄くよかった。なかなか出来ないですよ」

三浦「毎回そうしてました。来てくれた人達全員に〝ありがとうございました！〟と伝えたい。そういう気持ちで」

——最後に、今日の対談はいかがでしたか？

三浦「凄く印象に残ったのは〝男の子が弱くなってきた〟って話です。もうちょっと強い男の子がいてもいいなって。だから女の子に立ち向かえる勇気を届けられるようなドラマになったらいいと」

井上「それいいね。〝女の子に立ち向かえる勇気が出るドラマ〟」

——なんか、ちっちゃい勇気ですね。

井上「いや現実的で、実は大きい勇気かもしれないよ」

三浦「なるほど。キモいと言われても落ち込まないように。それくらいの勇気が持てる……そのきっかけになるようなドラマに」

——なんか、やっぱり小さい気がする（笑）。

三浦「ははは！」 a

うえ・ゆみこ

家。兵庫県生まれ。立命館大業後、テレビ東京勤務を経て、家デビュー。『きらきらひかる』OD LUCK!!』『白い巨塔』『バ』などの人気ドラマの脚本を担コミカル路線から社会派まで幅作品を手がける。06年には向子賞、芸術選奨文部科学大臣受賞。三浦春馬とは『14才の以来のタッグとなる。

INTERVIEW

桜田 通　Dori Sakurada



小太郎の同級生でクラスメイトの池山智を演じるのは、ドラマの設定と同じく、今年18歳になる桜田通だ。役者として成長中の彼が、初の連ドラで更なる飛躍を目指す!!

文／鈴木貴視

は、サムライが憑依するといった特殊能力を持つものの普段は普通の高校生。その小太郎のクラスメイトとして登場するのが、桜田通が演じる池山智だ。際立った特徴がある訳でもなく、おしゃれにも女の子にも興味がある今時の爽やか男子。学園ドラマには欠かせない1ピースとして、物語をどう盛り上げていくのか。

　舞台『FROGS』や映画『仮面ライダー電王』シリーズなど、役者として成長を続ける現役高校生の桜田通。インタビューが行なわれた当日は、第1話の撮影後ということで衣裳の制服姿を披露してくれた。普段から交流のある三浦春馬との共演、それに加え連ドラ初挑戦ということもあって、本人の気合は最高潮に達した!!

●

　今、凄くテンション高いのは、今回のドラマの現場が楽し過ぎるからなんです。終始ハイテンションな自分に正直困っていて、これから3カ月間、毎日この勢いかと思うとやばいですね(笑)。しかも、僕にとって連ドラは初めての体験ですから。演技の面ではまだまだという感じですが、ドラマの現場は勉強になることが多くて、そこに自分が関われていることが幸せなんです。三浦春馬君や城田優君、岸谷五朗さんなど実力ある方ばかりなので幸せ過ぎてどうしようって。意外にも、こんなに近くで春馬君とお芝居するのは初めてなので、毎日とんでもない刺激ですね。自分が映っているシーンはカットがかかるごとにモニターチェックして、考えたり反省したり。本当に楽しいですし、色々なことを吸収したいなと思っています。

　僕が演じている池山智は18歳で、春馬君演じる小太郎と柳下大君が演じている和田大介と仲のいいクラスメイト3人組という設定です。格好うんぬんではなく、性格的な部分で爽やかな今時の少年。ありきたりの男の子を意識して演じればわかりや

いるので、腕まくりをしてるくらいが見た目的な特徴というか。ごくごく普通の子なので、演じるのが難しいんですよ。個性的なキャラクターを作る時は僕自身をぶっ壊さなきゃいけないので僕が役に近づいていくんですが、今回は池山を僕に近づかせている感じですね。僕と池山の共通点を探して〝こういう時はどうするんだろう?〟とか分析しています。僕と池山の共通点は、テンションが高い時はメチャクチャ高いという部分。そういうシーンでは、素の自分自身が含まれているのかもしれないですね。

　ただ、やっぱり自然に見せることって難しいですし、上手に演じないとわざとらしくなってしまう。だから、普段の生活から〝今のこの感じ、お芝居でも使えたらいいな〟とか思ったりしますよ。この前学校でも、〝クラスの雰囲気ってこんな感じなんだな〟って思いましたしね。その時に一番意識して見ていたのは、何もしていない時のクラスのバラバラ感。よくドラマにあるような目に見えた団結感ではなくて、個々の意志がありながら心の中でどれだけ繋がっていけるかというか。今回のドラマは、クラスが一致団結するということでもないですからね。時にはカメラの位置関係でわざとらしいしぐさになってしまうこともあるんですが、結果的に自然に見えたらいいかなと。

　17～18歳を中心にした学園ものですが、昔の18歳と今の18歳の違いも見えるドラマだと思います。昔の18歳は……真面目だったと思います。勉強していい学校へ進学するとかスポーツを頑張るとか、自分が望んでいるというよりも親のエゴが影響しているというイメージがあるんです。今の18歳は、そういう過去を反面教師にしながら、そうなりたくはないという自我が目覚めているかもしれない。そういう発想って少し子供っぽいかなとも思うんですが、僕もどちらかといえばそういう人間だから、人に指図されるのは嫌ですね。だって、やりたい時に

きたいですから(笑)。そういう意味では、昔に比べて今の18歳のほうが自由な気がしますね。だって僕、怖いものがないんですから。なんていうんですかね、怖いものはあるんですが全て勉強だと思って乗り越えられるというか。今はそういう気持ちなんです。

　ドラマは何かを伝えられる場所ですよね。僕自身も舞台や映画、ドラマを見て色々なことを考えさせられましたから。今回の主役は春馬君ですが、僕も少しでもみんなと一緒にこのドラマを作っていけるんだと思うと、凄く嬉しいです。それを見て何か感じてくれる人がいればいいなと。とはいうものの、今はただお芝居をしていること自体が楽しいですね。これだけいいことがあると、今後やばいっすね。いいことがあると、そのぶん悪いことがあるじゃないですか?　こないだ、携帯電話も大事なサングラスもiPodも時計も壊れたんですよ。だからこんなに楽しいドラマが待っていたんじゃないかって。やっぱりいいことが起きたあとには悪いことが起きる、でも悪いことのあとにはいいことがある。僕は基本的にネガティブなのでポジティブにそう考えないと生きていけないです(笑)。

　このドラマに携われたことで、自分の中の意識が変わったんですよ。大人の方々は僕のことを〝まだ18歳じゃん〟って言いますが、僕の中では〝もう18歳だ!　人生あッという間だ!!〟って思っているんですよ(笑)。だから今、色々なことがもったいなく思っちゃって。ちょうど大学進学とか考えるじゃないですか。ちょっと前までは〝絶対に行かない!!〟と思っていたんですが、僕の人生を考えたら行かないまま終わる可能性があるかなと思って。だったら、やっぱり行きたいなと。本当に1秒過ごすごとに過去になっていってしまう。だから、お仕事の1回1回を本気でやらないと二度と戻ってこないなって。無駄は無駄でいい部分もあるんですが、無駄をなくして1秒を大事にしなきゃなって思うんです。決して

ですが、僕は誰かを追いかけるよりも追いかけられる人になりたいんですよ。近い存在でいえば、三浦春馬君や岸谷五朗さん、ミュージシャンならUVERworld(ウーバーワールド)さん。バカげた発言なんですが、僕もいつかそちら側の人間になれたらいいなと思ってますし、いつまでも何か目標をもって生きていきたいですね。

　今回のドラマでの目標は、本当に最後までやり遂げるということ。やり終わったあとに自分なりに頑張れた、いやもっと頑張れただろうとか色々思うことがあるはずなんです。反省点がある時点で100%ではないんですが、満足した時点で終わってしまうので、自分の悪いところも見つけていきたいなと。連ドラは長い期間お芝居をするので、このタイミングで自分自身と向き合っていきたいと思います。

　『サムライ・ハイスクール』の台本を初めて読んだ時に、凄くテンポが早くて、小太郎にサムライが乗り移って悪をバサバサ切っていく爽快感がいいなって思ったんです。しかも、悪者を退治して正義が勝つ、凄くわかりやすくてシンプルですよね。そういうシンプルさが最近の作品ではあまりないなと思っていたので、いいドラマになるはずです。今回のヒーロー、望月小太郎は、なんのために現代にやって来たんでしょうね。単に悪い人達をこらしめるだけじゃないはずなんですよね。最終回の予想ですか?　小太郎はサムライが乗り移らなくても強くなると思うんですよ。現時点ではどうなるかわからないので、僕自身も完成したドラマを見るのが楽しみですね。ⓐ

さくらだ・どおり

1991年12月7日生まれ、東京都出身。07年に岸谷五朗演出の舞台『FROGS』のカケル役を好演し、ユニクロでのCMでも注目を集める。08年には映画『劇場版 さらば仮面ライダー電王 ファイナル・カウントダウン』で野上幸太郎／仮面ライダーNEW電王役に抜擢。今年は『劇場版 超・仮面ライダー電王&ディケイド NEOジェネレーションズ 鬼ヶ島の戦艦』『海の上の君は、いつも笑顔。』が公開。10年公開予定の『食堂かたつむり』や『BECK』に出演。

“武士道精神”が現代の私立高校によみがえった。世直しに奮闘するサムライ高校生の活躍を見よ!

平凡で気弱な男子高校生が、窮地に陥るとサムライに変身するストーリー。陰惨な事件ばかり取り沙汰される新聞やニュース、長引く慢性不況……。会全体に元気がない現代の日本に現れたニューヒーローが、望月小太郎だ。気持ちがいいくらいに勧善懲悪。日本国民よ、サムライ・スピリットに目覚めよ!

取材協力/日本テレビ



私立千国学院・教頭
城所和夫(54)
金田明夫
校長の右腕。進学率を上げることに一生懸命。



私立千国学院・校長
亀井恭子(52)
室井滋
学校を宣伝する広告塔としてスポーツ特待生と成績優秀な生徒の授業料を免除するなど校内に“格差社会”を作った。



小太郎の父
望月信二(47)
岸谷五朗
ごく普通のサラリーマン。だけど、かつては夢があった。夢を追求するために就職したが、今は営業職に飛ばされ、汗水たらして働いている。小太郎に望月家は戦国武将の末裔と告げる。



小太郎の母
望月圭子(47)
キムラ緑子
見栄っ張りでミーハーな性格。だけど家族のことは大好きなお母さん。

軽視　アドバイス　心配



私立千国学院・数学教師
小太郎の担任
三木サヤカ(28)
市川実日子
夢を持って教職に就いたものの、経営を重視する学校と覇気のない生徒に失望し、わりきって働く日々。しかし、変身した小太郎により、冷え切った情熱がよみがえることに。

見直す

私立千国学院・3年F組　真田幸村の家臣
望月小太郎(17)
三浦春馬





イケメンで頭も悪くないが、内気な性格で女子ともまだ付き合ったことのない男子高校生。歴史図書館で読んだ古文書をきっかけに窮地に陥るとサムライに変身するという特殊能力を身につけてしまったことから、学園内の様々な問題を解決することに……。

叱咤



小太郎の妹
望月優奈(16)
大後寿々花
兄との口ゲンカでは負け知らず。成績優秀な“肉食系女子”予備軍。しかし、意外にもろい一面を持つ。



小太郎の幼馴染みでありクラスメイト
永沢あい(18)
杏
幼少のころから小太郎に好意を抱いているのだが、本心とは裏腹に、小太郎の前に出るとついつい憎まれ口を叩いてしまう。小太郎の成長を心の底から願っている。

恋心!?

慕う



小太郎のクラスメイト
中村剛(18)
城田優
身体は大きいが勉強も運動もダメで家も貧乏。いじめっ子に万引きを強要されているところを変身した小太郎に助けてもらい、以来、「初めて友達が出来た」と思いこんで、小太郎にくっついて回る。

謎の古文書を見せる　気になる

友情



小太郎のクラスメイトであいの親友
南百合香(18)
小林涼子
あいが小太郎に想いを寄せていることを知っており、ことあるごとに、恋に不器用なあいの背中を押す。



東雲歴史文庫・司書
綿貫ひみこ(?)
ミムラ
小太郎がサムライに変身するきっかけを与えた人物。年齢不詳で容貌もミステリアス。



交番の巡査
本山弘(28)
金子ノブアキ
元暴走族のおまわりさん。少年少女への面倒見はいいのだが、説教くさいのがたまにきず。

ヘタレ男子高校生・望月小太郎が“サムライ”に変身。そのストーリーは?

普段はいたってフツーの、いやむしろ弱々しい男子高校生が突然、戦国時代のサムライに変身し、学園内の様々な問題を解決していくという、荒唐無稽だけど夢のある物語。『サムライ・ハイスクール』の、日常的なリアリティーと非日常のスペクタクルが同居する不思議な筋立ては、一度見ると釘づけになってしまう。そのストーリーを再確認しよう。













小太郎に乗り移るサムライはご先祖様なのか、それとも一体……?

私立千国学院高校に通う望月小太郎(三浦春馬)は、高校3年の秋を迎えたというのに、まだ志望校も決まっていない状態。成績優秀な生徒やスポーツ特待生を広告塔として入学させている千国学院の学園内は、優遇される一部の生徒と一般の生徒達の間に格差が広がっている。これといった取り柄のない小太郎は、当然のこと成績優秀でも特待生でもなく、日々をまんじりと過ごしていたのだった。同級生で幼馴染みの永沢あい(杏)は、そんな小太郎にややあきれ顔。ある日、偶然入った図書館で司書の綿貫ひみこ(ミムラ)と出会う。手渡されたのは1冊の古文書。その本に描かれていたのは、400年前の大坂・夏の陣で真田幸村の軍勢で闘った武将の雄姿だ。その武将の名は、小太郎と全く同じ「望月小太郎」だった。しかも、小太郎と同じ17歳の武将……。その瞬間、太刀を手に敵陣へと走る自分自身の姿がフラッシュバックするのだった。父の信二(岸谷五朗)に話すと「うちの先祖は長野の出身で真田家に仕えたことがある」という。ある時、あいからの知らせで、同級生の中村剛(城田優)が万引きを強要されていると聞き、急いで現場に行くも助け出す勇気が出ない小太郎。階段から転げ落ちたその時、「我こそは真田幸村が家臣・望月小太郎なり!」、眼光鋭く変貌し、小太郎の身体にはサムライの人格が乗り移ったのだ。こうしてサムライ高校生となった小太郎の元には、様々な学園内の問題が降りかかってくる。助けたことで彼を慕うようになった剛やあい達の応援を背中に、小太郎は強くたくましく成長を続けるのだ。

ひ弱な男子高校生が"サムライ"に変身する荒唐無稽な設定はどうやって生まれたのか?
『サムライ・ハイスクール』誕生秘話を語るのは、プロデューサーを務める荻野哲弘。
井上由美子のオリジナル脚本とキャスト陣の魅力はとてつもない相乗効果を生んだ。

プロデューサー　荻野哲弘

文／田中大

——『サムライ・ハイスクール』が企画されたのはどういうきっかけがあったのでしょうか?
「まず今回のチーフディレクターである佐藤東弥と、脚本家の井上由美子さんで最初に土曜9時のドラマについて話があって、それが昨年12月ごろのことでした。井上さんは、しっかりとしたカラーのある枠だということで、土曜9時のドラマに興味を持って下さっていて。そういうことで、佐藤から声がかかって、プロデューサーとして参加するようになったんです。実際、『火垂るの墓』や『14才の母』などでタッグを組んでいる脚本家と演出家コンビなんですよ。僕が企画に参画した時はまだ完全に決定した訳ではありませんでしたが、三浦春馬君にお願いしようかということに……」
——高校生にサムライが乗り移るというアイデアに行き着くまでには、どんな経緯があったのでしょうか?
「やっぱり企画を考える時は色んなアイデアが出ては消えていきますから、ディスカッションによって今のアイデアに固まっていったというか。ただ、当初から考えていたコンセプトがあって……。最近の若い男の子に元気がないでしょう。ただ、彼らは本当にダメな子なのかというと決してそうではないんです。きっかけさえあればもっと力を発揮して、元気になれるはずですよね。それは子をもつ親である佐藤も同じように感じていると思います。では、そのきっかけってなんだろうというところからどんどん企画が育っていき、さえない高校生がサムライに変身するという設定に決まりました。このドラマの"変身"こそ、男の子が元気になるきっかけの象徴なんです」
——この設定で三浦さんにオファーする時の話をお聞かせ願います。
「やはり『14才の母』で井上脚本×佐藤演出を経ていることもあり、全幅の信頼を置いて頂いている中で、お話出来たことが凄くありがたかったですね。ちょうど我々が出演をお願いをするころ、夏くらいだったかな? 春馬君は初舞台の稽古を始めていたんですね。それが岸谷五朗さんが作・演出を担当された地球ゴージャス『星の大地に降る涙』でした。我々も観に行ったんです。このお芝居も時代劇で、僕らもサムライ高校生をお願いしようと思っていたので、ホントに偶然が重なりました。僕も『ごくせん』のスペシャルと映画版で春馬君とご一緒していて、現代の人物を演じる彼はすでによく見ていたんですけど、この舞台で変身した先の春馬君の姿を舞台で観たというか……。武士を演じている春馬君は素晴らしくて"これはイケる!"という感触を得て、みんなで明るい気持ちになったのを覚えています」
——キャスティングについてもお教え願います。基本的には荻野さんが決めるのですか? それとも合議ですか?
「合議ですね。今回はオリジナル作品であることもキャスティングに影響しています。例えば原作がマンガの場合は、キャラクター性や髪型を近づける必要が出てきますけど、今回の場合はそういう縛りがなかったので。城田君の役なんて、ライバル役という設定はどうだろうという意見もあったんですよ。だけど、全くもって新しい城田君を見たいという気持ちがスタッフにあり、いじめられっ子の高校生の役をお願いしました」
——ご本人もそこが楽しいとおっしゃっていました。
「オファーにもすぐに応えて頂いて。城田君は『こういう役がやりたかったんです』と言ってくれて。衣裳合わせの時、髪を金髪から茶髪にして来たんです。キャラクターを意識して、手をモゾモゾしたり、役に合ったアイテムを提案したり、監督と熱心に話し合っていました」
——杏さんのキャスティングのきっかけはなんだったのですか?
「受け身のヒロインではなくて自分の意志で動くタイプの女性を、彼女なら出来ると思ったんですね。個人的な話ですが、『おしゃれイズム』のスペシャル番組に出演していた杏ちゃんの自然体で飾らない雰囲気に惹かれたんです。それで『櫻の園』を観たりはしたけど、そのころご本人にはお会いしていなくて。それで佐藤と僕は"杏ちゃんってどんな子なんだろう"と思い、生田スタジオに行って『華麗なるスパイ』の撮影の様子を見に行きました。自然な感じで、一貫したスタイルをもつ人だなと感じました」
——三浦さん始め、フレッシュな3人が集まったように思います。
「見ていて壮観ですよね。スタイルのいい3人が集まった写真を見ると本当に絵になるなと思います。番組宣伝のインタビューで3人が揃ったところを見ると、とてもいい感じです。春馬君はナチュラル、城田君は気遣いの人、杏ちゃんはしっかり者。それぞれの個性が際立つんですよ」
——ベテラン勢もまた個性的な面々が揃いました。
「やはり岸谷さんにお父さん役を引き受けて頂けたことは大きいです。通常、学園ドラマではあまり家族を描くことがないのですけど、井上さんに書いて頂く脚本では、家族のシーンも結構割いて頂いています。息子が父親を超えることも、つまり男の子が成長する側面も描きたいんですね。そうなるとお父さん役のキャストはとても重要です。存在感のある役者さんを起用したい。岸谷さんのキャスティングには佐藤の強い願望がありま
た。『一番大切な人は誰ですか?』で佐藤と岸谷さんは仕事をしてい
以来、お互いをリスペクトする関係が築かれているんです。ふたりが話
ているところでは男同士の友情を強く感じますね。もちろん、地球ゴージ
スに続いて春馬君と芝居することへの楽しみもきっとあると思います」
——『14才の母』では三浦さんの母親を演じた室井滋さんが校長
生役を演じます。
「生徒ばかりいる学校のシーンで空間をピシッと締めて頂けるベテラ
の方を考えた時、男の校長と女性の教頭という定番パターンの逆を
こうと考え、ならば校長先生役には室井さんしかいない。岸谷さんと
様に、満場一致でお願いすることになりました」
——原作モノのドラマが増えていく時代に、オリジナルの脚本で勝負
る意義は大きいと思います。最後に、井上由美子作品の魅力につい
お聞かせ願います。
「いやあ、ひと言でまとめるのはなかなか難しいですね。ホントに色んな
力があり過ぎて……。敢えて断片的な言い方をしますが、勘弁して下
い(笑)。まずは、普通の土曜9時のドラマと違い、家族のシーンがメチ
クチャ面白いんです。学園モノだから学校メインで、お茶の間のシーン
ほんの少し添える程度でもいいはずなんですけど、そういう細部にリア
ティーを感じるんです。"ああ、お母さんってこういうこと言うんだよね"と
わせるセリフが詰まっています。"そうそう、お父さんってこういう風に尻
敷かれるんだよね"とか(笑)。そんな光景がとてもドラマらしくて、"劇的
アリティー"を感じるというか。なんか思い当たるなあ、という場面、それ
登場人物の関係性から生み出されるのが凄いなあと思います」
——そういう人間関係がオンエアとともに育っていくスリリングさがあり
すよね。
「それが連続ドラマの面白さだし、井上さんがオンエアをご覧になって、また
わっていくだろうなと思うんです。それが僕も個人的に楽しみなんですよ」

おぎの・てつひろ
1969年、広島県生まれ。日本テレビ入社後、ドラマのプロデュースや演出を
める。演出作品に「P.A.」(98年)、「サイコドクター」(02年)など。プロデュー
ーとして「レッツ・ゴー!永田町」(01年)、「ぼくの魔法使い」(03年)、「有閑倶
部」(07年)、「ヤスコとケンジ」(08年)などを手がけた。

『サムライ・ハイスクール』をもっと楽しむプラスα

三浦春馬が読んだ『武士道』とその著者は?



ドラマ『サムライ・ハイスクール』で主演するにあたり、三浦春馬が読んだ1冊の本がある。『武士道』と題されたその本は、武士が守るべきものや道徳の作法を説いたものだ。この著者が、かつて5000円札の肖像だった新渡戸稲造。そもそもは英語で書かれたため新渡戸の『武士道』は世界中で読まれている。海外で活動し、青年の教育の研究に費やした生涯だった。ちなみに、日本語訳された『武士道』は文庫や新書などで出版されている。

三浦春馬が観た映画『壬生義士伝』

三浦春馬がこれまでに感動した時代劇として挙げるのが中井貴一主演の『壬生義士伝』だ。混乱の幕末時代を疾走した男の生き様を鮮烈な映像で描写。『おくりびと』の滝田洋二郎監督がメガホンをとった。小太郎の役作りの参考にしたのかもしれない??



©2003 松竹／テレビ東京・テレビ大阪／電通／衛星劇場／カルチュア・パブリッシャーズ／IBC岩手放送

03年／本編137分＋映像特典約103分／4,935円(税込)／㊐松竹株式会社　株式会社電通　㊑松竹株式会社映像商品部／2枚組／発売中／監督:滝田洋二郎／脚本:中島丈博／出演:中井貴一　三宅裕司　夏川結衣ほか

そして"歴女"となったアナタへ



昨今の"歴女"ブームも、このドラマがサムライを登場させるきっかけになったと編集部は推測。『サムライ・ハイスクール』で戦国時代に興味をもったアナタのために、入門編として楽しめる1冊をご紹介。生年月日による性格傾向と行動パターンを分析し、24タイプの武将に分けて診断してくれる。人間関係や恋愛傾向などを楽しみながら占える。
『戦国武将占い』
著／四条さやか　価格／1,050円(税込)　発行／エンターブレイン

180度変わる!
三浦春馬の眼光に注目






まずは上に掲載された4枚の写真に注目だ。いかにも情けない高校生の小太郎が、ひとたび変身すると眼光鋭い若きサムライの目に! 妹との口論ではいつも負けてしまう兄である小太郎も、窮地に陥り、不良女子高生達とも互角に戦うのだ(ただし、みね打ち)。一人二役とも様子の違う、特殊な設定にも拘らず、自在に演じる三浦春馬の演技はこのドラマを楽しむ最大の肝。現代を舞台にしながら時代劇気分を味わえるお得な構造が憎い。

肉食系? 草食系?
オトコ達の"サムライ"模様

本作『サムライ・ハイスクール』が企画されたきっかけには、"草食系男子"という言葉に代表されるように、昨今の若い男の子に元気がない現実へのエールという意味合いが強くあるようだ。ヘタレ高校生の小太郎がサムライに変身することが、すなわち"草食系男子"から"肉食系男子"へと変貌を遂げることを意味しているとも言える。そんな中、注目のキャストがふたり。ひとりは草食系パパと表現してもよさそうな、父・信二を岸谷五朗が演じる点。ぼんやりとしたお父さんぶりに着目したい。また、元暴走族の過去をもつ本山巡査役には金子ノブアキが扮する。文字通り肉食系の自由な演技にますます期待したい。





TAKAO OSAWA
Dsquared




蝴蝶网
hudie.com



CLOSE UP!

大沢たかお

日本映画界を代表する俳優、大沢たかおが日曜劇場『JIN—仁—』で8年ぶりに連ドラ出演を果たす。なぜ現在、ドラマなのか。映画とドラマの違いは? そして、ドラマや役に懸ける意気込みや不安……。様々な問いかけに真っ直ぐ、真面目に、真正面から真摯に答えてもらった。

撮影／宅間國博　スタイリスト／中川原寛(CaNN)　ヘアメイク／神川成二(watts)　文／高山亜紀

プラスアクトミニのための撮影が終わったのは、22時。その日、朝から12誌もの取材をこなした大沢たかおは、最後まで疲れた顔を見せることはなかった。それどころか、終始笑顔。そういえば、何度か取材をしたけれど、彼が嫌な表情をしているのを見たことがない。そして、どんな質問にも自分の言葉で、真正面から真摯に答える。その発言はあくまでも真っ直ぐで、前向きだ。ポジティブな人というと、ハイテンションなイメージを持たれそうだが、彼の場合、夏のぎらぎらした太陽ではなく、春の陽だまりを思わせる。いつの間にか周囲を暖かくしてしまうような、そんな不思議な魅力に満ちた人である。その彼がドラマ『JIN—仁—』で、日曜夜の顔になる。週末を過ごした人々が〝月曜から、また一週間、頑張ろう〟と思える、そんなドラマにふさわしい人材は、なるほど、彼しか思い浮かばない。

——8年ぶりのドラマ出演ですが、どんな感覚ですか?

「僕がドラマをやっていた時とは、随分と形が変わっているから、〝あの時は、こうだったのに〟という感覚はないんだけど、数年、別の世界で仕事をして戻ってきたから驚きはありますね。こういうテンポ、スピードなんだな、と。一番驚いたのが台本。僕が最近やっていた映画の台本とドラマの台本は全く別のものなので、そこに対する戸惑いが一番大きいですね」

——どのように違うのでしょうか。

「それは、劇場でお金を払ってお客さんが集中して観るものと、お茶の間で通り過ぎながら見られるものの見せ方の違いなんだと思うんです。映画って、余程ひどくない限りは2時間観てくれる。でもドラマはそうじゃない。そういう意味では同じ感動を伝

も違う訳じゃないですか。だから、台本の段階でも当然違わないとおかしいですよね」

——ドラマと映画で、大沢さん自身が何か変えているところはありますか?

「ドラマと映画で、極端に自分の中で何かを変えている訳ではないし、〝ドラマの感覚が戻って来た〟という気もさらさらないんです。8年前の自分に戻る気もないし、ドラマも進化していると思う。当時やっていたものと現在のドラマの在り方では、時代も撮り方も違うし、お客さんも変わってしまった。むしろ僕としては、現在のドラマを作っている人達のやり方に自分が入ることによって、どんな化学反応が起きて、どんな新しい面白いドラマが出来るかってことしか考えていないんですよね。実際に『JIN—仁—』の台本を読んでみると、スケール感、重厚感があるものなので、やはり今までのドラマとはちょっと違う感じのものになるのかなという印象です」

——ドラマに出演しようと思った理由は何かあるんですか?

「声をかけて頂いて、台本を読んだ時に凄く面白かったということですね。そして、自分がやってみたいと本当に

——今回、演じる仁という人物はどういうキャラクターでしょうか。

「なんか凄く人間味溢れるキャラクターなんです。僕がそういうキャラクターにしてしまったというのもあるんだけど、長所もあれば短所もあるし、光もあれば影もある、隙もあって、一生懸命になり過ぎちゃうところもあるんですよね。現代だけじゃなく、タイムスリップした江戸時代の人さえも動かしてしまうのは、彼が持っている技術だけじゃなくて、彼のキャラクターによるところも大きいんじゃないかな。そういうところが自分では気に入って演じていますね」

——魅力的なキャラクターですよね。

「いや、僕としては、魅力的になればいいなぁと思っているんです。魅力って難しいから」

——実際、演じてみていかがですか?

「台本を読んだ時、どこかテレビの画面からちょっとはみ出るような感じがいいなと思ったんです。基本的にドラマの一定のリズムから、ちょっとずつずらした芝居をしているので、見る人は最初は違和感を感じるかもしれない。でも、そうやって、ちょっとだけずらすことで人間味を出したいという

の登場人物って、人間っぽいほうがいいと思うんです。なんか、ありきたりのリアクションとか、〝ここはカットバックで寄りがあるから、こうしました〟というような感じを全部ずらすことで、みんなの期待をちょっとずつ裏切りつつ、でも、その中に生きている生命力みたいなものを感じてもらえればいいかなぁと思ってはいるんだけど。僕もまだ実験しながらなので、わからないけど、物凄いコントラストのある人物にはなっていると思います」

——その実験的な演技に対して、監督は何かおっしゃっていますか?

「監督は諦めているみたい(笑)。最初から放任みたいな感じだから、わからないですね。例えば台本を読んだ段階で、1時間の何分目はこういう演技をしておけばいいという計算が、やろうと思えば出来るんです。でもそれをやったら、多分、お客さんは振り向いてくれないんだろうなぁと思うんですよ。だったら、計算なんて全部飛ばしてね。僕がこれまでにやってきたドラマにも映画にも一切ないような、ありのままの表情を映し出すには、自分が計算しないようにするしかない。もう大根でもいいから、自分のままでやってみようかな…と。だから

大根のシーンがあると思う。でもね、僕はそれでいいと思う。ドラマってそういうものだし、だからみんなが興味を持ってくれたりする訳だから」

——一番共演シーンの多い、咲役の綾瀬はるかさんの反応はどうでしょうか。

「きっとやりにくいと思うんですよ。凄く不規則な芝居をしているし、わざとやっている訳ではないんだけど、テストの度に違うから。でも、そういうことも認めてくれている感じがするんです。それって、難しい人には難しいこと。だから、とりあえず仁という人間を演じるには、彼女なしには難しいかな。多分、この物語の中でも、彼女のいるシーンといないシーンではちょっとずつ、ニュアンスが違うと思うんですよ。助けられているという語弊があるけど、傍にいてくれないと困る人になっていますね。なんか頑張れるんですよね。仁も、咲がいてくれるから頑張るんです。その関係に凄く近いので、感謝しています」

——仁を演じる＝大沢さんのありのままを見せたいということは、彼のキャラクターが大沢さん自身に近いのでしょうか。

「そういう感情はないです。ただ、丸裸で付き合わないと乗り切れないかなという感情が凄くあるんです。たくさんのスタッフやキャストの人達と一緒に12カ月乗り切るには、理屈や頭で考えていては応えられないし、ほかに選択肢がない。そんなシンプルな理由です。なんと思われようと、〝自分がもう、そのものになっちゃえ!〟と。かっこわるいとか、イメージが違うとか、どう思われようが構わないと思っているんです。それが僕だし、今回縁があって仁を演じる大沢たかおな訳だから、それを丸々見せちゃおうと思う。結果はわからないけれど、ただ

[illegible]なんです」

——大沢さんが仁に対して、一番惹かれている部分はどこですか？

「人ってどんな逆境の中でも生きて行くしかないですよね。だけど、僕が仁みたいにタイムスリップしたら、どうだろうか…。引きこもってしまうかもしれないと思うんです。やっぱり自分の生きている世界が恋しいし、自分の家のベッドで寝たいと思うでしょう。友達や自分の家族に一切会えないという環境に置かれたら、現状を受け入れて精一杯生きようとは、僕は思えないんじゃないかな。どうしようもないくらいに、どんどん落ちていってしまうような気がします。でも、仁は違う。未来がどうであれ、現在与えられた状況で、自分の持っている能力の全てを使って生きようとする。そこが凄く魅力的なんです。それが現在を生きている人達へのメッセージになって、勇気として届けばいいなって思っているんです」

——『神は、乗り越えられる試練しか与えない』という仁の言葉に勇気づけられる人も多いと思います。大沢さんは逆境にいる時、どんな言葉に支えられますか？

「僕なんか逆境ばかりだからなぁ(笑)。答えになっているかどうかわからないんだけど、きついなぁ、乗り越えられるかなぁ、大丈夫かなぁとかそういうのがないと、結果として喜びが少ないんです。簡単にやった仕事というのは、ろくな結果が出ない。経験からいえば、物凄くもがき苦しみ続けた作品は、その時はどん底でも結果が明快に出るんです。だからこのドラマもそうだけど、逆境も望んで突っ込んで行くべきだと思うし、逆境のない簡単だと思う仕事は絶対にやらない。だって、やばいなぁと思ったら、自分が閉ざしている蓋をなんとか開けない限りは乗り越えられないですよね。そこまで追い込まないと結果は出せない。今回の撮影も1カ月経って、昨日ようやく初めて、〝もしかしたら、これ、いけるかも〟という希望の光が見えてきたぐらいなんです」

——何か特別な撮影があったんですか？

「いや、別にそういう訳じゃなくて、雨の中で待っているスタッフみんなの顔を見た時にそう思ったんです。連日物凄くつらい撮影で、それでもみんなキラキラしていた。正直、この1カ月、僕には周りの人が見えてなかったんだけど、ふと待っている間に、朝から一緒にやっているキャストの人達や、何日も頑張り続けているスタッフみんなの姿を見たら、自分の中でなんか光がパンって射して来たような気がしたんです」

——『人は人によって、救われる』。ドラマのテーマみたいですね。

「そうですね。そうなればいいと思う。そういえば、3日ぐらい前に気づいて凄いショックだったんだけど、レギュラーのほとんどの人が僕より年下だったんです。なんで収録の合間に、みんなが椅子を持って来てくれるんだろうと思ってたんだけど、あれっていたわってくれていたのかな(笑)」

——スケジュールも過酷そうです。

「もちろん休みはあるんだけど、凄く丁寧に撮ってるし、時間もかかる撮影なので、ほとんど現場にいますね。最近は控え室にも帰してもらえない(笑)。それでも凄くいい現場なので、自分にとっては大切な場所でもありますね。現場に入ると僕は莫大に喋るので、そのぶんやらなければならないこともあるし。のん気にやっている時間はないですね」

——しかも、コレラを患った設定のために、随分減量したそうですね。

「僕だけじゃなくて、ほかのキャストの人も減量しているのに、そこで僕が太っていったらまずいよね(笑)。そ[illegible]

特にドラマをやるんだったら、それは最低限のマナーだと思う。デビューした時、ドラマの現場に行ったら、物凄い緊張感があったもん。それは現在も変わらないです。毎日、〝これがブラウン管に流れてるんだ〟って恐怖を感じてる。あ、もうブラウン管って言わないか。液晶か(笑)。そこから流れたものを好き嫌い関係なく、ものの見事にみんなが見てしまう訳でしょう。映画はある程度興味がある人しか観ないからいいんだけど、テレビの場合は、さっと流れたもので嫌われてしまって、二度とドラマを見たくないなんて思われたら、もう終わりですよ。そこは自分の責任だし、だったら、後悔する前に自分のやるべきことをやらなきゃと思って」

——医療シーンも吹替なしだそうですね。

「そこも自分でやらないと。人の手を借りたドラマなんて、今のお客さんは見ないと思う。まして最近は海外ドラマとか、いっぱい見ているんだから。今回は順天堂大学病院の先生方が協力して下さって、レクチャーを受けたり、手術を見せてもらったり、いつも現場にいてもらっています。ほかの番組って、僕はあまり見ないんだけど、よく手元だけ本物のお医者さんになったりするじゃないですか。あれ、苦手なんですよね。先生方の話だと、手元だけでどこのどの先生だかわかるそうなんです。それは嫌だなって思うから」

——タイムスリップで医療もの、今後はラブストーリーの側面もあるそうですね。

「最初に原作を読んだ時、医療のことやタイムスリップするのももちろん面白かったんだけど、咲や野風(中谷美紀)との関係が凄い好きだったんです。現代では、なかなかないシチュエー

娘として、生きなければいけない形があるし、花魁の野風は外に出られない自分の運命がある。その中で人を好きになったり、思いを寄せたりすることって、凄く素敵だなって思ったんです。現在なら、好きなら好きってすぐに言える。それがいけないとは言わないけど、人と人との愛情ってそんなに簡単じゃない。この作品には愛の在り方とか、人を好きになる意味とか、現代の人達が戒めなくてはいけないこととかが、さりげなく入っていると思うんです。だからこそ、この恋愛の部分も凄く大事だと思っているんですよね」

——あの時代にあって、現代に失われているものとは、どんなものだと思われますか。

「実際にその時代に生きた訳ではないからわからないんですけど、単純な話、ものが豊かになっていくぶん、心が貧しくなってしまうことが反比例であるんじゃないかな。当時は物もないし、食べ物も現在みたいに、どんなものでも食べられるという訳ではないけれど、そのぶん心が豊かだったんじゃないかと思うんです。もちろん幕末だったから、閉塞感がある時期ではあったと思う。でも、好きな人とも結婚出来ないとか、それぞれ色んな事情があっても、人々の笑顔が輝いていたように思う。そういうところが現代とは全く違うのかなぁと思ったりしますね」

——『月曜からまた頑張っていこう』と思える、日曜の夜にふさわしいドラマになりそうですね。

「それは絶対、自信があります。そこは大丈夫だけど、度合いはわからないな(苦笑)。そもそものテーマとして、登場人物達の姿や表情、生き様を見せることで、みんなに元気とか勇気とかが伝わってほしいという思いがあ

し、真っ直ぐに生きている人達しか出てこない。だから見ていて、いやらしくないんですよ。その時代の人達が思いきり笑ったり、泣いたりしたように、僕らもそれぞれ、凄くストレートに芝居をする。はっきり喋るしね。僕らなんて、現在の時代や社会をどこか信じていないところがあると思うんです。でもあの時代って、家族とか、仲間とか、まだ何かを信じていられたのかな。だから、くさいことも言えるし、思いっきり走れる。そういう感じが画面から、12月まで溢れ出ていけばいいなと思っているんです」

——楽しみですね。

「いやぁ、ちょっと言い過ぎたかなぁ(笑)。正直、まだ自信はないんですけどね」a

おおさわ・たかお

1968年3月11日東京都生まれ。大学在学中からモデルとして活躍し、94年ドラマ『君といた夏』で俳優デビュー。以後、大ヒットドラマに次々と出演。04年、『解夏』で日本アカデミー賞優秀主演男優賞、06年『地下鉄(メトロ)に乗って』で日刊スポーツ映画大賞助演男優賞及び日本アカデミー賞優秀助演男優賞を受賞するなど、その後は映画を中心に活躍する。08年『ラブファイト』ではプロデュースも手がけた。連続ドラマ出演は01年『昔の男』以来、8年ぶり。
オフィシャルサイト
http://www.coreinternational.jp/

日曜劇場『JIN―仁―』

原作／村上もとか『JIN―仁―』(集英社『スーパージャンプ』連載中)
脚本／森下佳子
演出／平川雄一朗　ほか
プロデューサー／石丸彰彦　津留正明
出演／大沢たかお　中谷美紀
綾瀬はるか　内野聖陽　ほか

脳外科医の南方仁(大沢たかお)には、自分の手術によって植物状態になってしまった婚約者の友永未来(中谷美紀)がいる。ある日、救急で運ばれてきた身元不明の男の手術をしたことがきっかけで不思議なことが起こり始め、突然現代から幕末の江戸へタイムスリップしてしまう。自分が置かれている状況が理解出来ないまま、何者かに襲われて額を割られた若い侍・橘恭太郎(小出恵介)と出くわす。もう助からないだろう…と諦めかける恭太郎に、満足な医療器具も薬品もない中オペを施し、命を救うことに成功。その後も様々な病魔から救い出す仁に、恭太郎の妹・橘咲(綾瀬はるか)が興味を持ち始める。仁は現代へ戻ろうと奔走するが、あの坂本龍馬(内野聖陽)と出会い、親交を深めていくのであった…。
TBS系にて、毎週日曜夜9時より放送中


CLOSE UP!
TEPPEI KOIKE







『ドラゴン桜』の時から考えていたこと。その前までの作品では、キャラ的にあまり立ってへんなとか、俺、中途半端やなって失敗したことが結構あったので、それ以来色々と考えるようになったんです」

——そういうやり方をするようになってから、変わりました？

「だいぶやりやすくなりました。自信を持ってやらないともったいないから、自分で決めたものは最後まで貫き通そうと思うようになったんで。今はそれを迷いなくやってるし、そのほうがずっとやってて楽しいですね。だから、今回もさっき言ったように、自然体で草食系男子をやろうと思ってるんですよ。ただ、まだホン読みもしてないんで、これは、観月さんはこう来るだろうなっていう、僕の予想を前提にした話ですけど。全然違ってて、超ナルシスト系だったら、ごめんなさい（笑）」

——了解です（笑）。それにしても、徹平君自身にも、自分は草食系だと世間から思われているっていう自覚があるってわかったのが、今ちょっと面白かったです（笑）。

「ありますよ（笑）。そう思われてるやろうなっていうのはわかりますし、自分で客観的に見ても、ああ、これは草食系やと思われるわって思いますから。ただ、さっき言った資料を読んで、本物の草食系を知った時は、なんやこれ!?　って思った。僕自身やったら、友達にはなれないタイプだと思います（笑）」

——芝居だからこそ、出来ること。そういう意味では、今回は草食系男子を思いきり楽しもうという感じですか？

「そうですね。楽しむべきだと思います。ありがたい役やと思ってますから。逆に、自分は肉食やのに、肉食を演じろって言われたほうが、えっ!?ってなる気がする。本当は肉食やのに草食やと思われてる自分が草食を演じるのが、なんか楽しいんですよ」

——わ〜、ピッタリピッタリ！　って、みんなに言われるのを楽しむみたいな（笑）。

「そうです（笑）。そう言われるのがベストな役やと今回は思いますね」

——でも、本当は肉食の徹平君から見ると、真一って、どう感じます？　最初のころの彼は、将来への展望がなかったり、向上心がなかったりするじゃないですか。

「そうなんですよね。ちょっと可哀想。何が人生楽しいんかな？　好きなものを1個くらい持っててもいいのにって思います。だから、真一は、せっかく教師の仕事が来たっていうのに、ああ、もう辞めようかなとか言うんですよ。それが僕は凄く新鮮。僕は、そんな気持ちで仕事をやったことないですからね。でも、たとえ草食系じゃなくても、今時の若い子には、そういう人っていそうに思えるんですよ。すぐに、〝もう嫌だな〟とか、〝疲れたわ〜〟って言っちゃう感じの。だから、そういう仕事にやりがいを感じていないような人にも見てほしい気がしますね」

——多分、真一は里美と出会うことで変わっていくんでしょうしね。

「僕の予想では（笑）。っていうか、そうあってほしいですよね。真一みたいなタイプは、かわいいとか癒されるとか言われて、甘やかされて生きてきたんだと思うんですよ。里美みたいに、自分に対してハキハキものを言ってくれる人がいなかった。だから、里美のことも、最初は、〝うわっ、ガミガミ言ううるさい人やな〜〟って感じていたと思うんです。でも、徐々にそれを受け入れることによって、真一が成長していく。その様を今の人達に見てほしいなって思うし、そうやって成長した真一を見ることで、何かを続けることの大事さをわかってほしいなって思いますね」

——最初は、里美のことをうるさいなって思っていた真一も、だんだん自立して生きてる里美に憧れを抱くようになり、それが恋愛に発展していくのかもしれないですよね。ちなみに、徹平君自身は、里美みたいに自分を持ってたくましく生きてる女性って、かっこいいと思います？

「思います。素敵だなって思いますね。でも、すげえかっこいいなって思えるのは、同じ職場の人とか上司とかだった場合。自分の彼女とか付き合う人にあんなにバリバリ頑張られたら、ちょっと嫌やなって思うところがあるかもしれませんね。男としてプレッシャーやし、それ以上に頑張りたいって僕だったら思いますから」

——ああ、そうか！　真一みたいな性格だから、恋愛出来るのかもしれないですね。

「そんな気がします。おっとりしていて草食系だから、里美に合っていると思うんです。僕だと、そこまでバリバリ頑張るのは、ちょっとやめて頂きたいですから（笑）。バリバリ働くのは素晴らしいことやから、やめろよ！　とは言えないんですけど、そこまでやらなくてもええんちゃうのっていう（笑）」

——そこは男としてのプライドが（笑）。

「ありますね、やっぱり。だから、僕だったら嫌ですね」

——むしろ引っ張りたい。

「そうですね。どっちかっていうと」

——年齢も立場も違い過ぎますもんね、里美と真一。かたや学年主任で、かたや臨時職員。収入も全然違うし。

「超肩身狭いですよ（笑）。申し訳なさ過ぎます。年下でおっとりしてる真一には里美はピッタリなのかもしれないですけど、僕自身は、ちょっと無理ですね」

——じゃあ、徹平君の理想の女性像は？

「やっぱり女性らしい人がいいですね。バリバリ働いているのも素敵やけど、僕は、わりと頼られたい気持ちが強いので、もうちょっとかわいらしい感じが好きです。それに、慣れ親しんでいっても、女性らしくあってほしい。常に完璧でいろっていう訳じゃないんですけど、ずっと女性ならではの魅力を感じていたいなって思いますから」

——付き合いが長いからって、態度が弛むんじゃなく（笑）。

「そう！　弛まんといてほしい（笑）。ある程度は気を使ってほしいですね」

——そういう意味でも、料理とか家事は苦手で、家の中は散らかり放題っていう里美は真逆ですよね。やっぱり真一みたいなタイプだからこそ、それをフォロー出来るのかも。今の時代ならではのカップルな気がするだけに、ふたりの恋の行方は楽しみですね。

「そうですね。僕としては、真一にもうちょっとしっかりしてもらって、ふたりには上手くいってほしいんですけど。出来れば、結婚までいってもらいたいと思ってます」

——それと徹平君が女子高の教師っていうのも見どころですよね。女子だらけの中に投げ込まれる訳ですけど（笑）。

「男子の夢ですよね（笑）。女子高の先生になる！　って言うヤツ、クラスにひとりはいなかったですか？（笑）ただの先生じゃなく、女子高の先生に（笑）。しかも、真一は生徒達からもモテモテらしいので、まさに理想的。夢のような役をやらせて頂いて、ありがとうございますっていう気持ちですね（笑）。ただ、草食系なのが残念ですけど（笑）」

——だから、チヤホヤされても、あまり興味を示さないんですよね。

「そうなんですよ。それに真面目やから、生徒から〝相談があります〟って呼び出されると、明らかに怪しいのにう。そういうところが残念だなって思いますけど（笑）、かわいらしいところでもありますよね。だから、そこをどう演じたら、より面白いかな？　って、凄く楽しみにしてるんです」

——きっと、生徒達にも先生達にも、いじられまくりますよね。

「それ大歓迎です。いじられるの最高（笑）。ジャンジャンいじってほしいですね（笑）。でも、女子高が舞台っていうことは、現場でも周りは女の子ばっかりっていうことじゃないですか？　それは嬉しいっていうより、逆にちょっと気まずい気がします。やることなくて、端っこで小さくなってるっていうか。何杯飲むねん！　って言われるくらい、ずーっとコーヒー飲んでる予感がしますよ（笑）」ⓐ

こいけ・てっぺい

1986年1月5日生まれ。大阪府出身。2001年、第14回ジュノン・スーパーボーイ・コンテストでグランプリを受賞し、『天体観測』でドラマデビュー。その後『ウォーターボーイズ2』『ごくせん』『ドラゴン桜』『医龍—Team Medical Dragon』同シリーズ『2』、など話題作への出演が続き人気を不動のものにする。映画は『ラブ★コン』『KIDS』『ホームレス中学生』と主演作が続くほか、シンガーソングライターとしてウエンツ瑛士とのユニットWaT、ソロ活動も行う。11月下旬には主演映画『ブラック会社に勤めてるんだが、もう俺は限界かもしれない』が公開となる。

『おひとりさま』

プロデューサー／正木敦（TBS）
遠田孝一（MMJ）　伊藤達哉（MMJ）
脚本／尾崎将也　関えり香
演出／植田尚　韓哲　ほか
出演／観月ありさ　小池徹平
松下奈緒　真矢みき　ほか
制作／MMJ

名門女子高で日本史を教えている秋山里美（観月ありさ）。優秀で容姿端麗。仕事にも誇りを持っており、優雅で気ままなおひとりさまライフを満喫している。だが、気がつけば、もう33歳。そういえば、仕事に夢中で何年も彼氏がいなかった。果たして自分はこのままひとりで年老いていくのか…と少々不安も感じ始めた里美の前に現れたのが、臨時教師としてやってきた神坂真一（小池徹平）。生徒達も後輩の教師達も真一を見て「かわいい!」と色めきたつが、10歳も年下の男など、里美は興味ゼロ。それどころかオドオドとした真一のダメっぷりにあきれ、お説教をする始末だ。ところが、ある出来事をきっかけに里美と真一が急接近。しかし、ふたりは年齢も社会的立場も収入も里美のほうが、ずっと上の格差恋愛。そんな彼らの行く手には様々な困難が待ち受けているのであった。　TBS系にて、毎週金曜夜10時より放送中

衣裳協力：スラックス¥25,200（プレッジ／プレッジ 03-5459-4600）　ハット¥18,900（ミスターオリーブ／ミスターオリーブ 03-5459-1885）
ネックレス¥17,850（ガーデン オブ エデン／ガーデン オブ エデン 03-3795-6626）　ブーツ¥44,100（ベイスロープ／ESTEEM PRESS 03-5428-0928）　その他スタイリスト私物



ANNA NOSE × KARINA × ELENA









CLOSE UP!

香里奈×能世あんな×えれな

モデルで女優の香里奈と、その姉でやはり女優の能世あんな、そして、モデルのえれな。誰もがうらやむ3姉妹がスペシャルドラマに引き続き、連続ドラマ『リアル・クローズ』で共演。しかも、幼いころから切磋琢磨してファッションセンスを磨いてきた3人にふさわしく、演じるのはライバル役だ。

撮影／宅間國博　スタイリスト／渡邉恵子（Kind）　ヘアメイク／SHIO、朝日智仁　文／高山亜紀

女優でありながら、モデルとしての活動にもこだわり続けている香里奈。独特のスタイルで人気の彼女が、同じフィールドで活躍するふたりの姉、女優の能世あんな、モデルのえれなとドラマ『リアル・クローズ』で共演。しかも、3人が演じるのはライバル役！ちょいワイルドでクールな香里奈、コンサバお姉さん系のあんな、フェミニンなえれな……と普段のテイストもそれぞれ個性的な3姉妹が、時に仲良く、時に火花を散らしながら（?）、ドラマやファッションのことを語ってくれた。

——スペシャルドラマに続いての三姉妹での共演ですが、どんな心境ですか。

香里奈「連ドラになると聞いた時は、素直に嬉しかったですね。でも、そのぶん、内容が濃くなり、視聴者の方にきちんと伝えなければならない部分が多くなるので、頑張らないと、と思いました。姉妹での共演は、前回は不思議な感じがしましたけど、今回は一度経験していることもあって慣れました（笑）」

あんな「前回は同じ画には映ってはいたんですけど、かけ合いのシーンはなかったんです。今回、初めて姉妹でセリフを交わすので、凄く今、楽しんでやっています。それから、私の演じる瑞穂が実は（香里奈演じる）天野絹恵ちゃんに対して、ライバル心を持っていたりして、ちょっとした対立もあるんです。そういう内面的な部分は、スペシャルドラマでは表現し切れなかったところなので、そこも楽しみですね」

えれな「前回、私が演じたのは垢抜けない感じのお客さん役だったんですが、今回は神保美姫さん（黒木瞳）のアシスタント役。物凄く気合が入っていますし、ストーリー上でも、自分自身、学ぶことがいっぱいあるので、毎日、刺激を受けながら、撮影に挑んでいる感じです」

——演じるにあたり、お互いに相談したり、アドバイスをしたりはしました

香里奈「普段から、特に仕事の話はあまりしないので。今日の撮影がどうだったとか報告はしますけど、相談はしないですね」

えれな「姉妹仲はいいんですけど、撮影となるとやっぱり、現場でも切り替えて、過ごしています。カットの声がかかったら、〝これからご飯に行くけど、どうする?〟とか、姉妹の会話になりますけど」

——今までは、それぞれの出演作を観たりしていましたか。

あんな「それは結構、みんな観てますね」

香里奈「ただ、強制的ではなくて、観れる時に観る感じで。話すことは作品全体のこととか」

えれな「やっぱり、衣裳のこと！」

香里奈「あと、時にはお互いの演技を真似し合ったりもします（笑）」

——モデルの仕事に関しては、どうでしょう?

香里奈「家に雑誌が置いてあったら、ちらっと見たりします」

あんな「本屋さんで、香里奈の表紙の雑誌があったり、誰かが載っている雑誌が出たりすると、棚の一番、前に出したりします（笑）」

えれな「多分、3人ともみんな、やっていますね（笑）。たくさんの方に見て頂けるように

事なことですから」

——仕事柄、色んなファッションの香里奈さんをお姉さん達は見てきたと思いますが、絹恵さんみたいなダサい格好を見るのは初めてですよね?

あんな「現場で、スタッフさんにあんまり気づいてもらえないんですよ（笑）」

香里奈「そうそう。私がうしろにいるのに、〝絹恵さん、お願いしま～す〟って大きな声で呼ばれたり、挨拶しているのに、気づかれなかったり（笑）」

あんな「それだけ、絹恵ちゃんになりきれているってことですかね。楽しんで、やっているなっていうのがわかるので、見ていて面白いです」

えれな「なんか絹恵ちゃんって、リアル

に応援したくなるんですよ。最近は頑張って、コーディネートがちょっとずつ、上手くなってきてはいるんですけど。よく見たら、本当は1点、1点は凄くかわいいものなんです。なのに、合わせるものがちぐはぐだったりしているので、そういうところを見ると、〝絹恵ちゃん、頑張れ〟って思います」

香里奈「なんで、それにそれを組み合わせちゃったんだろうというコーディネートなんですよ（笑）。でも、絹恵ちゃんは絹恵ちゃんで、あれがおしゃれだと思っているので、いいんです、全然。むしろ、楽しいですね。モデルは〝綺麗に洋服が見えるように〟〝スタイ

するのがお仕事ですけど、それと全く反対のダサく見せるコーディネートなんて、凄く新鮮ですから」

——センスは違うと思いますが、香里奈さん自身、絹恵さんに近い部分はありますか。

香里奈「力仕事が得意なところは似ていると思います。あとは、仕事に対して、負けず嫌いなところ。〝悔しいから、頑張ろう〟って思う彼女が好きだし、共感出来ますね」

——香里奈さんが姉妹で一番、負けず嫌いですか。

香里奈「多分、3人がそれぞれ、自分がそうだって思っているはずです」

あんな「そこが負けず嫌いなんです（笑）」

——ファッションも見事に三者三様ですが、それぞれのポリシーを聞かせて下さい。

香里奈「もちろん、流行りものを着るのも大事だとは思うんですけど、それプラス、みんなもそうだと思うけど、個性を出すというのが、やっぱりおしゃれでもあるし、自分なりの楽しみ方だと思う。自分でいえば、今だったら、例えば、気になる柄や色だったり、スタッズのついたもの。あとは自分の年代。今25歳なんですけど、その年齢に合ったスタイル。それから、ドラマをやっていると移動が多いので、楽な格好

を全部、組み合わせたものを着るようにしています」

あんな「流行りものを取り入れるというのは、おしゃれに見せるひとつのコツだとは思いますが、自分の体型に合っていなかったり、自分の感じに合わないものは、いくら物だけ見て、かわいくても着ませんね。人が着ていてかわいくても、自分に似合うかを考えます。そういうのを一つひとつクリアして、自分を理解していくことで、どんどん自分らしいおしゃれが出来ていくと思います」

えれな「季節に合っていたり、ラインが綺麗だったり、自分の肌の色に合う色、触り心地……それぞれにみんな、こだわりがあると思うんです。それをちょっとずつ組み合わせて、自分のスタイルというものを心がけて、自分も年齢に合わせて、日々、進化していけたらいいなと思っています。まだまだ勉強中です！」

——じゃあ、お互いにもっと、こういうのを着てみたらいいんじゃないかなって、実は思っていることはありますか。

香里奈「う～ん、でもやっぱり、何を言っても、自分の着たいものを着たいと思うので、言ってみるのはいいけど、聞いてもらえるかはわからない（笑）」

あんな「自分が好きなもの、着たいものが自然と合っている気がするので。たまにいつもとは違うテイストのものを着ていても、〝そういう気分だったんだな〟って、見ていますね。まあ、それがさすがに変だったら、言いますけど。その辺は、お互いに言ったり、言われたり……。〝ちょっと、それ、合わないんじゃない?〟とかね」

香里奈「欲張りなコーディネートとか。色んな物を付け過ぎてたりすると」

えれな「〝それ、ないほうがすっきりして、いいんじゃない?〟とか」

香里奈「〝ベルトを目立たせたいんなら、帽子、取れば?〟とか」

えれな「〝もうちょっと、色を足したほ

じゃない？〟とか、そういうことをいちいち、いちいち、言い合っています（笑）」

えれな「正解がないぶん、色んなジャンルで組み合わせられるので。テイストが似ている部分があるので、お互いのアドバイスは参考になります」

あんな「出る直前に言われると、ちょっと、困るんだよね（笑）」

香里奈「〝今、言わないでよ！〟ってね」

——それぞれがファッションに目覚めたのは、何歳ぐらいですか。

香里奈「自分で洋服を買いに行きたいと思ったのは、記憶では中学生ぐらいだと思います。でも、小学生の時に買ってもらったヒョウ柄のワンピースはよく覚えていますね。母親がアニマル柄のストールを持っていて、かっこいいな、かわいいなって思っていたから。今でもヒョウ柄は大好きで、今日の私服もそうなんです」

えれな「子供のころから、お揃いの洋服を両親に着させてもらっていたので、自然にファッションに関しては興味がありましたね。お揃いとか、色違いとか、よく着ていました」

あんな「私は長女だから、お揃いがすっごく嫌だったけど、ふたりはよくお揃いを着てたよね」

香里奈「でっかいTシャツにネオンカラーのスパッツとか、コアラのトレーナーとか（笑）」

あんな「そうやって考えてみると、嫌だと思ったのは、意思があってのことだから、小学生ぐらいから洋服に対しては、何か感覚があったんだと思いますね」

香里奈「私は全然、お揃いは気にしなかったなぁ」

えれな「赤かピンクかで悩むぐらいで」

香里奈「人が着ているのがかわいく見えるんだよね（笑）」

えれな「でも、お下がりは嫌だったなぁ」

香里奈「今はお下がりを着せた両親の

やましかったこともありました。お姉ちゃんや友達は、こんなに洋服を持っているのに、なんで私だけ、お下がりなんだろうって」

——美姫様のように自分のファッション観に影響を与えてくれた人はいますか。

香里奈「モデルを始めて、ファッション誌をやるようになってから、ずっとお世話になっているスタイリストさん達がそうですね。今日のスタイリストでもある渡邉（恵子）さんは、もう10年ぐらい、お世話になっています。〝どういうのが流行っているのか〟とか、買い物に行けない時などは、どういう商品が出ていて、どこに何があるのか、聞いてみたり。逆に私がアドバイスすることもありますね」

あんな「私は以前、雑誌の『JJ』をやっていたのですが、その間、たくさん、洋服を着せてもらったことが勉強になりましたね。雑誌のコーディネートはもちろん、現場にいる人達もみんな、おしゃれで、常にファッションに関して、刺激的な場所だったんです。当時は自分の洋服がちょっとずつ変わっていく年齢でもあったので、先輩が着ている服や持っている物が大変、参考になりましたし、逆に、自分の年齢が上になってくると、下の世代の人たちから学ぶこともありました」

えれな「モデルの仕事もそうですけど、それ以前に女子高に通っていたので、ファッションに関しては、友達との話題が常に情報源でした。憧れの歌手や雑誌からの知識……まさにガールズトークでしたけど」

——今回の現場も、モデルと女優を両立されている方が多いので、撮影の合間も、ファッションの話等で、盛り上がっているのではないですか。

香里奈「ファッションはもちろん、健康グッズ、美容の話が多いですね。女子が多いので、どうしても。あとは、西島（秀俊）さんが甘いもの好きなので、そういう話もします。ファッションに限

あんな「なんといっても、かわいいお洋服が多いし、種類もとても豊富なので、お互いに着ている衣裳を〝あれ、欲しいな〟〝似合ってるな！〟っていう目線で、見てしまいますね」

えれな「モデルさんがいっぱい、いますから、みんな凄くかわいく着こなしているんですよ。ドラマで使われた服をパソコンや携帯から実際に買えるシステム（オンエアリンク）があるので、〝こうすれば、自分スタイルで着られるかな〟とか、考えるだけでも、楽しいですね。冬ものも結構出ているので、既にちょっとチェックしています」

——この冬、買いたいアイテムはありますか。

香里奈「今日履いているエルメスのブーツがかわいいので、欲しいです。参考商品と聞いたので、商品になったらいいのにって思っています」

あんな「これ、絶対にかわいい。私もこういうサイハイブーツが欲しいですね。足が長く綺麗に見えるから」

えれな「私はファーの小物やジャケットをこれから、冬にかけて集めたいですね」

香里奈「持ってるじゃない？　でも、買っちゃうんでしょ（笑）」

えれな「毎年毎年、増えている気がするんですけど。でも、毎年、少しずつ変わっているんですよ。例えば、去年買ったのは普通のベレー帽だったけど、今季のものはスタッズやファーのボンボンがついていたりするから。色んなものがどんどん進化しているから、欲しいものもどんどん増えてしまうんです」

——お互いの持っているもので、狙っているものはありますか。

あんな「私、ある。香里奈が持ってるグッチのバッグが欲しい。ちょうだい（笑）」

香里奈「それ、えれなにも言われた。あげないけどね（笑）。えれなは色んなものがいつの間にか増えてるんです。ハイブランドのものだったり、靴とか

ていたりする。私も小洒落た靴が欲しいから、もらえないかなぁ」

えれな「あげないけどね（笑）。歩き方が違うので、靴の貸し借りはしませんね。撮影は別ですが。ケンカにならないよう、そこは配慮してます」

——えれなさんは結構、お買い物中毒派ですか。

えれな「いえ、展示会とかでチェックして買ったものがまとめて届いたりするので、香里奈から見たら、物が凄く多いと思われているのかもしれない。衝動買いはそんなにしないですね」

香里奈「うん。衝動買いをするのは私です（苦笑）。悩む時は凄く悩んで、くどいくらい、ぐるぐる回ってきてから、結局、お店に戻ったりすることもあるんですけど、たいていは、これって決めたら、〝いいや、仕事、頑張ろう！〟と思って買ってしまいますね。〝ご褒美的なものがないと、仕事しているばっかりじゃ疲れちゃうから。海外に行った時とかは、より頑張るために買ってしまいます」

あんな「私は結構、品定めをして買うほう」

香里奈「迷って、迷って、止めるタイプだよね（笑）」

あんな「そういう時もありますが、最近は勇気を出すようになってきました（笑）。もう30という年齢なので、大人の女性がつけて似合うもの。若いころには似合わなかったものも、取り入れて着て行きたいな、身に付けていきたいなと思ってますから」

えれな「やっぱり年齢とともに、似合うものもどんどん変わってくるものね。かといって、年だからって諦めたくもない。真ん中というのがいい刺激になって、香里奈を見るともっと若い格好をしようかなと思うし、あんなを見ると、大人な、例えばジュエリーだったり、バッグだったり、自分も似合うように頑張らなきゃって、思ったりしますね」

——このドラマのあとに、大きなご褒

香里奈「既にパリのロケで、そんなに買うつもりなかったんですけど、気合、入れるためにもと思って、買っちゃったんですよ（苦笑）。だからしばらくは頑張って仕事をして、ドラマの成果が出てから、買うようにします！」

かりな

1984年2月21日愛知県生まれ。00年から雑誌『Ray』の専属モデルとして絶大な人気を博す。01年『カバチタレ』（CX）で連ドラデビュー。04年『深呼吸の必要』では映画初出演、初主演を果たす。同作で、第14回日本映画批評家大賞新人賞受賞。08年「ベストレザーニスト2008」を受賞。08年『だいすき!!』（TBS）で連続ドラマ初主演。現在、ウェディングドレスのプロデュースや声優にも挑戦するなど、モデル女優[illegible]て多方面で活躍中。出演映画『ハ[illegible]ド』は2010年春公開予定。

のせ・あんな

1979年3月9日愛知県生まれ。幼少期よりピアノとバレエを習い、音楽大学ではコンピューターミュージック専攻。98～04年は雑誌『JJ』のレギュラーモデルとして活躍した。08年大ヒットドラマ『ROOKIES』（TBS）では藤田カオル先生役でレギュラー出演。09年、映画『ROOKIES－卒業－』でも同じ役で出演を果たした。今年は『赤鼻のセンセイ』（NTV）などにレギュラー出演した。

えれな

1982年3月12日愛知県生まれ。姉・妹と同じく、幼少のころよりクラシックバレエを習い、世界バレエ・モダンダンスコンクールではセミファイナルまで進出。02年から、本格的にモデルとして活躍、『CanCam』を始めとした雑誌に出演。今年は『コールセンターの恋人』（EX）レギュラー出演のほか、CMニベア花王「ニベアサン　プロテクトウォータージェル」などのCMに出演中。

『リアル・クローズ』

原作／槇村さとる『Real Clothes』（集英社刊『YOU』にて連載中）
出演／香里奈　西島秀俊
高岡蒼甫　加藤夏希
能世あんな　真野裕子
えれな　南明奈　IMALU
小泉孝太郎　黒木瞳

越前屋百貨店に勤める天野絹恵（香里奈）は、恋人の山内達也（高岡蒼甫）とパリを旅行中、「マダム・ミキ」と呼ばれる日本人女性の名前を耳にする。マダム・ミキこと神保美姫（黒木瞳）は、ファッション業界のカリスマで、業績不振の越前屋を立て直すために招かれた「切り札」だった。数日後、リビングふとん売り場担当の絹恵は、婦人服売り場への異動を言い渡される。その上司こそが、神保美姫で…。
毎週火曜夜10時～　関西テレビ・フジテレビ系　全国ネットにて放送中!

衣裳協力：（香里奈）ライダースJK（DEARA／DEARA&Gabriel）、Yシャツ（エルメス／エルメスジャポン）、スタッズ付スカート（CECILIA DE BUCOURUT／DRWCYS）、スタッズベルト（エルメス／エルメスジャポン）、アクセサリー（全てエルメス／エルメスジャポン）、（能世あんな）ノーカラーナポレオンJK¥16,800（Decious）、インナーS.Vスパンコールタンク（スタイリスト私物）、スリムPT¥4,095（INGI）、スカーフ¥48,300（エルメス／エルメスジャポン）、（えれな）パフフリルOP¥26,250（Jolly Da[illegible] Jolly Boutique）、ベルト¥48,300（エルメス／エルメスジャポン）、スタッズベレー¥4,830（Decious）、ストライプタイツ¥2,100（ぽこ あ ぽこ）、メタリックパンプス（スタイリスト私物）


CLOSE UP!
TADAYOSHI OKURA







CLOSE UP!

大倉忠義

これまでは若い世代を意識し、〝青春〟の香りを漂わせる作品をメインにしてきたNHKの〝ドラマ8〟が変わった。最新作『ROMES／空港防御システム』は、国際空港を舞台にしたスケール感と、息もつかせぬスピード感溢れる展開で、あらゆる世代の視聴者を夢中にさせている。敵と味方が入り乱れるストーリーは、予測不可能。木曜8時が、面白いことになってきた!

撮影／本多晃子　ヘアメイク／山崎陽子　文／高橋栄理子

関ジャニ∞のメンバーとして活躍している大倉忠義が、ドラマ『ROMES／空港防御システム』で初の主演を務めている。「マイペースなところが成嶋優弥と似ていると思う」と語る彼は、ドラマについて語る口調も淡々としていたが、その瞳の奥には熱く燃えるものが見て取れた。そんな彼のドラマに懸ける気持ちが、〝ドラマ8〟史上最もエンターテインメント性に満ちたスリリングな作品を、より一層見ごたえあるものに導くに違いない。

――『ROMES／空港防御システム』は大倉君にとって連続ドラマとしては初主演作。自分が主演だと聞いた時は、率直にどう思いました?

「純粋に嬉しかったですね。着実に階段を上らせてもらっているというか、色々なことを経験させてもらっているなって思いましたから。でも、プレッシャーは感じなかった。プレッシャーを感じてよくなることって一個もないし、正直今までプレッシャーって感じたことがないんですよ。どういう感情がプレッシャーっていうのかわからないだけかもしれないですけど(笑)、余計なことを考えるよりも、その作品でどう自分を出そうかなって考えるほうがいい気がするんです」

――確かに、作品に真摯に向き合う姿勢が何よりも大切ですよね。ただ、今回のドラマは内容的にもかなりユニークですし、大倉君の役柄も〝ROMES〟の最高責任者である若き天才ということなので、難しいんじゃないかなと思ったんですが。

「正直最初に企画書みたいなのを渡された時は、どういうことを意味しているのかわからなかったです(笑)。普段接することのない題材を扱った話だったので、想像しにくかったっていうか。だから、面白くなりそうやなって思ったのは、台本もらって撮り始め

動いてみることでつかめる部分も多かったし、監督さんも自由にどんどんやってっていうタイプの方だったので、本当に色んなことを試してみた。時々、やり過ぎて、キャラ崩壊してますかね?　って思ったりもしたんですけど(笑)、監督が、ちゃんとメリハリついているから大丈夫って言って下さったので、安心してやれてます。原作のイメージとはちょっと違うかもしれないんですけど、僕が枕を持ち歩いているっていうような付け足している部分も最初からたくさんあるし、みんなでアイデアを出し合うことで、更に作品が膨らんでいる。ドラマならではの『ROMES～』になっていると思うので、僕も自分なりの成嶋を出せたらなと思っていますね」

――大倉君自身も、色々なアイデアが、どんどん湧いてくるんですか?

「現場に行ってやっているうちに湧いてくることもあるし、監督に、どうしましょうか?　って聞くこともありますね。どっちにしても実際に現場に行ってみないとわからないことが多いので、現場でどういう動きなのかとかを確認してから考えることが多いです」

――台本を読んだ段階からキャラク

てから考える?

「そうですね。おおまかにこうしようっていうことだけは決めておきますけど、動いてみてが大きいです。やっぱり現場でみんなで作り上げるのがドラマだと思ってますから」

――周りの役柄との関係性の中で、成嶋っていうキャラクターが確立していくところもあるでしょうしね。それにしても、今「やり過ぎてキャラ崩壊したかも」って言ってましたけど、成嶋は、クールな部分とマイペースで抜けてる部分の両方を持っている人物。そのギャップが面白いですよね。

「僕もそのギャップを出したほうが面白くて見やすいんじゃないかと思ったので、そこは今回凄く強調していますね。基本的には犯罪の話やから、どうしても重さがあるじゃないですか。だから、それ以外は楽しいほうがいいのかなって思ったんですよ。自分自身が視聴者として見ている時でも、そのほうがホッとしますから。でも、もちろんそれは僕だけの考えで出来ることじゃない。みんなの気持ちが一致してるからこそ、そういう方向性で作れているんだと思います」

――ずっと重いよりも、笑えるシーンもあったほうが、肩の力を抜いて見ら

「そうですね。成嶋は〝ROMES〟の前に座った時に真剣になればいい。だから、それ以外の部分はダサいくらいでいいんじゃないかなって思うんです(笑)。僕は、それくらいの人間のほうがかっこいいと思うので」

――いざ、自分の使命を帯びた時は天才性を発揮して、それ以外は結構天然系。台本を読んでいても、つかみどころがないタイプですもんね。

「何考えてるのかわからないです(笑)。でも、そういうギャップが、凄く楽しい。どうやろうかなって考えるのも楽しいし、やり終えて、モニターをチェックするのも楽しいですね。どこまでやったら映像としてわかりやすいのかなって判断出来ますから」

――ああ、映像にすると、ちゃんとクリアに面白さとかを出すのって難しいですよね。

「そう。リアルにやっても、何やってるか伝わらなかったら、それはリアルじゃないと思うんですよ。だから、そういうのは確認しながら進めています」

――もしやり過ぎちゃったら、監督が止めてくれるだろうくらいの気持ちで。

「そうです、そうです。ストップは僕がかけるから、どんどんやってほしいっ

から、まずは自分の思ったり感じたりした通りにやらせてもらってますね。そういう風に監督が僕の好きにやらせてくれるっていうのも、やっていて楽しい原因のひとつだと思います」

――ちなみに成嶋には大倉君自身と似てるところはありますか?

「似てるのはマイペースなところかな。あと、何考えてるかわからないとも結構言われるので、僕もつかみどころないって言ったら、つかみどころないのかもしれないです(笑)。だから、成嶋のそういう部分は理解出来なくもないですね」

――頭脳明晰なところは?

「それは、全くわからない(笑)。だから、そこはセリフに助けてもらってますね。あと、チェスも実はやらないので、チェックメイトっていうのが言い慣れないです(笑)」

――クールに話さなきゃみたいな感じは意識してますか?

「いや、クールさっていうのは特に意識してないですね。成嶋は説明するセリフが多いので、その時は自然にクールな雰囲気になりますから。それよりも会話する相手に対しての興味のなさだったりを気にしてる。興味ないから目を見ないとか。でも、そんな成嶋も〝ROMES〟チームや砂村多駒(安田章大)と関わることによって徐々に変わっていくのかもしれない。そうしたら、その変化も出していきたいなと思っていますね」

――セリフでも最初は「人間は信用してない」ってハッキリ言ってますからね。

「そうなんですよ。でも、成嶋のそういう面が、僕にはやっててわからない。だから、僕からしたら、そこはちょっと変わってほしいなって思ってますね」

――現時点では6話までしか台本が出来ていないので、成嶋がなぜ「人間

の原因は不明なんですよね。でも、そのあとの展開の中で、何が彼にあったのかわかるかもしれない。

「多分成嶋の過去とかも描かれることになると思うんですよ。そうやって成嶋の話になっていった時に、彼が今まで出さなかった感情も出てくるのかなって思う。それが、僕自身凄く楽しみですね」

——そして、成嶋に変化をもたらしそうなのが、さっき言っていた砂村な訳ですが、砂村を演じているのは同じ関ジャニ∞のメンバーの安田君。メンバーが現場にいるのって、やりやすいですか?

「はい、やりやすいです。もう10年くらい一緒にいるから、信頼関係は出来ている。だから、すんなり入れました」

——ふたりで役作りについて話し合いとかもするんですか?

「ちょこちょこしますよ。こんだけ一緒におるから、そのままふたりで帰りにご飯に行ったりするし、共演者の人達と行くこともある。その時に、俺はこうやりたい、とか、まだ監督に相談してないからどうなるかわからないけど、こう考えてんねんって話したりします。そういう熱い話が出来る人が一緒にいるのは、凄く心強いですね」

——安田君が演じる砂村って、素敵な役ですよね、熱血で。彼と成嶋とのコントラストも面白いと思います。

「うん。そこは結構大事なのかなって思ってますね。正反対のふたりっていうのが。だから、どういう砂村が出てくるのかっていうのも、毎回ドライの時に楽しみなんです」

——キャラクター的にも安田君にピッタリな気がするんですけど。

「ピッタリですよね。ハマっていると思います。逆に、もし僕が砂村やったら…疲れるでしょうね、テンション高くて(笑)。やってて楽しいとは思いますけど、ただ、砂村は砂村で背負っているものがある。明るくて単純なヤツっていうだけじゃなく陰もあるから、難しいやろなぁとは思います。でも、多分成嶋も砂村も成長していくことになると思うので、それも楽しみにしてますね」

——ほかの共演者には国仲涼子さんや渡辺裕之さん、杉浦太陽さんなどがいらっしゃいますけど、現場の雰囲気はどうですか?

「凄くいいです。渡辺さんや古舘寛治さんといったベテランの方達が、僕らと同じ目線に合わせて下さって、いい雰囲気を作って下さるんですよ。だから、年齢の差っていうのがあまりない感じになってますね。それに、やっぱり渡辺さんとかは色んな経験をされているから話が面白い。しかも、とてもおちゃめな方なので、フレンドリーに接してくれる。そのお陰で、もうチームワークは出来ていると思います」

——でも、ドラマ上では、成嶋って単独行動が多いですよね。

「そうなんですよ。あまり人とからまずに、ひとりでフラフラフラフラしてる(笑)。しかも、セットの部屋も僕だけ違っていたりするので、みんなが和気あいあいとしてるのを、ちょっと離れた場所から見てるっていうことが結構多いです(笑)」

——あっちの部屋楽しそう、みたいに(笑)。

「そうそう(笑)。だから、時々、寂しいやろ? ってヤスと太陽君が来てくれたりします(笑)」

——最初に〝ドラマは現場でみんなで作り上げるもの〟って言っていましたけど、実際に、誰もがみんなでひとつになっていい作品を作ろうっていう意識が強いんですね。

「そう思います。それが一番だし、楽しく仕事が出来るのが一番、楽しく仕事していいものを作るっていうのが、僕の仕事のやり方なんですよ」

——それはドラマに限らず?

「そうですね。僕らの仕事って、基本的に全部そうやって作り上げるものなので。ただ、それを一番強く感じるのが、僕はドラマなんですよ。共演者の人達だけじゃなく、スタッフさんもいつも近くにいますから。ほかの仕事の場合、スタッフさんの仕事を実際に見られない場合も多い。でも、ドラマはスタッフさんが支えてくれてるっていうのが実感出来るから、本当にチームでやっているんだなって思うし、スタッフさんが頑張っている姿が僕らのモチベーションにもなるんです。まだまだ収録は続くので、みんなで協力して頑張っていきたいですね」

——現場も楽しそうですけど、内容的にも、凄く面白そう。6話までの段階でも、まさかと思うような衝撃的な展開があるじゃないですか? あれは見どころのひとつですよね。

「そうですね。凄いサプライズがありますから。あそこは、うわっ、動き出したなって思って、僕も台本を読んでて、7話どうなるんだ!? って続きが気になりました。その事実がわかった時、成嶋がどれだけの底力を見せるのか? っていうのも気になるし、それによって成嶋の気持ちが変わるのかも気になる。僕も、まだ今の時点では6話までしか台本を読んでいないので、このあとが早く読みたいですね」

——スリリングで展開の早いドラマになりそうなので、そのスピード感も楽しみです。

「海外ドラマとかでは、スピード感のある作品って結構あるじゃないですか。僕はそういうテイストのものが好きなので、そのスピード感は殺さないようにやりたいと思ってます」

——それに、キャビンアテンダントを描いた作品とかはたくさんありますマっていうのも珍しいですよね。だから、架空の話であるとはいえ、そこも興味深いです。

「今回は実際に空港を使って撮影させてもらってるんですよ。もちろん普段も空港には行くし、飛行機にも乗りますけど、このドラマのお陰で、普段は入られへん場所にも入ったり出来る。それで、ああ、裏側はこうなってるんだって気づくことがあるので、本当に色んな経験させてもらっているなって思います。しかも、本物の空港を使っているので、凄く近いところに飛行機が映っていたりする。だから、映像的にも面白くなってるんじゃないかなと思いますね」

——大倉君は関ジャニ∞として音楽やバラエティーもやる一方、こうしてドラマにも出ている。様々な仕事の中で演じることというのは、どういう位置づけなんですか?

「一番経験してない部分ですね。歌やダンスは昔からやってますけど、演技は、ここ最近なので。ジャニーズ事務所の場合、この歳で芸歴10年とかっていうのは当たり前なんですけど(笑)、その10年の中でも演じることはあまりやってこなかった。だからこそ楽しいし、逆に難しくもあるんですけど、作品に出る度に、色んな新しいものが自分の中に入ってくるのが嬉しいです。だから、もっと演じることを好きになりたいなと思いますね」

——やればやる程興味が湧いてくる?

「そうですね。役を演じることによって生まれる色んな感情を、もっと体験したいです。普段自分が経験しているから役の気持ちがわかるっていう部分もあるかもしれないですけど、逆に役を演じていく中でしか得られない自分の中の感情っていうのもある。役になることには人生経験みたいなものも含まれているんじゃないかなって思う。そのせいで楽しい時もあれば、たまに苦しい時もありますけど、人間っていうのは奥深いものなんだなっていうのを感じることが出来るので、得られるものが大きいですね」

——じゃあ、これからも色々なタイプの作品や役柄をやってみたいですか?

「ぜひ、やってみたいです。特にこういう役とかはないし、別にかっこいい役じゃなくてもいい。とにかく経験を積みたいですね」a

おおくら・ただよし

1985年5月16日生まれ、大阪府出身。97年、ジャニーズ事務所に入り、02年に関ジャニ∞に加入し、04年『浪花いろは節』でCDデビュー。テレビドラマにも06年の『シンデレラになりたい!』『劇団演技者。』、07年『必殺仕事人2007』『歌姫』、08年『ヤスコとケンジ』など、着実に演技経験を積んでいる。舞台にも06年『滝沢演舞城』、08年『Endless SHOCK』に出演している。

『ROMES/空港防御システム』

原作/五條瑛「ROMES 06」「ROMES 06 誘惑の女神」
脚本/佐伯俊道　山浦雅大
演出/梛川善郎　周山誠弘　福井充広
出演/大倉忠義　安田章大　国仲涼子　渡辺裕之　杉浦太陽　古舘寛治　ほか

東京湾に浮かぶ人工島にオープンした東京湾国際空港=湾空。そこは世界最先端の施設警備システム"ROMES"に守られた要塞だ。オープン1周年を控えたある日、その湾空に世界で最もROMESシステムに精通した若き天才・成嶋優弥(大倉忠義)が着任。ROMESシステムを駆使し、オープン1周年記念のイベント「誘惑の女神」展示場から女神を強奪しようとした国際的窃盗団を一網打尽にしてしまう。そんな成嶋に憧れる警備チームの新人・砂村多駒(安田章大)。だが、成嶋は、自分が信じるのはROMESと愛犬・ハルのみと言ってはばからない。そのうえ成嶋の着任以来、湾空は次々と事件に見舞われることに。国際空港を守るため、警備チームと犯人達との白熱の攻防が始まった——。
毎週木曜　NHK総合　午後8:00~8:43
BShi　午後6:00~6:43



MIRAI SHIDA



志田未来

**世界中の少年少女から愛されてきた名作『小公女』。
誰もがうらやむ裕福な家庭に生まれた女の子セイラがある日突然、無一文となり、家族も友人も失ってしまう。
このお話をジェットコースター的展開で見せるのがドラマ『小公女セイラ』である。
セイラ役を演じるのは10代の志田未来。世界名作劇場のアニメはもちろん、原作も知らない世代だ。
果たして、彼女の目に、物語やセイラは、どのように映っているのだろう。**

撮影／京介　文／髙山亜紀

『小公女』といえば、ハウス世界名作劇場で放送されたアニメ『小公女セーラ』(アニメ版はセーラ)があまりにも有名。どんなに苦境に立たされようとも、プリンセスの気品と笑顔を忘れないセーラに放送当時、日本中の女の子が涙した。その『小公女』の実写ドラマ化である。しかも、原作やアニメではロンドンだった舞台が、日本に移されるという。イギリスでさえ、サイズ違いだった、インド育ちのスーパーお嬢様セイラが日本で生きていけるのか。主人公セイラを演じるのは志田未来。主演ドラマ『14才の母　愛するために生まれてきた』や最近では、来年のアカデミー賞では日本代表に選ばれた映画『誰も守ってくれない』など、どんな作品でもリアルに存在してきた小さな大女優である。世界で愛される名児童文学と現代っ子、志田未来の意外なコラボレーション。想像を絶する化学反応が期待出来るドラマの誕生だ。

——最初に『小公女セイラ』に出演すると聞いた時はどう思いましたか。

「『小公女セーラ』を知らなかったので、台本を読んで、切なくなりました。セイラがあまりに、可哀想で。特に3話のいじめられるシーンを読むと、凄く切なくなるんです。ちょっとひどいなぁと思います」

——志田さんは台本を読む時に、最初からセイラの視点で読むのではないんですね。

で、読んでいます。だから、切ないんです。3話の(セイラが)トマトを投げられるシーンなんて、読みながら、泣きそうになりました。それに、撮影することを考えると、しんどいなぁ、と(苦笑)」

——志田さんといえば、これまでの作品でも、数々のつらい目に遭っているイメージがありますが(笑)、このトマト程ではないですか。

「ないですね。トマトを投げられたことなんてないですし、どんな感じなんだろうというのがあります。いや、実はもう、あんまり、考えたくないです(笑)」

——そういうシーンの撮影の前は、気持ちの変化はありますか。

「あんまり、変わらないです。現場が明るくて、凄く楽しいので。もちろん、本番が始まる前は、緊張感がありますけど、それ以外は常に明るいです」

——つらいシーンの撮影は既に始まっているんでしょうか。

「はい。でもいじめられるところは、まだ撮影していないです。もしかしたら、楽しいのは今だけかもしれないです(笑)」

——志田さんから見たセイラは、どんなイメージの女の子ですか。

「天然というか、ちょっと抜けている部分があって、自分がいいと思って、相手にやっていることが実は相手から反感を買っていたりすることがあるんで

は好きですね。ただ、なんでも完璧過ぎるので、もし自分が真理亜(小島藤子)の立場だったら、嫌ですね。普通のクラスメイトだったら、嬉しいと思いますけど」

——志田さん自身、セイラに共感するところはありますか。

「前向きなところです。でも、セイラのかわいらしい前向きさとは違うんですけど…。セイラの性格って、嫌う人もいるかもしれないけれど、凄く一生懸命で、自分がプリンセスという誇りを持っていて、かわいらしいと私は思います」

——では、演じる側、役者として見たセイラはどうですか。

「お嬢様だと聞いていたので、最初にお芝居をした時は、凄く落ち着いた口調で、本当にどこからどう見てもお嬢様という感じに、テストをやったんです。でも、監督さんから〝セイラは確かに言葉遣いとかは丁寧だけど、どこの家庭にもいるような普通の女の子だから、そんなに意識しなくていいよ〟と言われたんです。けれど、どこまでがお嬢様で、どこまでが普通の女の子なのか、わからなくて、ちょっと難しかったですね。今やっと、慣れてきたって感じなんです」

——描いていたプリンセス像のようなものがあったんですか。

「ありました。おとなしくて、優雅で、もちろん、動きや立ち居振る舞い方も凄く優雅だと思っていたんですよ。でも、セイラは大笑いしたり、走り回っ

分のイメージと違いました。何事にも一生懸命というところだけは想像通りでしたけど」

——セイラは理想の女性像としてマリー・アントワネットを心に描いていますが、志田さんにもそういう方がいますか。

「特に誰というのはありませんが、自分らしさを忘れない、周りに流されない人になりたいとは思います」

——子供のころ、プリンセスに憧れたりしましたか。

「それが全然、なかったんですよ。正直言うと、興味もなかったんです。子供のころはお人形遊びもしなくて、公園に行って、走っている子でしたから。でも、この前、タイトルバックで、ドレスを着た時に、この年齢になって初めて、いいかもって思いました」

——やっぱり華やかな衣裳のほうがいいですか。

「ずっと着ているのはきついと思うんですけど、普段、着る機会がないので服を着られたのは楽しかったです。ただ、色んな衣裳の中で一番、自分的にしっくり来るのはメイド服なんですよ。動きやすいし、綺麗じゃないので、ご飯を食べたりする時も、あんまり気を使わないでいいというか(笑)。凄く楽でいいです!」

——メイド服といっても、アキバ系ではなくて、本物のメイドさんみたいで上品ですよね。

「そうなんです。また、靴下の色もベー

着たいだろうなぁって思いますね」

——自分が着ることになって、「ええっ?」とは思わなかった?

「思いました!　ずっと、いい服を着てきたあとにメイド服の衣裳合わせがあったので、〝これか!　キターッ〟って感じでした(笑)」

——着てみて、どうですか。気分が変わったりしましたか。

「そこまでは変わらないですけど、お嬢様という気分はなくなりますね。あと髪型も変わりましたから。お嬢様セイラの時はヘアメイクをちゃんとしているんです。でも、メイド服になると、ほとんどしてないような感じになるので」

——そのお嬢様セイラよりはメイドセイラのほうが落ち着くんですね(笑)。

「落ち着きます(笑)。普段がそういう感じなんです」

——プライベートはどんなファッションなんですか。

「黒とか、そういう地味なほうが好きですね。単に汚れが目立たないからっていうだけの理由なんですけど(笑)。でも最近は気をつけて、色のあるものを選んだりしています。以前は、ほとんど黒のものばっかりで、女の子らしくなかったかなぁと思います」

——挑戦したいファッションとかはありますか。

「今はあんまり、ないですね。現場に行

てます」

――衣裳でもほかのことでもいいのですが、今回のドラマで楽しみにしていることはありますか。

「1話で、セイラが院長先生に誕生会を開いてもらう時のシーンがちょっと楽しみです。凄いドレスを着られるんです。みんなから、拍手されて。ちょっといい気分になれるんじゃないかなって思ってます（笑）」

――逆に難しそうだなって思っている場面は、ありますか。

「とりあえず今はフランス語ですね。あと、授業の場面で、古文を読んだり、数学も社会も歴史も、全部、完璧に出来るというシーンがあるんです。凄く短いシーンなんですけど、自分的にはかなり大きいと思っていて（笑）。完璧に見えなきゃいけないんだと思うと、逆に緊張しちゃいます」

――やっぱり、フランス語ですか。

「今ちょっと頑張っているところです。今日もこのあと、フランス語のシーンがあるんです。ちょっと気合、入れます！」

――発音とか難しいでしょう？

「難しいです。英語の発音とも違うんです。最初に練習した時には、うがいをしているような声を出すって言われて、本当にうがいをしながら、やったんです。口の中に水を入れて、〝あああ～〟って言いながら。でも、実際に会話をしている時に、その声をどうやって、出すのかがわからなくて……。思い通りに声が出た時はとても、嬉しいんですけどね。喋っていると〝私、ちょっと出来るんじゃないか〟って、勘違いしそうになります（笑）。何回かレッスンして頂いて、やっと1話の部分を覚えたという感じで、まだ全然、習得出来ていないんです」

――今回のフランス語みたいに、お仕事で体験してみて、「これ、やってみたい」とか、思うことって、ありますか。

マっていることもないんです。何か見つけないと思っているところなんです。フランス語もそうですけど、ちょっとやっただけで、もう大変だから、いいやって思ってしまう。面倒くさがりやなので、やっていて面白いなと思っても、ずっと続けようとかは思わないんですよね（笑）」

――セイラみたいにお料理は得意だったりしますか。

「あまり得意じゃないんです。母親を手伝ったりはしますけど。今はまだいいかなって思って。この先、頑張ります。でも、今はちょっと置いておきます（笑）」

――今一番、好きな時間は何をしている時ですか。

「お昼を食べる時です。撮影しているスタジオの食堂が凄くおいしいんですよ。〝今日はあれを食べよう〟って決めて行くんですけど、気分がコロコロ変わるので、違うものを注文しちゃったりするんです。ラーメンがおいしいって聞いたので、この前は味噌ラーメンを食べました。なので今日はタンメンを食べようと思ってます（笑）。好きなものばっかり食べ続けてしまうタイプかもしれないですね」

――じゃあ、趣味にラーメンブログはどうでしょう？

「確かにそれもいいかもしれない。でも、もう少しかっこいい趣味がいいです（笑）」

――そういえば、ツナ好きとしても有名ですよね。

「ツナは常に大好きなので、そこだけはぶれないようにしています（笑）。あ、寝る瞬間も好きです。布団に入って、寝る3分前くらいが最高に幸せですね。お芝居は、常に自分を100％出し切っているつもりなので、毎晩、〝今日も頑張ったぞ！〟と思って寝ています」

――お勉強のほうはどうですか。ドラ

じていて、迫力がありましたね。

「あの時は天才の役で、本当に自分と全く正反対でした。勉強はあんまり得意ではないです（苦笑）。やらなきゃいけないことはきちんとやりますけど。英語が一番、苦手です。大変だなって思います」

――得意な科目はなんですか。

「数学が好きだったんですけど、最近は国語のほうが楽しいのかなと思えてきました。数学は必ずひとつの答えが出るところが好きだったんです。国語は答えが何通りかある。これまでは、その中途半端さが嫌だったんですけど、今は逆にそこがいいというか、自分の出した考えや自分でまとめたものが答えになるほうが、楽しいのかなと思ったりします。でも、やっぱり勉強はちょっと難しいですね（笑）」

――数学が好きだなんて、意外です。台本はどうやって、憶えているんですか。

「最初に台本を頂いた時に全部一通り憶えるんです。あとは寝る前に覚えると朝、憶えているので、夜は必ずやっています。たまに家族の誰かが相手役をやってくれることもあるんです。母親が院長先生役になりきって、やってくれます。気持ちは嬉しいんですけど、おかしくて笑っちゃうので、練習にはならないんです」

――本番で笑ってしまいそうですね。実際の院長先生との対面はいかがでしたか。

「ちょっと撮影しただけなので、まだそこまで怖いという印象はないですね」

――樋口可南子さんご自身はどんな方でしたか。

「凄く優しい方でした。最初にお会いした時、抱きしめて下さったんですけど、抱きしめながら、〝いじめるからね〟って。それが凄い怖い声だったので、ビクッとしてしまいました（笑）。でも、普段はとても優しい方なので、色んな

――お父さん役の谷中敦さんはどうでしょう。

「凄く渋い方だと思っていたんです。声も低いですし。そしたら、お話をたくさんする方で、多分、共演者の方々の中で、私が一番話しているのは谷中さんじゃないかというぐらい、お話しています。〝どんな音楽を聴くの？〟〝高校生ってどういう曲を好むの？〟〝どんな歌詞が好きなの？〟とか。谷中さんは歌詞も書かれるそうなので、参考として聞いて下さったのかもしれないんですが、私は女性シンガーの方の聴を聴くことが多いので〝加藤ミリヤさんとかです〟って普通に答えてしまって……。そしたら、〝やっぱり高校生は、恋愛系の歌詞のほうを好むんだね。（東京スカパラダイスオーケストラの曲も）聴いてね〟って言われました（笑）」

――インドでのロケは楽しかったですか。

「明るいシーンが多くて、つらいシーンはほとんどなかったので、楽しかったです。向こうの役者さんで子役の方がいたんですけど、撮影の合間は一緒に過ごして、英語を教えてもらったりして遊んでもらっていました」

――象とも共演したそうですね。

「あの～、象をちょっと甘くみてました（笑）。実際に目の前にいると、怖くって。なでるシーンがあったんですけど、走って行って、そのままの勢いでなでました。目の前で大きな声で鳴かれたんですけど、その〝パフォーン〟が体に響いてくるんですよ。凄くびっくりして。そのあとに触らなければいけなかったので、ちょっと怖かったです」

――林遣都さん演じるカイトはどんな存在になっていますか。

「唯一、味方でいてくれる人だと思うので、セイラにとって心の支えになってくれる相手だと思います」

――今後、ロマンスに発展したりしそ

「ええ～っ!?　でも、そうなっても、セイラは気づかないんじゃないですかね。そういう感じは今はあんまり出てきていないかな。出てきたら、もっと楽しくなると思いますけど」

――志田さん的には、どういう展開になったら、いいと思いますか。

「やっぱり、いじめられっ放しではつらいので、どんどんクラスのみんなが味方になってくれたら、いいなって思います。そうなったら、嬉しいですね」

――セイラが逆襲したりとかは？

「いやあ、ないんじゃないでしょうか。そういうシーンがあったら、楽しいかなとは思うんですけど。やっぱり、やられっ放しは嫌ですから。夢の中でもいいので、そういうシーン、出てきてほしいですね（笑）」a

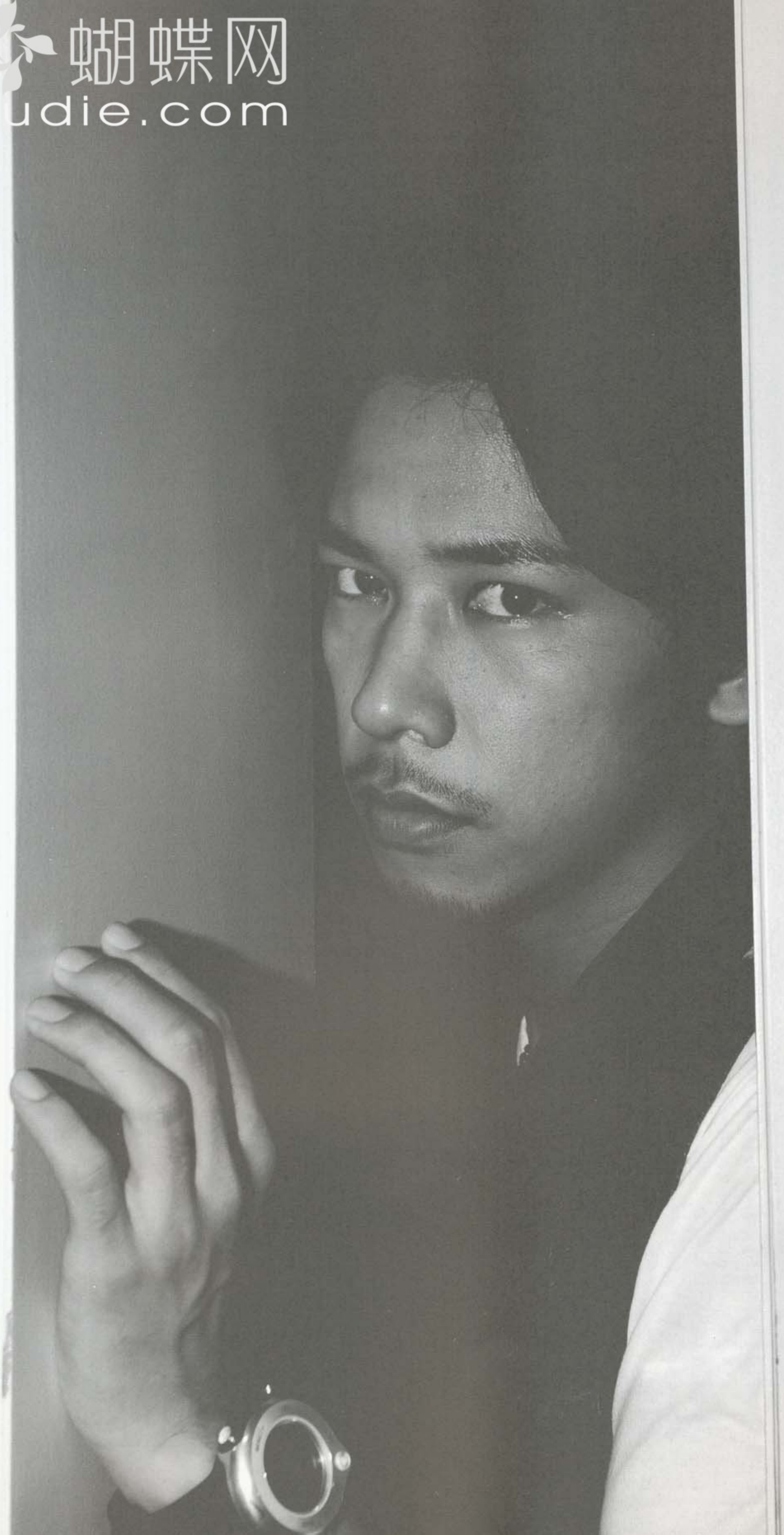
しだ・みらい

1993年5月10日神奈川県生まれ。00年に女優デビュー。05年『女王の教室』の生徒役で注目を集める。06年主演ドラマ『14才の母　愛するために生まれてきた』で妊娠してしまった中学生という衝撃の役どころを演じ、大ブレイク。08年『正義の味方』ではコメディーにも挑戦した。09年映画『誰も守ってくれない』で映画初主演。この作品は第82回アカデミー賞の外国語映画部門の日本代表に選ばれている。出演映画『食堂かたつむり』は来年2月公開予定。2010年志田未来カレンダー発売中。

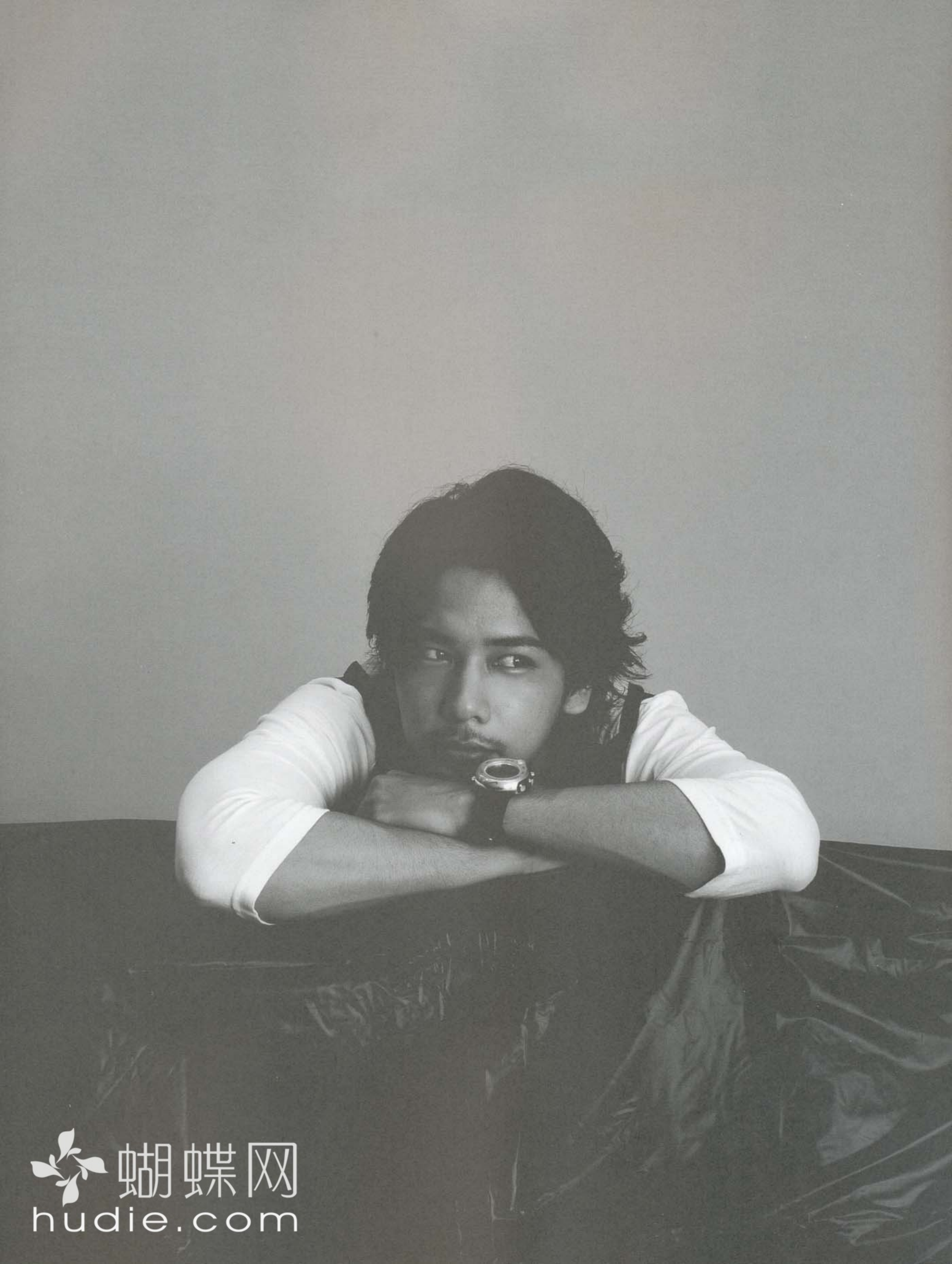
土8ドラマ『小公女セイラ』

原作／フランシス・バーネット
脚本／岡田惠和
演出／金子文紀　吉田秋生
プロデューサー／磯山晶
制作著作／TBS
出演／志田未来　林遣都　田辺誠一
岡本杏理　忽那汐里　小島藤子
谷中敦　大和田伸也　黒川智花
広岡由里子　斉藤由貴
樋口可南子　ほか

裕福な家庭で不自由なく育ってきた黒田セイラ（志田未来）は、実業家の父・龍之介（谷中敦）の勧めで、全寮制のミレニウス女学院へ入学。寄付の額によって生徒の待遇を決める三村千恵子（樋口可南子）が院長を務めることから特別待遇を受けるが、突然もたらされた父の死によって、メイドとしてこき使われるようになる。一方、学院の下働きの三浦カイト（林遣都）は、入学当初から誰とでもわけ隔てなく接する心優しいセイラに好感を持っていたため、自分と同じ境遇になったセイラを励まし支えてくれる存在になっていく。TBSにて、毎週土曜夜7時56分から放送中



TOMOHITO SATO



佐藤智仁

世の中には触れてはいけない〝闇〟がある。世間を騒がす怪事件を描いたドラマ『アンタッチャブル』で、三流週刊誌に在籍するズッコケ女性記者を演じる仲間由紀恵。そのパートナーのカメラマン役に抜擢されたのが、現在25歳の佐藤智仁だ。デビュー作『ごくせん』以来の共演と目の前に訪れた大役に、全神経を注いで臨む。ジャーナリズムを武器に、社会の闇に立ち向かう現代の凸凹コンビが誕生する!!

撮影／鈴木さゆり　文／鈴木貴視

20代前半に携わってきた仕事を振り返るとドラマ『白と黒』『仮面ライダーカブト』『ギラギラ』『ヴォイス〜命なき者の声〜』映画『少年メリケンサック』など、全く異なるタイプのドラマや映画に出演してきた佐藤智仁。現在25歳の彼が、役者としての新たなターニングポイントを迎えようとしている。それが、現在出演中のドラマ『アンタッチャブル』だ。

2年の構想期間を経て出来上がった本作は、『華麗なる一族』や『ショムニ』などで知られる橋本裕志オリジナル脚本によるもの。超一流雑誌をクビになり、ジャーナリズムとは無関係な三流週刊誌「週刊アンタッチャブル」にやって来た女性記者・鳴海遼子(仲間由紀恵)が、建設会社の手抜き工事や不当な金といった社会の〝闇＝アンタッチャブルな真実〟を暴く新しいタイプのミステリー。佐藤智仁が演じるのは、真のジャーナリストの顔も持ちながらもズッコケ・キャラ全開の遼子をサポートするカメラマン・鷹藤俊一。器用だが飽きっぽく、世間に無関心のようで実は正義感が強い、そんな無骨な男を佐藤なりの解釈で演じてみせる。何より注目なのは、『ごくせん』以来共演となる仲間由紀恵とのコンビネーション。シリアスとコミカルの両面が混同する本作で実現した、超一流女優との掛け合い。役者・佐藤智仁の真意が明らかになる。

——オリジナルの脚本ということもあって、脚本が面白いですよね。

じゃないですかって(笑)。遼子役は誰ですか？　と聞いたら仲間由紀恵さんということで凄く嬉しかったんですよね。デビュー作が『ごくせん』でしたし、その時は生徒役でしたから。今回、仲間さんとガチでお芝居させて頂けるということで、緊張したというよりもワクワクしたんです。まさに役者冥利に尽きるだろうなと」

——仲間さんとは『ごくせん』以降、お会いする機会はなかったんですか？

「なかったですね。1月クールで『ヴォイス〜命なき者の声〜』をやっていて、仲間さんは隣のスタジオで『ありふれた奇跡』を撮影されていたんですが、なかなかお会い出来るタイミングがなくて。だから本当に『ごくせん』以来、4年振りですよね」

——再会した時はどんな反応でしたか？

「顔合わせの時に〝ひさしぶり〟って言ってくださって、〝あっ、憶えていてくれた！〟って。その日はそのままリハーサルだったんですが、自分的にもいい感じにハマった感じがありましたね。この作品、面白くなるって」

——役作りのために準備したことは？

「カメラマンなのでカメラの扱い方は学んだんですが、それ以外は特別何かを準備したということはなかったです。ヒゲを生やしたぐらいですかね。実は前に携わっていた作品がヒゲのない役柄だったんですが、撮影期間が少し重なっていたので最初の1〜2回は少し

初に台本を読んだ時に、鷹藤のキャラクターのイメージが浮かんだんですよ。だから今、役を演じている上でのストレスは全くないですね。仲間さんと演じていることが凄く楽しいので、小さいことは全く気にならない。もちろん自分なりのこだわりはありますけど」

——そのこだわりを具体的にいうと？

「とりあえず負けない、萎縮しないということ。仲間さんと演じることに気圧されないように、こう演じてきたら自分はこう演じてみようとか。なんか凄く楽しいんですよ、芝居をする上で恵まれた環境にいるというか。遼子と鷹藤は常に一緒にいる関係なので、仲間さんとコミュニケーションを取る時間も必然的に多くなるんですが、仲間さんのお芝居に対する姿勢、考えた方、色々なスタッフさんとの接し方、仲間由紀恵さんという役者、人間を近くで見ていられることが凄く勉強になりますね」

——佐藤さんから見て、仲間さんはどういう方なんですか？

「共演者の要潤さんの言葉を借りると〝ファニーな方〟ですね(笑)。凄く楽しい方ですし、強い方だなと思います。ちゃんとした理由があって、今の人気や実力があるということを実感しました」

——近くにいると、やっぱりそういうことを感じますか？

「そうですね。台本を読んでいても、

ます。凄く引き出しが多い方で、リアクションや表情など色々なパターンがどんどん出てきますね」

——鷹藤の見た目的な役作りのお話は出ましたが、内面的にはどんな風に捉えていますか？

「凄く寂しいヤツだなって思ったんですよね。ドラマの中の設定では三流雑誌のカメラマンですが、本当はちゃんとしたカメラマンなんです。自分が思い描いている生き方と、現実とのギャップに迷っているというか。ちゃんとしたジャーナリストという芯の部分があるにも拘らず、そうはいかない現状にモヤがかかって何か空回りして壁にぶち当たっている。でも遼子と接していくうちに、その思いが少しずつ変わっていく。遼子は基本的に行動力しかない人間ですが、そんな風に自分に足りないものを持っている人間と一緒にいることで変化が出てくる。物語の後半には鷹藤の過去も明らかになっていくんですが、僕が最初に寂しいヤツだなと思ったこともやっぱり当たっていたんだなと思いました」

——色々なことに対して興味ない素振りを見せるけど、実は正義感の強い人間ですよね。

「そう、正義感は強いんですよ。しかも常識人でもありますし。だから、要所要所でそういう部分を出したいなと。その一方で、そこをお構いなしに突き抜けていくのが遼子なんですけど(笑)」

——夫婦漫才のようなかけ合いもあ

「(笑)。だから、ストーリーが進むにつれて鷹藤の表情のバリエーションもどんどん増えていくし、少しずつ心も開いていって。今、撮影は中盤ぐらいなんですが、最初のころでは絶対に出せなかったであろう表情もあったりしますよ。時間の経過とともに、遼子に対して出せる表情や感情は広がっています。最初は嫌々コンビを組まされたふたりですが、なんだかんだで息が合ってるという部分を出せていけたらいいなと。まさに凸凹コンビというか」

——ミステリー作品なのでもちろんシリアスな場面も多いですが、それを上回るぐらいのコミカルさもありますよね。

「そこが一番難しいんですね。あくまでも『アンタッチャブル』という世界の中で起こるコメディーなので、基本的な部分では脱線しないようにはしたいなって。でも、たまにはずれて、それが味になるんだったらいいんですよね」

——ちなみに、佐藤さん自身が鷹藤にシンパシーを感じる部分はありますか？

「人としての孤独さ、かな。僕も、基本的に寂しがり屋なので。鷹藤って男は、自分の感情を素直に出せないんですよ。なんだろう、もちろん僕とは全然別の人間なんですが、寂しいんだけどその寂しさを出せない部分に共感出来ていて。寂しいけど人には弱い人間だと思われたくない、俺は現状に満足出来ていないけど突っ張って生きていくんだって。突っ張って開き直ってい

部分が、実際に演じて楽しいところでもありますね。それが映像に残っているのかわからないですが」

——佐藤さんも突っ張った部分があるんですね。

「はい、別に頑固にならなくてもいいのになって思ったり。ただ、鷹藤の場合は頑固になる前に、勝手に遼子に引っ張られていっちゃいますけど(笑)」

——(笑)。佐藤さん自身、役者の仕事は好きですか?

「好きですね。怖いなって思うこともあるんですが、基本的にお芝居をすることは好きです。それは『アンタッチャブル』の現場に入って改めて感じました。大先輩のみなさんと一緒に出来ているというのも理由かもしれないですけど、何かを表現することが好きですね。ダンスや歌など色々な表現方法がありますが、僕は芝居をして伝えるのが自分に合っているなと思います」

——怖いなって思う理由は?

「私生活において、嬉しかったり楽しかったり悲しかったり……特に悲しい時なんですが、その感情を勝手に憶えようとするんですよ」

——もしかしたら芝居で使えるんじゃないかって?

「はい。悲しいのに勝手にその感情を憶えようとしている自分には……落ちますよね。嬉しい時は楽しい気分なのでいいんですよ。でも、マイナスな感情の時に限って憶えようとして、俺って残酷だなと」

——もちろん、その時は本当に悲しい訳ですよね。

「悲しくて涙も出ますし、凄く落ち込みます。ただ、この感情を憶えなきゃって意識してる訳じゃなく、勝手に憶えようとするんですよ。どこか客観的に見てしまうというか…、それが怖いです。お芝居をする上で客観視することは大切だと思うんですが、プライベートまで自分を客観視したくないなって」

——色々な表現方法がある中でも、特にお芝居が自分に合っているという

ますか?

「なんでしょう? 細かい理由はないんですが、とにかくお芝居が好きなんです。演じるのが楽しいというか、演じることでカメラマンさんや照明さんなど色々な方と関われることが出来て、みんなでひとつの作品を作ることが好きなんですよね」

——モノ作りというか。

「エンターテインメントというか。デビューして4年経って、役割が大きくなればなる程作品を担っていく訳なので充実しているし楽しいですね」

——今回の作品は、自身にとっても重要なポイントになるはずですから。

「はい、だから凄く光栄です。それを見て評価して下さる方や見て下さる方が面白いと思ってくれたら一層楽しいですし。撮影している時は、絶対に面白いはずだと思っていますけどね。うん、とにかくお芝居が好きなんですよ。自分以外の人格になれるから、という理由でもないんですよ」

——好き、という気持ちは凄く大事ですからね。

「もしかしたら、怖いという気持ちがあるから好きと言えているのかもしれないですけど」

——ちなみに、芝居以外で自分自身に影響を与えているものはありますか?

「今まで共演させて頂いた役者さんとプライベートで飲みに行ったりすることですね。やっぱり今、芝居以外で影響を与えるものってないですね。それが自分の核や[illegible]になっているので、先輩の役者さんと飲みに行ったり、色々なお話を聞くことが楽しい。時には、今のままではダメだなって思ったりして。芝居は上手くなりたいというよりも、伝えなきゃいけないって勝手に使命感を持ってしまう時もあるんです。ただ、自分の年齢は影響するかもしれないですね。デビューしたころよりも考え方が変わってきましたし、来年26歳かと思うと〝26歳か!!〟って(笑)。もちろんプライベートでは結婚や子供を持つことに対してリアルに感じる部分もあります。だから最近、自分の中で人生構築を勝手にし始めましたよ(笑)」

——具体的な何かがあるとか?

「何歳で何をするとかではないんですが、こうなったらいいなとか。結婚も今すぐ出来る訳ではないんですが、今の自分と向き合った時に〝これでいいのか、今の俺〟とか考えますね」

——〝若いな、俺〟とは思わないんですよね。

「全然思わないですね。この話を先輩の役者さんに話すと〝まだクソガキだよ!!〟なんて言われるんですけど(笑)。確かにそうなんですけど、生き急いでる感じもするんですよ、勝手に。24歳から25歳になるのは特に変わらなかったんですが、25歳から26歳ってなぜか大きいんです」

——きっと自分が置かれてる環境も変わったんでしょうね。

「そうですね。もしかしたら、自分で変えようとしているのかもしれないですね。役者としてやっていくのであれば、強固な地盤を作っていかなければいけないなと。あやふやなんですが考えなきゃいけない部分でもあるし」

——今、物凄い勢いで色々なものを吸収しているのかなと。もしかしたら3年後ぐらいに、その成果がポッと出たり。

「そうですね。それは、僕も感じる時もあります。色々吸収する時期だと思いますし、自分でも作っていかないといけない時期だとも思います。吸収したものを自分で出すのではなくて、勝手に出るんだろうなと思います。出てくれたらいいなと」

——本当に今、24時間芝居に囲まれていても苦にならない時期かも。

「はい。でも、何も考えずにビール飲んでるのも好きですけど(笑)」

——それも最高だよね(笑)。

「今までは休みがあると凄く不安だったんですが、このまま思い詰めたらやばいと思って割り切るのもいいかなっ

作るようにしています。だから、ひとつの作品が終わって少し時間が空くよって言われても、リフレッシュ出来るなっていう意識の持っていき方が出来るようになりました。それでも、多少の焦りやもっと演じる経験を積みたいという欲求もありますけど。物事を広く見られるようになったのかな?」

——冷静な自分がいるとか?

「やっぱり、今『アンタッチャブル』という作品をやっているからこそ言えることかもしれないですけどね」

——いいタイミングでいい現場に入りましたね。

「全く逆のパターンもあり得ますからね(笑)」

——あれ? やばいぞ俺、みたいな(笑)。

「そうそう(笑)。しかも、前よりも感情の浮き沈みが激しくなったかもしれない。〝今日、嬉しかったよなぁ〟とか。逆に〝昨日は嬉しかったのに、今日はなんだよ!!〟とか。色々なことに敏感に反応するようになりましたね。きっと色々な刺激を受けて、勝手に地盤作りをしようとしているのかもしれないですね」

——どんどん更新されてるみたいな?

「だから、疲れちゃうんですよ。更新しながら、追いつかない!! って眠れなくなったりして。人間だから強制終了も出来ないし。きっと今この時というのは、40歳とか50歳になって振り返ってみても、色んなことがあって楽しい時期だったんだなって思えると思います」

——先程、使命感という言葉が出ましたが、今自分にとっての使命感とはなんですか?

「まず『アンタッチャブル』という世界の中で生きて、それをひとりでも多くの人に見てもらいたいというのが使命感ですよね。重要な役どころですし、仲間さんとコンビで演じられている。自分の中で絶対に面白い作品だって確信出来ているから言えることなん

いたいです。絶対に面白い作品ですから」

——ひとりの人間としての使命感は?

「やっぱり人生後悔したくないんですよ。なんだろうな……本当にバカみたいなんですが、自分が愛する人達をずっと守っていたいとか。あやふやなんですが、家族を大事にして生きていきたいっていうのが第一なんです。自分に関わっている、その関係性というか。時にはケンカして言い争ったりもするけど、自分に対しての思いと繋がりを大切にして生きていきたいですね。それが僕の使命感、やるべきことかなって」 a

さとう・ともひと

1984年生まれ、東京都出身。『ごくせん』(05年)でドラマデビューし、『仮面ライダーカブト』(06年)の加賀美新役で注目を集める。そのほかの出演作には『ギラギラ』(08年)『ヴォイス〜命なき者の声〜』(09年)『派遣のオスカル〜少女漫画に愛をこめて』(09年)などがある。ドラマ以外にも、映画『少年メリケンサック』(09年)、舞台『キサラギ』などに出演。

『アンタッチャブル』

脚本／橋本裕志
音楽／井筒昭雄
ゼネラルプロデューサー／
桑田潔(テレビ朝日)
プロデューサー／横地郁英(テレビ朝日)
安井一成(ABC)　太田雅晴(5年D組)
演出／下山天　唐木希浩(5年D組)
常廣丈太(テレビ朝日)
出演／仲間由紀恵　要潤　寺島進
佐藤智仁　芦名星　田中要次
酒井敏也　小澤征悦　田中哲司　ほか

ある事情により一流雑誌をクビになり、不本意ながら三流週刊誌「週刊アンタッチャブル」に籍を置くことになった女性記者・鳴海遼子(仲間由紀恵)。並外れた行動力と強い信念をもつ一方で、仕事にも恋愛にも不器用であつかましい彼女が、ジャーナリズムに満ちた記事から一転、有名人のスキャンダルやセンセーショナルな事件・事故を取材することになった。そんな遼子とコンビを組むカメラマン・鷹藤俊一(佐藤智仁)と編集部の仲間達が、巨大組織の陰謀や社会における疑惑、黒い金や人間関係の"闇=アンタッチャブル"と対時する。ミステリーならではの緊張感と、コミカルに設定された各キャラクターによって一話完結で展開される新型ミステリードラマ!!

お気に入りが必ず見つかる!

絶対に観たほうがいい“成長。”

作品 120

今回で第7号の刊行を迎えた『プラスアクトミニ』も創刊から早1年半。各特集で紹介しているドラマ『マイガール』『東京DOGS』『サムライ・ハイスクール』の内容に共通するのは、主人公達が悪戦苦闘し、成長する姿――。今号のテーマもズバリ“成長”という訳で、映画、ドラマ、アニメから成長を描く作品を集め、総力を挙げてご紹介します!!

文／宮浦彰子(t-press)、加藤恵、星野貴子、野村文

※本特集で紹介しているDVDは全て税込価格です。以下メーカーについては、データ部分を略称にて記載させて頂いています。ジェネオン・ユニバーサル・エンターテイメント→GUE／松竹株式会社ビデオ事業室→松竹／ソニー・ピクチャーズエンタテインメント→SPE／20世紀フォックスエンタテインメント→20世紀フォックス／ハピネット・ピクチャーズ→ハピネット／パラマウント・ホーム・エンタテインメント・ジャパン→パラマウント／ワーナー・ホーム・ビデオ→WHV

アイコン説明 ▶ **MOVIE** 映画　**DRAMA** ドラマ　**ANIMATION** アニメーション

003 スラムドッグ$ミリオネア

MOVIE / DRAMA / ANIMATION



少年は知恵という武器で大人への階段を駆け上がる

ムンバイのアジア最大のスラム街で育った少年ジャマールは、世界的人気番組「クイズ$ミリオネア」で、あと1問というところまでたどり着いた。しかし、"貧困層で育った彼がクイズに正解出来るはずがない"と、不正の疑いをかけられ警察に連行されてしまう。取り調べで、自らの生い立ちを話し出すジャマール。そこで彼が豊富な知識を得た訳と、「ミリオネア」に挑戦した理由が明らかになるのだった——。めざましい発展を遂げる混沌のインドで、愛と希望を胸にたくましく生きる少年。純粋に育ってきた彼が、全てをかけて"ファイナルアンサー"を探し求めるエンタテインメント作品。



DATA　09年／米／120分＋特典143 分／メディアファクトリー／3,990円／発売中／監督:ダニー・ボイル／出演:デーブ・パテル　アニール・カプール　イルファン・カーン　マドゥル・ミッタル　フリーダ・ピントほか

001 鴨川ホルモー

MOVIE / DRAMA / ANIMATION



オニを操り勝負! 京都を揺るがす衝撃の祭が始まる!

いかにも京大生という出立ちのモテない大学生・安倍。ある日「京大青竜会」というサークルの新歓コンパで早良にひと目惚れし、うっかり入会してしまう。しかし、サークルには大木凡人そっくりの楠木、日本オタクの帰国子女・高村、俺様オーラ全開の芦屋など変わり者が勢揃いしていたのだ。ただのレジャーサークルだと思っていた安倍は、実は「オニ」を操り戦わせる謎の祭"ホルモー"を行なうサークルと知る。美女に心惹かれつつ、怪しげな祭にハマっていく大学生の姿を描いた、摩訶不思議な青春コメディー。荒唐無稽なストーリーの中で弾ける、役者達のエネルギッシュな演技も見どころ。



DATA　09年／本編114分／ポニーキャニオン／4,935円／発売中／原作:万城目学／監督:本木克英／出演:山田孝之　栗山千明　濱田岳　石田卓也　芦名星ほか

PICK UP

人が成長していく過程には様々なシチュエーションや要因がからむもの。例えば愛だったり、ある出会いだったり、またはライバルの存在だったり。どの作品の登場人物も、成長していくその姿は微笑ましく、頼もしい——。公開まもなくDVD化された最新の作品にも、"成長"が描かれていた!

004 昴—スバル— 特別版

MOVIE / DRAMA / ANIMATION



切磋琢磨しながら世界のトップを目指す!

弟の死をきっかけに父親から見放され、絶望の淵を彷徨っていた少女・すばる。彼女はある日、ふと場末の小劇場"パレ・ガルニエ"に足を踏み入れる。そして、時を経て美しく成長したすばるは、卓越したバレエダンサーとなっていた。しかし、世界的バレエ団に所属するリズや幼馴染みの呉羽真奈など、すばるにライバル心を燃やす者も少なくない。やがて、彼女は上海で行なわれるバレエ・コンクールへの出場を決めるのだが……。曽田正人による同名人気コミックの映画化。数カ月におよぶ猛練習を重ねたというすばる役・黒木メイサの圧倒的なダンスにも目を奪われることだろう。



DATA　09年／105 分／WHV／3,980円／発売中／監督:リー・チーガイ／出演:黒木メイサ　平岡祐太　桃井かおり　Ara　佐野光来ほか

002 グラン・トリノ

MOVIE / DRAMA / ANIMATION



年齢も国籍も違う隣人との思いがけない友情・それぞれの人生が大きく変化する

妻に先立たれ、今はひとりで暮らす頑固な老人・ウォルト。自宅の芝生に一歩でも侵入されれば、ライフルを突きつけるような彼に息子達も寄りつこうとしない。一方、少年・タオは学校にも行かず、自分の進むべき道を見失っていた。隣同士に住むふたりだが、互いに挨拶を交わすことすらなかった。ウォルトが何より大切にしているヴィンテージカーを、タオが盗もうとするまでは——。隣人の少年とその家族との交流が固く閉ざされた老人の心を開かせ、やがてふたりの間にはかけがえのない友情と絆が芽生えていく感動作。新しい世界を知り、変わってゆくふたりの姿から、いくつになっても人は成長出来るんだと教えられる。



DATA　09年／米／117 分／WHV／3,980円／発売中／監督:クリント・イーストウッド／出演:クリント・イーストウッド　ブライアン・ヘイリーほか

愛が人を成長させる。

愛する人のために、自分の利益を全く考えず行動する。
もっとも自分のためではなく、好きな人のため……。
「この人が好き!」。そんな気持ちが人を大きく成長させる。
作品群には『渚のシンドバッド』『小さな恋のメロディ』など。
誰かを好きになった瞬間、その人は"成長"を始めているのだ。

005 あの頃ペニー・レインと
デラックス・ダブル・フィーチャーズ(2枚組)

MOVIE / DRAMA / ANIMATION

ロックと美しい少女が真面目な少年の日常を一変させた

1973年、学校新聞にロックに関する記事を書いていた15歳のウィリアムは、ローリングストーン誌の編集者に才能を認められ、新進バンド・スティルウォーターのツアーの同行取材を任される。やがてウィリアムは、バンドを追いかける少女のひとり、ペニー・レインに恋をする。しかし彼女は、スティルウォーターのギタリストと付き合っていて……。キャメロン・クロウ監督の実体験を基にした青春ストーリー。優等生の少年が初めて知った華やかな世界と、美しい少女への切ない恋。劇的な日々のあと、彼の心に残った宝物のような記憶と、かすかな傷跡が鮮やかに描写されている。



DATA 00年/米/本編123分+特典/囲圓SPE/1,980円[期間限定]/2枚組/発売中/監督・製作・脚本:キャメロン・クロウ/出演:パトリック・フュジット ケイト・ハドソン ビリー・クラダップ フランシス・マクドーマンドほか

006 青い珊瑚礁
コレクターズ・エディション

MOVIE / DRAMA / ANIMATION

孤島でふたりきりになった男女の愛と成長の軌跡

8歳のリチャードは、父アーサーと8歳の従姉妹エミリーとともに、南太平洋を行く帆船に乗っていた。しかし船が火事になり、アーサーとはぐれたリチャードとエミリーは、料理番のパディとともに無人島にたどり着く。パディはふたりに生活の手段を教えるが、やがて命を落とし、リチャードとエミリーだけの日々が始まった。そして数年後。思春期を迎えたふたりは、異性として意識し合うようになり……。過酷な状況下で愛に目覚め、手を取り合って生き抜こうとするふたりを待ち受ける運命とは? センセーショナルな愛の描写と、ブルック・シールズの美しい肢体が話題を呼んだ作品。



DATA 80年/米/本編104分+特典/囲圓SPE/1,980円/発売中/製作・監督:ランダル・クレイザー/原作:ヘンリー・ドゥビア・スタクプール/出演:ブルック・シールズ クリストファー・アトキンズほか

007 恋はデジャ・ブ

MOVIE / DRAMA / ANIMATION

失敗してもやり直せる!? 不思議な恋愛作戦の行方は…

高慢な天気予報官フィルは、ペンシルバニア州で2月2日に行なわれる祭り"聖燭節"を取材。その帰り道、急な吹雪に見舞われて町に一泊することに。しかし、なぜか翌日も、その翌日も聖燭節が開かれ、フィルは2月2日が何度も繰り返されていることに気づく。そんな中で、フィルはプロデューサーのリタを口説くが失敗。その経験を翌日に生かし、徐々に口説きのテクニックを上げていくが……。時間が繰り返されるという奇妙な現象の中で展開するラブコメディー。思い通りにならない恋に奮闘することで、自分勝手な主人公が自らと向き合っていく過程を、洒脱なユーモアを効かせながら描く。



DATA 93年/米/本編100分+特典/囲圓SPE/1,480円[期間限定]/発売中/監督・製作・脚本:ハロルド・ライミス/脚本・原案:ダニー・ルビン/出演:ビル・マーレー アンディ・マクドウェル クリス・エリオットほか

008 気球クラブ、その後

MOVIE / DRAMA / ANIMATION

間の死で初めて知った、限りなく深い愛と悲しみ

が好きな村上がリーダーのサークル"気球クラブ・うわの空"の
バーとして、楽しい青春時代を送っていた二郎。それから5年が
たある日、二郎のもとに、村上が事故死したという知らせが届
。これをきっかけに、バラバラになっていたメンバー達は再び集
ことになる。そこで村上の恋人だった美津子と再会した二郎
彼女の村上に対する深い愛を知ることに……。大切なものを
たあとの喪失感を歌った、荒井由実の名曲「翳りゆく部屋」を
ーフに描く青春群像劇。若者達が経験する"愛と喪失"を巡る
と、その後に訪れる変化を優しい視線で見つめた物語だ。



TA 06年/本編93分+特典69分/囲セディックインターナショナル 圓 東宝/3,990円/発売中/監督:園子温/出演:深水元基 川村ゆきえ 長谷川朝晴 永作博美 西山繭子 いしだ壱成 与座嘉秋(ホーム・チーム)ほか

009 渚のシンドバッド

MOVIE / DRAMA / ANIMATION

み多き高校生達の感情が複雑にからみ合う

2年生の修司は、同級生の吉田に、同性ながら恋心を抱いてい
風変わりな転校生・果沙音は、そんな修司の気持ちを見抜き、彼
味を抱く。しかし、やたらと接近してくる果沙音は、修司にとって
な存在だ。そんなある日、遂に吉田に告白した修司だったが、受
れてもらえず深く傷つく。実は吉田は、果沙音に惹かれ始めて
のだ……。同性を愛してしまった修司と、誰にも言えないトラウ
抱えた果沙音。無邪気な高校生活を過ごせないふたりを中心に
する、少年少女のひと夏の物語。どこかいびつな感情を抱える
が、互いに影響を与えていく姿が切なくも愛しい。



TA 95年/本編129分+特典49分/囲圓東宝/5,040円/発売中/監督:橋口亮輔/出演:岡田義徳 浜崎あゆみ 山口耕史 高田久実 勇静華 草野康太 袴田吉彦 趙方豪 山口美也子 根岸季衣ほか

010 交響詩篇エウレカセブン
DVD全13巻

MOVIE / DRAMA / ANIMATION

女との出会いが、悩み多き少年の旅路の始まりだった

が故郷の星を追われ、別の星に定住の地を見つけてから数世
辺境の街に住む少年レントンは、無力な自分と選択肢のない未
苛立っていた。今は亡き父は大災害から人々を救った英雄。そ
引き換え、自分は成績も悪く毎日空想ばかりの落ちこぼれ。ある
そんな彼の前に見たこともないロボットに乗った、神秘的な少
エウレカが現れる。彼女との出会いは、レントンの運命を大きく変
いくのだった——。新進気鋭のスタッフが贈る、新感覚アニメー
ン超大作。ビジュアルや音楽のセンスもさることながら、登場キャ
ター達のビルドゥングスロマンとしての面白さが抜群だ。



TA 05年/本編1200分+映像特典96分/囲圓バンダイビジュアル/1巻:3,990円 2~13巻:6,300円/発売中/監督:京田知己/声の出演:三瓶由布子 名塚佳織 藤原啓治 根谷美智子 松本保典 山口太郎 長島雄一 志村和幸 宮野真守 水沢史絵 浅野まゆみほか

011 小さな恋のメロディ

MOVIE / DRAMA / ANIMATION

つの時代も新鮮に輝く最もピュアなラブストーリー

家庭のダニエルと、貧しいながらもやんちゃなトムは大の仲良
ある日、ダニエルはメロディという少女に一目惚れをし、彼女も
に彼に心惹かれていく。お互いの好意を確かめ合い、結婚
束をするダニエルとメロディ。最初は嫉妬していたトムだった
ふたりに協力するため、クラスメイトを巻き込んである作戦を
るのだが……。少年少女の淡い恋心を描いたラブストーリー
作として、製作から40年近く経つ今もなお、世界中で愛され
ている。大人達を惑わせる純粋な行動、いつしか芽生える自
に、青春の甘酸っぱい思い出が込み上げてくるようだ。



A 71年/英/本編106分/囲角川映画(株) 圓ポニーキャニオン/3,990円/発売中/監督:ワリス・フセイン/原作・脚本:アラン・パーカー/出演:マーク・レスター トレーシー・ハイド ジャック・ワイルド シェイラ・スティーフルほか

アイコン説明 ▶ MOVIE 映画 DRAMA ドラマ ANIMATION アニメーション

015 サイダーハウス・ルール

MOVIE / DRAMA / ANIMATION

孤児院を飛び出した青年の成長を描く珠玉の名作



孤児院で生まれ、院長ラーチの温かい愛を受けて育ったホーマー。彼は助産や違法な堕胎を行なうラーチの仕事を手伝いながら、どこか将来に不安を抱いていた。そんなある日、堕胎手術を受けに来た女性キャンディーとその恋人ウォリーに誘われ、ホーマーは孤児院を飛び出した。ウォリーの母が経営するリンゴ園で働き始めた彼は、いつしかキャンディーに惹かれていくが……。孤児院という狭い世界で育ったホーマーが初めて知った、社会の楽しさと厳しさ、そして激しい恋。爽やかな青年の成長物語の中に、社会のルールの意義や、人間としての在り方を優しく問う視点が見える感動作。

DATA 99年／米／126分／圏アスミック／角川映画 圏角川エンタテインメント／2,500円／発売中／監督:ラッセ・ハルストレム／出演:トビー・マグワイア シャーリーズ・セロン マイケル・ケインほか

012 BOSS DVD-BOX

MOVIE / DRAMA / ANIMATION

天海祐希が曲者揃いの刑事達のBOSSに就任!!



大澤絵里子は、警察キャリアとして頭脳明晰で仕事も出来るイイ女。かつて、男のために出世を棒に振ったことから、事実上の左遷として米国研修に出されていた。帰国後、多発する凶悪犯罪対策の切り札として新設された部署のトップに就任するが、そこに集められたメンバーは警察内の問題児ばかり。そんな落ちこぼれ集団を絵里子は"BOSS"としてひとつにまとめ上げ、やがて優秀な捜査チームへと導いていく。事件解明という共通の使命を通し、個性豊かな刑事達が少しずつ歩み寄って行く姿が印象的な本格派刑事ドラマ。軽快なやりとり、犯人役の豪華俳優陣にも注目したい。

DATA 09年／本編535分／圏フジテレビ 圏ポニーキャニオン／23,940円／7枚組／発売中／脚本:林宏司 西平晃太 演出:光野道夫 石井祐介 星野和成 成田岳／出演:天海祐希 竹野内豊 戸田恵梨香 溝端淳平 吉瀬美智子ほか

016 ミヨリの森

MOVIE / DRAMA / ANIMATION

少女と精霊達が森を守るために戦う壮大なファンタジー



不仲な両親の間で育ったせいで、心を閉ざしてしまった11歳のミヨリ。ある日、母親が男を作って家出してしまったため、ミヨリは田舎に住む祖母に預けられる。祖母の家の近くの森に散歩に出かけたミヨリは、折れたはずの桜の木が花をつけたり、いるはずのないトラが現れたりする不思議な現象を目撃。更には森の精霊達が、森を守ってほしいとミヨリに頼んできて……。愛情に飢えた孤独な少女が、森の精霊との交流を通して成長していくファンタジーアニメ。自分の大切な居場所となった森を危機から救うため、先頭に立って戦うミヨリの姿は、すがすがしい生命力に満ちている。

DATA 07年／107分／圏フジテレビ 圏アスミック／角川エンタテインメント／4,935円／発売中／監督:山本二三／声の出演:蒼井優 市原悦子 天野ひろゆき 高島彩 松尾翠 元ちとせほか

ある出会いがきっかけで。

無人島でずっとひとりで生きていたとすれば、人は成長するか?
サバイバル能力は身につきそうだけど、おそらく答えはノー。
とある出会いをきっかけに人は突然成長を見せる。
ここでは『釣りキチ三平』『アカルイミライ』などをご紹介。
偶然の出会いが人の人生を変える。なんともスリリングじゃないか。

017 天使のくれた時間 デラックス版

MOVIE / DRAMA / ANIMATION

もしも別の世界で今と違う生き方が出来たら……



13年前、恋人のケイトに別れを告げ、成功を夢見てロンドンへやって来たジャック。そして現在、会社社長にまで上り詰めた彼は、クリスマスイブの夜に謎めいた黒人青年と出会う。翌朝、いつものように目を覚ましたジャックは、なぜか見知らぬ家でケイトと一緒に眠っていた。そこは、ジャックがケイトと結婚し、子供達を愛するよき家庭人として生きている世界だったのだ——。不思議な青年との出会いによって、もうひとつの世界で生きることになったジャック。平凡で愛に溢れた人生を体験し、本当の幸せに気づくジャックの姿を描くことで、人生の意味を奥深く見つめた感動作。

DATA 01年／米／125分／圏圏GUE／2,500円／発売中／監督:ブレット・ラトナー／脚本:デヴィッド・ダイアモンド デヴィッド・ウェイスマン／出演:ニコラス・ケイジ ティア・レオーニ ドン・チードル ジェレミー・ピヴェン ソウル・ルビネックほか

013 野のユリ スタジオ・クラシック・シリーズ

MOVIE / DRAMA / ANIMATION

砂漠に修道院を建てた修道女達とひとりの男の物語



東ドイツの修道院が、アリゾナの荒野の土地を相続することになった。その土地に修道院を建設するという任務を背負って、5人の修道女がアリゾナへとやって来る。作業に奮闘していた5人は、砂漠を旅していた黒人男性ホーマーと出会い、彼に建設を手伝ってほしいと頼む。ホーマーはその頼みを引き受けるが、そんな彼を数々の困難が待ち受けていた——。砂漠に修道院を建設するという困難な計画を実現させた、修道女達とひとりの男の交流を描くヒューマンドラマ。修道女達に頼られ、いつしか修道院建設にやりがいを見出していくホーマーの、さりげない優しさが心に残る。

DATA 63年／米／本編95分+特典／圏20世紀フォックス／2,990円／発売中／製作・監督:ラルフ・ネルソン／原作:ウィリアム・E・バレット／脚本:ジェームズ・ポー／出演:シドニー・ポワチエ リリア・スカラほか

018 釣りキチ三平

MOVIE / DRAMA / ANIMATION

35年の時を経て——伝説の釣りコミックを実写映画化



大自然に囲まれた、東北地方のある村。釣り名人と評判の一平じいさんと暮らしていた三平は、祖父の指導と生まれながらの素質により、天才的な釣り名人として名を馳せていた。ある時、そんな三平にアメリカで釣りのプロとして活躍している鮎川魚紳が声をかけてくる。魚紳が語る「夜泣谷の巨大魚」の伝説に興味を示す三平。しかし、東京からやってきた三平の姉は、彼に釣りをやめさせようとするが……。釣りブームの火付け役となった伝説のマンガを実写化。周囲の反対を押し切ってなお、自分の夢を貫き通す、そんな強い意志を持った少年のひと夏の成長、そして家族との絆を映し出す。

DATA 09年／本編118分+特典／圏圏バップ／5,040円／発売中／監督:滝田洋二郎／出演:須賀健太 塚本高史 香椎由宇 渡瀬恒彦 土屋太鳳 小宮孝泰 志村東吾 安居剣一郎 平賀雅臣ほか

014 MW ームウー 第0章 ～悪魔のゲーム～ <完全版>

MOVIE / DRAMA / ANIMATION

悪魔のような男が仕かけた恐怖のゲームとは…



養護施設で育った隆志は派遣切りで職を失い、怪しいアルバイトに手を染める。そこで出会った結城に誘われ、彼の仕事を手伝うことになる隆志。それは、ヤミ献金や収賄で流れた裏金を奪う仕事だった。結城の仕事を手伝ううちに、隆志は自分の出生の秘密に関わる人物を知る。そして、過去の重大な殺人事件と大きな陰謀の存在に気づくのだった。そんな隆志に、結城はある残酷なゲームを仕かける——。世界征服を企む狂気の男・結城の罠にはまった素朴な青年・隆志の恐怖を描くサスペンス。愛する人を守るために戦う隆志のひたむきさが、悪夢のような展開の中に救いを感じさせる。

DATA 09年／本編88分+特典43分／圏圏アミューズソフトエンタテインメント／3,990円／発売中／監督:岩本仁志／出演:佐藤健 谷村美月 大河内浩 小出恵介(友情出演) 玉木宏ほか

019 旅立ち～足寄より～

MOVIE DRAMA ANIMATION

赤裸々に綴る、松山千春デビューの軌跡と深い絆の物語

“昭和50年全国フォーク音楽祭・北海道大会”にパトカーで到着する、当時19歳の松山千春。観客はその出で立ちに爆笑するが、千春が歌い始めると、透き通るようなハイトーンボイスと自作の歌詞の世界に圧倒される。一早く彼の才能に気づいたラジオディレクター竹田健二は、「チャンスが来るまでに作れるだけ曲を作っておけ!」と告げ……。シンガーソングライター・松山千春が書き下ろした自伝『足寄より』を映像化。千春を世に出すことに自らの人生を賭け、尽力した竹田の存在はあまりに大きい。年齢を超越した男同士の友情と深い絆には、誰もが胸を熱くせずにはいられない。



©2008 PLUSMIC CFP

DATA 06年／本編112分+特典約65分／製販ハピネット／4,935円／2枚組／発売中／原作:松山千春(扶桑社刊)／監督:今井和久／脚本:鴨義信／出演:大東俊介　萩原聖人　石黒 賢　泉谷しげるほか

020 アカルイミライ (通常版)

MOVIE DRAMA ANIMATION

他人とわかりあえない世界で始まる、ひとつの交流

人付き合いが苦手な仁村雄二にとって、有田守は心許せる唯一の存在。凶暴性を抑えきれない雄二に、守は「待て」と「行け」の合図を教える。そんな守が、飼っていた猛毒クラゲを雄二に託したあと、勤務先の社長を殺害し収監される。面会に訪れ「待ってる」と言う雄二に絶交を告げる守。苛立つ雄二はクラゲを床下に流してしまう。そんな折、守が「行け」のサインを残して獄中で自殺。やがて雄二は守の父と交流を始めるが……。ひとりの死を経て、見えなかった“ミライ”が見えてくる。誰ともわかりあえない世界であることを受け入れながら、それでも共存しようとする人々の姿を感動的に描く。



©2002アカルイミライ製作委員会

DATA 03年／115分+特典／製クロックワークス　販メディアファクトリー／4,935円／発売中／監督・脚本・編集:黒沢清／出演:オダギリ ジョー　浅野忠信　藤竜也　りょうほか

命を通して見えた成長。

生き死にに関わると、どうしたって人は必死になるもの。
それはそうだ。だけど、そんな抜き差しならない状況でこそ、
人は知らず知らずのうちに成長するものなのかもしれない……。
限りある命を大切に生きる。それこそ成長なのだと作品群は語る。
『ゼブラーマン』『七人の侍』などから、“成長”を読み取れ!

021 るろうに剣心—明治剣客浪漫譚— 巻ノ一

MOVIE DRAMA ANIMATION

不殺を胸に、人々のために命を賭けた流浪人の生き様

不殺の信念のもと、人々のために逆刃刀を振るう流浪人・緋村剣心。かつては動乱の幕末に“人斬り抜刀斎”の雷名をとどろかせた伝説の刺客が、出会いや宿敵との戦いを通じ、人々を守るために剣と心を賭けて戦いの人生を完遂する姿を描く。本作では、「伝説の美剣士・・・・愛ゆえに闘う男」「ガキ侍スッた!モンだ!で門下生」「哀しみの剣士・過去を斬る男」の3話を収録。神谷活心流の師範代を務める神谷薫や少年スリ・明神弥彦との出会い、幕末維新を闘った同志・山県有朋との再会を軸に、命の尊さを描きながら新たな時代を生き抜くたくましい姿に胸が打たれる作品だ。



©和月伸宏／集英社・フジテレビ・アニプレックス

DATA 96~98年／78分／製アニプレックス　販ソニー・ミュージックディストリビューション／4,725円／発売中／原作:和月伸宏(集英社 ジャンプ・コミックス)／監督:古橋一浩／声の出演:涼風真世　藤谷美紀　冨永み～なほか

022 劇場版 天元突破グレンラガン 紅蓮篇

MOVIE DRAMA ANIMATION

はまだ自分の運命に気づかぬひとりの男の物語

未来、人類は息を潜めるように地中深くで暮らしていた。ある の天井が崩れ去り、巨大なメカと少女ヨーコ、そして空から降 太陽の光が現れた。ジーハ村の少年シモンと、地上があるこ 信じて疑わなかった男カミナは、ヨーコを仲間に加えて遥かな 上へと飛び出す。テレビシリーズを超えるスケールで、地上を目 て冒険するシモンと仲間達の姿を描いた熱き物語。ロボットア の常識を打ち破り、多くの世代を巻き込んで盛り上がりをみせ ーリーがパワーアップしてよみがえる。立ちはだかる圧倒的な 立ち向かう主人公達の姿は圧巻の一言。



©GAINAX・中島かずき／劇場版グレンラガン製作委員会

08年／112分+特典65分／製アニプレックス　販ソニー・ミュージックディストリビューション／7,140円／2枚組／発売中／監督:今石洋之／声の出演:柿原徹也　小西克幸　井上麻里奈　福井裕佳梨　伊藤静ほか

023 ゴッドハンド輝 DVD-BOX

MOVIE DRAMA ANIMATION

者への想いがドジな医師をゴッドハンドに変える

ぞろいの安田記念病院に、ドジで頼りない新人外科医・真東 着任した。ある日、輝しか外科医がいない状況の中で、病院に の少女が運び込まれる。動揺する輝だったが、少女の容態が した瞬間、彼の胸のあざが激しく疼く。それは、幼いころに大事 遭った輝に、父が施してくれた心臓マッサージの跡だった。そし の中で大きな力が覚醒する——。ドジでミスばかりの新人外科 が、誰も死なせたくないという強い思いを抱くことで、“ゴッド ド”に変貌する物語。命への執着を武器に、理想の医療を目 ていく輝の成長を通して、医療のあるべき姿を問いかける。



©MMJ・TBS
©山本航暉/講談社

09年／約250分／製TBS　販 アミューズソフトエンタテインメント／11,970円／発売中／演出:下山天　塚本連平／出演:平岡祐太　水川あさみ　村川絵梨　別所哲也　渡部篤郎ほか

024 あずみ スタンダード・エディション

MOVIE DRAMA ANIMATION

豊の刺客あずみはなんのために戦い続けるのか?

幕府が開かれたころ、両親を亡くしたあずみは老人に拾われ、 の孤児達と一緒に育てられる。彼らが“爺”と呼ぶその老人は、 達を幕府のための刺客に育てるという密命を受けていた。10年 は孤児達に互いを殺し合うという試練を与える。生き残った みら5人は、旧豊臣側の大名・浅野長政と加藤清正暗殺の命を て旅立った——。同名人気コミックを原作に、美少女刺客がた 過酷な運命をハードなアクションとともに描く。人を斬り続ける ないあずみの殺伐とした生き方が悲しいからこそ、行く先々で う人々との束の間の交流や仲間との絆が一層輝いて見える。



©2003「あずみ」製作委員会

03年／143分／製株式会社ショウゲート/小学館　販アミューズソフトエンタテインメント／5,040円／発売中／監督:北村龍平／出演:上戸彩　オダギリジョー　小橋賢児　成宮寛貴　小栗旬ほか

025 フィッシュストーリー

MOVIE DRAMA ANIMATION

空を超えてからみ合う人々がたどり着いた意外な結末

5年、売れないパンクバンドの逆鱗は、最後の曲「FISH RY」を残して解散。1982年、気の弱い大学生が、偶然出 た女性から「いつか世界を救うだろう」と予言される。2009 突然起きたシージャック事件に、女子高生とコックが巻き込ま そして2012年。地球滅亡の危機が迫る中、レコード店の店 逆鱗の「FISH STORY」をかける——。間奏中に謎めいた空 ある曲「FISH STORY」を軸に、いくつものエピソードが時空 えて交錯。それぞれの時代を生きる人々の何気ない行動が未 変え、奇跡に繋がる爽快なストーリーだ。



©2009「フィッシュストーリー」製作委員会

09年／112分／製株式会社ショウゲート 販アミューズソフトエンタテインメント／4,935円／発売中／監督:中村義洋／出演:伊藤淳史　高良健吾　多部未華子　濱田岳　森山未來　大森南朋ほか

アイコン説明 ▶ MOVIE 映画　DRAMA ドラマ　ANIMATION アニメーション

030 シンデレラマン

MOVIE / DRAMA / ANIMATION

どん底からはい上がった伝説のボクサーの物語



©Buena Vista Home Entertainment, Inc.

前途有望なボクサーと評判のジムは、美しい妻メイと3人の子供に囲まれ、幸せをかみしめる毎日。しかし1929年、右手の故障でジムはボクシング界を引退。同じころ、大恐慌がアメリカ経済を直撃し、彼は肉体労働で日銭を稼ぐ生活を余儀なくされる。家族への愛を心の支えに、極貧生活に耐えるジム。そんな彼の元に、1日限りの復活試合の話が舞い込む――。"シンデレラマン"と呼ばれた、実在のボクサーの熱い生き様を描くヒューマンドラマ。どん底の生活に陥っても、試合中に何度ダウンしても、決して諦めずに立ち上がるジム。その不屈の精神が奇跡を起こすまでの物語。

DATA 05年／米／本編144分／図圓ウォルト・ディズニー・スタジオ・ホーム・エンターテイメント／1,500円／発売中／監督:ロン・ハワード／脚本:クリフ・ホリングワースほか／出演:ラッセル・クロウ　レネー・ゼルウィガー　ポール・ジアマッティほか

031 ER緊急救命室<ファースト> アンコール

MOVIE / DRAMA / ANIMATION

緊急救命室で繰り広げられる生命のドラマ



舞台はシカゴにあるカウンティー総合病院。ERに配属されたカーターは、初日から患者の血を見て倒れてしまう。そんな散々なスタートを切った彼の監督役には、甘えを一切認めない外科医のベントンに決定した。一方、レジデントのスーザンは問題ある姉に悩まされ、ERの良心である内科医グリーンは離婚問題に直面。そんな中、いつもとなんら変わらず働いていた看護師長のキャロルが、自殺未遂を起こしてERに運び込まれて……。24時間昼夜を問わず、急患を待ち受ける緊急救命室で展開する戦場さながらの生死のドラマ、人間味溢れる登場人物達の葛藤と成長をスピーディー、且つリアルに映し出す。

DATA 96年／米／約1204 分／図圓WHV／15,750円／7枚組／発売中／出演:アンソニー・エドワーズ　シェリー・ストリングフィールド　ジュリアナ・マルグリーズ　ジョージ・クルーニー　ノア・ワイルほか

家族や愛する人に支えられて。

妻や夫、娘や息子。家族の愛があってこそ、人は生きていける。『HOTMAN』や『ALWAYS 続・三丁目の夕日』などに見る、愛する家族との温かい信頼関係は、観る者を微笑ましくさせる。当たり前のことだけど、人は決してひとりでは生きていけない。成長する背景には、様々な人が背中を押してくれる現実がある。

032 だいすき!!

MOVIE / DRAMA / ANIMATION

知的障害のある母親のひたむきな子育てを描く



軽度の知的障害がある23歳の柚子は、母・美代子と弟・蓮に見守られ、伸び伸びと暮らしている。そんな中、柚子が付き合っていた草介が死亡し、柚子は彼の子を妊娠していることに気づく。美代子は出産に大反対するが、柚子はどうしても産むと言い張るのだった。そして時が過ぎ、柚子は元気な女の子・ひまわりを出産する――。知的障害を抱えた母親が、困難な状況にくじけず、懸命に子育てに取り組むハートフルドラマ。ひまわりをまっすぐに愛する柚子と、彼女を全力で支える家族や周囲の人々。それぞれの温かい愛情によって、ひまわりがすくすくと育っていく様に胸が熱くなる。

DATA 08年／本編469分＋特典映像60分／図TBS 圓TCエンタテインメント／19,950円／5枚組／発売中／原作:愛本みずほ(講談社「BE・LOVE」連載)／脚本:渡辺千穂 …恵里子 荒井修子／出演:香里奈　平岡祐太　福田沙紀　紺野まひる　臼田あさ美　ほか

026 蒼穹のファフナー Arcadian project 01

MOVIE / DRAMA / ANIMATION

未知の生命体と戦う若者を描いたSFアニメの超大作



©XEBEC・竜宮島役場

日本の片隅に浮かぶ平和で穏やかな島。見渡す限り広がる蒼い空と碧い海。真壁一騎らにとって、今日もいつもと変わらぬ一日が始まるはずだった。突然、彼らは「あなたはそこにいますか」と言うメッセージを受け取る。「YES」と応えた瞬間、一筋の光が蒼穹をよぎり、突如として敵が現れた。一騎は生きるために、巨大な人型ロボット・ファフナーに乗り込むことを決意する。近未来の地球を舞台に、未知の生命体の侵略から人類を守ろうと立ち上がった少年少女の姿を描くSFアニメ。予測不能なストーリー展開と魅力的なキャラクターを通し、若者達の生き抜く姿を印象的に描き出す。

DATA 04年／本編74分／図圓キングレコード／6,800円／発売中／監督:羽原信義／声の出演:石井真　喜安浩平　松本まりか　松来未祐　入野自由　斎賀みつき　新井里美ほか

027 天国の本屋～恋火 <2枚組>

MOVIE / DRAMA / ANIMATION

美しい花火が彩るファンタジックな恋物語



©2004「天国の本屋～恋火」フィルムパートナーズ

和菓子店の娘・香夏子は、商店街の花火大会で伝説の"恋を成就させる花火"を復活させるため、ある花火師を探し出す。しかしその男・瀧本はすでに花火を捨て、自暴自棄な生活を送っていた。そのころ、天国では、生きているのになぜか"天国の本屋"で働くはめになったピアニストの健太が、子供のころ憧れていたピアニスト翔子と再会。彼女は、ある事件が原因でピアノを弾けなくなっていた――。天国と地上のふたつの出会いが、切ない恋物語を映し出す。ファンタジックな世界観の中に、死によって愛を失う悲しみと、人を愛する心の美しさが浮かび上がる珠玉のラブストーリー。

DATA 04年／約111分＋特典約130分／図圓松竹／4,935円／発売中／監督:篠原哲雄／出演:竹内結子　玉山鉄二　香里奈　新井浩文　あがた森魚　香川京子　香川照之　原田芳雄ほか

028 ゼブラーマン 通常版

MOVIE / DRAMA / ANIMATION

白黒つけるぜ!　夢に見た憧れのヒーローはシマウマ!!



©映画「ゼブラーマン」製作委員会

小学校教師・市川新市は生徒からバカにされ、家庭は崩壊寸前という苦境に立っていた。そんな彼の唯一の救いは、34年前に打ち切られたヒーロー番組『ゼブラーマン』。コスチュームを作り、それをこっそり着ては夜な夜な通りを歩く新市。そのころ、街では奇妙な事件が起こっていた。宇宙人が原因との情報を得た防衛庁が動き出す中、"ゼブラーマン"に扮した新市の活躍が始まる――。哀川翔の記念すべき主演100本目。シマウマのコスチュームに身を包む新市が、どこか幼気な絶妙の雰囲気を醸し出している。こっそりと有名役者達が登場するのも、本作の面白さだ。

DATA 04年／115分＋特典映像／図東映ビデオ 圓東映／4,935円／発売中／監督:三池崇史／脚本:宮藤官九郎／出演:哀川翔　鈴木京香　渡部篤郎　内村光良(友情出演)　市川由衣　大杉漣　柄本明　岩松了　近藤公園　安河内ナオキ　渡辺真起子ほか

029 七人の侍 <普及版>

MOVIE / DRAMA / ANIMATION

野盗と戦うために集まった7人の侍の死闘が始まる!



時は戦国時代。麦の刈入れを終えようとしていたとある農村では、人々が麦を狙う野武士達の襲来におびえていた。野盗と化した野武士から村を守るため、村の長老は侍を雇うことを決断。侍を探しに出かけた村人達は、やがて貧しい7人の浪人を見つけ出す。こうして集まった7人の侍と村人達は、野武士との死闘に備えて訓練を開始するのだった――。映画史に燦然と名を残す、黒澤明監督による不朽の名作。個性的なキャラクターを演じる名優達の演技、ダイナミックな戦闘シーンなど、全編が見せ場の連続。村人のために命を賭けた7人の侍の屈強な魂が、深い余韻となって胸に刻まれる。

DATA 54年／本編207分＋特典／図圓東宝／5,040円／2枚組／発売中／監督:黒澤明／出演:三船敏郎　志村喬　稲葉義男　宮口精二　千秋実　加東大介　木村功　津島恵子ほか

037 もしも昨日が選べたら

MOVIE / DRAMA / ANIMATION

て初めて気づいた、家族と過ごす一瞬一瞬の輝き

士のマイケルは、家族をかえりみず、ひたすら仕事だけに邁進た。時間を無駄に使いたくない彼は、全ての電化製品に対応るリモコンを探していたある日、不思議なリモコンを手に入れれは電化製品だけでなく、人や時間も自由自在に操れる万能ンだった。早速彼は、家族との面[illegible]な時間や、出世までの道を早送りして、思い通りの生活を[illegible]するが……リモコンでの様々な瞬間を自ら排除した[illegible]ケル[illegible]いつしか失った時間味に気づき、苦悩する姿が切ない[illegible]生、家族[illegible]時間への思いらが自問したくなるヒューマンストー[illegible]ーだ。



©2006 COLUMBIA PICTURES INDUSTRIES, INC ALL RIGHTS RESERVED.

06年／米／本編107分＋特典／発販SPE／1,4[illegible]0円／発売中／
監督:フランク・コラチ ニール・モリッツ／出演:ケイト・ベッキンセール
クリストファー・ウォーケン　アダム・サンドラーほか

038 ALWAYS 続・三丁目の夕日
通常盤

MOVIE / DRAMA / ANIMATION

に挑む青年を見守る優しき隣人達

34年の東京。小説家志望の青年・茶川は、黙って出て行ったヒいまだに想い続けている。ある日、ヒロミから預かった少年・淳と暮らす茶川の元に、少年を連れ戻そうと実父が現れた。茶川一度は諦めていた“芥川賞受賞”の夢に向かって、再び小説のを始める。人並みの暮らしをして淳之介を育てるために、そしては踊り子をしているヒロミに一人前の自分を見せるために愛する人達のために変わろうと懸命に努力する茶川。そんな優しく励まし、見守る三丁目の住人達。隣人との距離が近かっき良き時代ならではの温かさにホロリとさせられる。



©2007「ALWAYS 続・三丁目の夕日」製作委員会

07年／本編93分＋特典69分／発小学館　販バップ／3,990円／発売中／
監督:山崎貴／出演:吉岡秀隆　堤真一　小雪　堀北真希　須賀健太
小清水一揮　小日向文世　もたいまさこ　三浦友和　薬師丸ひろ子ほか

039 ルート225

MOVIE / DRAMA / ANIMATION

たりでいれば大丈夫!　姉と弟のおかしな成長物語

2年生のエリ子は、ママに頼まれて帰りの遅い弟ダイゴを迎行くことに。するとダイゴは、なぜかランニング姿で公園のブラに座っていた。帰り道、いつもの風景に違和感を覚えながらもたどり着くと、ママがいない。朝になってもママは帰らず、ダイクラスメイト・クマノイさんは死んでいる。どうやら、エリ子とダは違う世界に来てしまったらしい――。ユニークなストーリー展大きく成長する10代の心の機微を優しく描き出した作品。そ写は、現実は容易ではないけれど、力強く生きて行こうとする達への温かい眼差しで溢れている。



©2005「ルート225」パートナーズ（オフィス・シロウズ／衛星劇場／ハピネット・ピクチャーズ）

06年／本編101分＋特典約43分／発販ハピネット／3,990円／発売中／
監督:中村義洋／原作:藤野千夜 (理論社／新潮文庫刊)／脚本:林民夫／
出演:多部未華子　岩田力　石田えり　崔洋一　嶋田久作　梅沢昌代　田中要次ほか

040 雨鱒の川　ファースト・ラブ

MOVIE / DRAMA / ANIMATION

の中で生き続ける、初恋、故郷、そして母の無償の愛

描くことが大好きな8歳の心平は、耳が聞こえない小百合といつ緒に遊んでいた。ある日、心平が描いた“雨鱒の絵”がパリ児画展で特賞を獲ったニュースが飛び込んで来る。22歳になったは小百合と変わらず仲良く過ごし、働きながら絵を描くことに熱ていたが、東京の画廊に絵が売れたと聞いて上京を決意するのた……。絵を描く天賦の才をもった少年と耳の不自由な少女、に想いを寄せる少年の悲しいくらいに澄みきった3人の物語。の大人達の中で、それぞれの初恋にどう決着をつけるのか。雄自然を背景に、人生の機微が美しい映像で綴られている。



©2004雨鱒の川フィルムパートナーズ

04年／本編114分＋特典75分／発販パラマウント／4,179円／2枚組／
発売中／監督:磯村一路／出演:玉木宏　綾瀬はるか　中谷美紀
須賀健太　志田未来ほか

033 流星の絆
DVD-BOX

MOVIE / DRAMA / ANIMATION

東野圭吾&宮藤官九郎の魅力が融合したミステリー

洋食店を営む両親の元で育つ功一、泰輔、静奈。ある夜、3人が流星群を見に行っている間に、両親が殺された。養護施設に引き取られ、やがて大人になった3人は、共謀して金持ちの男から金をだまし取るようになる。両親が殺された事件の時効が迫ったある日、洋食店チェーンの御曹司・戸神を詐欺のターゲットにした3人は、戸神の父親が両親殺しの犯人ではないかと疑い始める――。東野圭吾の傑作ミステリー小説を、宮藤官九郎が大胆に脚色。殺人事件の真相に迫る謎解きとともに、悲しみを背負った兄弟3人の心の軌跡を描く。シュールな笑いと叙情性が共存した魅力溢れる一作。



©TBS ©東野圭吾/講談社

DATA
08年／本編481分＋特典映像100分／発TBS　販TCエンタテインメント／19,950円／6枚組／
発売中／原作:東野圭吾「流星の絆」(講談社)／脚本:宮藤官九郎／演出:金子文紀　石井康晴／
出演:二宮和也　錦戸亮　戸田恵梨香　要潤　尾美としのり　設楽統　三浦友和ほか

034 サウスバウンド
スペシャル・エディション

MOVIE / DRAMA / ANIMATION

とことん迷惑な男が家族を連れて沖縄へ移住!

元過激派の一郎は、税金を払うことを嫌がったり、子供達が通う学校に桶突いたりする型破りな男。そんな彼を父親に持つ小学生の二郎と妹・桃子は、彼の存在が恥ずかしくて仕方ない。ある日、二郎が友達のためにいじめっ子とケンカしたことで、一郎と学校側が激しく衝突。それを機に、一家は沖縄の西表島に引っ越すことに。しかし、西表島でも一郎は観光開発業者と対立し……。全編にわたって、豊川悦司演じる一郎の憎めない魅力が全開。強烈な個性を持つ暴れん坊の父親と、迷惑がりながらもその魅力に気づいていく家族。おかしくも温かい絆で結ばれた一家の関係をコミカルに描く。



©2007「サウスバウンド」製作委員会

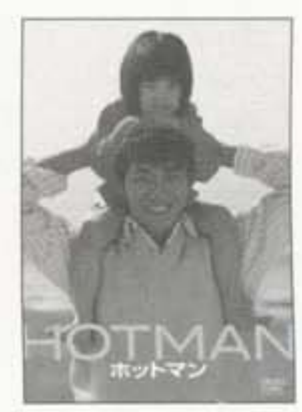
DATA
07年／本編114分＋特典約37分／発角川映画　販角川エンタテインメント／
4,935円／発売中／監督・脚本:森田芳光／原作:奥田英朗／
出演:豊川悦司　天海祐希　北川景子　田辺修斗ほか

035 HOTMAN
DVD-BOX

MOVIE / DRAMA / ANIMATION

全員父親が違う5人きょうだいの温かい絆を描く!

元不良で、現在は高校の美術教師の円造は、10年前に他界した大女優・降矢百合子の息子。男好きだった百合子には、円造のほかにも父親の違う4人の子供がいた。円造はその4人の姉や弟を集め、百合子が遺した家で面倒を見ている。更にこの家には、円造が溺愛している4歳の娘・七海がいるが、七海の母親が誰なのかは誰も知らなかった――。元不良の円造を始めとする個性的な5人きょうだいと、どこまでも愛らしい円造の娘・七海。複雑な事情を抱えたユニークな大家族の絆を描く感動ドラマ。家族に起きた問題を解決するため、全力で突っ走る円造の熱い思いが、心を温めてくれる作品だ。



©TBS

DATA
04年／498分＋特典約15分／発TBS　販松竹／26,880円／5枚組／
発売中／演出:中島悟　位部将人／出演:反町隆史　矢田亜希子
黒谷友香　小西真奈美　市川由衣　山内奈々　久我陽子　深水元基ほか

036 幸せのちから
コレクターズ・エディション

MOVIE / DRAMA / ANIMATION

愛する息子のために奮闘した父のサクセスストーリー

1981年、サンフランシスコ。新型医療機器を病院に売り込むセールスマンのクリスは、大もうけを狙って医療機器を大量に買い込んだものの、ほとんど売れず苦境に陥る。家賃滞納で部屋を追い出され、妻にも逃げられたクリスは、5歳の息子クリストファーとふたり途方に暮れていた。そんな中、クリスはふとしたきっかけで、一流証券会社の社員を目指すことにするが……。ホームレスから億万長者に上り詰めた実在の男性の半生を、父と息子の愛情物語として描く感動作。息子への愛を原動力に、逆境をはねのける主人公のまなざしは、守るべきものを持った人間の強さを教えてくれる。



©2006 COLUMBIA PICTURES INDUSTRIES, INC AND GH ONE LLC. ALL RIGHTS RESERVED.

DATA
06年／米／本編117分＋特典／発販SPE／1,980円／発売中／
監督:ガブリエレ・ムッチーノ／脚本:スティーヴン・コンラッド／出演:ウィル・スミス
ダンディ・ニュートン　ジェイデン・クリストファー・スミスほか

044 生徒諸君! DVD-BOX

MOVIE / **DRAMA** / ANIMATION

熱血教師ナッキーが問題だらけの学校にやって来た!



©庄司陽子／講談社／朝日放送・テレビ朝日・ホリプロ

新人教師の尚子は、夢と理想に燃え、みなと市立御園中学校の門をくぐった。しかし担当になったのは、大人に不信感を抱く生徒が集まった2年3組。尚子が出席を取っても、生徒達は返事をしようとしない。学級委員の公平は、尚子に「このクラスに先生はいらない」と言い放つ。このクラスで起こるトラブルは、正体不明の3人"3TD"が解決しているというのだ――。新人教師"ナッキー"こと北城尚子の奮闘を描いた、超人気コミックをドラマ化。心が通わない教師と生徒、保護者や教育委員会との関係。学校を取り巻く過酷な現実に、情熱あふれるナッキーが真正面からぶつかっていく。

DATA　07年／本編530分(各巻本編90分+特典95分)／製 朝日放送株式会社/株式会社テレビ朝日 販TCエンタテインメント／19,950円／6枚組／発売中／原案:庄司陽子／脚本:渡邉睦月／出演:内山理名　堀北真希　本郷奏多　岡田将生ほか

045 予備校ブギ

MOVIE / **DRAMA** / ANIMATION

予備校を舞台にした浪人生達の青春ドラマ



©TBS

大学入試の当日、電車で痴漢に間違われた茂樹は、試験会場に遅刻してしまう。当然、試験の出来は散々で、結果は不合格。失意の茂樹は故郷を離れ、東京の予備校に通うことにする。同じ予備校に通う二浪の薫、一浪の一郎と出会い、親しくなっていく茂樹。そんな彼の前に、英語の講師として現れたのは、入試の日に自分を痴漢と間違えた女・雪だった――。予備校を舞台に、3人の浪人生の日々を描く青春群像劇。受験失敗という大きな挫折を味わった3人が、恋や様々な悩みを通して、自らの未来を模索していく。密度の濃い1年間を過ごした後、彼らが選び取るそれぞれの道とは?

DATA　90年／各巻本編94分／製TBS 販TCエンタテインメント／23,940円／6枚組／発売中／脚本:遊川和彦／演出:遠藤環／出演:緒形直人　織田裕二　的場浩司　渡辺満里奈　深津絵里　白川由美　伊東四朗　田中美佐子　所ジョージほか

046 アイコ十六歳

MOVIE / DRAMA / ANIMATION

16歳は微妙な年ごろ――恋と友情に揺れるアイコの青春



©1983年度 アミューズ・シネマ・シティ株式会社+中部 日本放送株式会社提携作品

16歳のアイコは、弓道部の練習に明け暮れる高校1年生。アイコと仲のいい部員達は、ブリっ子で有名な紅子が気に入らず、悪口三昧だ。夏休みの強化合宿が終わり、2学期が始まると、アイコのクラスに新しい担任教師・島崎愛子がやって来た。島崎は、かつて全国大会で入賞した弓道の元選手。アイコはそんな彼女に夢中になるが……。思春期の少女の一瞬一瞬を、魅力的に活写した青春ドラマ。明るくて愛嬌たっぷりのアイコを、学園での様々な出来事が少しだけ大人に変えていく。賑やかでどこか切ない思春期独特の空気感が、淡々とした日常でさえもドラマティックに感じさせる。

DATA　83年／101分／製販アミューズソフトエンタテインメント／2,625円／発売中／製作総指揮:大林宣彦／監督:今関あきよし／出演:富田靖子　河合美佐　伊神さかえ　松下幸枝ほか

047 めだか コレクターズ・エディション

MOVIE / **DRAMA** / ANIMATION

元OLの教師を待ち受けていた悪戦苦闘の日々



半年前に就職したばかりの会社を、リストラされてしまった目黒たか子。途方に暮れた彼女は、教員免許を持っているからという安易な理由で、定時制高校の教師になった。教壇に立ったたか子は、仕事をしながら通っている生徒達の、あまりにもいいかげんな授業態度に驚く。そして、その生徒達のひとり、桜木という男の顔に見覚えがある気がして……。OLから教師に転身した女性の悪戦苦闘を描くヒューマンドラマ。仕事に意欲のなかったたか子は、いつしか生徒達に深く関わり、自分自身の生き方も見直すことに。同じ目線で語り合い、ともに成長していく教師と生徒の関係性が新鮮だ。

DATA　04年／500分／製フジテレビ映像企画部 販GUE／21,945円／4枚組／発売中／脚本:相沢友子／演出:木下高男　植田泰史　都築淳一／出演:ミムラ　原田泰造　瑛太　須藤理彩　山本太郎　平岡祐太　黒木メイサ　市毛良枝　泉谷しげる　小日向文世　浅野ゆう子ほか

041 萌の朱雀

MOVIE / DRAMA / ANIMATION

美しい静寂の中で描かれる、平凡な家族に訪れた悲哀



©1996 WOWOW／バンダイビジュ

舞台は奈良県の小さな村。林業で生計を立てる田原孝三は、母と妻、そして娘、甥と5人で幸せに暮らしていた。ある時、林業低迷で過疎化が進むこの村にトンネル工事計画が持ち上がる。孝三も自らの夢をかけて開通作業に携わるが、いつしか工事は中断され、トンネルは無残な姿で取り残されることに。それから15年後。働く気力をなくした孝三は突如、帰らぬ人となってしまう。彼の遺したカメラに映っていた映像を見た家族は……。最小限のセリフで淡々と人間模様を描き出す、ドキュメンタリー映画のような作品。静寂が変わらぬ自然の美しさと、変わらざるを得ないものの哀しみの対比を際立たせる。

DATA　96年／95分／製WOWOW//バンダイビジュアル 販バンダイビジュアル／3,990円／発売中／監督・脚本:河瀬直美／出演:國村 隼 尾野真千子　和泉幸子　柴田浩太郎　神村泰代　向平和文　山口沙弥加ほか

042 ラスト・フレンズ ディレクターズカット 完全版 DVD-BOX

MOVIE / **DRAMA** / ANIMATION

悩み苦しみながら今を生きる若者達、それぞれの愛の形



©2008フジテレビ

居場所がなく、恋人からのDV(ドメスティックバイオレンス)に苦しむ藍田美知留、モトクロス選手として活躍する一方で性別という壁に悩む岸本瑠可、女性達のよき相談相手でありながら過去のトラウマからセックス恐怖症に悩む水島タケル。そんな彼らはぬくもりを求めて、共同生活を始めた――。家族や愛する人に支えられ、友情や人と人との関わりの大切さを知った若者達が、自分らしく前向きに生きる姿を描く青春ヒューマンストーリー。社会問題化しているDVやセックスレスなど、現代人が抱える様々な問題を真正面から捉え、悩み苦しみながら生きる姿を力強く映し出す。

DATA　08年／本編537分+特典映像／製フジテレビ映像企画部　販ポニーキャニオン／23,940円／7枚組／発売中／脚本:浅野妙子／演出:加藤裕将　西坂瑞城／出演:長澤まさみ　上野樹里　瑛太　水川あさみ　錦戸亮　山崎樹範　西原亜希ほか

043 トランスアメリカ

MOVIE / DRAMA / ANIMATION

ワケあり親子のおかしな道中を描くロードムービー



©2005 Transparent Films LLC

男性であることに違和感を覚え、女性として暮らすブリー。いよいよ女性の体になる手術が迫ったある日、ブリーは自分に息子がいることを知る。17年前に、男性として関係した女性が子供を産んでいたのだ。窃盗罪で拘束された息子のトビーを迎えに、NYを訪れたブリーだが、自分が父親であることを言い出せない。そしてひょんな事情から、ふたりは一緒にLAへ旅立つことに……。奇妙な親子のユーモラスなアメリカ大陸横断の旅を描く。軽やかな笑いの中に、ふたりが共に抱える不安と傷がにじんで切なくなる。この旅が親子の心に残すものとは?　そしてふたりが行き着く先は?

DATA　05年／米／103分+特典39分／製販松竹／3,990円／発売中／監督・脚本ダンカン・タッカー／出演:フェリシティ・ハフマン　ケヴィン・ゼガーズ　フィオヌラ・フラナガン　エリザベス・ペーニャ　キャリー・プレストンほか

学校を舞台に成長していく。

中学、高校、大学と、学び舎の思い出は数知れず……。
勉強や部活動、ホームルームだけが学校の役割じゃない。
教室での生活を通して、人間として成長していくのだ。
『めだか』『おっぱいバレー』はまさに成長譚だ!!
学校は、若者が成長するための第一ステージである。

052 ドラゴン桜 DVD-BOX

MOVIE DRAMA ANIMATION

指せ東大!　落ちこぼれ達が無謀な目標に挑む!?

偏差値36、大学進学率2パーセント。落ちこぼれ学校の私立龍等学校は、経営破綻の危機に瀕していた。倒産処理にやってき護士の桜木健二は、一流弁護士になるという自らの野望のため龍山高校を再建しようとアイデアを提示する。それは、東大合格出す超進学校への転換だった。当然の如く教師陣からは無謀とが吹き荒れ、生徒達もあきれるばかりだが……。桜木の元で勉るうち、東大合格も夢ではなくなっていく生徒達。将来に希望たなかった彼らが、人との出会いで大きく変わっていく。勉強でれるのは知識だけじゃない。学びとは何かを教えられる作品だ。



A　05年／約510分／圏TBS　圖メディアファクトリー／23,940円／6枚組／発売中／原作:三田紀房　『ドラゴン桜』(講談社「モーニング」)／出演:阿部寛　長谷川京子　山下智久　長澤まさみほか

053 パズル DVD-BOX

MOVIE DRAMA ANIMATION

らで女王様と下僕!?　横暴教師と3人の教え子達

両道で名高い男子校に、鮎川美沙子が赴任してきた。見た目とはに、生徒の前では超高圧的に振舞うわ、英語は出来ないわ、と問師であることが発覚。だが人の弱みにつけ込むことにかけては天で、すぐにクラスを牛耳り、3人の教え子を手玉に取る。金に目が彼女は、財宝がらみの事件があれば首を突っ込み、3人を従えて、な謎に挑んでいくのだが——。史上最低の教師と男子高生達がテリーに挑む。可憐なルックスなのに生徒の前では超傲慢。けれ謎解きに関しては天才的な力を発揮する女性教師に振り回されなも、いつしかひと回り大きくなっていく生徒達の姿が清々しい。



TA　08年／約460分＋特典約60 分／圏株式会社テレビ朝日/朝日放送株式会社　圖メディアファクトリー／19,950円／5枚組／発売中／演出:片山修　宮下健作　高橋伸之　木村政和/出演:石原さとみ　山本裕典　木村了　永山絢斗ほか

逆境をバネにして成長。

どこかで聞いた、ある船長の言葉が興味深い……。
「大波のない穏やかな海で、一流の船乗りは育たない」。
逆境は得てしてストレスを与える。しかし成長の糧でもある。
安穏とした生活を捨て、トラブルに立ち向かってこそ人生だ!
『ホームレス中学生』『お金がない!』などにタフな人間の力を見た。

054 Little DJ 小さな恋の物語

MOVIE DRAMA ANIMATION

々の心を温めたラジオ番組のDJは難病の少年だった

番組の打ち切りが決定し、落ち込んでいたFMラジオ局のディター・たまきは、自分にラジオの楽しさを教えてくれた少年・太ことを思い出す。1977年、函館。難病を患って入院した太郎医師が治療の一環として、院内放送のDJを任せる。リスナーのリクエストや様々なメッセージを受け取るうちに、太郎はDJしさにのめり込んでいき……。病に倒れた少年が、ラジオ番DJに生きる喜びを見出していく物語。番組を通してリスナー望を与え、自らも人の温もりに救われていく太郎の心情が、に流れる70年代のヒット曲とともに切なく胸に響く。



TA　07年／本編128分＋特典34分／圏圖アミューズソフトエンタテインメント／3,990円／発売中／監督:永田琴／出演:神木隆之介　福田麻由子　広末涼子　佐藤重幸　村川絵梨ほか

048 学校

MOVIE DRAMA ANIMATION

様々な境遇の人が集まる学校で人生を学んだ日々

夜間中学校の教師・黒井は、卒業の時期を目前に控えたある日、卒業記念文集のために作文の授業を行なう。生徒達の姿を見つめながら、彼らとの思い出を振り返る黒井。孫がいてもおかしくない年齢の在日韓国人オモニ、ツッパリ少女みどり、肉体労働に励む少年カズなど、生徒達は職業も年齢もバラバラだ。やがて給食の時間になると、クラスの一員だったイノさんが死んだという知らせが入る——。夜間中学校の教師と生徒達の心の交流を通して、複雑な境遇の中で生きる人々の心情を丁寧に描き出す。幸福の意味を探し求める登場人物の心の機微を、名優達が巧みに演じて強い印象を残した。



DATA　05年／129分＋特典約36分／圏圖 松竹／3,990円／発売中／監督:山田洋次／出演:西田敏行　竹下景子　萩原聖人　中江有里　裕木奈江　渥美清　田中邦衛ほか

049 ヤンキー母校に帰る 旅立ちの時

MOVIE DRAMA ANIMATION

問題児だらけの高校に少年達は自分の居場所を見つけた

1988年、北海道の北友余市高校が、全国の高校中退者を受け入れる試みをスタートさせる。父親から見放された札つきの不良少年・義家も、この学校へ編入してきた。編入式前日、さっそくほかの生徒とモメ事を起こし、警察に補導される義家。教師の安達らの力で解放された義家だが、その翌日、今度は制服を燃やすという行動に出る——。“ヤンキー先生”こと義家弘介が、少年時代の思い出を綴った自伝小説をドラマ化。誰にも心を許さない不良少年・義家と、彼に大きな影響を与える教師・安達との関係を軸に、問題児だらけの学校で自らと向き合っていく少年達の心の変化を描く。



DATA　05年／106分＋特典8分／圏TBS　圖松竹／4,515円／発売中／演出:荒井光明／出演:櫻井翔　蟹江敬三　大和田獏　平泉成　ガッツ石松　西川きよし　市毛良枝　余貴美子　原田芳雄ほか

050 ブタがいた教室

MOVIE DRAMA ANIMATION

食べる?　食べない?　大論争噴出の実話を映画化

6年2組の新米教師・星は大胆な授業を計画していた。それは「ブタを飼って、みんなで食べよう」というもの。生きているものを食べるということに真剣に向き合ってもらおうと、星は生徒と一緒に子ブタを飼い始める。子ブタをかわいがるうちに、やがて迎えた卒業式。「食べる」「食べない」クラスをふたつに分けた涙の激論の中、生徒と星が出した答えとは……。1990年に大阪の小学校で実際に行われ、賛否両論を巻き起こした話題の授業を映画化。ブタの命をどうするべきか。命の尊さを見つめながらも、自力で結論を出そうとする生徒の姿が痛い程心に響いてくる。



DATA　08年／本編109分＋特典映像／圏圖日活／3,990円／発売中／原案:黒田恭史／監督:前田哲／脚本:小林弘利／出演:妻夫木聡　大杉漣　田畑智子　池田成志　ピエール瀧　原田美枝子ほか

051 おっぱいバレー

MOVIE DRAMA ANIMATION

“おっぱい”が繋ぐ、教師と生徒の深い絆

1979年、北九州の公立中学校。新任教師・美香子は、前の学校で起こしたある事件から、教師としての自信を失いかけていた。心機一転を決意した彼女は、男子バレー部の顧問を務めることになったのだが、まともな部員がおらず廃部寸前の状態。美香子は彼らのやる気を引き出すために「優勝したらおっぱいを見せる」という約束をしてしまう。その言葉に俄然やる気を出した、部員達は練習に打ち込み……。生徒達とともに目標に向かって頑張る中、次第に自信を取り戻していく主人公。シュールなタイトルとは裏腹に、挫折した教師の再生物語を描いた本作は真っ直ぐな感動を届けてくれる。



DATA　09年／106分＋特典／圏エイベックス・エンタテインメント/バップ　圖バップ／5,040円／2枚組／発売中／監督:羽住英一郎／出演:綾瀬はるか　青木崇高　仲村トオル　石田卓也　大後寿々加ほか

アイコン説明 ▶ MOVIE 映画 DRAMA ドラマ ANIMATION アニメーション

059 家なき子レミ 1

MOVIE DRAMA **ANIMATION**

ひたすら前へ。どんな困難にあっても笑顔は失わなかった



© NIPPON ANIMATION CO.,LTD.1996

レミは、フランスの寒村で母と妹とともに幸せに暮らす少女。しかし、パリへ出稼ぎに出ていた父親が怪我の後遺症で動けなくなったため、彼女は人買いへと売られてしまう。この時、レミは初めて自分がこの家の本当の娘ではないことを知らされるのだった。そんな彼女の身を案じた旅芸人ヴィタリスは彼女を一座に加え、一緒に巡業に出ることになる。旅の途中ヴィタリスから文字の読み書きを教わったレミはとある町の本屋で、不思議な小説に出会い……。どんな困難にも立ち向かい、少しずつ自立していく少女の成長譚。幾多の苦労を重ねながらも、最後には幸福を引き寄せるレミの姿が観る者に勇気を与えてくれる。

DATA 96年／118分／図販 バンダイビジュアル／3,990円／全6巻／発売中／脚本:島田 満／監督:楠葉宏三／声の出演:堀江美都子 山野史人 佐藤智恵 弘中くみ子 嶋方淳子 田中正彦 郷里大輔ほか

060 お金がない! DVD-BOX

MOVIE **DRAMA** ANIMATION

ないない尽くしの不運な男に訪れた人生の転機



©2008フジテレビ／共同テレビ

萩原健太郎は大学を中退し、小さな町工場の安月給で弟ふたりを育ててきた。ある日、彼が出勤すると工場は倒産騒ぎに荒れ、助けを求めた保険会社の重役・柏木麗子からは門前払いをくらってしまう。更に、家に帰ればサラ金の取り立てに追われる始末。見かねた幼馴染みの神田美智子は健太郎に仕事を紹介するが、それは門前払いを受けた保険会社の清掃と夜警だった——。お金がない、仕事がない、運もない、希望もない、そんな男に訪れた人生の転機を描くサクセスストーリー。人生、お金が全てじゃない! そんなメッセージが小気味よく刻まれた痛快な作品だ。

DATA 94年／本編553分／図フジテレビ映像企画部 販ポニーキャニオン／20,790円／6枚組／発売中／脚本:両沢和幸 戸田山雅司／演出:若松節朗 木下高男 本広克行／出演:織田裕二 財前直見 東幹久 芳本美代子 松崎しげる 高樹沙耶 石橋凌ほか

061 ライフ

MOVIE **DRAMA** ANIMATION

壮絶ないじめをリアルに描く大人気コミックをドラマ化



©2007フジテレビ

難関高校に見事合格した椎葉歩。不合格だった親友へうしろめたさを引きずったまま入学するが、クラスメイトの安西愛海らに出会い、再び前向きになる。しかし、愛海の誤解から執拗ないじめを受けることになった歩。助けを求めても、親は出来のいい弟に気を取られ、担任は本気にしてくれない。守ってくれる人間が誰もいないと知った彼女は、次第に仲間を見つけていじめに立ち向かい……。リアルないじめを正面から捉え、負けない勇気や希望を描いたハード系青春ヒューマンストーリー。"生きる"ために強く成長していく姿は、逆境の中にも必ず歩むべき道があることを教えてくれる。

DATA 07年／本編391分＋特典映像／図フジテレビ映像企画部 販ポニーキャニオン／23,940円／6枚組／発売中／原作:すえのぶけいこ／脚本:根津理香／演出:谷村政樹 加藤裕将／出演:北乃きい 福田沙紀 細田よしひこ 関めぐみ 酒井美紀ほか

062 奇跡の動物園2008 ～旭山動物園物語～

MOVIE **DRAMA** ANIMATION

日本一有名になった動物園の忘れない"原点"とは?



©2008フジテレビ

旭山動物園の飼育係・坂内が新たに思いついた動物展示は、かつて北海道の生態系の頂点にいたオオカミ。人間の欲望や利益のために絶滅したオオカミが、遠吠えする姿をお客さんに見せたかったのだ。自分達の足元の自然を見つめ直そうという思いを胸に、彼の挑戦が始まる——。日本一有名になった動物園が「進化を続けながらも忘れない"原点"とは何か?」をテーマに綴る、感動のヒューマンドラマシリーズ第3弾。動物達の豊かな表情や北海道の雄大な自然を織り交ぜながら、ドラマティックに描かれる本作は動物好きはもちろん、観る者全ての心を無垢な感情で包んでくれるはず。

DATA 08年／本編97分＋特典映像／図フジテレビ映像企画部 販ポニーキャニオン／5,040円／発売中／プロデューサー・監督:加藤義人／出演:山口智充 戸田恵梨香 小出恵介 利重剛 荒川良々 平岡祐太 大杉漣 伊東四朗 津川雅彦ほか

055 二十面相の娘 1 〈初回限定版〉

MOVIE DRAMA **ANIMATION**

怪盗・二十面相にさらわれた少女の大冒険が始まる



©小原愼司・メディアファクトリー／「二十面相の娘」製作委員会

富豪だった両親を亡くしたチコは、その資産に目をつけた叔父夫婦に命を狙われていた。そんなチコを、突然現れた怪盗・二十面相がさらっていく。二十面相率いる盗賊団で働き始めた彼女は、いつしか仲間達とも打ち解け、新しい体験を楽しんでいた。しかしある日、チコ達の乗った電車が盗賊の襲撃に遭い、二十面相が行方不明に。やがてチコは少女探偵団を結成し、二十面相の行方を追うことにするが……。二十面相にさらわれた少女の数奇な運命を描く、スピード感溢れるアクションアニメ。"二十面相の遺産"の謎を巡るミステリーと、未知の世界に颯爽と飛び込むチコの姿に胸が躍る。

DATA 08年／本編46分＋特典約60分／図GUE ／フジテレビ 販 GUE／5,985円／2枚組／発売中／原作:小原愼司／監督:富沢信雄／声の出演:平野綾 内田夕夜 松風雅也 佐藤利奈 新井里美ほか

056 ホームレス中学生 スタンダード・エディション

MOVIE DRAMA ANIMATION

公園で暮らした中学生の夏が僕にくれたもの



©2008「ホームレス中学生」製作

中学2年生の裕は、クラスの人気者として毎日を楽しく過ごしていた。しかし、1学期最終日に帰宅した裕は、異様な光景を目にする。家具が全て家の外に積まれ、差し押さえという紙が貼られていたのだ。兄の研一、姉の幸子とともに呆然と立ちすくむ裕に、父・一朗は「解散!」と言い放つ。行き場をなくした裕は、兄と姉に別れを告げ、近所の公園で暮らし始める——。お笑いコンビ・麒麟の田村裕が実体験を綴ったベストセラー小説を映画化。ホームレス生活という衝撃の体験を通して、他人の愛情の尊さ、前向きな気持ちの大切さを学んでいく裕の成長が爽やかに描かれる。

DATA 08年／本編116分＋特典／図よしもとアール・アンド・シー 販 東宝／3,990円／発売中／監督:古厩智之／出演:小池徹平 西野亮廣(キングコング) 池脇千鶴 イッセー尾形 黒谷友香ほか

057 ひみつの花園

MOVIE DRAMA ANIMATION

樹海に眠る5億円を狙うOLの奇想天外な作戦とは



幼いころからお金を数えることが大好きだった銀行員の咲子は、銀行強盗に襲われ、人質として連れ去られてしまう。ところが、犯人の車が青木ヶ原の樹海で事故に遭い、咲子は5億円の入ったスーツケースと一緒に吹き飛ばされる。奇跡的に生還した咲子は、樹海に取り残された5億円を引き揚げる作戦を立て、地質学の勉強やロッククライミングなどの練習を始める——。お金が生きがいのOLが、5億円を手に入れるために、たったひとりで奇想天外な作戦を繰り広げるコメディー。5億円捜索という目標を見つけた瞬間、別人のように生き生きし始める咲子のお金への偏愛ぶりが笑いを誘う。

DATA 96年／本編83分＋特典59分／図販 東宝／5,040円／発売中／監督:矢口史靖／出演:西田尚美 利重剛 加藤貴子 田中規子 鶴田忍 角替和枝 内藤武敏ほか

058 夜のピクニック 通常版

MOVIE DRAMA ANIMATION

特別なこの日だから私は秘密の賭けをする



© 2006「夜のピクニック」FILM VENTURER

24時間夜を徹し、1000人一緒に80キロを歩く伝統行事・歩行祭。今年で最後の歩行祭を迎える甲田貴子は、秘かに賭けをしていた。一度も話したことのないクラスメイト西脇融に話しかけるという賭けだ。しかし、着々とゴールは迫る。果たして、貴子のささやかな願いは叶うのか……。第2回本屋大賞を受賞した大ベストセラー小説を映画化。全世代が共感し、爽やかな感動を覚える青春映画は、誰もが感じた不器用な思いを繊細に描き出している。「映画を観ている間は誰でも18歳に戻れます」と言う原作者のコメント通り、主要キャストの自然体の演技に引き込まれる作品だ。

DATA 06年／本編117分＋特典／図販ハピネット／2,380円(廉価版の価格です)／発売中／監督:長澤雅彦／脚本:三澤慶子 長澤雅彦／原作:恩田陸(新潮文庫刊)／出演:多部未華子 石田卓也 郭智博 西原亜希 貫地谷しほり 加藤ローサほか

子供から一歩大人へ…。

オギャーと産まれたその日から完成された人間はいない。
色々な経験と失敗から学び、子供は大人へと成長する。
そんなシチュエーションを描いた数々の作品群……。
『スタンド・バイ・ミー』をはじめとした、心の冒険。
少年少女のビルドゥングス・ロマンに注目したい。

063 花とアリス 特別版

MOVIE / DRAMA / ANIMATION

多感な少女の揺れる想いを繊細なタッチで描く

明るく素直なハナと、自由奔放なアリス。幼馴染みのふたりは、同じ高校に入学し、高校生活を楽しんでいた。そんなある日、ハナは憧れの宮本先輩が頭を打って倒れているところに遭遇。彼が朦朧としていることを利用し、自分が恋人だと思い込ませることに成功する。アリスにも協力を頼み、嘘をついたまま宮本と付き合うハナだったが、彼は次第にアリスに惹かれていき……。ハナとアリスを結ぶ、不器用ながらも確かな友情。恋の切なさや内に秘めた悲しみと向き合い、過去の自分と決別する勇気。少女が持つはかなさとたくましさを、ノスタルジックな映像美で詩情たっぷりに綴る。



DATA 04年／135分／販ノーマンズ・ノーズ　発アミューズソフトエンタテインメント／6,090円／発売中／監督・脚本:岩井俊二／出演:鈴木杏　蒼井優　郭智博　相田翔子　阿部寛　平泉成　木村多江ほか

064 海がきこえる

MOVIE / DRAMA / ANIMATION

高知を舞台に、思春期の高校生が抱く淡く不器用な思い

東京の大学に進学した杜崎拓は、吉祥寺駅のホームで武藤里伽子の姿を見かけた。しかし、里伽子は故郷・高知の大学へ行ったはずではなかったのか……？　クラス会に出席するため、帰省する飛行機の中で拓の思いは自然と里伽子と出会った2年前の夏の日へと戻っていた。美人の里伽子は拓にとって親友の片思いの相手、ただそれだけの存在で終わるはずだった。高校3年の修学旅行までは……。氷室冴子の同名小説を、スタジオジブリの当時の若手スタッフ達の手によってアニメ化。子供から大人への一歩を踏み出す青春期が、淡い恋心を軸にして独特の世界感とともに映し出される。



DATA 93年／本編72分＋特典映像／販発ウォルト・ディズニー・スタジオ・ホーム・エンターテイメント／4,935円／2枚組／発売中／監督:望月智充／声の出演:坂本洋子　飛田展男　関俊彦ほか

065 天然コケッコー 特別版

MOVIE / DRAMA / ANIMATION

田舎の無垢な少女と転校生の初々しい初恋の行方は…

山と田んぼだらけの町で育った中学2年生のそよは、小中学校合わせて生徒がたった6人の分校に通っている。そんな小さな学校に、東京から中学2年生の美少年・大沢が転校してくる。初めて同級生が出来たことに喜ぶそよだったが、無愛想でとっつきづらい大沢の言動に戸惑いを覚える。しかし、ある出来事をきっかけに、そよの大沢に対する印象が変わり……。どこまでもピュアなそよと、現代的で都会のにおいを漂わせる大沢。不器用で繊細なふたりの初々しい恋心を、淡々したタッチで描き出す。美しくゆったりとした田舎の風景の中で、少しずつ大人びていく彼らの成長が眩しい。



DATA 07年／121分／販アスミック/集英社　発角川エンタテインメント／4,935円／発売中／監督:山下敦弘／原作:くらもちふさこ「天然コケッコー」(集英社刊)出演:夏帆　岡田将生ほか

066 ゴーストワールド

MOVIE / DRAMA / ANIMATION

春ど真ん中の私達。一体どこへ向かうの?

ゃれすることと絵を描くことが大好きで、口は悪いけど根は優しーニド。金髪で美人、それでいて辛辣なレベッカ。幼馴染みのふは、一緒に暮らす約束をしている程の親友だ。つまらない高校っと卒業した彼女達は、今後の進路も決めないまま、勝手気ま暮らしていた。ある日、新聞にある出会い系広告を発見したふは、いたずらでその相手を呼び出してみることにしたのだが。ふたりの少女の等身大の青春を描いた新感覚コメディー。ある出来事を共有してきた親友が、互いに少しずつ距離を感じて様は、青春期特有の根拠のない不安をよく表している。



A 01年／米／111分／販アスミック/角川書店　発角川エンタテインメント／1,890円／発売中／監督:テリー・ツワイゴフ／出演:ソーラ・バーチ　スカーレット・ヨハンソン　スティーブ・ブシェミほか

067 劇場版 魔法遣いに大切なこと プレミアム・エディション

MOVIE / DRAMA / ANIMATION

人前の魔法遣いを目指す少女が学んだこととは?

のソラは、国が認定する"魔法士"を目指して上京。魔法士にば、多くの人の依頼を受けて魔法を使うことができる。魔法でに喜びを与えることが、彼女の夢なのだ。魔法士研修に参加しラは、魔法が上手く使えない少年・豪太と出会う。豪太は魔法になることに抵抗を感じていたが、研修が進むうち、次第に前になる。そして、懸命に魔法を教えてくれるソラと恋に落ちるが。魔法の訓練を通して知った優しさや希望、そのあとにやってく命の瞬間。魔法使いが存在する社会というファンタジックな舞定で、少女の恋と成長を描いたハートフルストーリー。



A 08年／本編100分＋特典映像45分／販デジタル・フロンティア　発GUE／4,935円／発売中／監督:中原俊／脚本:山田典枝／出演:山下リオ　岡田将生　永作博美　田中哲司　木野花　緑友利恵　太賀　草村礼子　鶴見辰吾　余貴美子ほか

068 スタンド・バイ・ミー コレクターズ・エディション

MOVIE / DRAMA / ANIMATION

春映画の名作と名高い4人の少年の冒険物語

のゴーディは、幼馴染みの弁護士クリスが刺殺されたという記事を発見し、少年時代のことを思い出す。オレゴン州キャッロックで育った12歳のゴーディは、クリス、テディ、バーンとい一緒だった。ある日4人は、行方不明の少年の死体が、森の野ざらしになっているという噂を聞く。早速その死体を捜しにけた4人だったが……。やんちゃな少年達の冒険と成長を描、スティーブン・キングの短編を映画化。少年時代の無鉄砲なレンジ精神、ともに冒険を楽しむ連帯感と友情、時に味わうほい感情を、ノスタルジックな風景と音楽が彩る名作。



A 86年／米／本編88分＋特典／販発SPE／1,980円／発売中／監督:ロブ・ライナー／原作:スティーブン・キング／出演:ウィル・ウィートン　リバー・フェニックス　コリー・フェルドマン　ジェリー・オコネルほか

069 サムサッカー 17歳、フツーに心配な僕のミライ コレクターズ・エディション

MOVIE / DRAMA / ANIMATION

指しゃぶりが直らない17歳の少年の奇妙な体験

になった今も、親指を吸うクセが直らず悩むジャスティン。そこは、知り合いの歯科医ペリーに、親指を苦く感じる催眠術をてもらう。お陰で親指しゃぶりは止まったものの、今度は精神安定になってしまったジャスティンは、抗うつ剤を飲むことに。日から、薬の効果で見違える程活動的な少年に変身したジャィンは……。親指をしゃぶるクセが抜けない少年を取り巻く出を、グラフィックデザインやCMなどで才能を発揮してきたマイルズ監督が斬新な感性で描く異色作。ナイーブな少年の迷成長を、時にユーモラスに、時に温かく見つめる。



A 05年／米／本編96分＋特典／販発SPE／3,990円／発売中／監督・脚本:マイク・ミルズ／出演:ルー・プッチ　キアヌ・リーヴス　ティルダ・スウィントン　ヴィンセント・ドノフリオ　ヴィンス・ヴォーンほか

アイコン説明 ▶ MOVIE 映画　DRAMA ドラマ　ANIMATION アニメーション

女性の成長。

老いも若きも男も女も、成長するから人生は楽しい。
なるほど、成長する女性の姿を映画やドラマで目撃すると、
どういう訳か、「頑張れ!」と応援したくなってしまう——。
それはきっと、自分らしく生きる女性達があまりに素敵だからだ。
『14才の母』『きらきら研修医』などで女性の成長の本質に迫る。

070 アーノルド坊やは人気者 コンプリート1stシーズン DVD-BOX(4枚組)

MOVIE / DRAMA / ANIMATION

8歳の男の子が天性の話術で笑いの渦に巻き込む!

「冗談は顔だけにしろよ」。ドラマ史上、こんな毒づいたセリフを吐く8歳児がほかにいただろうか。爆発的な笑いをお茶の間に誘い、その人気は全米から日本にも飛び火した傑作コメディー。アラフォー世代で知らぬ人はいない程の名作ドラマだ。8歳のアーノルドと13歳のウィリスは仲良しの兄弟。ある日突然、裕福な白人家庭にもらわれて……。男の子ふたりの小さな成長ぶりにも注目したい。ハートフルなストーリーにコメディー色の強い作風だが、人種差別の根強い当時にして独特のシチュエーションでオンエアし話題に。70年代から80年代におけるアメリカンホームドラマの決定版だ。



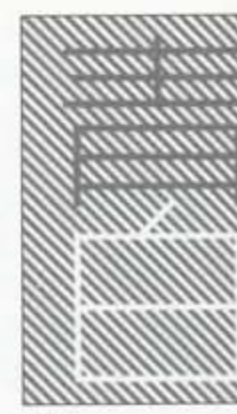
DATA 78〜86年／米／本編588分＋特典28分／発販 SPE／8,400円／4枚組／発売中／監督:ハーバート・ケンウィズほか／出演:ゲーリー・ゴールマン　トッド・ブリッジス　ダナ・プラトー　コンラッド・ベインほか

071 シナリオ登竜門2001 青と白で水色

MOVIE / DRAMA / ANIMATION

新たな世界への"扉"を開け、少女は大人になる——

高校2年生の内山楓は、クラスメイトのいじめを受けていた。いじめの中心人物は幼馴染みの椎名かすみだ。娘に無関心な両親に相談出来ず、行き場を失った楓は飛び降り自殺をしようと校舎の屋上へ。しかし、屋上に続く扉には鍵がかかっていたのだ。そこでピッキングが得意な同級生・岸田匠に開錠を頼むが、匠は開け方を説明するとその場を去ってしまう。以来、休み時間の度に楓はその鍵を開けようと試みるのだが……。感性豊かな少女の迷いや苦しみ、新たな世界に踏み出すまでの過程を繊細な映像美で描いた佳作。まだ若い宮崎あおい、蒼井優、小栗旬らのみずみずしい演技にも注目だ。



DATA 01年／約45分／発販 バップ／2,940円／発売中／監督:高橋直治／脚本:桜井剛／出演:宮﨑あおい　蒼井優　小西真奈美　小栗旬ほか

072 青いうた〜のど自慢青春篇〜 スペシャル・エディション

MOVIE / DRAMA / ANIMATION

歌を通してよみがえる、誰もが秘める青春の淡い思い出

青森県むつ市。故郷で生きる弟・良太と、故郷を捨てて上京する兄・達也。地元で美容師を目指す達也の彼女・恵梨香と、東京に進学する俊介。中学卒業後、別々の道に進んだ4人は、挫折を経験しながらも大人への階段を上り始める。1年が過ぎ、故郷でのど自慢が開催されると知った良太は、卒業式で果たせなかった歌を4人で歌うために連絡を取るが……。井筒和幸監督による映画『のど自慢』から新たに生まれた青春群像劇。若者4人の心情が切なくからみ合い、それぞれの絆が深く心に刻み込まれる。観る者誰もが胸に秘めた淡い思いをよみがえらせ、明日への希望が湧いてくる感動作。



DATA 06年／本編116分＋特典約60分／発販 ハピネット／4,935円／発売中／監督:金田敬／脚本:斉藤ひろし／出演:濱田岳　冨浦智嗣　落合扶樹　寺島咲　斉藤由貴　豊原功補ほか

073 タイドライン・ブルー　1

MOVIE / DRAMA / ANIMATION

混沌とした世界の中で、いつか想いは繋がるはず

大地の90パーセントと60億の人類が海に飲み込まれた天変地異"ハンマー・オブ・エデン"から14年が経った。津波が原子力空母を運び込んだ町ヤビツで暮らす天涯孤独の少年・キール。彼の育ての親でもあり、新国連の女性事務総長でもあるアオイは人種や宗教の壁を越え、全人類が助け合える新たな世界を作り出そうと模索を続けていた。そんな中、米軍人グールドが突如、全世界を相手に宣戦布告をする。そのミサイル攻撃を前に炎上するヤビツ——。水に覆われた世界で繰り広げられる迫力の潜水艦アクション。生き別れた兄弟の再会、親と子の相克など、熱い人間ドラマも見どころだ。



DATA 05年／本編24分＋映像特典21分／発販 バンダイビジュアル／3,990円／発売中／監督:飯田馬之介／原作:小澤さとる　飯田馬之介／声の出演:阪口大助　浪川大輔　さわりか　榊原良子　森田順平ほか

074 時をかける少女

MOVIE / DRAMA / ANIMATION

大切なものに気づいた時、時間は止まってくれなかった

高校2年生の真琴は、親友の千昭と功介といつも一緒に遊んでいる活発な女の子。そんな真琴が、ひょんなことをきっかけに、時間を跳躍できるタイムリープの能力を得る。その力を使って、時間を行き来することを楽しむ真琴。そんな中、真琴は千昭から突然の告白を受ける。友達だと思っていた千昭の気持ちに戸惑った真琴は、タイムリープで過去に飛び、告白をなかったことにしてしまう——。タイムリープというSF的要素が詰まった題材を、フレッシュな青春アニメに仕上げた手腕が秀逸。過ぎ去った出来事への後悔、未来に託す希望という"時間"への想いが、少女を成長させていく。



DATA 06年／98分／発 角川書店　販 角川エンタテインメント／4,935円／発売中／監督:細田守／原作:筒井康隆／声の出演:仲里依紗　石田卓也　板倉光隆　原沙知絵　谷村美月　垣内彩未ほか

075 17歳のカルテ コレクターズ・エディション

MOVIE / DRAMA / ANIMATION

精神病院で過ごした17歳の少女の克明な記録

17歳のスザンナは、多量のアスピリンとウォッカを摂取し、精神病院に入院することに。下された診断は、情緒不安定で衝動的な行動に出る"境界性人格障害"。同じ病棟では、様々な原因で入院した少女達が、常に監視の目にさらされながら暮らしていた。窮屈な毎日の中で、病棟のリーダー格であるリサのエキセントリックさに惹かれていったスザンナは、次第に彼女と行動をともにするようになり……。精神病院で2年間を過ごした少女の回想録を原作に、精神に問題を抱えた少女達の友情と葛藤を描く。それぞれに危うさを秘めた仲間との日々の中で、スザンナが見つける本当の居場所とは?



DATA 99年／米／本編127分＋特典／発販 SPE／1,980円[期間限定]／発売中／監督・脚本:ジェームズ・マンゴールド／原作:スザンナ・ケイセン／出演:ウィノナ・ライダー　アンジェリーナ・ジョリー　バネッサ・レッドグレーブほか

076 彩恋　SAI-REN

MOVIE / DRAMA / ANIMATION

女子高生3人がそれぞれに体験する青春の痛み

高校3年生のナツ、ココ、マリネは、いつも一緒にいる仲良し3人組。3人それぞれが、恋や家庭、将来への悩みを抱えている。ナツには遠距離恋愛中の彼氏がいたが、ある日、一方的に別れを告げられてしまう。その直後、妊娠していることに気づき愕然とするナツ。一方、ひょんなことからココの母とマリネの父が出会い、恋に落ちる——。女子高生3人の等身大の姿を描く青春ストーリー。甘酸っぱい恋の悩み、親への複雑な感情、自分との葛藤。誰もが通過する多感な時期の真っただ中にいる3人のキャラクターを、キャスト陣の瑞々しい存在感がより魅力的なものにしている。



DATA 07年／91分＋特典／発 小学館　販 東宝／3,990円／発売中／監督:飯塚健／出演:関めぐみ　貫地谷しほり　徳永えり　細山田隆人　奥貫薫　高杉亘　温水洋一　きたろうほか

077 ホタルノヒカリ
DVD-BOX

MOVIE / DRAMA / ANIMATION

恋を放棄した“干物女”は素敵女子になれるか!?

インテリア関係の会社で颯爽と働く雨宮蛍。職場では華やかなOLに見える彼女だが、帰宅するとジャージ姿で前髪はちょんまげをして、お尻をポリポリ。休日はひたすら食っちゃ寝で男っ気ゼロの“干物女”だった。そんな彼女が、ちょっとした手違いから妻と別居中の上司と同居する羽目に。その上、海外研修から戻ってきた後輩のデザイナーにひと目惚れされ……。働く20代女子のリアルストーリー。恋愛を放棄してぐうたら生活をしていた“干物女”が恋をし、他人と向き合うことでステップアップしていく。クスッと笑えるやり取りの中に、深い含蓄が見え隠れするのもこの作品の魅力だ。



©NTV ©ひうらさとる／講談社

DATA 08年／478分＋特典／製販バップ／18,060円／6枚組／発売中／出演:綾瀬はるか 国仲涼子 加藤和樹 武田真治 板谷由夏 安田顕 浅見れいな 渡部豪太 渋江譲二 藤木直人ほか

078 宮廷女官 チャングムの誓い
DVD-BOXⅠ

MOVIE / DRAMA / ANIMATION

ひたむきに前進する“強い女性”のサクセスストーリー

宮廷の陰謀で命を落とした母の無念を晴らすため、宮中に上がったチャングム。彼女は持ち前の好奇心と天賦の才を生かし、宮廷料理人として頭角を現していく。そんなチャングムを温かく見守る料理の師匠は、実は亡き母の親友だったのだ。お互いにそのことを知らず、師弟の絆を深めていくふたり。そんな中、チャングムもかつての母の敵に陥れられ、宮廷を追われることに——。権力争いに翻弄されながらも、王の主治医にまで昇りつめたチャングムの波乱万丈のサクセスストーリー。愚直なまでに信じる道を歩き、やがては幸せをつかんでいく姿は、多くの人々に勇気と元気を与えてくれる。



©2003-4 MBC

DATA 03年／韓／540分／製NHKエンタープライズ 販バップ／15,120円／3枚組／発売中／脚本:キム・ヨンヒョン／出演:イ・ヨンエ チ・ジニ ホン・リナ ヤン・ミギョンほか

079 14才の母～愛するために生まれてきた～
DVD-BOX

MOVIE / DRAMA / ANIMATION

かけがえのない命を宿した時、少女は

私立の名門女子校に通う中学2年生の未希は、普通の家庭に育った明るい女の子。塾仲間である中学3年生の智志と仲良くしていたが、ある時彼と関係を持ち、子供を身ごもってしまう。両親や先生、友人達から猛烈な反対を受け、智志とも引き離されてしまう未希。一度は堕胎を考えるものの、やがて我が子を産み育てる決意をする——。「女の子」と「女性」の端境期にある14歳の少女の妊娠というセンセーショナルな題材が、話題を集めたテレビドラマ。母になることを選んだ主人公が、生命の尊さと真摯に向き合う姿を丁寧に描く。



©NTV

DATA 06年／本編554分＋特典44分／製販バップ／19,110円／5枚組／発売中／脚本:井上由美子／出演:志田未来 田中美佐子 生瀬勝久 山口紗弥加 河本準一(次長課長) 三浦春馬ほか

080 害虫
スペシャル・エディション《スマイルBEST》

MOVIE / DRAMA / ANIMATION

成長の中で生まれる漠然とした不安や繊細な感情を描写

13歳の北サチ子は、学校に居場所を見つけることが出来ずにいた。学校をサボって街をうろつくサチ子は、ある日タカオとキョウゾウに出会い、やがて気ままな時間を楽しむようになる。やがて、クラスメイト夏子のおかげでサチ子は再び学校に通い始めるのだが、母親の恋人のレイプによって新たな闇へと突き落とされる。静かな絶望の中、サチ子は文通相手・緒方に会うために街を出て……。子供から大人へと成長する中で、誰もが経験する漠然とした不安やもどかしい思いを、サチ子の残酷な現実を通して描き出した作品。クールで無関心を貫く少女の繊細な感情、ひたむきな姿が胸に響く。



©2002 日活 TBS ソニーPCL

DATA 02年／本編約92分＋特典／製日活/TBS/ソニーPCL 販 [illegible]ット／2,380円(廉価版の価格です)／発売中／監督:塩田明彦／脚本:清野弥生／音楽:ナンバーガール／出演:宮﨑あおい 田辺誠一 沢木哲 天宮良 石[illegible]司 蒼井優 りょうほか

081 小公女(プリンセス)セーラ
Vol.1

MOVIE / DRAMA / ANIMATION

らい境遇でもレディーの品格を保ち続ける少女の物語

ンドンの寄宿学校・ミンチン女子学院にやってきた10歳の少女ーラ。彼女は特別待遇を受ける大金持ちの娘でありながら、誰でも分け隔てなく接する優しい少女だった。しかし、11歳の誕生に父親が急死。しかも、父は破産していたため、彼女は無一文なってしまう。その日からセーラは屋根裏部屋住まいの小間使いり、周囲から手ひどい扱いを受けることに。どんなにつらい日々中でも気高さを失わず、前向きに生きるセーラの成長を生き生き優しく描いた名作。校長先生や高飛車な同級生などのいじめもに憎々しく、セーラのいじらしさを引き立てる。



©NIPPON ANIMATION CO., LTD. 1985

TA 85年／128分／製販バンダイビジュアル／3,990円／全11巻／発売中／脚本:中西隆三／監督:黒川文男／声の出演:島本須美 銀河万丈 中西妙子 梨羽由記子 山田栄子 八百坂万紀 渡辺菜生子ほか

082 プラトニック・セックス
DVD-BOX

MOVIE / DRAMA / ANIMATION

絶・援交・自殺未遂、AV出演……衝撃の告白を綴る

歳の誕生日。友人にレイプされ、家族にも見放されたあおいは自をはかろうとしていた。と、その時、携帯電話に偶然入った間違メールに心を救われ、死ぬのを思いとどまる。しかし、そのまま家帰ることもできず、“愛”という源氏名でホステスや援助交際に身染め、その日暮らしの生活を続けていた。そんな彼女を支えていのは、間違いメールの相手トシとのささやかなメール交換。AV女から人気タレントへと転身した、故・飯島愛の人生を包み隠さずった同名自叙伝を映画化。過激で純粋な想いに衝撃を受けなが、遠回りしつつ成長する彼女の姿にいつしか引き込まれる。



©2001 プラトニック・セックス製作委員会

TA 01年／本編105分＋特典映像42分／製フジテレビジョン 販ポニーキャニオン／4,179円／発売中／原作:飯島愛／脚本:森下佳子／監督:松浦雅子／出演:加賀美早紀 オダギリジョー 阿部寛 野波麻帆 石丸謙二郎 根岸季衣ほか

083 きらきら研修医
DVD-BOX

MOVIE / DRAMA / ANIMATION

性的な指導医達に導かれ一歩前へ進む主人公

こは、医大を卒業したばかりの研修医。初出勤の朝、緊張した持ちで通勤する途中で具合の悪い子供に遭遇。慌てて勤務先病院に担ぎ込むが、院内は大混乱。割って入ろうとする彼女のせで、ますます混乱はひどくなる。そこへ、美人女医・みかこが現れて切な処置をしてくれる。その美しさに見とれているうち、うさこは出時間に遅れていることに気づく——。ドジでノロマなうさこが、々な診療科を巡るうちに個性的な指導医に出会い、成長してい姿を描く。ちょっと自分が不器用だと感じている人に、一生懸命頑ることだけが取り柄の研修医が夢と希望を与えてくれる!



©ドリマックス・テレビジョン TBS

TA 07年／515分／製TBS 販メディアファクトリー／23,940円／6枚組／発売中／演出:今井夏木 森永恭朗 高成麻畝子 ほか／出演:小西真奈美 ウエンツ瑛士 りょう 生瀬勝久ほか

動物と一緒に成長。

イヌやネコの一生はおよそ15年。人間の寿命の5分の1に満たない。
動物の成長は驚く程早い。そんな姿を目撃出来る映画やドラマ。
しかし、成長するのは動物だけでなく、動物とともに過ごす
人間もまた、ゆっくりと成長していくのだ。
『グース』『星になった少年』など動物映画を多数紹介。

アイコン説明 ▶ **MOVIE** 映画 　**DRAMA** ドラマ 　**ANIMATION** アニメーション

084 小さき勇者たち〜ガメラ〜
スペシャル・エディション【2枚組】

MOVIE / DRAMA / ANIMATION

心優しい少年とガメラの愛と勇気の物語

母親を亡くしたばかりの少年・透は、海岸で不思議な卵を拾う。やがて小さなカメが誕生し、透は"トト"と名づけてそのカメを育てていく。ところが、トトは驚異的な速さで成長。火を噴き、空を飛ぶようになったトトを見て、普通のカメではないと察する透。そんな中、街に凶暴な怪獣ジーダスが出現。ジーダスの前に立ちはだかったのはトトだった——。ガメラ誕生40周年を記念して制作された本作は、少年と異生物との交流を主軸に描いた涙と感動のファンタジー。ともに困難に立ち向かっていく、透とガメラの勇気に心打たれる。もちろん、最新技術を駆使したガメラとジーダスの死闘も見どころ。


©2006「小さな勇者たち〜ガメラ〜」製作委員会

DATA　06年／本編96分+特典約90分／圏角川映画　圏角川エンタテインメント／4,935円／発売中／監督:田崎竜太／出演:富岡涼　夏帆　津田寛治　寺島進　田口トモロヲほか

085 犬と私の10の約束
プレミアム・エディション<2枚組>

MOVIE / DRAMA / ANIMATION

愛らしいイヌから私達への10のメッセージ

14歳のあかりの家に、愛らしいゴールデン・レトリバーの子犬がやって来た。片方の前足が靴下をはいたように白いことから、あかりはその子犬を"ソックス"と名づける。そして母から教わった"犬との10の約束"を、ソックスとの間に交わすのだった。時は流れ、大人へと成長する中で、様々な喜びや悲しみを味わうあかり。そんな彼女の傍には、いつもソックスがいた——。インターネットのサイトで紹介された、作者不明の短編詩"犬の十戒"から生まれた感動の物語。「私にも心があることを忘れないでください」など、イヌの気持ちで書かれた10項目の意味が胸に沁み渡る。


©2008「犬と私の10の約束」フィルムパートナーズ

DATA　08年／117分+特典約63分／圏圏松竹／3,990円／発売中／監督:本木克英／出演:田中麗奈　加瀬亮　福田麻由子　高島礼子　豊川悦司ほか

086 ホワイトファング

MOVIE / DRAMA / ANIMATION

アラスカを旅する少年が混血の子犬と出会う

19世紀、ゴールドラッシュに沸くアラスカ。母と死別し、父を訪ねてアラスカにやって来た少年ジャックは、イヌとオオカミの混血の白い子犬に出会う。子犬はその後インディアンに拾われ、アイア・タック(白い牙)と名づけられるが、やがて悪党に連れ去られ闘犬にされてしまう。ある日ジャックは、戦いに負けて瀕死の状態にあったアイア・タックを見かけ、献身的に看病するが……。アラスカを旅する孤独な少年の成長を、親のいない白いイヌとの絆をからめて描く物語。厳しい大自然の中で懸命に生きるアイア・タックとジャックの姿が重なり、それぞれの幸せな未来を心から願いたくなる。


©Buena Vista Home Entertainment, Inc.

DATA　91年／本編109分／圏圏ウォルト・ディズニー・スタジオ・ホーム・エンターテイメント／1,500円／発売中／監督:ランダル・クレイザー／出演:イーサン・ホーク　クラウス・マリア・ブランダウアー　シーモア・カッセルほか

087 クイール
<特典ディスク付き2枚組>

MOVIE / DRAMA / ANIMATION

多くの人に愛された盲導犬クイールの軌跡

お腹にブチのあるラブラドール・レトリバーの子犬が、盲導犬訓練士の多和田の元にやって来る。子犬は"クイール"と名付けられ、仁井夫妻の家で元気に育っていった。1歳になったクイールは多和田の訓練を受け、視覚障害者の渡辺と歩き始める。頑固者の渡辺はなかなかクイールになじめずにいたが、次第にクイールと心を通わせるようになる——。盲導犬クイールの軌跡を記録し、ベストセラーとなったノンフィクションを映画化。多くの人との出会いと別れを繰り返したクイールは、人々の心に大切な思い出として足跡を残した。そのひたむきな姿は誰もが愛さずにいられないはずだ。


©2004「クイール」フィルムパ

DATA　04年／100分+特典約94分／圏圏 松竹／4,935円／発売中／監督:崔洋一／出演:小林薫　椎名桔平　香川照之　戸田恵子　寺島しのぶほか

088 グース
コレクターズ・エディション

MOVIE / DRAMA / ANIMATION

16羽のグースと一緒に飛ぶ500マイルの空の旅

交通事故で母親を亡くした14歳のエイミーは、別居していた父トーマスと暮らし始めた。ある日エイミーは、森で親を亡くしたグース(ガン)の卵を発見。生まれた16羽のヒナは、エイミーを母親と思い込む。冬が近づき、渡り鳥のグース達を越冬地へ行かせなければならないと知ったエイミーとトーマスは、超軽量飛行機に乗り込み、ヒナ達をノースカロライナへ連れて行くことに——。グースとともに500マイルを飛ぶという胸躍る冒険を、ダイナミックな映像で描いた作品。母親を亡くした少女と、同じく親を亡くした16羽のグースの愛らしい交流が爽やかな感動をくれる。



©1996 COLUMBIA PICTURES INDUSTRIES, INC. ALL RIGHTS RESERVED.

DATA　96年／米／本編106分+特典／圏圏SPE／1,480円／発売中／監督:キャロル・バラード／脚本:ロバート・ロダット　ビンス・マックィン／出演:ジェフ・ダニエルズ　アンナ・パキン　ダナ・デラニーほか

089 星になった少年
スタンダード・エディション

MOVIE / DRAMA / ANIMATION

ゾウに魅せられ、ともに夢を追った少年の物語

1989年、坂本一家が経営する小さな動物プロダクションに、ゾウのミッキーと子象のランディがやって来た。ゾウ達と仲良しになった13歳の長男・哲夢は、ゾウ使いを夢見てタイのゾウ学校に単身留学。言葉もわからない土地で、子象のファーのトレーニングに明け暮れる哲夢。やがて一人前の象使いになり、帰国した彼はランディとともに新たなチャレンジを始める。10代の若さでゾウ使いとして活躍した少年の人生を、実話を基に描いた感動作。ゾウへの愛情を原動力に、夢を追い続ける哲夢の姿が眩しい。彼がゾウとたわむれ合う輝きに満ちたシーンが、目に焼きつくに違いないだろう。



DATA　05年／本編113分+特典14分／圏フジテレビジョン　圏東宝／3,990円／発売中／監督:河毛俊作／出演:柳楽優弥　常盤貴子　高橋克実　蒼井優　倍賞美津子ほか

090 アイアン・ウィル 白銀に燃えて

MOVIE / DRAMA / ANIMATION

未来のため、父の想いのために少年とイヌ達は走った

父を不慮の事故で失い、大学進学を断念しなければならなくなった17歳のウィルは、生きる希望をなくしてしまう。しかしある日、彼は優勝賞金1万ドルを狙って、犬ゾリサバイバル・レースに出場することを決意。それは極寒の中、カナダ・ミネソタ間のおよそ800キロを走る過酷なレースだった。父が育てていたイヌ達と共に、訓練を始めるウィルだったが……。1917年、屈強な男達に混ざって、危険な犬ゾリレースに参加したひとりの少年。その勇敢な挑戦を、実話をベースに描く感動作。自らの未来を賭けて決死のレースに挑むウィルと、彼を無言で支えるイヌ達のりりしさが胸を打つ。



©Disney.

DATA　93年／米／本編109分／圏圏ウォルト・ディズニー・スタジオ・ホーム・エンターテイメント／1,500円／発売中／監督:チャールズ・ハイド／脚本:ジョン・マイケル・ヘイズほか／出演:マッケンジー・アスティン　ケビン・スペイシー　ブライアン・コックスほか

091 映画ドラえもん のび太の恐竜 2006
通常版

MOVIE / DRAMA / ANIMATION

1億年前の白亜紀へ出発!　恐竜のピー助を海に返せ

ある日、のび太が見つけた卵の化石から首長竜の子供ピー助が誕生。ところがピー助を狙って黒マスクの怪人が現れる。ドラえもんとのび太はピー助を古代に返そうと1億年前の白亜紀へ向かうが、ピー助を白亜紀の北アメリカに置いて来てしまった。日本に送り直そうとする途中で、タイムマシンが故障してしまい大ピンチ。太古の恐竜世界を舞台に、数々の危険に立ち向かう彼らの運命は?　1980年に大ヒットした『のび太の恐竜』を最新映像でよみがえらせた話題作。恐竜との触れ合いを通して友情、勇気、思いやりの気持ちが芽生えていく物語には、豊かな心を育むメッセージが込められている。



©藤子プロ・小学館・テレビ朝日・…エイ・2006

DATA　06年／本編107分／圏小学館　圏ポニーキャニオン／3,990円／発売中／原作:藤子・F・不二雄／総監督:楠葉宏三／監督:渡辺歩／声の出演:水田わさび　大原めぐみ　かかずゆみ　木村昴　関智一　神木隆之介　船越英一郎ほか

長い時を経て。

どうやら人生は長く平坦な道を進む、地味な出来事の連続だ。
だけど、それだけ長い時間を経過することで、見えない成長がある。
生きるということは、終着駅の見えない片道切符を持つことだ。
そんな風に生きる主人公達を追った数々の作品群……。
『エディット・ピアフ～愛の讃歌～』『ジャンヌ・ダルク』などを紹介。

092 砂時計 スタンダード・エディション

MOVIE / DRAMA / ANIMATION

何度引き裂かれても、再びたぐり寄せる運命の糸

14歳の杏は、両親の離婚によって、島根県にある母の実家で暮らすことに。近所に住む同い年の大悟らと仲良くなり、少しずつ村に溶け込んでいく杏。そんな中、母の美和子が突然の自殺を遂げる。悲しみに暮れる杏を、大悟は力強く抱きしめるのだった。12年後、26歳になった杏は、婚約者の佐倉と東京で暮らしていた。そして、祖母に結婚を報告するため、大悟の住む島根を訪れる――。島根の美しい風景の中で育まれた幼い恋の行方を、10年以上にわたって見つめるラブストーリー。運命に翻弄され続けた少女が、真実の愛にたどり着くまでの心の揺れを、情感豊かに描いた。



©2008 芦原妃名子／映画「砂時計」製作委員会

DATA 08年／本編121分＋特典映像25分／発小学館 販TCエンタテインメント／3,990円／発売中／原作:芦原妃名子（小学館　ベツコミフラワーコミックス刊）／監督・脚本:佐藤信介／出演:松下奈緒　夏帆　井坂俊哉　池松壮亮　藤村志保ほか

093 典子は、今

MOVIE / DRAMA / ANIMATION

時を超え、今もなお感動を呼ぶ名作ドキュメンタリー

昭和36年1月、典子はサリドマイドの影響を受けた身体で誕生した。母はその運命を嘆いたが、失われた両手を悔やむよりも残された身体で何が出来るのか、力の限り生きることを決意する。時が経ち、典子は高校を卒業。熊本市役所の採用試験に見事合格するも、夢と現実との相克の中で思いは揺れる。やがて、友のいる広島へと旅に出た典子は、そこで出会った数々の現実、人々の心の優しさに触れ……。感銘を受けたファンの声に応え、劇場公開から26年の歳月を経て待望のDVD化。身体のハンディを個性と捉え、力強く前に進む典子の姿に心洗われるような爽やかな感動の風が吹き渡る。



©高橋松男事務所、シバタフィルムプロモーション

DATA 81年／本編117分／発販紀伊國屋書店／3,360円／発売中／監督・脚本:松山善三／出演:辻典子　渡辺美佐子　長門裕之　河原崎長一郎　樫山文枝　三上寛ほか

094 義経 完全版　第壱集

MOVIE / DRAMA / ANIMATION

悲劇のヒーロー、源義経の劇的な生き様に迫る

平安時代末期。平清盛が平治の乱で源義朝を倒し、平家一門は栄華を極めていた。清盛の温情で保護された義朝の息子・源義経(幼名・牛若)は、いつしか清盛を父と慕うようになる。たくましく成長し、平家から危険視され始めた彼は、五条大橋で倒した武蔵坊弁慶を従え、奥州の藤原氏の元へ。やがて異母兄・源頼朝が挙兵したことを知った義経は、頼朝とともに平家と戦う決意をする――。才覚と美貌に恵まれながらも、価値観の違う兄・頼朝に疎まれ、非業の死を遂げた源義経。平家との死闘、頼朝との葛藤、弁慶との主従関係などを通して、悲劇のヒーローの内面を描き出す大河ドラマ。



©2006 NHK

DATA 05年／本編各44分（第1回のみ59分）＋特典映像約45分／発NHKエンタープライズ 販GUE／36,750円／発売中／原作:宮尾登美子／脚本:金子成人／演出:黛りんたろう　木村隆文　柳川強ほか／出演:滝沢秀明　松平健　上戸彩　石原さとみ　渡哲也ほか

095 ホジュン ～宮廷医官への道～ DVD-BOX 1

MOVIE / DRAMA / ANIMATION

者を救った偉大な医師のドラマティックな人生

長官と妾の間に生まれ、蔑まれながら育ったホ・ジュンは、酒と溺れる日々を送っていた。そんなホ・ジュンが、ヤンバンの娘ダヒに落ちる。しかし、ダヒ親子は反逆者として追われる身。ふたり担した罪で、ホ・ジュンは故郷を追放されてしまう。辺境の地、山たどり着いた彼は、貧しい人に医術を施すユ・ウィテを知り、医道を志す――。「宮廷女官チャングムの誓い」のイ・ビョンフンが、実在の医師ホ・ジュンの波乱の生涯を描いた歴史ドラマ。落な青年が、人間愛にあふれる偉大な医師になるまでの壮大語を、息もつかせぬスピーディーな展開で見せる。全8巻。



©MBC All Rights Reserved.

A 99～00年／韓／約439分／発 コリア・エンターテインメント/松竹/衛星劇場 販松竹／9,975円／4枚組／発売中／監督:イ・ビョンフン／出演:チョン・グァンリョル　イ・スンジェ　キム・ビョンセ　ホン・チュンミン　ファン・スジョンほか

096 ジャンヌ・ダルク

MOVIE / DRAMA / ANIMATION

ャンヌ・ダルクの息遣いを感じる迫力の超大作

世紀、英仏百年戦争中のフランス。「神の声を聞いた」と称する歳の少女ジャンヌ・ダルクが、国王にフランス軍を指揮させてほと申し出る。重臣らが不安に思う中、劣勢にあった軍を率い奇跡的な勝利を収めるジャンヌ。輝かしい栄光を手にしたジャだったが、その後の彼女を待っていたのは残酷な運命だった。聖女と崇められた英雄か、魔女として処刑された悲劇の少。様々な評価で語り継がれ、謎も多く残るジャンヌ・ダルクの人像に、独自の解釈で迫った歴史大作。リュック・ベッソン監督の美識が貫かれた流麗な映像と、壮絶な心理描写が圧巻。



©1999 COLUMBIA PICTURES INDUSTRIES, INC. ALL RIGHTS RESERVED.

TA 99年／米／本編158分＋特典／発販SPE／1,980円／発売中／監督:リュック・ベッソン／出演:ミラ・ジョヴォヴィッチ　ジョン・マルコヴィッチ　フェイ・ダナウェイ　ダスティン・ホフマン　ヴァンサン・カッセルほか

097 エディット・ピアフ～愛の讃歌～

MOVIE / DRAMA / ANIMATION

やかさと苦しみが共存した大スターの波乱の人生

5年にパリで生まれたエディットは、祖母が営む娼館で育つ。大道芸人の父に引き取られたエディットは、日銭を稼ぐためスートで歌い始めた。やがて名門クラブのオーナー、ルイ・ルプレ能を見出されたエディットは、その歌声から"ピアフ(雀)"とけられ、歌手デビューを果たす。そして瞬く間に大スターとなるが……。フランスの伝説的歌手、エディット・ピアフの生涯を。最愛の恋人マルセル・セルダンとの激しい恋や、次々に襲いるショッキングな出来事。波乱を極めた人生の中で、常に美し声を世に放ち続けたスターの生き様に圧倒される。



A 07年／米／本編140分＋特典／発販東宝／5,040円／2枚組／発売中／監督:オリヴィエ・ダアン／出演:ジェラール・ドパルデュー　カトリーヌ・アレグレ　パスカル・グレゴリー　エマニュエル・セニエほか

098 卒業の朝

MOVIE / DRAMA / ANIMATION

縁のある教師と問題児の25年ぶりの再会

て名門男子校の教師だったハンダートは、今は大企業のトップった元教え子のベルが久しぶりに連絡してきたことで、苦い思をよみがえらせる。25年前、ハンダートは信念を持って教育にる理想的な教師だった。そこへやってきたのが、転校生のベル。ばかり起こすベルを、なんとか更生させようとするハンダートたが……。問題児の存在によって深い挫折を味わった教師が、の時を経て再びその生徒と向き合う人間ドラマ。果たしてハントは、過去の傷とどんな形で決別するのか?　忘れがたい記憶しむ老境の元教師を演じたケヴィン・クラインの名演が光る。



A 02年／米／本編109分＋特典／発東宝東和　販東宝／5,040円／発売中／監督:マイケル・ホフマン／出演:ケヴィン・クライン　エミール・ハーシュ　エンベス・デイビッツ　ジョエル・グレッチほか

アイコン説明 ▶ **MOVIE** 映画 **DRAMA** ドラマ **ANIMATION** アニメーション

仲間とともに成長。

“成長”とはなんだろう? 相対的なものか、それとも……。
もしも絶対的な価値観だけで自分を成長したと考えているならば、
それは随分とひとりよがりで閉じた“成長”かもしれない。
仲間と分かち合い、お互いを高め合う。そんな理想を思い浮かべる。
『隠し砦の三悪人』『ドラゴンボール』などに何を思う?

103 ファンダンゴ

MOVIE

大人になる前に──最後のバカ騒ぎをしよう

ベトナム戦争真っただ中の1971年。大学時代のルームメイト5人組「グルーバーズ」は、メンバーのひとりであるワグナーの独身最後のパーティーを開いていた。ところが、召集令状を手にしたワグナーが突然、結婚中止を宣言。一同が驚く中、同じように令状を受け取っていたリーダーのガードナーが、“今こそグルーバーズの友情の絆を捜し求める時だ”と叫んだ。そして、5人は旅立った──。「ファンダンゴ」とは、スペイン語でバカ騒ぎの意味。この旅を最後に楽しかった日々と決別し、大人への一歩を踏み出す決意をした青年たちの、バカバカしくてキュンとする青春ストーリー。



DATA 07年/米/91分/販レWHV/3,980円/発売中/
監督:ケビン・レイノルズ/出演:ケビン・コスナー ジャド・ネルソン
チャック・ブッシュほか

104 遠くの空に消えた

MOVIE

たくましく生きる子供達が引き起こす小さな奇跡

おかしなギャング集団がいたり、怪しげなバーがあったり……と一風変わったある村に、都会から少年が転校して来た。実は、少年の父親は空港建設を進めるためにこの村に転勤して来たのだった。冷徹な父親に反発していた少年は、次第に村に溶け込み、空港建設に反対する村人のために仲間とある作戦を思いつく──。行定勲監督が7年かけて脚本を仕上げた渾身のファンタジー映画。大人になった主人公が少年時代を回想するという展開で見せていくが、妙にノスタルジックさが漂わないのも今作の面白さ。子供目線で頭に焼きつけた光景をストレートに映し出し、観る者にパワーをくれる。



©2007 遠空パートナーズ

DATA 07年/本編144分/販ギャガ・コミュニケーションズ/3,990円/発売中/
監督・脚本:行定勲/出演:神木隆之介 大後寿々花 ささの友間 小日向文世
伊藤歩 長塚圭史 チャン・チェン 石橋蓮司 大竹しのぶ 三浦友和ほか

105 隠し砦の三悪人 THE LAST PRINCESS
スタンダード・エディション

MOVIE

美しい姫と3人の男がともに戦う痛快時代活劇

戦国時代、隣国・秋月の城を陥落させた山名軍は、消えた埋蔵金と世継ぎである雪姫の行方を追っていた。そのころ、金掘り師の武蔵ときこりの新八が、偶然にも秋月の隠し金を発見。しかし、そこへ現れた男・六郎太とその弟に捕らえられ、金も奪われてしまう。金を秋月の同盟国・早川へ運ぼうとする六郎太に、武蔵はある奇策を提案し、金の分け前を要求するが……。黒澤明監督の名作を大胆にアレンジし、スピーディーな展開の時代活劇に仕上げた秀作。命を狙われる姫と彼女を守る侍、道中で彼らの味方に加わるふたりの男。身分の違う彼らが知恵と力を結集し、胸のすくような活躍を見せる。



©2008「隠し砦の三悪人 THE LAST PRINCESS」製作委員会

DATA 08年/本編118分+特典/販バップ レ東宝/3,990円/発売中/
監督:樋口真嗣/出演:松本潤 長澤まさみ 椎名桔平 宮川大輔
甲本雅裕 高嶋政宏 國村隼 阿部寛ほか

099 蒼天航路 VOL.1

ANIMATION

新解釈の『三国志』から英雄の骨太な生き様を感じよ

今からおよそ2000年前の中国。高級官僚を輩出した家系に生まれた曹操は、文武両道に優れ、胆力も持ち合わせた若者だった。目下、彼と仲間達は都を荒らす爆裂団と抗争の真っ最中。しかも、爆裂団に加わる兵の数が急増し、逆らう曹操達は賞金首にされていた。そんな中、相手方のリーダー・李烈を倒すために、曹操はある作戦を企てるのだった──。群雄割拠の三国時代に生を受けた英雄・曹操。主人公・劉備の敵役として描かれることが多い彼を主人公に据え、その成長を壮大なアニメーションでドラマティックに描き出す。乱世を生き抜く男の人生は、骨太で見ごたえたっぷりだ。



©王欣太・李學仁/講談社・VAP・NTV・D.N.ドリームパ

DATA 09年/70分/販レバップ/5,040円/発売中/監督:冨永恒雄/
声の出演:宮野真守 てらそままさき 関智一 野沢那智 稲田徹
草尾毅 江川央生 千葉一伸 中尾隆聖ほか

100 フォレスト・ガンプ 一期一会
(1枚組)

MOVIE

激動するアメリカの歴史を駆け抜けたフォレストの青春

人よりも知能指数の劣るフォレスト・ガンプ。ある日、同級生にいじめられていた彼は、唯一の友ジェニーに助けられたことで自分が俊足の持ち主であると知る。その才能を買われてアメリカンフットボール選手になったのだが、やがてベトナム戦争が始まり、出征することに。従順な彼は言われるままに行軍し、帰国後、大統領から栄誉勲章を贈られる。そこで、フォレストはジェニーと再会を果たすが……。“人生は食べてみなければわからない、チョコレートの箱と同じ”。30年に及ぶ物語の背景には、移りゆく風俗や文化・流行が丹念に描かれ、フォレストの青春を温かく感動的に表現している。



DATA 94年/米/本編142分+特典(音声解説)/販レパラマウント/
1,500円/発売中/監督:ロバート・ゼメキス/出演:トム・ハンクス
ゲイリー・シニーズ サリー・フィールド ロビン・ライトほか

101 ミルク

MOVIE

米国史上初、公職に就いた同性愛者の短い人生を描く

1972年ニューヨーク。恋人とサンフランシスコに移り住んだミルクは、やがて同性愛者や有色人種などの弱者の声を伝えるべく政治の世界へ飛び込む。4度目の出馬で市政執行委員選に見事当選。ミルクはマイノリティーを支援する条例を実現するために行動を推し進めるが、志なかばにして敵対する市政執行委員の凶弾に倒れる──。70年代、同性愛者であることを公表し、アメリカで初めて公職に就いたハーヴィー・ミルク。その波乱に満ちた短い人生を感動的に描きながら、差別や偏見、人間愛といった問題を投げかける。ショーン・ペンが扮する、愛嬌溢れるミルクがなんとも愛おしい。



DATA 08年/米/本編128分/販レポニーキャニオン/3,990円/発売中/
監督:ガス・ヴァン・サント/脚本:ダスティン・ランス・ブラック/出演:ショーン・ペン
エミール・ハーシュ ジョシュ・ブローリン ジェームズ・フランコほか

102 ベンジャミン・バトン 数奇な人生

MOVIE

80歳で生まれ、若返っていく男の切なくも素晴らしい人生

1918年のニューオーリンズ。老人のような容貌で生まれた男の子は、老人養護施設に捨てられた。赤ん坊を見つけた施設の経営者は彼を引き取り、ベンジャミンと名づける。成長するに従って、髪が増え、しわが減り、次第に若返っていくベンジャミン。数奇な人生をたどり、少年期を迎えた彼は施設入居者の孫である、6歳の少女デイジーと出会ったのだが……。80歳で生まれ、若返っていくという数奇な運命を背負った男の物語。多くの出会いと別れを経験し、生の喜び、愛を失う悲しみを知るベンジャミンの姿は、人生の一瞬、一瞬がどれほど尊く、大切なものであるかを改めて[illegible]くれる。



DATA 09年/米/167分/販レWHV/3,980円/発売中/
監督:デビッド・フィンチャー/出演:ブラッド・ピット ケイト・ブランシェット
タラジ・P・ヘンソン ジュリア・オーモンドほか

10 トップをねらえ! VOL.1

MOVIE / DRAMA / **ANIMATION**

力と根性で、私パイロットになります!

5年、宇宙怪獣の襲来によって「るくしおん」艦隊は全滅した。後、「るくしおん」艦長の娘タカヤノリコは、宇宙パイロットを目て養成学校に入学。ごく普通の女の子だったノリコだが、新しくしてきたオオタコーチは、天才カズミとともに彼女を士官候補生じる。「努力をしろ! 才能を磨け! ほかを頼るな! 自らの全身じ、頭で考え、心で判断しろ!」。そう檄を飛ばす彼が、ノリコの運大きく変えることに――。『新世紀エヴァンゲリヲン』で一大ブー巻き起こした庵野秀明の初監督作品。努力と根性で成長する公の姿を、SFというフィルターを通して描いたアニメ。



©BANDAI VISUAL・JVC Entertainment・GAINAX

A 89年/60分/囮圓 バンダイビジュアル/6,090円/発売中/全3巻/企画・原作・脚本:岡田斗司夫/監督:庵野秀明/声の出演:日髙のり子 佐久間レイ 若本規夫 渕崎ゆり子 勝生真沙子 川村万梨阿ほか

11 ロード・オブ・ザ・リング/王の帰還 コレクターズ・エディション

MOVIE / DRAMA / ANIMATION

輪を捨てるその時、初めて明かされる感動のラスト

ドとサムは道案内のゴラムとともに、“冥王サウロンの指輪”るため、滅びの山を目指して旅を続けていた。一方、ヘルム峡戦いに勝利したアラゴルン達は、オルサンクの塔を襲撃した一らと合流。ガンダルフはサウロンが人間の国ゴンドールを襲わり、ミナス・ティリスの都へと向かった。冥王サウロンの大軍ち向かうため、あらゆる者が剣を取る――。ファンタジー大作輪物語』を映画化したシリーズ3部作の完結編。静と動を巧みり交ぜ、フロドとサムの成長をたくましく描く。登場人物の内深く掘り下げた繊細な描写と壮大な戦闘シーンは必見だ。



MMIII New Line Productions, Inc.©MMIV New Line Home Entertainment, Inc. The Lord of the Rings, The Return of the King, and the names of the characters, events, items and places therein, are trademarks of The Saul Zaentz Company d/b/a Tolkien Enterprises under license to New Line Productions, Inc. All Rights Reserved.

A 03年/米/本編201分/圓角川映画(株) 圓ポニーキャニオン/4,935円/2枚組/発売中/監督:ピーター・ジャクソン/出演:イライジャ・ウッド イアン・マッケラン リヴ・タイラー ヴィゴ・モーテンセン ショーン・アスティンほか

12 王様のレストラン DVDBOX

MOVIE / **DRAMA** / ANIMATION

生で起こることは、全て、皿の上でも起こる

ンス料理店ベル・エキップに原田禄郎と千石武がやってきた。やのない従業員と店の雰囲気にたじろぐ禄郎、料理やワインをと注文する千石。父の死でオーナーとなった禄郎は、伝説のルソン・千石の協力を得て、店を再び一流店に守り立てようと考いたのだ。従業員と千石は激しくぶつかり合うが、奇跡は静かにり始めていた――。人生の中で起こる様々な出来事を、レストラいう舞台に集約した料理エンターテインメントドラマ。個性溢れ業員がトラブルを乗り越えるうちに、次第に心がひとつになって観終わったあと、ほんわか心が温かくなる作品だ。



2003フジテレビ/共同テレビ

A 95年/本編514分+特典映像/圓フジテレビ映像企画部 圓ポニーキャニオン/20,790円/4枚組/発売中/脚本:三谷幸喜/演出:鈴木雅之 河野圭太/出演:松本幸四郎 筒井道隆 山口智子 鈴木京香 西村雅彦ほか

ライバル達と切磋琢磨しながら。

勉強でもスポーツでも、成績を上げる方法がある。それは……。
自分と実力の近い人間が身近にいて、互いに精進すること。
武田信玄は上杉謙信の存在なしに、あれだけの武将になれたか?
好敵手=ライバルの存在が、きっと“成長”の手助けになる。
『さくらん』『ビギナー』など、奮闘する人々を紹介したい。

106 リンダ リンダ リンダ

MOVIE / DRAMA / ANIMATION

以前とは何かがちょっと違う……

高校生活最後の文化祭に向けて、オリジナル曲の練習に励んできた5人組のガールズバンド「パーランマウム」。ところが、本番まであと3日という時、怪我とケンカでギターとボーカルが抜けてしまう。残された3人は、ひょんなきっかけからザ・ブルーハーツのコピーをやることに。そして、彼女達がボーカルとして声をかけたのは韓国からの留学生・ソンだった――。山下敦弘監督独特のゆるい空気にのせて、バンドにかける女子高生の青春を描く。劇的な成長を遂げる訳ではない、でも以前とは何かがちょっと違う。そんな彼女達の笑って、泣けて、キュンと来る青春の1ページだ。



©「リンダ リンダ リンダ」パートナーズ

DATA 05年/本編114分+特典約54分/圓圓バップ/5,040円/発売中/監督:山下敦弘/出演:ペ・ドゥナ 前田亜季 香椎由宇 関根史織(Base Ball Bear) 三村恭代 湯川潮音ほか

107 RESCUE ~特別高度救助隊~ DVD-BOX

MOVIE / **DRAMA** / ANIMATION

命を懸けて命を救う。究極のヒューマンドラマ

消防隊員の北島大地は、火災現場で特別高度救助隊の活躍を目の当たりにし、救助隊への憧れを募らせる。やがて、スーパーレンジャー(=特別高度救助隊員)の補充があると知った大地は、同期の手塚豊とともに候補生として4週間の訓練を受けることになった。24名の候補生の中から、入隊が認められるのはほんのひと握りの人間だけ。熾烈を極める教官・大八木の指導の元、必死で訓練に励むが……。命がけの救出劇をスリリングに、そしてダイナミックに描き出す迫真のドラマ。仲間や教官との関わりの中で、隊員として、ひとりの人間として成長していく主人公の姿に、誰もが胸を打たれる。



©TBS

DATA 09年/495分+特典/圓TBS 圓バップ/19,950円/6枚組/発売中/出演:中丸雄一(KAT-TUN) 増田貴久(NEWS) 山本裕典 石黒英雄 大東俊介 浅利陽介 加治将樹 山田親太朗ほか

108 ドラゴンボール改 1

MOVIE / DRAMA / **ANIMATION**

全宇宙の平和をかけた新たな戦いが幕を開ける

天下一武道会の壮絶な戦いから5年。世界は平和を手に入れ、孫悟空は妻と息子と平穏な日々を過ごしていた。しかし、悟空の実兄ラディッツの出現によって平和はもろくも崩れ去る。ラディッツは悟飯を人質にとり、悟空に仲間に加わることを強制するが、悟空は宿命のライバル・ピッコロ大魔王と手を組んでラディッツに対決を挑む。大人気テレビアニメ『ドラゴンボールZ』が放送開始から20年を迎える今年、『ドラゴンボール改』として帰って来た! 最新デジタル技術による超美麗映像、スピード感溢れる演出、一新された大迫力のサウンド、想像を絶する最強バトルに胸が躍る。



©バードスタジオ/集英社・フジテレビ・東映アニメーション

DATA 09年/本編約69分+特典/圓圓ハピネット/1,995円(ブルーレイ1巻は3,045円)/発売中/原作:鳥山明(「Dragonball」集英社刊)/企画:松崎容子 森下孝三/声の出演:野沢雅子 古川登志夫 堀川りょう 田中真弓 八奈見乗児ほか

109 コドモのコドモ

MOVIE / DRAMA / ANIMATION

真っ直ぐに命と向き合い、団結していくコドモ達

負けん気の強いイマドキの小学5年生・春菜はある日、幼馴染みのヒロユキと興味本位で"くっつけっこ"という遊びをする。やがて、学校で性教育の授業を受けて、自分が妊娠したかもしれないと思う春菜。お腹はどんどん大きくなっていくが、大人達には本当のことを話せない。春菜と友人達は戸惑いながらも、自分達だけの力で赤ちゃんを守ることを決意し――。『神童』『マエストロ』などで知られる漫画家さそうあきらの原作を映画化。学級崩壊寸前のクラスで、同級生の妊娠という事件を前に団結していくコドモ達。ひたむきでたくましい彼らの姿が、キラキラとまぶしく愛おしく映し出される。



©2008「コドモのコドモ」製作委員会

DATA 08年/本編122分+映像特典47分/圓圓バンダイビジュアル/3,990円/発売中/監督・脚本:萩生田宏治/脚本:宮下和雅子/原作:さそうあきら/出演:甘利はるな 麻生久美子 宮崎美子 谷村美月 草村礼子 塩見三省ほか

アイコン説明 ▶ MOVIE 映画 DRAMA ドラマ ANIMATION アニメーション

117 センターステージ コレクターズ・エディション

MOVIE / DRAMA / ANIMATION

華やかなバレエの舞台裏で厳しい現実に挑む若者達

ニューヨークの名門バレエ団、アメリカン・バレエ・カンパニーで踊ることを夢見るジョディは、厳しいオーディションを突破し、付属アカデミーの練習生になった。しかし練習初日、舞台監督のジョナサンは、カンパニーに残れるのは男女3人ずつだけだと宣言。ジョディを始め、反抗的なエヴァ、品行方正なモーリーンら、練習生達の猛練習の日々が始まった——。バレエダンサーを夢見る若者の夢と挫折、恋と友情を瑞々しく綴った物語。ライバルであり、バレエへの愛で結ばれた仲間でもある練習生達。それぞれの想いの結晶のような、ダンスシーンの躍動感に目を奪われる。



DATA 00年／米／本編116分＋特典／SPE／1,480円／発売中／監督:ニコラス・ハイトナー／出演:アマンダ・シュール イーサン・スティーフェル ピーター・ギャラガー サシャ・ラデッキー イリア・クーリックほか

118 聖闘士星矢 THE LOST CANVAS 冥王神話 VOL.1

MOVIE / DRAMA / ANIMATION

華麗なキャラクター達が頂点を目指して戦い合う!

舞台は18世紀のヨーロッパ。日本人の血を引く、正義感が強く直情的なテンマと、物静かで絵を描くのが好きな心優しいアローンは友達同士だ。やがて、テンマは“小宇宙(コスモ)”を体得し、聖闘士の道へと進むことになる。一方、冥王ハーデス転生のための穢れなき肉体として依代と化すアローン。敵対する立場に置かれた、かつての親友は……。80年代に人気を博し、シリーズコミック累計2000万部を売り上げた『聖闘士星矢』の約200年前の話を描いたアニメ。聖闘士が互いにぶつかり合いながら技を磨き、壮絶な聖戦と華麗なキャラクター達が織り成すドラマは圧巻だ。



DATA 09年／45分＋特典／バップ／6,510円／発売中／声の出演:柿原徹也 下野紘 平野綾 阿部敦 小林沙苗 三宅健太 三木眞一郎 水樹奈々 坪井智浩ほか

119 働きマン DVD-BOX

MOVIE / DRAMA / ANIMATION

仕事モードONで大変身! 働きマン登場!

28歳の雑誌編集者・松方弘子。一度仕事モードに入ると、デートも趣味も全てを犠牲にして働いてしまう仕事人間。そんな彼女についたあだ名は「働きマン」。ある日、恋人と久しぶりにデートすることになった弘子だが、待ち合わせ場所に向かう途中で、現在取材を進めている外務大臣の秘書から極秘の電話を受け……。安野モヨコの人気コミックをドラマ化。編集長や上司、同僚達とともにいい雑誌を作ろうと戦い続ける弘子。個性的な人物揃いの編集部で揉まれながら、彼女は日々前進していく。爽快で猛烈にかっこいい弘子の姿に、「働くとはどういうことなのか」を改めて考えさせられるだろう。



DATA 08年／約534分／バップ／19,110円／6枚組／発売中／脚本:吉田智子 松田裕子／出演:菅野美穂 速水もこみち 平山あや 佐田真由美 荒川良々 吉沢悠 津田寛治 伊武雅刀 沢村一樹ほか

120 探偵学園Q DVD-BOX

MOVIE / DRAMA / ANIMATION

個性豊かなクラスメイトと鮮やかに事件を解決!

名探偵・団守彦が設立した“団探偵学園Qクラス”。そこには、団の後継者になる資格を持つ5人の生徒が所属している。繊細で洞察力に優れたキュウ、紅一点のメグ、クールなリュウ、プチ富豪の数馬、スポーツマンのキンタだ。ある日、彼らに初めての実戦指令が出る。それは、高校3年の女生徒が密室の中で殺された事件の捜査。手がかりがなく、行き詰まったこの事件への協力を頼まれていた団は、Qクラスの生徒達に捜査を任せるが……。個性豊かな仲間達が自分の特性を生かし、協力しながら事件を解決していく。ミステリーとしてはもちろん、少年達の成長譚としても楽しめる作品だ。



DATA 08年／本編約604分＋特典／バップ／19,110円／7枚組／発売中／出演:神木隆之介 志田未来 山田涼介(Hey! Say! JUMP) 若葉克実 要潤 山本太郎 鈴木一真 奥貫薫 陣内孝則ほか

113 さくらん 特別版

MOVIE / DRAMA / ANIMATION

遊郭に生きる女達のパワフルな青春物語

吉原の遊郭「玉菊屋」に売られた8歳のきよ葉は恐怖から逃亡をはかったのだが、即座に連れ戻されてしまう。そんな彼女に店番の清次は、咲かないと言われる吉原の桜がいつか咲いたら、ここから逃がしてやると約束する。成長したきよ葉は、人気遊女への道を駆け上がっていくが、客の惣次郎と激しい恋に落ちてしまい……。吉原の花魁達の生き様を、極彩色をちりばめた豪華絢爛なビジュアルで描き切った異色作。遊郭を舞台にした愛憎劇が、パワフルでイキのいい変わり種の花魁・きよ葉と、嫉妬や友情など複雑な感情で結ばれた花魁仲間達の青春物語として描かれ、爽快な後味を残す。



DATA 07年／本編111分＋特典150分／アスミック／講談社 角川エンタテインメント／4,935円／2枚組／発売中／監督:蜷川実花／出演:土屋アンナ 椎名桔平 成宮寛貴 木村佳乃 菅野美穂ほか

114 ブロードウェイ♪ブロードウェイ コーラスラインにかける夢 プレミアム・エディション<2枚組>

MOVIE / DRAMA / ANIMATION

オーディションに挑むダンサー達の熱いドラマ

16年ぶりに再演された伝説的ミュージカル「コーラスライン」。その出演者を決めるオーディションは、応募者数3000人、最終選考まで8ヵ月、合格者はわずか19人という過酷なものだった。8ヵ月の間にめきめきと成長していく新人。新鋭に役をさらわれた一流ダンサー。オーディションの舞台裏には、ダンサー達の熱いドラマがあった——。「コーラスライン」のオーディションの舞台裏に潜入し、参加者達のエキサイティングな表情を捉えたドキュメンタリー。喜びや挫折感、ライバルとの友情や葛藤など、ダンサー達の様々な感情が交錯するハイレベルな闘いから目が離せない。



DATA 08年／米／93分＋特典約79分／松竹／4,935円／2枚組／発売中／監督・製作:ジェイムズ・D・スターン アダム・デル・デオ／出演:マイケル・ベネット ドナ・マケクニー ボブ・エイヴィアン バイヨーク・リーほか

115 BUZZER BEATER 2nd Quarter Vol.1

MOVIE / DRAMA / ANIMATION

衝突や和解を繰り返しながら上を目指す仲間達

2XXX年、地球が生み出したスポーツ「バスケットボール」が全宇宙に普及し、その頂点には「宇宙リーグ」が君臨していた。身体能力の高い異星人ばかりが活躍するこの宇宙リーグに、地球人が最強チームを結成して乗り込むことに。快進撃を続ける地球チームだが、能天気でマイペースなヒデヨシは事あるごとに周囲と衝突、遂にはチームを飛び出してしまい……。『スラムダンク』や『バガボンド』でお馴染みの井上雄彦のマンガが原作。立場や出自の異なるチームメイト達が時にぶつかり、時に支え合いながらともに高みを目指す青春ストーリー。スピード感、躍動感溢れる試合シーンも見ものだ。



DATA 07年／72分／バップ／5,040円／発売中／原作:井上雄彦／監督・キャラクターデザイン:宮繁之／声の出演:瀧本富士子 小林沙苗 うえだゆうじ 石森達幸 勝生真沙子ほか

116 ビギナー 完全版

MOVIE / DRAMA / ANIMATION

司法研修所に集まった男女8人の奮闘を描く

奇跡的に司法試験に合格した元OLの楓由子。期待に胸を膨らませて司法研修所での講義に出席するが、教官の厳しさと問題の難しさに早々と落ち込んでいた。そんな中、元暴走族や元財務省エリート官僚など、夢を同じくする7人と出会い……。「人生あらゆる時期が青春であり、人はみな人生の初心者＝ビギナーである」をテーマに、8人の男女の成長や微妙な恋愛感情を描いた異色の青春群像劇。様々な事件にどんな罪が適用するのか? 再現ドラマで説明される事件の数々に対し、個性豊かな8人が熱い議論を展開するシーンは見応え十分だ。豪華キャストの共演も見逃せない!



DATA 03年／本編559分／フジテレビ映像企画部 ポニーキャニオン／23,940円／5枚組／発売中／脚本:水橋文美江／演出:水橋成英 川村泰祐 松山博昭／出演:ミムラ オダギリジョー 堤真一 奥菜恵 我修院達也 北村総一朗 横山めぐみ 松雪泰子ほか

COLUMN

だから“成長”作品は面白い!

**ひたむきに努力する主人公の成長を描く映画にはつい共感してしまう……。
だけど「ビルドゥングス・ロマン」なんてかっこいい言い方に、正直ピンと来ないのも事実。
日常生活で自らの成長を実感出来ることがあるかと聞かれれば、多分、ほとんどない。
頑張ったって、頑張らなくたってオーケー。相変わらず成長しない自分に、こっそりと乾杯!**

文／ペヤングマキ

このコラムは〝成長〟をテーマにした映画の魅力について書くということで、引き受けておいてなんなんですが、私は普段、映画というものをほとんど観ません。映画館に足を運ぶのは年に一度あるかないかくらい。なぜ映画を観ないのか？　ごく稀にDVDを借りてきて観ようと試みはするものの、これから2時間休みなしでこの話に集中しなければならない、そう思うとなんだか気が重くなるんです。それが3時間やそれ以上の尺だと、私にとっては富士登山を決意するくらいのハードルです。人と映画館に行くのも苦手です。人と会うからには、その人と何か話したいからであって、その貴重な時間をただ黙って映画を観るのに使うのはもったいない気がしてしまうのです。同じものを観て感想を共有する楽しみがあるという人もいますが、自分がつまんないと思った映画を相手が面白いと言った時の気まずさを考えると空恐ろしいです。という訳で、私がこれまで観た数少ない映画といえば、ほとんどがテレビの洋画劇場などでたまたま観たものということになります。そんな私に〝成長〟映画を挙げよと言われても、さてどうしたものやら……。

大学に入学したてのころ、とある映画サークルの新歓コンパに紛れてしまったことがあるんですが、新入生はひとりずつ自己紹介をさせられ、その際に〝好きな映画〟を1本挙げるということになりました。周りには小難しい映画論を戦わせているような先輩ばかり、新入生も映画サークルに入ろうとするくらいですから、もちろん映画好き。そんな中で一番センスが問われる〝好きな映画〟を挙げなければいけない。物凄いプレッシャーで胸が押し潰されそうになりながら、遂に私の番が来てしまいました。「好きな映画は……『心の旅』です」。私が言った瞬間、周りに凄く微妙な空気が漂いました。『心の旅』(91)、普通に感動したんだけどなー。ハリソン・フォード演じる家庭を顧みない仕事人間が事故で記憶喪失になってしまい、逆に人間の心を取り戻していく、みたいな話だったと思うんですが。これってもしかして〝成長〟映画ではないですか？記憶を失ったことにより人として成長していくという……。

さて、ほかの映画好き学生達はどの映画を挙げていたかというと、一番多かったのが『ニュー・シネマ・パラダイス』(89)でした。もちろん私は観たことがなく、そのコンパでは誰とも話が噛み合いませんでした。で、映画好きが面白いという映画を観てやろうじゃないか、ということで後日レンタルビデオ屋で借りて観ました。街で唯一の映画館に毎日通う程に映画好きな少年トトがそこの映写技師のおじさんアルフレードと出会い、映画だけでなく人生の師匠として色んなことを教えてもらいながら大人に成長していくというお話。立派な映画監督になったトトが少年時代を回想するシーンから始まるあたり、映画好きで多分映画監督になりたいと思って映画サークルに入ったであろう人達が自分を投影して観ること必至の映画です。でもそんなことより、この映画はまさにひとりの少年の成長映画ではありませんか。

少年の成長といえば、小学生の時に観て面白かったのが『スタンド・バイ・ミー』(86)。4人の少年達が死体探しの冒険旅行に出かける話。早く大人になりたいと願う少年の心情と大人になる度に何かを失っていく寂しさが描かれていて、4人の少年のキャラクターがとても魅力的。正義感が強くてリーダー的存在のクリス、すぐにキレる将来の犯罪者候補みたいなテディ、持ったものを必ず10秒以内に落とすというおっちょこちょいのデブ、バーン。そして、知的なゆえに悩みがちなゴーディ。そういえばこの映画も、小説家になったゴーディが少年時代を回想するシーンから始まります。当時仲良かった女の子4人組でやりましたよ、〝スタンド・バイ・ミーごっこ〟。近所の裏山に死体を探しに行くという。もちろん死体は見つかりませんでしたが……。

山遊びに夢中だった私達も、恋に目覚め女の子として成長していくのですが、そのころに観た映画が『プリティ・ウーマン』(90)。ジュリア・ロバーツ演じる娼婦が金持ちの紳士に出会って立派なレディーに成長する話でした。こういうわかりやすいシンデレラストーリーに女の子なら誰しも一度は憧れますよね。でも現実には、ある日突然、金持ちの男が現れて、素敵なレディーに成長させてくれるなんて都合のいいことは、起こらない訳で……。大人になった私の前に現れたのは、夢はあるけど金がない素敵なフリーター男でした。どんなに好きな人でも、お金を貸してはいけないということは学びましたが、学習はしてもそれが必ず成長に繋がるかといったらそうではないのが人間というもの。なぜかその後も似たようなタイプの男ばかりを好きになり、「彼は今までとは違う」と金貸しては返って来ず、を繰り返しました。私も早く素敵なレディーに成長したいんですけどね。

そんなこんなで、映画をあまり観ない私でも、知らず知らずのうちに観ていた〝成長〟映画。成長を描いた映画って実は結構多いんですね。映画の主人公達が成長する姿を見ると、なんだか自分も成長出来たような気がして、元気が出ますもんね。現実の私達は、成長したようでいて、実は全く成長していないことのほうが多いですから。

「人生は、お前が観た映画とは違う。人生は、もっと困難なのだ」

『ニュー・シネマ・パラダイス』の中でアルフレードがトトに言ったセリフが今ごろになって身に沁みます。

そういえば先日、スタンド・バイ・ミーごっこの4人組で10数年ぶりに同窓会をしました。結婚して子供がいる者もいれば、私みたいな独身女もいる訳なんですが、どんな会話が繰り広げられたかというと……。クラスで一番自分が頭のいいことをいつも自慢していたTちゃんは、「周りの子供を見るとやっぱりウチの子が一番頭いいって思っちゃうのよね」と子供自慢をし、クラスで一番男にモテてたYちゃんは、自分がいかにたくさん言い寄ってきた男の中から今のダンナを選んで結婚したかということを自慢し、昔から友達想いのSちゃんが私に気を使って「でもマキちゃんって全然老けてないよねー」と話を振ってくれ、「そんなことないよー、実は最近ヤバくてさ……」と私がやっと話し始めたところ、それを遮ってYちゃんが「そうそう、私なんか予備校の受付のパートを始めたんだけど、この前生徒に高校生と間違われちゃってえー」とまた自慢を始めて……。昔から言いたいことをハッキリ言えず、ムカつくことがあったらノートにメモして「クラスで嫌いなヤツ」リストまで作っていた私は、相変わらずこんなことをネタに文章を書いたりしている訳で。みんなそれぞれ立場や環境は変わっても、根本的なところは全く成長していないのでした。

そんな私が、久しぶりに映画館に足を運んで観てみようかなと思っているのが、西原理恵子の自伝的漫画を映画化した『女の子ものがたり』(09)。女の子版スタンド・バイ・ミーを目指して作られたというこの映画は、スランプに陥った漫画家が少女時代の友達との思い出を回想するところから始まるそうです。なかなか成長出来なくても、生きていける元気をもらえそうな予感がします。

ぺやんぐ・まき

AV監督。1976年生まれ、長崎県出身。早稲田大学在学中に三浦大輔主宰の劇団ポツドールに参加。00年、三浦大輔と共同監督した映像作品「はつこい」でPFF審査員特別賞を受賞。現在はAV監督業の傍ら、本名の溝口真希子名義で劇作家として同劇団の特別企画公演「女」シリーズ(『女のみち』『女の果て』)などを手掛ける。現在「週刊SPA!」でコラムを連載中。

+act.（プラスアクト）特別編集の新シリーズ誕生！「好きなもの、もっと知りたい！」Loveシリーズ第1弾



緊急企画!! 第1弾に限り、売上げの一部を動物保護団体に寄付致します!!

+act. 特別編集【ラヴ・ペット】

Love♡PET

定価／990円（税込）

♥今すぐ使える! 欲しかった情報がギッシリ!!

ペット通お勧めのショップ＆遊び場最新情報

簡単に出来る手作りご飯のレシピ集

頼れる! 安心! ［首都圏中心］動物病院ガイド

こんな情報を一度に全部知りたかった! 奇跡の内容でお届け

♥ 愛犬と一緒のキュートな完全撮り下ろし写真＆"ここだけのペットばなし"を語ったロングインタビュー!!

深田恭子×メロンパンナ／佐々木希×マロン×ル

♥ "あの人達"の気になるペットライフを大公開。

杉本彩 動物愛護の精神を支える彼女の動物観とは?

教えて!! あなたとペットの暮らしについて。

香里奈／黒谷友香／仲里依紗／益若つばさ／南明奈／やまじ

大好評発売中!

ひとつのテーマでドラマ×映画を切り取る『プラスアクト ミニ』

+act. mini 好評発売中!! BACK NUMBER（VOL.01～06）



VOL.06 仲間。
09年8月発売 990円

第1特集:『ブザー・ビート ～崖っぷちのヒーロー～』
山下智久 北川景子 伊藤英明

第2特集:『赤鼻のセンセイ』
大泉洋 神木隆之介

第3特集:『猿ロック』
市原隼人 高岡蒼甫

第4特集:『オトメン(乙男)』
岡田将生 夏帆

第5特集:"仲間。"作品120＆コラム

CLOSE UP!! 塚本高史 小泉孝太郎 大倉孝二 福士誠治



VOL.05 愛。
09年4月発売 990円

第1特集:『スマイル』
松本潤 新垣結衣 小栗旬

第2特集:中居正広主演『婚カツ!』
上戸彩 佐藤隆太

第3特集:『ぼくの妹』
長澤まさみ オダギリジョー

第4特集:『ゴッドハンド輝』
平岡祐太 水川あさみ

特別企画:『名探偵の掟』現場密着レポート
松田翔太 香椎由宇

第5特集:"愛。"作品120＆コラム

注目の人! クローズアップ!! 生田斗真 多部未華子 八神蓮 川島海荷



VOL.04 男×男
09年2月発売 990円

第1特集:『クローズZERO
小栗旬×山田孝之

第2特集:『ヴォイス～命なき者
瑛太 生田斗真

第3特集:『神の雫』
亀梨和也 田辺誠一

第4特集:『ラブ♡シャッフ
玉木宏 松田翔太

特集:『銭ゲバ』潜入現場レ
松山ケンイチ

第5特集:"男×男"作品120＆

注目の人! クローズアップ!! 仲里依紗 田中圭



VOL.03 絆。
08年10月発売 990円

第1特集:『流星の絆』
二宮和也 錦戸亮
戸田恵梨香 宮藤官九郎

第2特集:『ブラッディ・マンデイ』
三浦春馬 佐藤健
成宮寛貴 吉沢悠

第3特集:『赤い糸』
溝端淳平 南沢奈央

第4特集:『櫻の園-さくらのその-』
福田沙紀 柳下大

第5特集:"絆。"作品120＆コラム

注目の人! クローズアップ!! 山田涼介(Hey! Say! JUMP)



VOL.02 サスペンス。
08年8月発売 990円

第1特集:『魔王』
大野智 生田斗真 小林涼子
田中圭 忍成修吾 劇団ひとり

第2特集:WOWOWドラマ3作品
栗山千明 黄川田将也
塚本高史 真木よう子
上川隆也 岡田義徳

第3特集『蛇にピアス』
吉高由里子×高良健吾

第4特集:@niftyオリジナルショートドラマ『キキコミ』加藤夏希

第5特集:"サスペンス。"作品120＆コラム

注目の人 CLOSE UP! 石黒英雄 中村優一 ほか



VOL.01 スポーツ
08年5月発売 990円

第1特集:『ROOKIES』
★撮り下ろし＆インタビュー
佐藤隆太 市原隼人
小出恵介 城田優
中尾明慶 高岡蒼甫
桐谷健太 佐藤健
五十嵐隼士 川村陽介
尾上寛之
★撮影現場オン＆オフレポ
★『ROOKIES』のルーツ
★編集部特製スペシャルト シート ほか

第2特集:『ラブファイト』
林遣都 北乃きい

第3特集:"スポーツ。"全150作品ご紹介＆コラム

ご購入を希望される方は、書店でご注文頂くか、小社の通信販売をご利用下さい。
小社の通信販売は、ホームページよりご購入頂くか、ハガキでのご注文になります。

＜通信販売でご注文される場合＞

WEBからのご注文→www.wani.co.jp/act/
ハガキでのご注文→〒150-8482 東京都渋谷区恵比寿4-4-9
えびす大黒ビル3F （株）ワニブックス am 通販部

＜ハガキでご注文される場合＞

①ハガキに「代引希望」と明記の上、「住所」、「氏名」、「電話番号」、「申し込み商品名(雑誌の場合は号数まで)」をご記入頂き、小社通販部までお送り下さい。
※未成年の方は保護者の氏名、印鑑が必要となります。

②ハガキ到着後、代引で発送のお手配を致します。

③商品到着時に『税込み定価×冊数＋送料(一律350円)＋代引手数料＝お支払い金額』をお支払い下さい。
※代引手数料はお支払い金額が1万円まで315円、3万円まで420円、10万円まで630円です。

【協力販売店リスト】こちらの書店でご購入頂けます!!

北海道	函館市	文教堂書店 函館昭和店
岩手	盛岡市	エムズ書店 みたけ店
宮城	仙台市	ジュンク堂書店 仙台ロフト店
	仙台市	紀伊國屋書店 仙台店
山形	山形市	八文字屋書店 北店
福島	郡山市	岩瀬書店 富久山店
栃木	宇都宮市	落合書店 イトーヨーカドー店
神奈川	横浜市	有隣堂 ルミネ横浜店
	横浜市	天一書房 日吉店
	横浜市	有隣堂 横浜駅西口店
千葉	千葉市	ブックスキディランド 千葉店
	柏市	カルチェ5新星堂 柏店
群馬	前橋市	紀伊國屋書店 前橋店
茨城	水戸市	川又書店 エクセル店
新潟	新潟市	ジュンク堂書店 新潟店
	新潟市	紀伊國屋書店 新潟店
東京	渋谷区	SHIBUYA TSUTAYA
	豊島区	東京旭屋書店 池袋店
	豊島区	いけだ書店 池袋店
	新宿区	紀伊國屋書店 新宿南店
	新宿区	芳林堂書店 高田馬場店
	世田谷区	紀伊國屋書店 玉川高島屋店
	千代田区	三省堂書店 有楽町店
	台東区	明正堂 アトレ上野店
	墨田区	談・文教堂 錦糸町店
	北区	談・文教堂 赤羽店
	町田市	あおい書店 町田店
	三鷹市	啓文堂書店 三鷹店
石川	金沢市	金沢ビーンズ 明文堂書店
福井	福井市	勝木書店 本店
静岡	浜松市	本の王国 サザンシティ浜松店
愛知	名古屋市	星野書店 近鉄パッセ店
	名古屋市	リブロ 名古屋店
大阪	大阪市	紀伊國屋書店 梅田本店
兵庫	神戸市	ジュンク堂書店 三宮店
鳥取	米子市	今井書店 錦町店
島根	松江市	今井書店 グループセンター店
岡山	倉敷市	喜久屋書店 倉敷店
広島	広島市	ジュンク堂書店 広島店
	広島市	紀伊國屋書店 広島店
香川	高松市	宮脇書店 高松本店
愛媛	松山市	紀伊國屋書店 松山店
福岡	福岡市	ジュンク堂書店 福岡店
	福岡市	あおい書店 博多本店
佐賀	佐賀市	紀伊國屋書店 佐賀店
長崎	長崎市	メトロ書店 本店
熊本	熊本市	蔦谷書店 熊本三年坂店
大分	大分市	紀伊國屋書店 大分店
鹿児島	鹿児島市	紀伊國屋書店 鹿児島店

お便り大募集!!

みなさんからのお便りを随時、お待ちしてい ページの感想はもちろん、「○○さんが好き!」 ックナンバーへのご意見…などなど、どんなこと 構いません。掲載された方の中から抽選で1,0 分の図書カードをプレゼント! 郵便ハガキま 封書で下記の宛て先までお送り下さい。

<個人情報の取扱いに関して>
ご応募頂きましたハガキ、封書は一定期間厳重に保管のあと、 方法にて廃棄処分致します。また、文字数などの関係で頂いた を編集させて頂くこともあります。予めご了承下さい。

〒150-8482
東京都渋谷区恵比寿4-4-9 えびす大黒ビル
(株)ワニブックス
プラスアクトミニ編集部 「読者コメント」係
※ご住所・お名前(ペンネーム)も忘れずにお書き下さい。



松坂桃李
ファースト写真集
桃李［とおり］
大好評発売中!

デビューから１年半。『侍戦隊シンケンジャー』の
主演・シンケンレッド／志葉丈瑠役で注目を集める松坂桃李。
クールな役どころからは想像のつかない、
彼の自然な表情が詰まったファースト写真集『桃李』が現在発売中。

現在放送中の『侍戦隊シンケンジャー』で、初出演にして初主演という輝かしい俳優デビューを飾った松坂桃李。
このファースト写真集は、松坂桃李の日常生活をまるごと感じられる構成でお届け。
寝顔、大好きなオムライスをほおばる姿、学生服での通学姿など、普段はなかなか見ることの出来ないナチュラルな表情がたくさん詰まっています。
懐かしの母校を訪ねる姿、そして愛犬・トトとのツーショットなど、貴重なショットも掲載 !!
さらに、つなぎをペンキで汚したやんちゃな格好や、彼自身初となるメイクに挑戦したスーツ姿など、
これまで見たことのない松坂桃李が凝縮されています。
また、ロングインタビューでは、「これまで」と「これから」というテーマで、
家族や地元への思い、芸能界デビュー後の苦悩など、今まで語ったことのない本音を話してくれました。
100 ページ超の大ボリュームで、今の松坂桃李をそのまま感じることの出来る1冊は必見です !!



PROFILE

まつざか・とおり
1988 年 10 月 17 日生まれ。神奈川県出身。A 型。身長 181cm。
2008 年、雑誌『FINEBOYS』の専属モデルとしてデビュー。
現在放送中の『侍戦隊シンケンジャー』（テレビ朝日系・日曜 朝 7 時 30 分～）のシンケンレッド（志葉丈瑠）役で、
初のドラマ出演で初主演を果たす。
オフィシャルブログ『M-Storiy』（http://ameblo.jp/torimatsuzaka/）

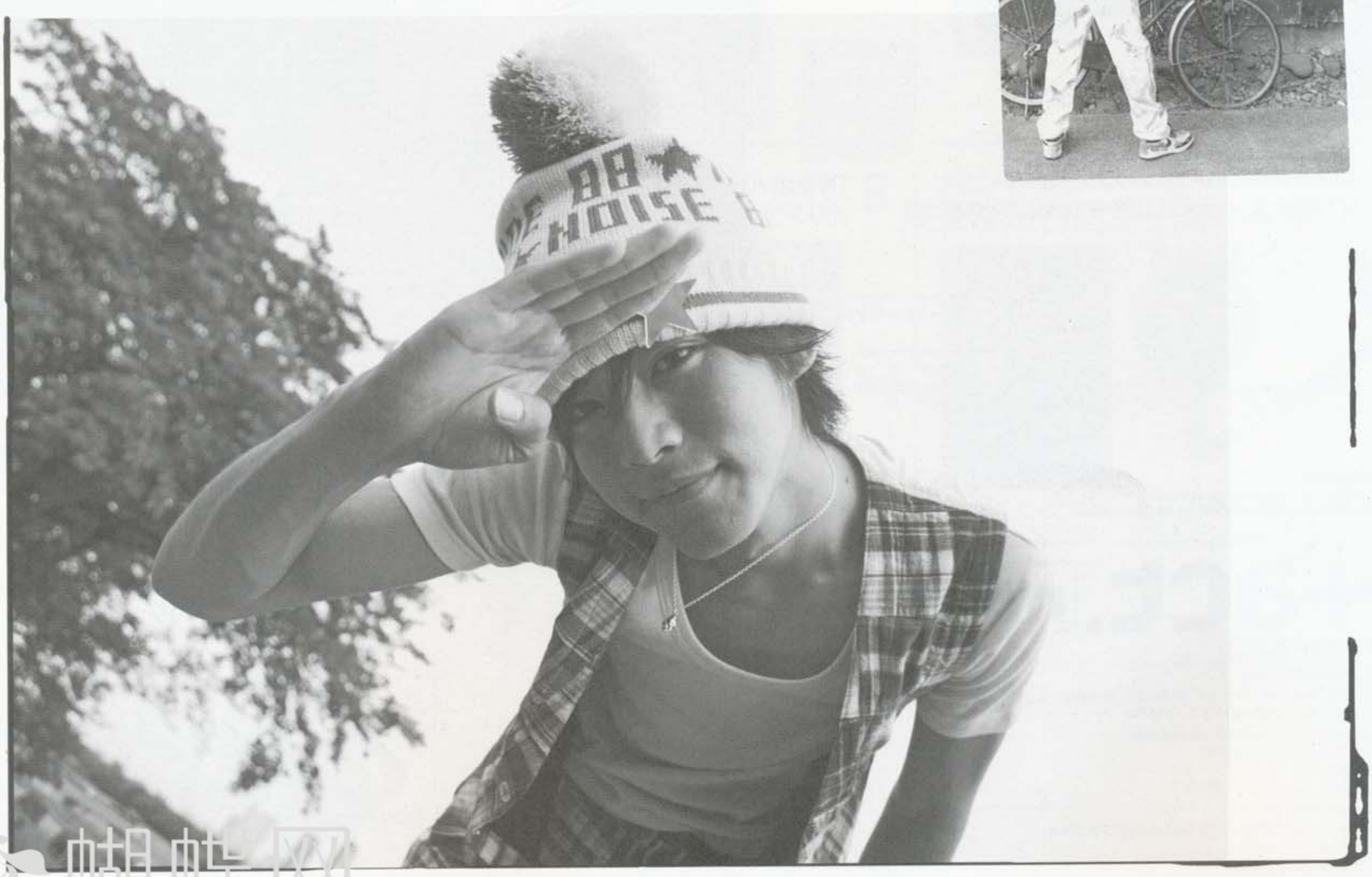


撮影／小林ばく
小社刊／2100 円（税込）

ワニブックスの携帯サイトで写真集撮影の裏側を短期連載でお届け中！

現在ワニブックス@モバイル内、ボーイズヘブンにおいて「松坂桃李写真集オフショット集」を開設中。
このサイトでは、写真集の撮影裏が覗けるオフショットを毎週更新中。
ここでしか見ることの出来ない裏話がたくさんあるので要チェックです！
ワニブックス@モバイル
※『ワニブックス@モバイル』は月額 315 円（税込）の有料コンテンツです。





Tori Matsuzaka first photo book "TORI"

番組ノベルティーとサインポラを合計27名の方にプレゼント!
みなさんからのご応募、お待ちしてます!!

応募方法 本誌についているアンケートハガキに希望するプレゼントの番号を明記して下さい。
12月31日消印有効です。なお当選者の発表は発送をもってかえさせて頂きます。

頂いたご意見・個人情報などは、賞品の発送用に利用させていただくほか、個人情報を含まない形で統計処理させて頂きます。お客様の個人情報は、処理終了後は当社が責任をもって破棄します。

1 『マイガール』番組特製タンブラー…3名



2 小栗旬サインポラ…1名



3 三浦春馬サインポラ…2名



4 城田優サインポラ…2名



5 香里奈×能世あんな×えれな サインポラ…1名

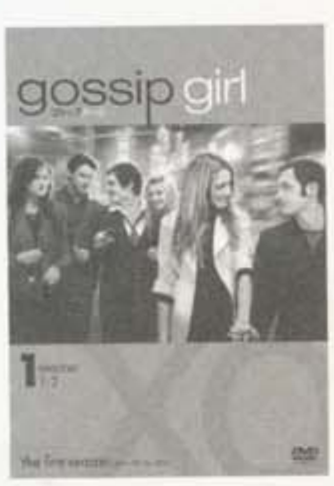


6 佐藤智仁サインポラ…2名



7 『ゴシップガール<ファースト・シーズン>』DVD リリース記念 オリジナルバッグハンガー〔非売品〕…3名





DVD好評発売中
発売・販売元:ワーナー・ホーム・ビデオ ¥980(税込)

8 『群青』DVD リリース記念 オリジナル図書カード…5名



11月25日発売
発売・販売元:バンダイビジュアル
通常版¥3,990(税込)

9 好評オンエア中! 『偉人の来る部屋』QUOカード…5名



TOKYO MX毎週月曜23:00〜 tvk毎週水曜23:30〜

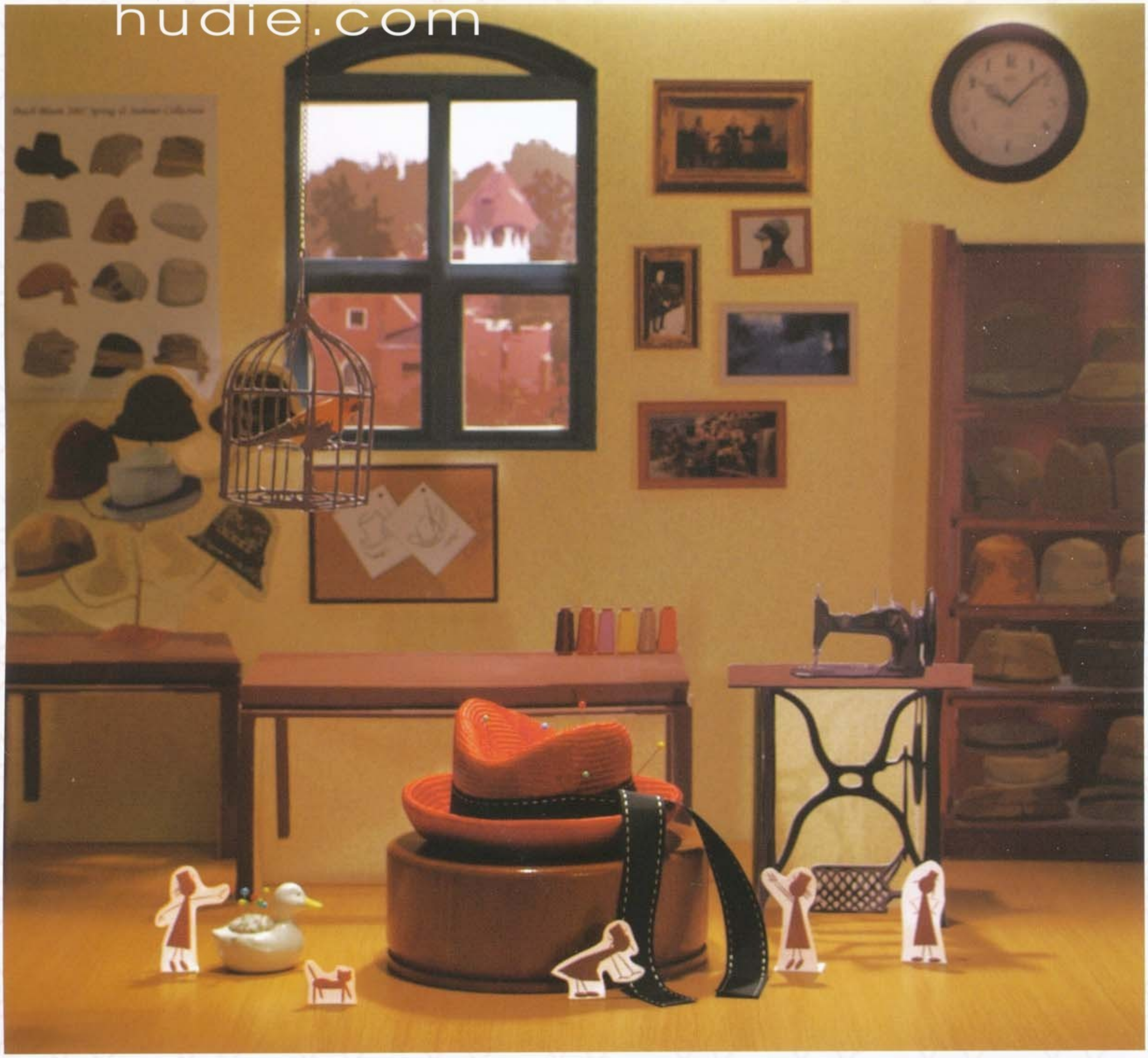
提供元:ソニー・ミュージックエンタテインメント

10 11月7日(土)より、シアターN渋谷ほか公開予定! 『ディセント2』オリジナル・ランタン…3名



オレンジ、ブルー、イエロー、グリーン、グレーの全5色。色はお選び頂けませんのでご了承ください。

VISUAL THEME MAGAZINE
+act. mini
プラスアクト ミニ
2009 VOL.07
プラスアクト12月号増刊
発行日:2009年10月30日
編集:船田恵、今津三奈、田中大介、高畠みさき、服部保悠、池上愛
アートディレクション:有限会社オオマエデザイン
デザイナー:大前浩之、松山伸生、蓑島亜由美
広告:インサイドメディア 岩越朋明
発行人:梶原秀夫
発行所:㈱ワニブックス
http://www.wani.co.jp/
〒150-8482 東京都渋谷区恵比寿4-4-9えびす大黒ビル
電話03-5449-2711(代表)
印刷所:大日本印刷株式会社





定価:990円
本体943円
雑誌 17908-12
4910179081297
00943

大日本印刷株式会社・印刷　Ⓛ2010.01.30